

ひがし うね わら

東畠原第3遺跡

Higashinewara 3 Site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4

2004

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第87集

『東畠原第3遺跡 東九州自動車道(都農～西都間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査方報告書4』

正誤表

頁	箇所	誤	正
本文目次	2 第Ⅱ文化層 (1)遺構 頁表示	30	29
本文目次	3 第Ⅲ文化層 (2)遺物 頁表示	78	74
66頁	13行	(第64図144)	(第65図144)
91頁	接合14	166	177
107頁	左下	接合31	接合37
114頁	左	接合47	接合49

ひがし うね わら

東畠原第3遺跡

Higashinewara 3 Site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4

2004

宮崎県埋蔵文化財センター



遺跡遠景

序

宮崎県教育委員会では、平成12年度より東九州自動車道都農～西都間建設予定地にかかる埋蔵文化財発掘調査を実施しております。本書はその発掘調査報告書であります。今回の東畠原第3遺跡調査では、後期旧石器時代の遺構・遺物と縄文時代早期の遺物が検出されました。特に後期旧石器時代における生活の痕跡が数多く確認されたことは、調査の大きな成果と言えるでしょう。

本書が、今後の学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯教育の場で活用され、埋蔵文化財の保護と活用に対する理解の一助となれば、幸いです。

なお、この発掘調査にあたって多大な御協力をいただいた関係各位をはじめ、御指導、御助言をいただいた先生方、並びに地元の方々に深く謝意を表します。

平成16年3月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 米 良 弘 康

例　言

- 1 本書は、東九州自動車道（都農～西都）間建設に伴い、宮崎県教育委員会が実施した東畦原第3遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、日本道路公団の依頼により宮崎県教育委員会が調査主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 現地での実測・写真撮影等の記録は、主に横田通久、福松東一、阿部直人、松尾有年が行い、一部を藤木 聰、発掘作業員の協力を得た。
- 4 調査区の座標設置及びグリッドの設定は、第1回を久保田測量に、第2回を服部測量に委託した。なお国土座標は旧国土座標第Ⅱ系に拠る。
- 5 第1回目の空中写真撮影は、文化財サポート協会に委託し、第2回目はアジア航空に委託した。
- 6 自然科学分析は株式会社古環境研究所に委託し、一部の石器実測を九州文化財研究所に委託した。
- 7 整理作業は、遺物洗浄、注記を現地で行い、接合・実測・トレースを宮崎県埋蔵文化財センター本館で行った。図面作成・実測・トレース・写真撮影は、福松が藤木 聰、松本 茂、今塙屋毅行、整理作業員の協力を得て行った。
- 8 本書で使用した位置図は国土地理院発行の2万5千分の1をもとに作成し、地質地形図は土地分類基本調査 妻・高鍋をもとに作成した。
- 9 石材の鑑定は松田清孝、赤崎広志が行った。
- 10 土層断面、石材、土器の色調は『新版 標準土色帖』に拠った。本書で使用した方位は磁北である。レベルは海拔絶対高である。
- 11 本書の執筆は福松、編集は福松、横田、金丸琴路が担当した。
- 12 出土遺物・その他の諸記録は宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。
- 13 本遺跡での遺物・石材についての略号は次の通りである。

遺物

剥片 F 碎片 Ch ナイフ形石器 KN 角錐状石器 KS 台形石器 TP 剥片尖頭器
TPS 石核 Co 二次加工剥片 RF 台石 AS 磨石 GS 敲石 HS 碓器 Cho
細石刃 Mb 細石核 MCo

石材

頁岩 Sh ホルンフェルス Holf 砂岩 San 流紋岩 Rhy 黒曜石 Ob チャート Che
尾鈴山酸性岩 Os 緑色珪質岩 GS

－本文目次－

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4

第Ⅲ章 調査の記録

第1節 調査の概要

1 試掘確認調査	7
2 調査の経過	
(1) 1次調査	9
(2) 2次調査	10

第2節 基本層序

第3節 遺物・遺構・石材の捉え方について	14
----------------------	----

第4節 旧石器時代の調査

1 第Ⅰ文化層 －ML3－	
(1) 遺構	18
(2) 遺物	26
(3) 石材及び接合資料	26
(4) 小結	27

2 第Ⅱ文化層 －MB2－	
(1) 遺構	30
(2) 遺物	39
(3) 石材及び接合資料	39
(4) 植生と古環境	46
(5) 小結	46

3 第Ⅲ文化層 －ML2－	
(1) 遺構	53
(2) 遺物	78
(3) 石材及び接合資料	87
(4) 小結	126

4 第Ⅳ文化層 －細石器文化期－	
(1) 遺物	129

第5節 繩文時代早期の調査

1 遺構	131
2 遺物	134

第6節 アカホヤ火山灰降灰以降の調査	138
第IV章まとめ	141
第V章 自然科学分析	143

－挿図目次－

第1図 遺跡周辺地形図	3	第4図 調査区及び層別掘削範囲	8
第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡	6	第5図 土層断面図	13
第3図 試掘トレーニチ配置図	7	第6図 グリッド名	14
旧石器時代 第Ⅰ文化層			
第7図 IX層 遺構及び遺物分布図	17	第12図 石器実測図(1)	22
第8図 石器ブロック及び遺物分布図	18	第13図 石器実測図(2)	23
第9図 石器ブロック1分布図及び出土遺物	19	第14図 接合資料実測図(1)	24
第10図 石器ブロック2分布図及び出土遺物	20	第15図 接合資料実測図(2)	25
第11図 磔群1実測図及び石材別グラフ	21		
旧石器時代 第Ⅱ文化層			
第16図 Ⅷ層 遺構及び遺物分布図	28	第22図 磔群3実測図	36
第17図 石器ブロック分布図及び 石器ブロック外出土遺物	30	第23図 磔群4実測図	37
第18図 石器ブロック3・4分布図及び 出土遺物	31	第24図 石材別グラフ	38
第19図 石器ブロック5~8分布図及び 出土遺物	32	第25図 石器実測図(3)	40
第20図 石器ブロック9分布図及び出土遺物	33	第26図 石器実測図(4)	41
第21図 磔群2実測図及び石材別グラフ	34	第27図 石器実測図(5)	42
旧石器時代 第Ⅲ文化層			
第31図 VI層A・D区遺構及び遺物分布図	50	第39図 石器ブロック19分布図及び出土遺物	59
第32図 VI層B・C区遺構及び遺物分布図	51	第40図 石器ブロック20~21分布図及び出土遺物	60
第33図 VI層石器ブロック分布図	52	第41図 石器ブロック22~23分布図及び出土遺物	61
第34図 石器ブロック10~13分布図及び出土遺物	54	第42図 石器ブロック20~22出土遺物	62
第35図 石器ブロック10~12出土遺物	55	第43図 石器ブロック10~23石材別グラフ	63
第36図 石器ブロック14分布図及び出土遺物	56	第44図 磔群5及び礫群6実測図	64
第37図 石器ブロック15~16分布図及び出土遺物	57	第45図 磕群7及び礫群8実測図	65
第38図 石器ブロック17~18分布図及び出土遺物	58	第46図 磕群石材別グラフ(1)	66

第47図	礫群9及び礫群10実測図	67	第83図	分布図及び接合資料実測図(8)	105
第48図	礫群11及び礫群12実測図	68	第84図	接合資料実測図(10)	106
第49図	礫群石材別グラフ(2)	69	第85図	接合資料実測図(11)	107
第50図	土坑1実測図及び断面図	70	第86図	接合資料実測図(12)	108
第51図	ピット実測図及び土層断面図	70	第87図	ホルンフェルス器種別分布図及び接合資料実測図	111
第52図	土坑1内出土遺物実測図	70	第88図	接合資料実測図(13)	112
第53図	土坑1内リン・カルシウム含量グラフ	71	第89図	分布図及び接合資料実測図(9)	113
第54図	器種別分布図及び石器実測図(1)	72	第90図	接合資料実測図(14)	114
第55図	石器実測図(7)	73	第91図	分布図及び接合資料実測図(10)	115
第56図	石器実測図(8)	74	第92図	接合資料実測図(15)	116
第57図	器種別分布図及び石器実測図(2)	75	第93図	分布図及び接合資料実測図(11)	117
第58図	石器実測図(9)	76	第94図	接合資料実測図(16)	118
第59図	石器実測図(10)	77	第95図	接合資料実測図(17)	119～120
第60図	器種別分布図	78	第96図	接合資料実測図(18)	121
第61図	石器実測図(11)	79	第97図	黒曜石器種別分布図及び接合資料実測図	122
第62図	石器実測図(12)	80	第98図	分布図及び接合資料実測図(12)	123
第63図	石器実測図(13)	81	第99図	接合資料実測図(19)	124
第64図	石器実測図(14)	82	第100図	分布図及び接合資料実測図(13)	125
第65図	石器実測図(15)	83	第101図	砂岩チャート分布図及び接合資料実測図	127
第66図	石器実測図(16)	84	第102図	細石刃・細石核分布図及び石器実測図	128
第67図	石材別分布図及び石材別グラフ	87	第103図	石器実測図	129
第68図	頁岩器種別分布図	88			
第69図	接合資料実測図(4)	89	縄文時代早期 第IV文化層		
第70図	分布図及び接合資料実測図(1)	90	第104図	B区遺構分布図及び土坑2実測図	130
第71図	分布図及び接合資料実測図(2)	91	第105図	集石1実測図	131
第72図	接合資料実測図(5)	93	第106図	集石2・3実測図	132
第73図	分布図及び接合資料実測図(3)	94	第107図	石鏃分布図及び実測図	133
第74図	分布図及び接合資料実測図(4)	95	第108図	出土遺物実測図	134
第75図	接合資料実測図(6)	96			
第76図	分布図及び接合資料実測図(5)	97	アカホヤ降灰以降の時代		
第77図	接合資料実測図(7)	98	第109図	D区アカホヤ降灰以降の遺構分布図	140
第78図	分布図及び接合資料実測図(6)	99	第110図	土壙墓1・2実測図	140
第79図	接合資料実測図(8)	100	第111図	植物珪酸体分析結果	143
第80図	流紋岩器種別分布図	102			
第81図	分布図及び接合資料実測図(7)	103			
第82図	接合資料実測図(9)	104			

－表目次－

第Ⅰ文化層

第1表 石器ブロック別石器組成表(1)	27
第2表 石材別石器組成表(1)	27
第3表 石器計測表(1)	27

第Ⅱ文化層

第4表 石材別石器組成表(2)	29
第5表 石器ブロック別石器組成表(2)	33
第6表 石器ブロック別石材組成表(1)	33
第7表 磁群別個数・重量表	38
第8表 石器計測表(2)	46

第Ⅲ文化層

第9表 石器ブロック別石器組成表(3)	52
第10表 石器計測表(3)	85
第11表 貝岩石器組成表	88
第12表 流紋岩石器組成表	102
第13表 接合資料計測表	135
第14表 石器計測表(4)	137
第15表 土器觀察表	137

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

東九州自動車道の都農～西都間は、平成元年2月に基本計画がなされ、平成9年3月には整備計画路線となる。その後、平成9年12月には建設大臣より日本道路公団へ施行命令が出され、公団は翌年の2月から事業に着手している。宮崎県教育委員会では、平成6年に延岡～西都間の遺跡詳細分布調査を行い、それに基づき埋蔵文化財の保護について関係機関と協議を重ねた結果、工事施工によって影響が出る部分について工事着手前に発掘調査を実施することとなった。県教育委員会では、平成11年に日本道路公団の委託を受け、県埋蔵文化財センターが調査することになった。

平成12年度より西都市、新富町、高鍋町の確認調査を行った。その一つとして東畦原第3遺跡の確認調査を行っている。確認調査の詳細については後で述べるが、この調査の結果、上層は攪乱を受けているものの、旧石器時代の包含層は良好な状態で遺存しており、遺物も数点確認された。これにより、平成12年11月より本調査を行うこととした。また、対象地の未調査地区は、本調査を行いながら、確認することとした。最終的に、調査対象面積5700m²を平成12年11月より平成14年1月までの約15ヶ月間で調査を行った。

第2節 調査の組織

東畦原第3遺跡の調査組織は次のとおりである。

発掘調査及び整理作業（平成12・13年度）

宮崎県埋蔵文化財センター

所長	矢野 剛（平成12年度～平成13年度）
副所長兼総務課長	菊地 茂仁（平成12年度～平成13年度）
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫（平成12年度～平成14年度）
調査第一課長兼第一係長	面高 哲郎（平成12年度）
調査第一課長	面高 哲郎（平成13年度）
総務係長	亀井 維子（平成12年度～平成13年度）
調査第一係長	谷口 武範（平成13年度～平成14年度）
調査第二係長	長津 宗重（平成12年度～平成14年度）
主査（調査担当）	横田 通久
主査（調査担当）	福松 東一
主任主事（調査担当）	阿部 直人
調査員（嘱託）	松尾 有年

整理作業及び報告書作成（平成14・15年度）

宮崎県埋蔵文化財センター

所長	米良 弘康（平成14・15年度）
副所長兼総務課長	大薗 和博（平成14・15年度）
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫（平成14・15年度）
調査第一課長	児玉 章則（平成14・15年度）
総務係長	野邊 文博（平成14年度）
	石川 恵史（平成15年度）
調査第一係長	谷口 武範（平成14・15年度）
調査第二係長	長津 宗重（平成14・15年度）
主　　査（報告書担当）	福松 東一・横田 通久

調　　査　指　導（敬称略）

小畑弘己（熊本大学） 泉 拓良（奈良大学） 本田道輝（鹿児島大学）
田崎博之（愛媛大学） 柳沢一男（宮崎大学） 広瀬和雄（奈良女子大学）
加藤真二（文化庁） 佐藤宏之（東京大学） 橘 昌信（別府大学）
宮田栄二（鹿児島県教育委員会） 秋成雅博（清武町教育委員会）
青山尚友・松田清孝行（宮崎県立総合博物館）

調　　査　協　力　　一ツ瀬土地改良区

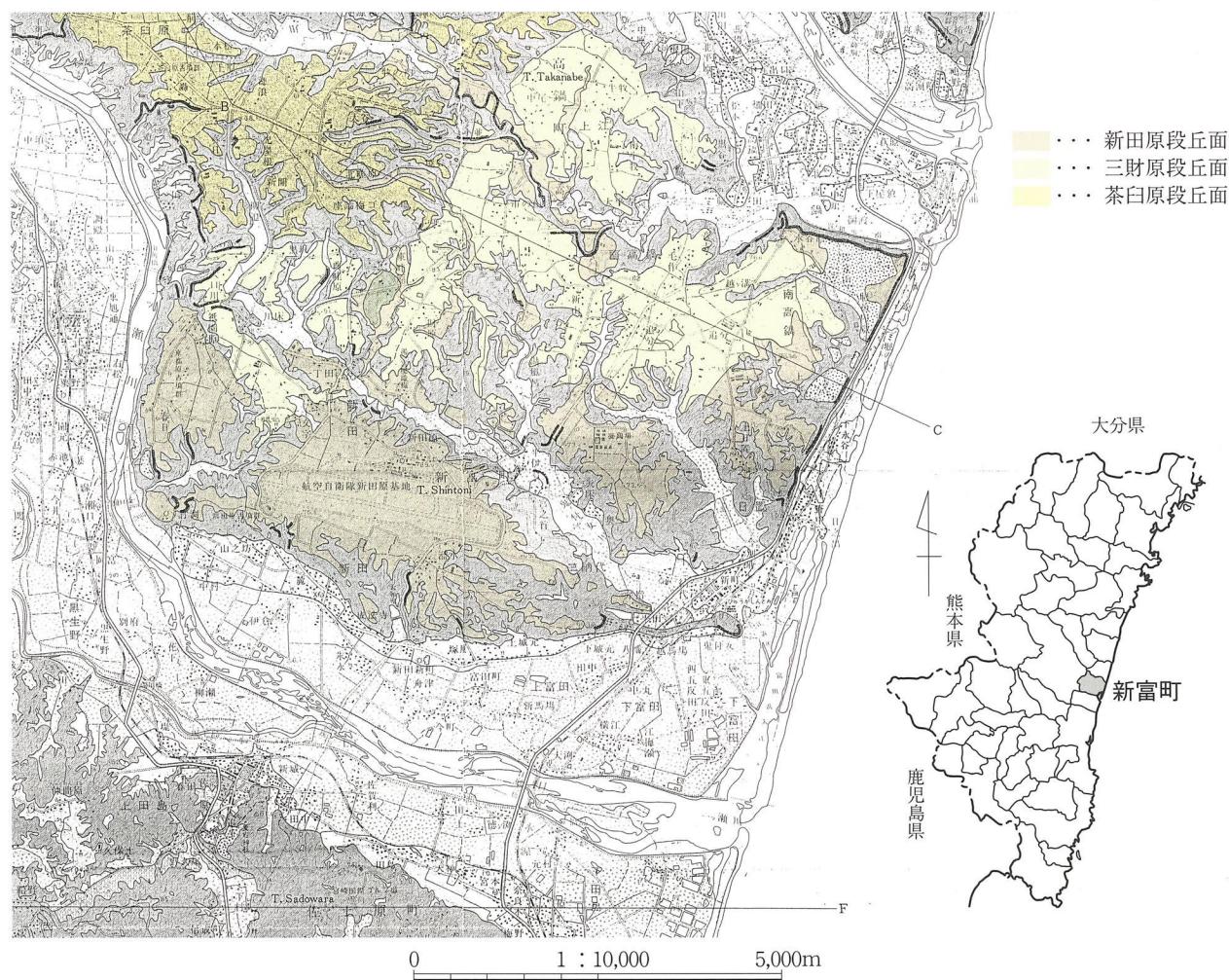
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

東畠原第3遺跡は、新富町大字新田字大中原に所在する。この新富町は宮崎県のほぼ中央に位置し、東は日向灘に接し、北西から西には九州山地に連なる猛々しい山と尾鈴山を仰ぐ。南は山間部の米良地方に水源をもつ瀬川が流れしており、その下流域左岸の氾濫源を有している。この地域一帯の地形区分は四万十層群に緩傾斜の宮崎層群が乗り、その不整合面に地層が堆積した段丘地形を示している。

段丘は主に北部から中央部・南部にかけて、それぞれ茶臼原台地・三財原台地・新田原台地があり、広大な台地と丘陵地をなしている。茶臼原台地は三財原台地の北西部に所在し、低位の三財原台地とは海食崖状の急斜面で隔てられる。この台地をつくる礫層は砂岩を主とし、頁岩、尾鈴酸性岩、チャート等がみられる。もっとも多くみられる新田原台地は山際で開析扇状地と海岸部で平坦面を作っており、多くの遺跡が立地している。本遺跡の立地している三財原台地は標高80m～120m、平均100mの海成面からなる。表層地質は緩く傾いた宮崎層群の妻部層を基盤に海浜砂丘成砂層（三財原砂礫層）や火山灰などの降下堆積物から成り立っている。

この三財原台地は鬼付女川と三財原川・湯風呂川・日置川や現在水田として利用されている所など浸食された谷が目立ち、「畠原」の地名は文献から読みとれるものは見あたらないが、この浸食された谷



第1図 遺跡周辺地形図

が埋没し、いくつかの小さな畦状を呈していることから「畦原」と呼ばれるようになったと推測される。

本遺跡は北西側を三財原川の支流である谷に接し、旧地形は丘陵を成していたと思われるが、現在は大きな造成が行われ、畑地として活用されていた。北側は緩やかに傾斜している丘陵が続いているが、県道高鍋高岡線によって丘陵が分断されている。同じ丘陵上ではあるが、県道より北側は東畦原第2遺跡として調査を行っている。

第2節 歴史的環境

新富町が有する台地には多くの遺跡が立地しており、太古から人類が住みやすい環境が整っていたものと思われる。一つ瀬川左岸にある台地には多くの古墳群が立地しており、その右岸には西都原古墳群が対峙している。以下本遺跡周辺の時代区分毎に台地との立地と合わせて概観する。

1 旧石器時代

本遺跡周辺では東九州自動車道建設に伴う発掘調査により、多くの旧石器時代の遺跡が調査され、その当時の状況が明らかになりつつある。それ以前では新田原台地上の溜水遺跡で礫群を検出し、尖頭器、細石刃、細石核等が確認されているが、旧石器時代の調査例は少ない。1980年代に大野寅夫氏によって新田原台地の北西端に所在する畦原地区で表採された「畦原型細石核」が南九州を代表する標識資料として有名である。しかし、この資料は表採であるため周辺地域での調査が待たれるところであった。

本遺跡では残念ながらこの細石核を確認することはできなかった。

東九州自動車道関係で旧石器時代の遺跡としては、高鍋町の北牛牧第5遺跡より剥片尖頭器、斜軸剥片ナイフ形石器やAT下位層より水晶の石核が出土している。牧内第1遺跡ではAT下位層にまとまった石器群、第2遺跡では礫群が検出されている。音明寺第1・第2遺跡でもAT層の上下で多くの石器が確認されており、東畦原第1・第2遺跡も同様である。本遺跡の南西側の谷を挟んで西畦原第2遺跡が立地しているがここでは細石刃製作に伴うブロックが確認されている。

以上のように、近年急速にAT下位層を含む後期旧石器時代の発掘調査が行われ、良好な資料が整いつつある。

2 繩文時代

旧石器時代同様、本遺跡周辺では調査例は多いとは言えないが、草創期・早期の遺跡としては新田原台地の西南端の瀬戸口遺跡で掘り込みを伴う集石遺構を検出し、押型文土器、隆起線文土器、貝殻条痕文土器が出土している。他に藤掛・西牧・中尾・七又木・銀代ヶ迫の各遺跡でも集石遺構が検出されている。最近の調査例では高鍋町の野首第2遺跡で85基の集石遺構を検出し、押型文系の土器が出土している。また同町の唐木戸第4遺跡では土器の出土は少ないものの、炉穴や集石遺構を検出し、5000点を超えるチャート製の石鏃・剥片・碎片が確認されている。新富町の音明寺第1遺跡では、800点近い土器片とチャートや黒曜石の碎片が確認されている。中期では早期に比べると数は少ないものの下耳切第3遺跡で多くの遺構・遺物を確認している。竪穴住居7軒、土坑130基前後、集石遺構1基、配石遺構1基が検出されており、土器では船元Ⅱ・Ⅲ式や轟B式に類似するものなど多くが確認されている。後期・晩期の遺跡には野首第2遺跡で竪穴住居1軒を検出し、竪穴住居からは硬玉製とみられる垂飾が1点確認されている。老瀬坂上遺跡では遺構の検出はみられないものの、後期から晩期に比定できる土器が数多く出土している。

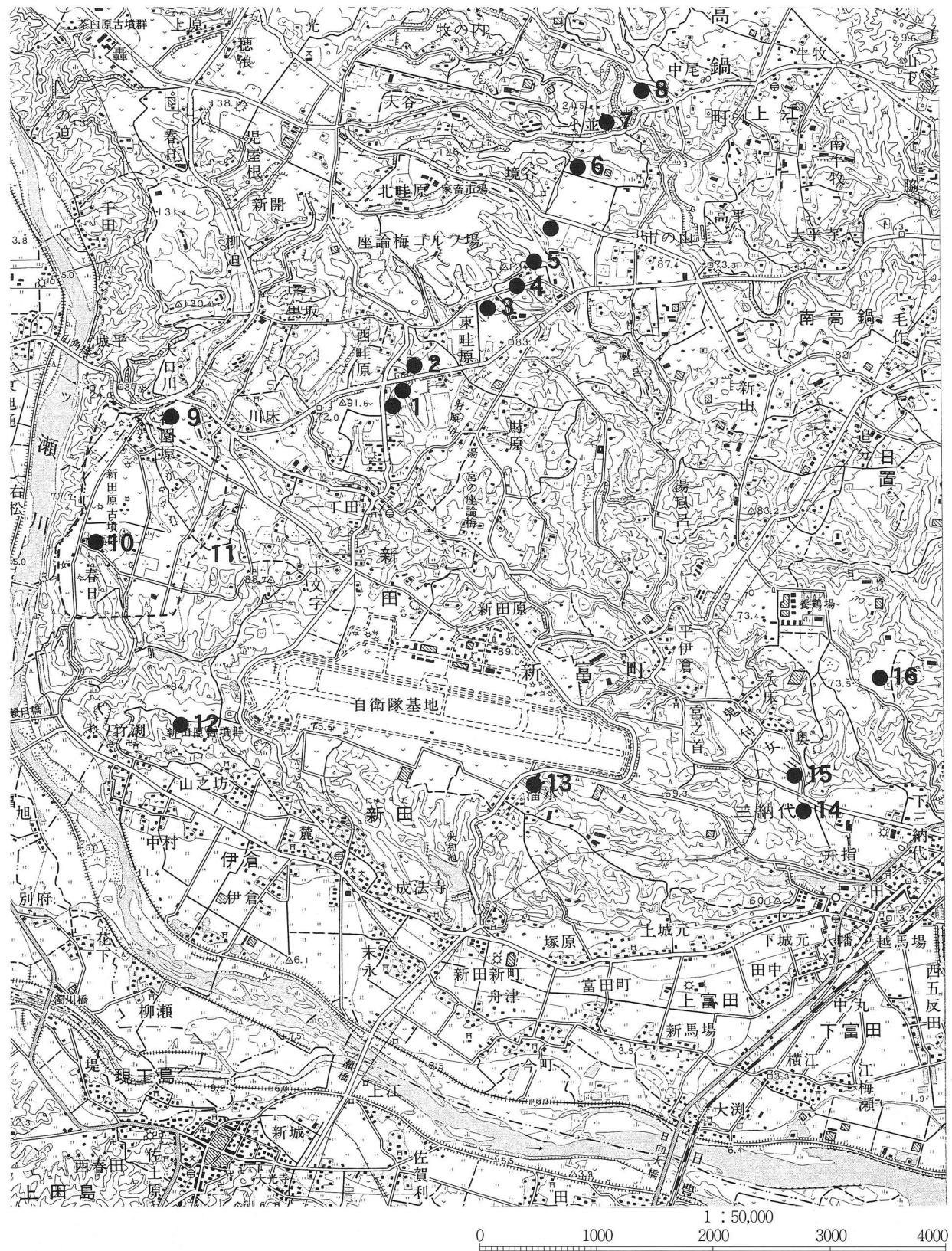
3 弥生時代・古墳時代以降

弥生時代・古墳時代になると遺跡数も多くなる。県下でも数少ない弥生時代前期では板付Ⅱ式併行期の壺が表採で確認された新富町日置に所在する今別府遺跡がある。しかし、発見場所については今なお特定されていない。また、近年調査を行った新富町三納代に所在する志戸平遺跡（3次）調査でも同様の土器が2点確認されている。前期後半では高鍋町の持田中尾遺跡で好資料を得ている。中期の初めには鬼付女川と日置川に挟まれた台地の南東端に立地する鐘遺跡から竪穴住居とV字溝が確認されている。中期後葉から後期になると藤山川の上流に新田原遺跡が立地しており、竪穴住居12軒を谷地形を挟んだ微高地で検出しており、「花弁状住居」が確認されている。川床遺跡では方形周溝墓、円形周溝墓を含む土壙墓が195基確認されている。東九州自動車道関連では西畠原第1遺跡で竪穴住居3軒と掘立柱建物跡1棟を検出しており、中溝式の壺や須久式の壺が確認されている。この時代の遺跡は台地の縁辺部に多く、河岸低位段丘面に立地している例が多い。

古墳時代になると山之坊古墳群、塚原古墳群、祇園原古墳群など多くの造墓活動をおこなっている。ここでは詳細は触れないが、東九州関連遺跡では、高鍋町の野首第2遺跡では竪穴住居11軒と土坑が確認されており、下耳切第3遺跡では古墳時代終末期の集落と古墳を確認している。

<参考文献>

- | | |
|------------------------------------|--|
| 「新富町史 通史編」 | 1992 新富町 |
| 「新富町の埋蔵文化財 遺跡詳細分布調査報告書」 | 1982 新富町教育委員会 |
| 「土地分類基本調査 妻・高鍋」 | 1982 國土調査 宮崎県農政水産部農業振興課 |
| 「東九州自動車道（都農～西都間）関係埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅰ」 | 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 64集 |
| 「東九州自動車道（都農～西都間）関係埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅱ」 | 2001 宮崎県埋蔵文化財センター
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 49集 |
| 「志戸平遺跡、早風第Ⅰ、第Ⅱ遺跡、奥牟田遺跡、溜水第Ⅱ遺跡」 | 2002 宮崎県埋蔵文化財センター
新富町文化財調査報告書 第14集 |
| | 1992 新富町教育委員会 |



- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 東畦原第3遺跡 | 2 東畦原第2遺跡 | 3 東畦原第1遺跡 | 4 音明寺第2遺跡 |
| 5 音明寺第1遺跡 | 6 牧内第1遺跡 | 7 小並第1遺跡 | 8 唐木戸第3遺跡 |
| 9 川床遺跡 | 10 潑戸口遺跡 | 11 祇園原古墳群 | 12 七又木遺跡 |
| 13 溜水遺跡 | 14 志戸平遺跡 | 15 頭田遺跡 | 16 上菌遺跡 |

第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡

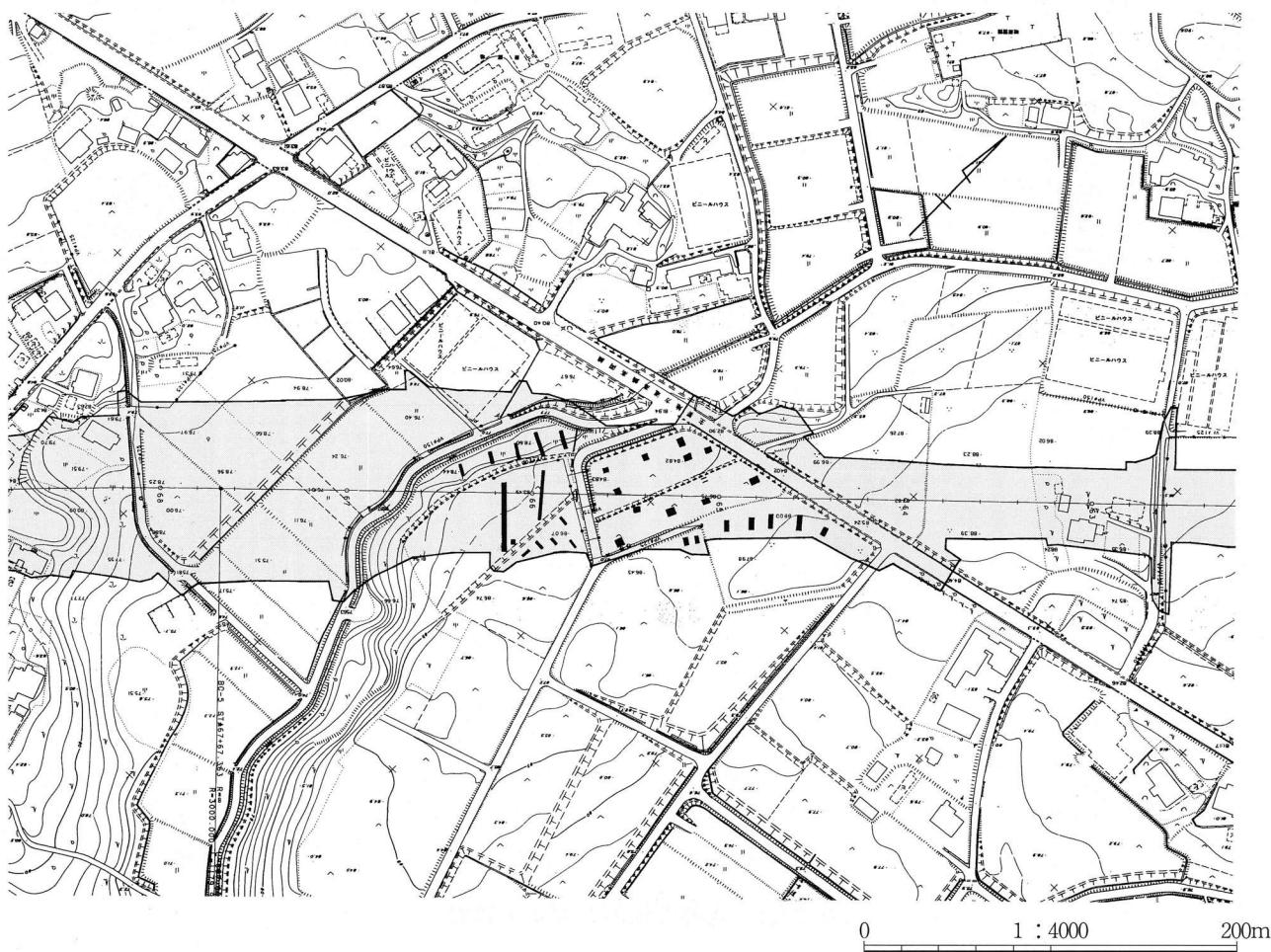
第三章 調査の記録

第1節 調査の概要

1 確認調査

本遺跡の第1回の確認調査を、平成12年7月24日から8月4日までの7日間、第2回を平成12年9月20日から9月29日の6日間行った。また、調査対象地の未調査区においては、本調査時に確認調査を行うこととした。

確認調査の結果、牧草地であったA区、畠地であったB区、では、旧地形が北西方向に傾斜していることが確認された。旧地形の上層の多くは区画整理に伴う造成により削平を受け、一部表土下にAT火山灰層が表出しているところもみられた。トレンチ調査により、約200m²の調査を行い、後期旧石器時代の遺物、礫群の一部と思われる赤化礫数点を確認した。表土中より弥生時代と思われる磨製石鏃1点が確認された他は、アカホヤ火山灰降灰後の遺構・遺物は確認されなかった。また、A区の西端は客土が厚く、法面造成が行われていたため一部を調査対象外とした。B区では受熱による赤化礫を含む集石を確認したため、それを中心とした調査区を設定した。本調査時でのC区の確認調査では、トレンチ調査により、縄文早期の土器片1点、石鏃1点、後期旧石器時代の剥片を1点を確認したため、全面の本調査を行った。D区では本遺跡での標高が最高位に所在しているが、造成による削平を免れており、ア



第3図 試掘トレンチ配置図



第4図 調査区及び層別確認範囲

カホヤ火山灰層が良好な状態で遺存していた。表土は茶畠であったため、トレントチャ等による攪乱も見られない。しかし、確認調査でのアカホヤ火山灰層以降の遺構・遺物については確認できておらず、小林軽石(kr-kb)を含むML2層の後期旧石器時代から遺物が数点みられたのみである。AT下位層(MB2)における遺物は確認されていなかったが、隣接しているA区でのAT下位層(MB2)の出土状況から、D区もMB2層の本調査を行った。諸般の事情により、A区、B区、C区を調査終了後、直ちにD区の二次調査を行った。E区はB区の北西側約5m下位にあり、イワオコシスコリアを含む層まで削平を受けていた。更に下位層の確認トレンチを設定し、調査を行ったが、遺物・遺構が確認されなかつたため、本調査対象外とした。

2 調査の経過

1) 1次調査

A区

1次調査は平成12年11月6日から平成13年9月28日まで実施した。A区(2900m²)ではまず表土を重機で掘削した。調査区の北東側上段面では、層序の上位層は削平を受け、Ⅲ層アカホヤ火山灰層の遺存状況は極めて悪く、V層以下の層序であった。北西側下段面の中央部はAT火山灰層が削平を受け、すでに小林軽石を含む層まで削平を受けていることが明らかとなった。重機掘削時に縄文早期にあたる集石遺構1基を確認した。

その後、調査はジョレン掛け、捻り鎌による遺構・遺物の精査を行った。遺物の出土が確認ができないところについては手鋤等を使用し、遺物が出土次第、捻り鎌に移行していった。小林軽石を含む層を中心に石器の出土がみられ、A区全面を精査し、AT火山灰層直上まで掘り下げを行った。その結果、遺物は石器を中心に調査区の北西側(I5, I6, J5, J6の区)より多くみられ、遺構は調査区の南壁近く(I7区)より土坑1基と礫群4基を検出した。

AT上層までの精査終了後に、AT下位層の確認トレンチを8つ設定し、Ⅹ層であるイワオコシスコリア層までの掘り下げを行った。また、調査区中央に土層確認用トレンチを設定した。その結果、調査区南東端の第8トレンチ(J8区)より、Ⅷ層上位面から礫・石器を確認し、土層確認用トレンチ(J3区)のⅨ層中位より石核1点を確認した。そのため、重機によりAT層直下まで掘削を行い、人力によりⅧ層以下を5m×5mの25%掘りを行った。Ⅷ層面での遺構・遺物では、J8区周辺の礫・石器とL3～L5区、M3～M5区に礫の広がりを検出するとともに石器が確認された。Ⅸ層面では剥片が土層確認トレンチで出土した地点を中心に5m×5mで掘り下げを行った。その結果、接合の伴う剥片数点と礫が出土した。

B区

試掘調査時に確認された礫群を中心に重機で表土の掘削を行った。調査区の西側は旧表土まで約110cmの造成が2回にわたり行われていた。うち1回目の造成はⅡ層黒色土、アカホヤ火山灰、小林軽石を含むⅥ層の褐色土等が含まれており、調査区東側とさらに調査対象外とした東側の土を削平し、西側に造成したものと思われる。

表土除去後に精査を行い、被熱による赤化礫を伴う集石遺構2基と土坑1基を検出した。その後5m×5mの掘り下げを行い、ピット3基を検出し、石器数点を確認した。AT下位層においても5m×5

mのトレンチ堀りを行ったが、遺物の確認がみられなかつたため調査を終了した。

C区

C区はB区の東側に立地し、約2.5mの高低差がある。B区ほどではないが、西側に造成がみられた。旧地形は緩やかに北側に傾斜し、B区同様、西側に急傾をなしているため、調査区西側はI層からあるものの東側では表土下に小林軽石を含むVI層が確認され、それ以前の層は削平を受け、消失していた。調査は試掘より土器が確認された地点より縄文時代早期の土器を数点と石鏃を確認した。VI層面から5m×5mのグリッド掘りを行い、礫群3基の検出と石器数点を確認した。その後、VI層同様、VII層までをグリッド掘りで確認を行い、石器数点を確認した。最後に、調査区中央（H10～H11）にトレンチを設定し、VIII層面の確認を行ったが、遺物・遺構ともに確認できなかつたため調査を終了した。

2) 2次調査

D区

D区の2次調査は1次調査終了直後の平成13年10月1日から平成14年1月18日まで実施した。D区北側では約3m下に県道があり、その道路の法面と隣接しているため、調査を進めていく上で、危険防止のため段堀をすることとなり、掘り深めていくに従って、調査面積がやや狭くなっている。

D区では全面にわたってアカホヤ火山灰層が残存しており、重機でII層までを除去後、アカホヤ火山灰層の上面を精査した。その結果、近世のピット列と現代のものと思われる土坑5基、近世以前の土坑2基、時期不明の溝状遺構2条を検出した。出土遺物は磁器片が数点確認されている。

アカホヤ上面終了後に10m×10mのグリッドを人力により5m×5mの25%掘り下げを行った。縄文早期面では、遺構の検出はみられず、石鏃・剥片等の石器が6点のみであった。その後、小林軽石層を含む層の直上までを重機で除去し旧石器時代の精査に入った。5m×5mの25%掘り下げの結果、石器の集中は2ブロックのみで、他は散漫な状態での出土であった。遺構は礫群2基を検出した。

D区は隣接するA区の東壁（N2）付近のVIII層面から礫群を検出しているため、D区においてもその広がりがあるものと予想された。そのため、重機により、VII（AT）層の直下まで掘削を行い、AT層直下から25%掘り下げを行った。その結果、A区と同様の礫の広がりがみられ、ナイフ形石器や敲石が確認された。また、更にVIII層下面、IX層においても礫や石核・剥片を確認した。

第2節 基本層序

1 基本土層

東畦原第3遺跡は三財原段丘面に立地しており、海浜砂丘成砂層上に火山灰降下堆積物が乗っている。本遺跡では、耕作地造成による堆積層の削平を受け、アカホヤ火山灰層から上位層が消失しているところや、後期旧石器時代包含層まで削平を受けているところがみられた。以下基本土層を次の通り示す。

I層 表土及び耕作土

造成土、盛土を含む。本遺跡周辺では、一つ瀬川土地改良事業によって造成が行われており、本遺跡の北西端には約1.1mの造成土がある。

II層 黒色土層 (Hue 7.5YR 2/1)

有機質土で、サラサラした砂質土。一部畑地で利用されたビニールハウス用の塩化ビニールがみられる。B区、C区、D区で見られるが、A区では削平を受け、消失している。他の区でも耕作機による攪乱を受け、アカホヤ火山灰層が巻き上げられている所も見られる。

III層 アカホヤ火山灰層 -K-Ah-

橙色でサラサラした触感があり、ガラス質状。乾くと淡黄色で小ブロックに割れる。

IVa層 黒褐色土 (Hue 10YR 2/2) -MB0-

アカホヤ粒（火山豆石）径2mm～8mmを含む。やや粘性があり多量の白色粒を部分的に含む。

IVb層 黒褐色土 (Hue 10YR 2/1) -MB0-

固くしまっており、緻密で粘性がある。長石の白色粒を少量含む。乾くとクラックが入り、小ブロックに割れる。B区では見られない。

Va層 暗褐色土 (Hue 7.5YR 3/1) -ML1-

固くしまっており緻密である。白色粒を多量に含み、橙色粒を極少量含む。Vb層への漸移層。

Vb層 暗褐色土 (Hue 10YR 3/3) -ML1-

固くしまった黒褐色土中にパサパサした褐色土が縦状に混じる。

VIa層 褐色土 (Hue 7.5YR 4/3) -MB1-

粘性があり、小林軽石 (Kr-kb) を含む堅緻な黒褐色ブロックが全般にわたって多く見られる。

VIb層 にぶい黄褐色土 (Hue 10YR 5/4) -ML2-

柔らかく、粘性があり、保湿性に富む。上面では、小林軽石を多く含む暗褐色ブロックを含む。

VIc層 にぶい褐色土 (Hue 7.5YR 5/4) -ML2-

固く、粘性なし。周囲が黒褐色で中が黄褐色のマーブル状のしみ（径1.5cm前後）が頻繁にみられる。VII層の2次堆積か。

VII層 AT火山灰層

サラサラして、ガラス小片を多く含む。プライマリーな堆積をしているところと、微地形により、流失しているところがある。

VIII層 黒褐色土 (Hue 7.5YR 2/2) -MB2-, -MB3-

非常に堅緻で、縦状にクラックが入りやすく、上位に白斑粒を多く含む。

IX a層 暗褐色土 (Hue 10YR 3/3) —ML3—

固く締まっており、粘性なし。スコリア、白色粒がまばらに見られる。

IX b層 にぶい赤褐色土 (Hue 5YR 4/4) —ML3—

固く締まっているが、粘性が見られる。IX a層に比べ、スコリアがやや増える。

X層 黄褐色土 (Hue 10YR 5/6) —Kr-Aw—

所謂、アワオコシスコリア層で固く粘性があり、ザラザラしている。

XI層 明黄褐色土 (Hue 10YR 6/6) —ML4—

粘性があり、軟性である。スコリアが減り、橙色粒が増える。

XII層 明赤褐色土 (Hue 5YR 5/8) —Kr-Iw—

所謂、イワオコシスコリア層で固く、スコリアを多量に含むためザラザラしている。

2 各調査区の土層

A区

I 層 表土
IV a層 黒褐色土
IV b層 黒褐色土
V a層 暗褐色土
V b層 暗褐色土
VI a層 黒褐色土
VI b層 にぶい黄褐色土
VI c層 にぶい褐色土
VII 層 AT火山灰
VIII 層 黒褐色土
IX a層 暗褐色土
IX b層 にぶい赤褐色土
X 層 黄褐色土
XI 層 明黄褐色土
XII 層 明赤褐色土

D区

I 層 表土
II 層 黒色土層
III 層 アカホヤ火山灰
IV a層 黒褐色土
IV b層 黒褐色土
V a層 暗褐色土
V b層 暗褐色土
VI a層 黒褐色土
VI b層 にぶい黄褐色土
VI c層 にぶい褐色土
VII 層 AT火山灰
VIII 層 黒褐色土
IX a層 暗褐色土
IX b層 にぶい赤褐色土
X 层 黄褐色土
XI 层 明黄褐色土
XII 层 明赤褐色土

A区では、段状に攪乱を受け、II、III、IV a層の一部が削平されている。

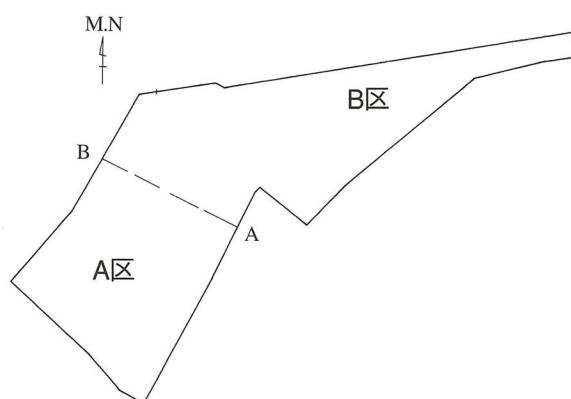
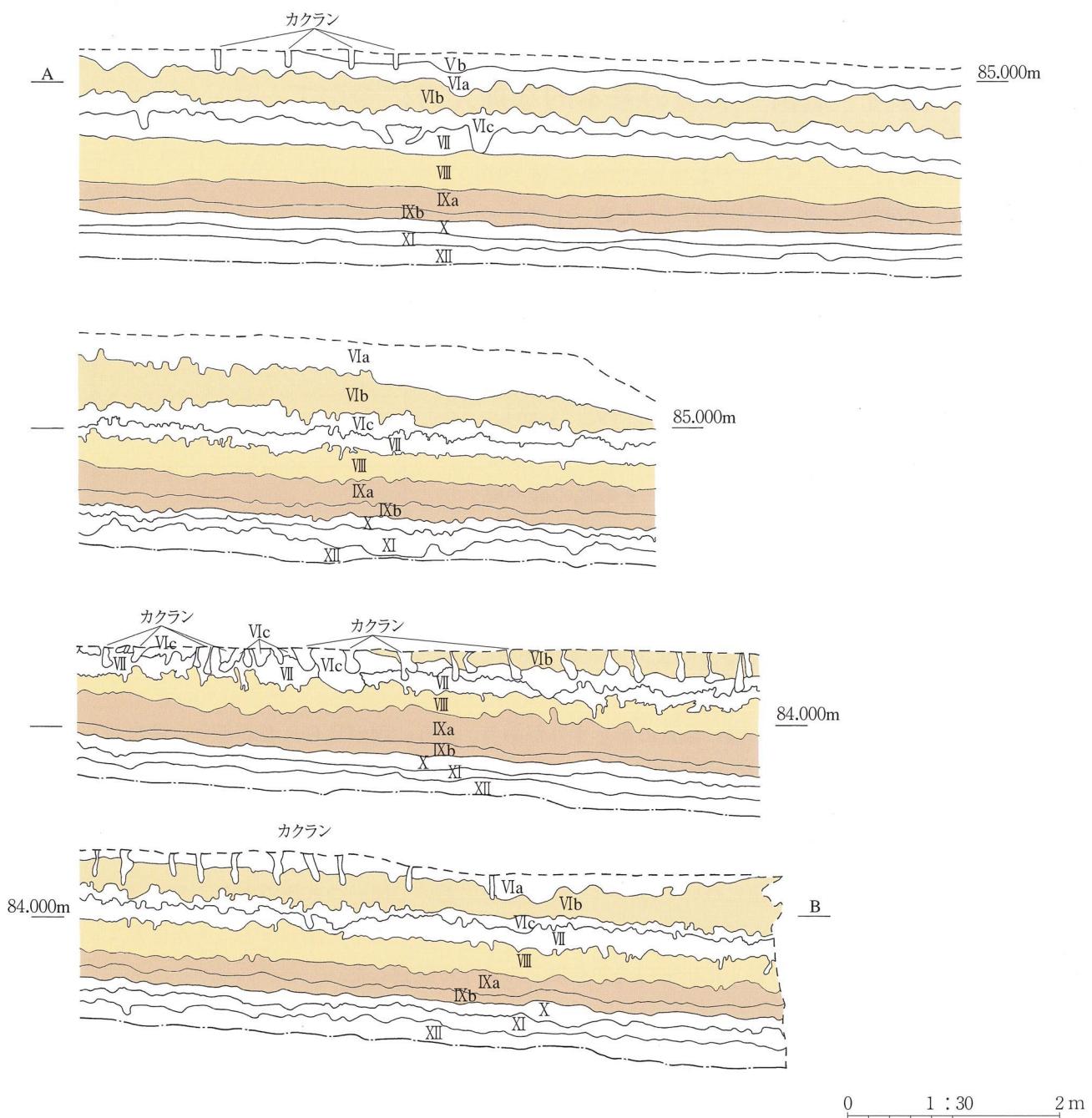
B区

I a層 表土
I b層 造成
II 層 黒色土
III b層 アカホヤ火山灰
IV a層 黒褐色土
V b層 暗褐色土
VI a層 黒褐色土
VI b層 にぶい黄褐色土
VI c層 にぶい褐色土
VII 層 AT火山灰
VIII 層 黒褐色土
IX a層 暗褐色土
IX b層 にぶい赤褐色土
X 层 黄褐色土
XI 层 明黄褐色土
XII 层 明赤褐色土

C区

I 層 表土
II 層 黒色土層
III 层 アカホヤ火山灰
IV a層 黒褐色土
IV b層 黒褐色土
V a層 暗褐色土
V b層 暗褐色土
VI a層 黒褐色土
VI b層 にぶい黄褐色土
VI c層 にぶい褐色土
VII 層 AT火山灰
VIII 層 黒褐色土
IX a層 暗褐色土
IX b層 にぶい赤褐色土
X 层 黄褐色土
XI 层 明黄褐色土
XII 层 明赤褐色土

B区・C区ではI層が厚く、II、III層は西側に僅かに遺存しており、東側ではII層～VI a層まで削平を受けている。



第5図 土層断面図

第3節 遺物・遺構・石材の基本的な捉え方について グリッド

ここでの石器はすべてグリッド名を付してあるが、10mグリッドを4分割し、25%掘りを行ったため、1グリッドに対して4分割の区域をそれぞれa～dの小グリッドに細分した。第6図参照

礫

本遺跡の遺物については、調査時より、礫群の如何を問わず小礫も含め、ほとんどの礫を取り上げた。しかし、整理作業の段階で、長さ、幅等が1cm未満、重量が1g未満の小礫や小礫片については廃棄し、その他の礫や礫片については、計測と接合、石材の分類、受熱による赤化を調べるに留めた。礫の計測については、デジタル計量器を使用し、0g～100gまでは1g単位で100～1000gは2g単位で、1000g以上は5g単位での計測である。

礫群

本遺跡での礫群については、礫に数点のまとまりがあり、回りに礫が見られない場合に礫群とし、縮尺1/10で図面をとった。礫群の中には石器等の遺物が多く含まれているものもみられ、第Ⅲ文化層での礫については小礫の礫群も見られる。

石器ブロック

本来ならば、ブロックの設定についてはすべての文化層において同一の基準であることが望ましいのであろうが、各文化層での出土石器総数に差があるため、統一した基準で設定することが困難であるため、やや恣意的ではあるが、各文化層毎の基準を以下のように設定した。

第I文化層

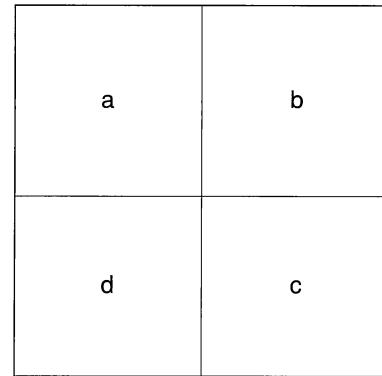
この文化層での出土石器総数は19点と非常に少なく、比較的I3グリッドとO3グリッドに集中しているため、この集中カ所をブロックと設定した。

第II文化層

この文化層での出土石器総数は181点である。ここでブロックの認定は、各グリッドに1m×1mのメッシュに切り、隣接しているメッシュに石器が1点以上出土しているものどうしを結び、そのまとまりが5点以上のものを基本とした。

第III文化層

この文化層での出土石器総数は971点である。基本的には、第4文化層での捉え方と同じであるが、ブロック10～ブロック13周辺には多くの石器が散在しているため、1m×1mのメッシュでは、前層同様のブロック設定が難しいため、さらに0.5mのメッシュを切り、同様の作業を行い、石材や接合関係等をやや考慮しながら設定を行った。特にI5～I7グリッド周辺の遺物については、遺物が谷地形に沿って移動している可能性が強いため、ここでブロックについては石器集中カ所的な意味合いが強い。



第6図 グリッド名

石材

石材の分類については、理化学的な手段ではなく、肉眼観察による分類を行った。手触り、風化の度合い、表面の石質の違い、識別しにくいものについては、双眼実態顕微鏡を利用した。以下はそれぞれの特徴である。

頁 岩

- Shk-1 剥離面は漆黒で、表皮が褐色 (Hue 10YR 4/4) でツルツルしている。
- Shk-2 表皮はオリーブ黒色 (Hue 7.5Y 3/2) でツルツルしており、剥離面は緑黒色 (Hue 5G2/1) を呈する。
- Sh-1 剥離面は暗青灰色 (Hue10BG 4 /1) で表皮は暗オリーブ色 (Hue 2.5GY 4/1) である。
- Sh-2 剥離面は暗黒色 (Hue 5 BG 2/1) で艶がみられる。
- Sh-3 剥離面はオリーブ灰色 (Hue2.5GY6/1) で自然面はザラザラし、灰オリーブ色から暗オリーブ色を呈する。微細な橙色粒、黒色粒、白色粒を含む。
- Sh-4 暗褐色 (Hue5YR 3/3) で表面がやや白っぽく、ザラザラしている。
- Sh-5 にぶい黄色 (Hue2.5Y 6/3) で硬質である。表面はわりに滑らかである。
- Sh-6 暗灰色 (Hue N 3/) でやや灰色が混じる。サラサラして、表皮が白っぽい。
- Sh-7 肉眼的観察により分類したが、詳細は省いた。
- その他..... 石質が珪質1, 2や頁岩1～6とは明らかに違い、数点のみの石質のもの。泥岩状の石質や剥離面が風化したようなもの。

流紋岩

- Rhy 1 浅黄色 (Hue2.5Y 7/4) でやや白っぽく、ツルツルしている。
- Rhy 2 灰白色 (Hue5Y 7/1) で、青白色の筋が見え、表面がややざらつとしている。
- Rhy 3 灰褐色 (Hue5Y 4/2) で緻密。
- Rhy 4 灰オリーブ色 (Hue5Y 4/2) で、1 mm以下の黄褐色粒がみられ、表面がざらつく。
- Rhy 5 暗灰色 (Hue N 3/) で表面に1 mm以下の褐色粒がみられる。
- Rhy 6 暗灰色 (Hue N 3/) で全体に白っぽいふが入る。
- Rhy 7 暗黒色でガラス質がつよく、表面がツルツルしている。
- Rhy 8 灰色 (Hue N 6/) で、やや表面がざらつき、灰色の筋が多数見られる。
- Rhy 9 肉眼的観察により分類したが、詳細は省いた。

ホルンフェルス

- Holf1 青灰色 (Hue10BG 6/1) に淡黄色 (Hue2.5Y 8 /3) の筋がみられ、表面がざらついている。
- Holf2 青灰色 (Hue10BG 5/1) に不純物を含む。
- Holf3 砂岩系のホルンフェルスで 1 ~ 2 mm程度の黒色粒がみられる。
- Holf4 砂岩系で浅黄色 (Hue2.5Y 7/3) で極細の黒色の筋がみられる。
- Holf5 灰オリーブ色 (Hue7.5Y 5/2) で表面に無数の小孔があり、ザラついている。
- Holf6 全体的に緑灰色 (Hue10GY 6/1) で表面はツルツルしている。
- Holf7 青灰色 (Hue10BG 5/1) で鉄錆のような赤褐色の筋が見られ、表面はツルツルしている。
- Holf8 青灰色に白い小さな筋が見られ、黒い斑点が無数あり、表面はツルツルしている。
- Holf9 表面、剥離面は風化が見られ、ザラザラしている。黒青色の筋が見られる。
- Holf10 青灰色で表面がザラザラとし、風化が見られる。
- Holf11 青灰色で黒い斑点が無数に見られる。礫面は茶褐色である。
- Holf12 暗青灰色で白い筋が見られ、赤茶褐色の小さな斑点が見られる。
- Holf13 暗青灰色で表面は粉を吹いたようで、風化がみられる。
- Holf14 表面の風化が著しく、粉っぽい。青灰色で黒い筋が見られる。

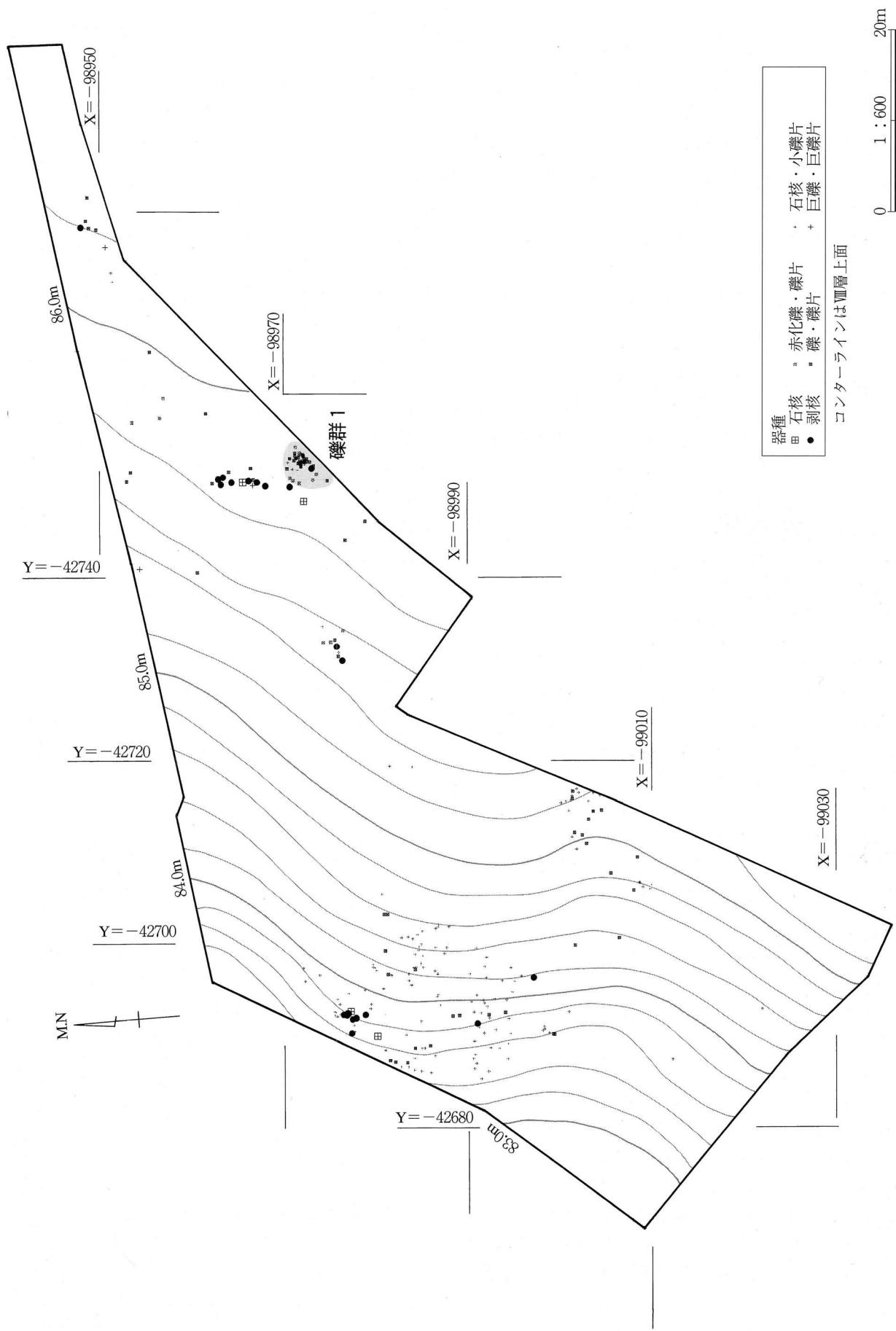
チャート

- Che 1 明オリーブ灰色 (Hue2.5GY 7/1)
- Che 2 オリーブ灰色 (Hue 5GY 5) で黒い筋が縦横無尽に走る。
- Che 3 明青灰色 (Hue 10BG 7/1) で赤褐色の薄い筋が入る。
- Che 4 暗オリーブ灰色 (Hue 5GY 4/1)
- Che 5 オリーブ灰色 (Hue 2.5GY 5/1)
- Che 6 暗赤褐色 (Hue 10GY 5/1) で黒い筋が入る。
- Che 7 暗緑灰色 (Hue 10G 4/1) で白い筋が入る。
- Che 8 灰色 (Hue N 5/) と暗灰色 (Hue N 3/) が混ざり、黒い筋がみられる。

黒曜石

- Ob 1 日東産で不純物を多く含み、全体的に黒みが強く、灰色の筋が入る。
- Ob 2 日東産で不純物を多く含み、全体的に黄色味を帯びており、灰色の筋がみられない。
- Ob 3 にぶい黒色 (Hue N 2/) で不純物が少ない。
- Ob 4 上牛鼻産で表面がにぶい黒で風化しているように見える。
- Ob 5 桑の木津留産で透明感が高く、不純物が少ない。
- Ob 6 漆黒色で不純物が少ない。
- Ob 7 不純物を多く含み、全体的に黒みが強い。灰色状の筋はみられない。
- Ob 8 透明感が高く、黒い筋が多数みられる。
- Ob 9 透明感があるが、8 より黒みが強い。

第7図 IX層遺構及び遺物分布図



第4節 旧石器時代の調査

1 第I文化層-ML3-

第I文化層では、IX b層より石器ブロック1基、IX a層より石器ブロック1基、礫群1基が確認されている。出土石器総数は22点で接合資料1点を伴っている。

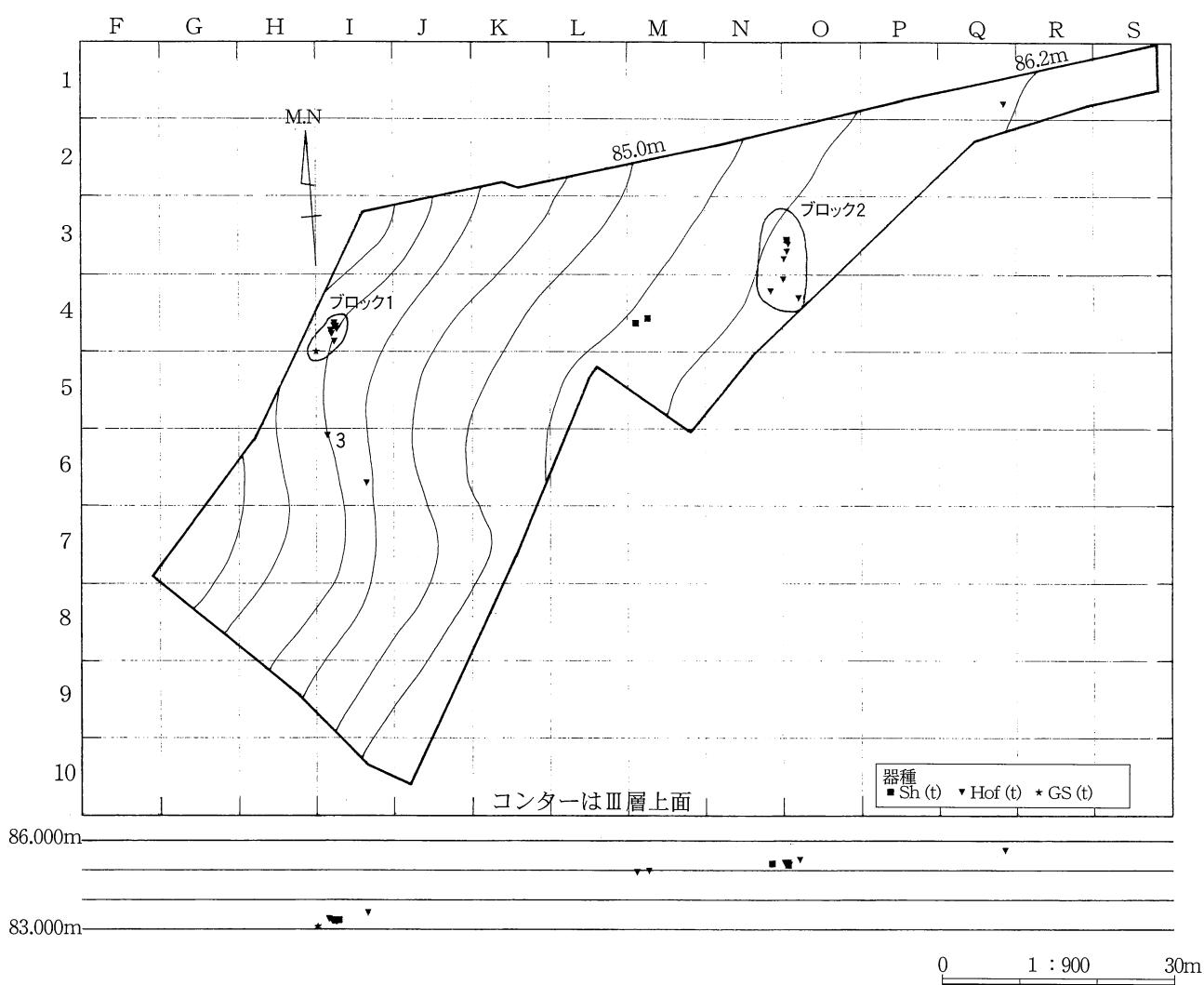
(1) 遺構

石器ブロック1 (第9図)

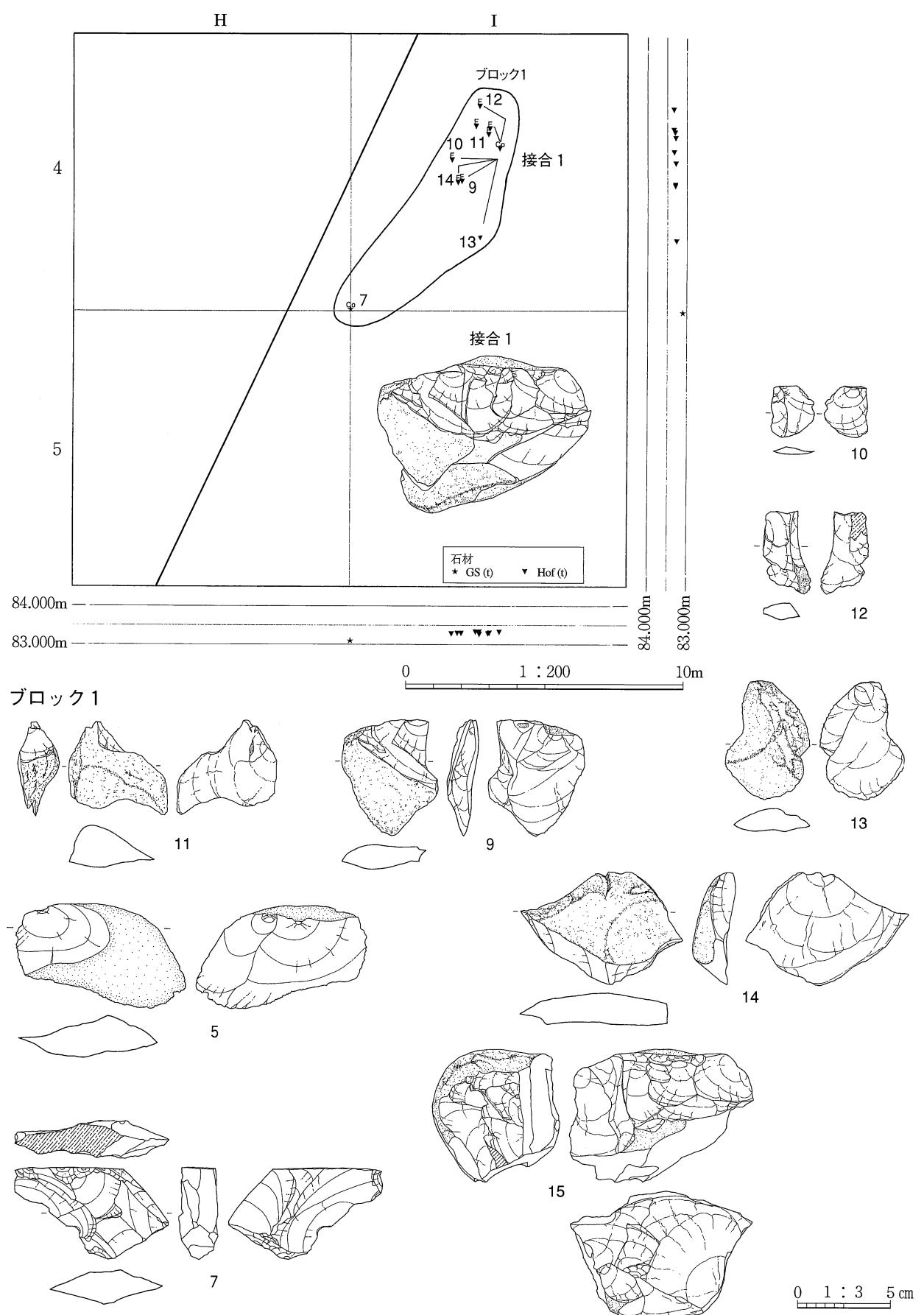
IX b層の下部より検出し、I4グリッド周辺に位置している。出土遺物は、石核2点、剥片8点で構成され、接合資料1を含む。接合資料は風化の著しいホルンフェルスで、他に緑色珪質頁岩の石核が土層確認用トレンチより出土している。

石器ブロック2 (第10図)

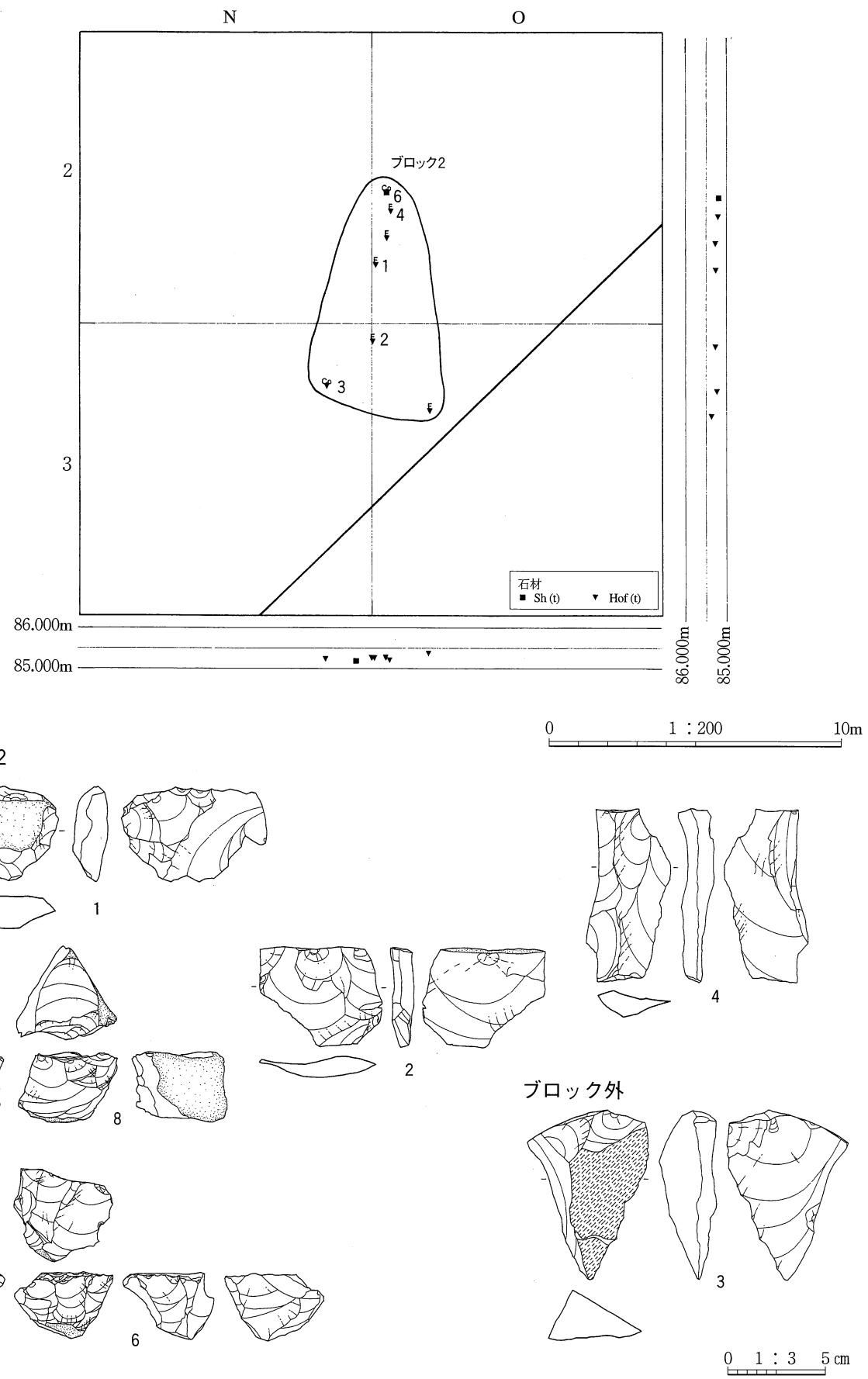
IX a層下部より検出し、O2グリッドからO3グリッドにかけて分布する。石核2点と二次加工剥片3点、剥片2点から構成され、石材は、ホルンフェルスと頁岩のみである。



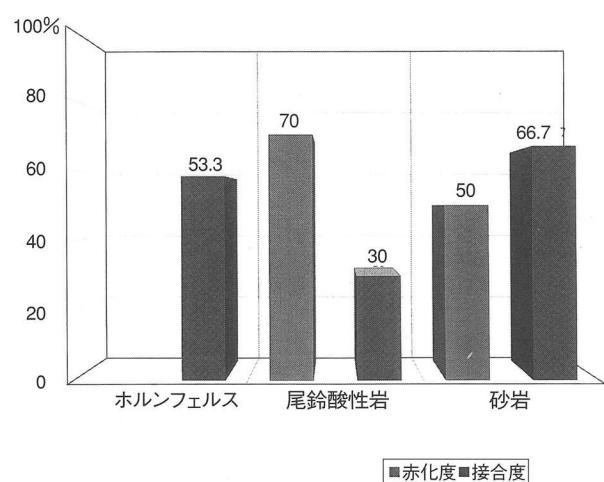
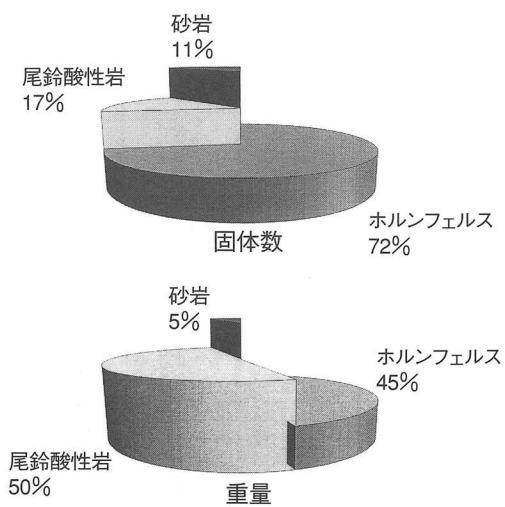
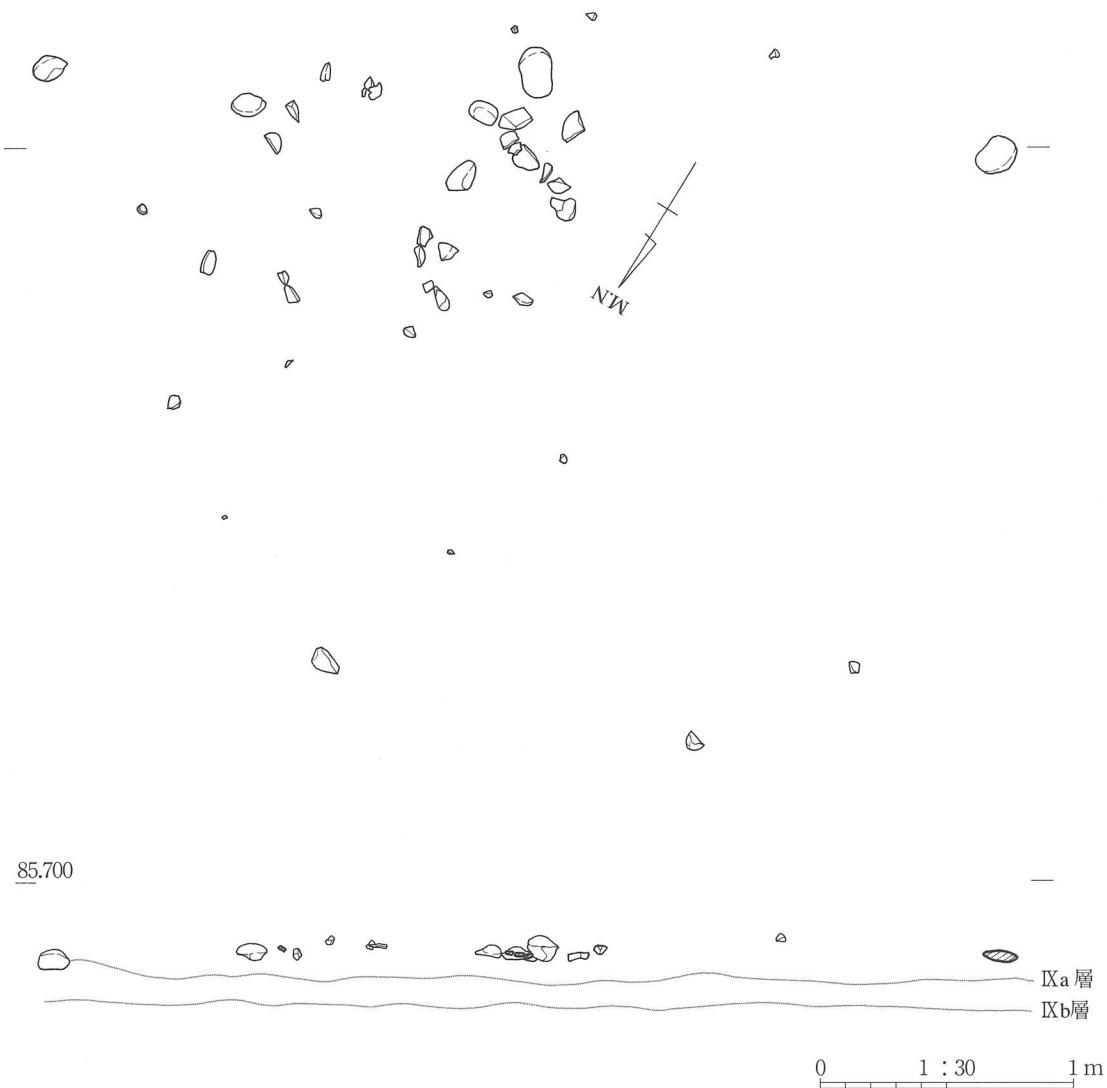
第8図 石器ブロック及び遺物分布図



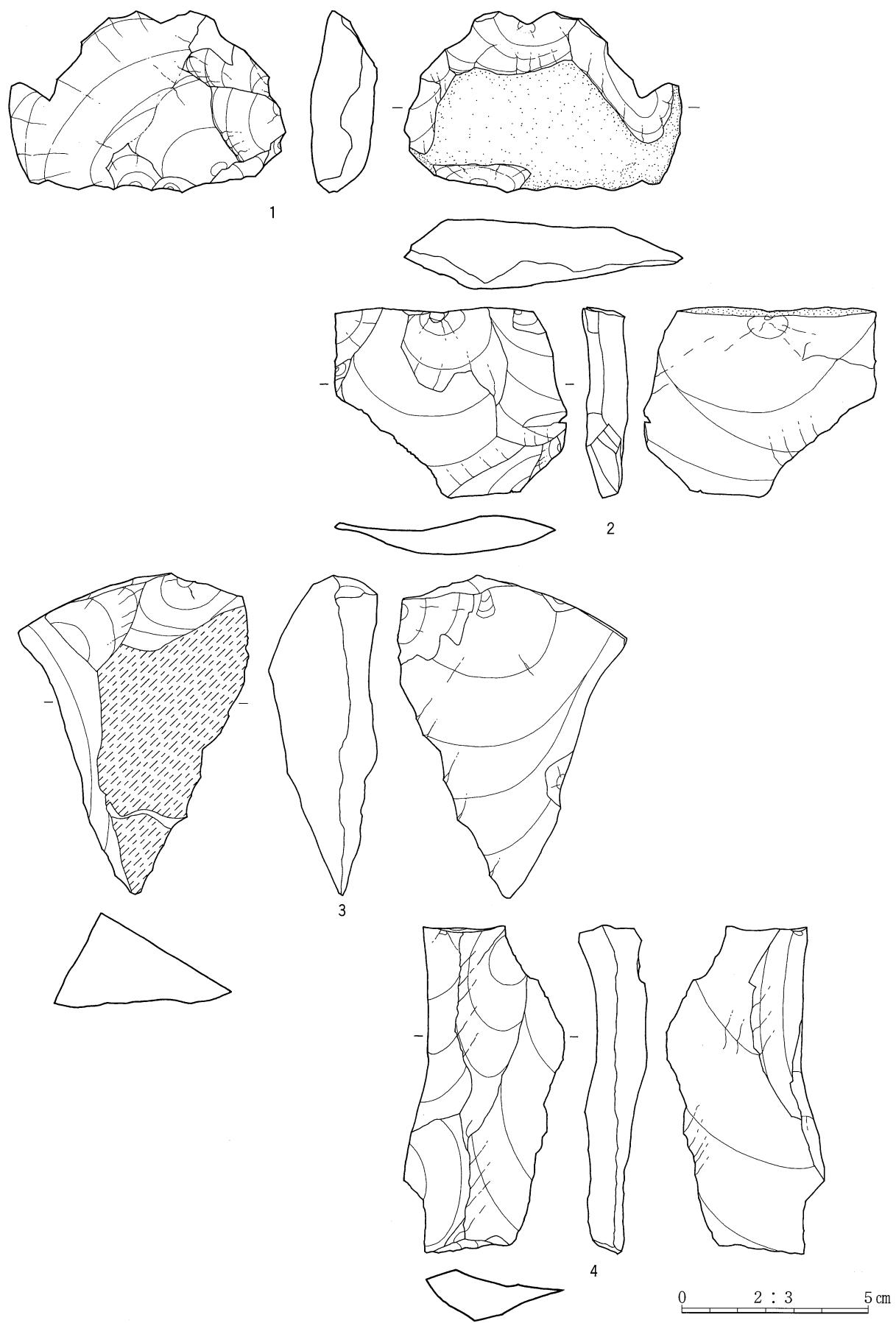
第9図 石器ブロック1分布図及び出土遺物



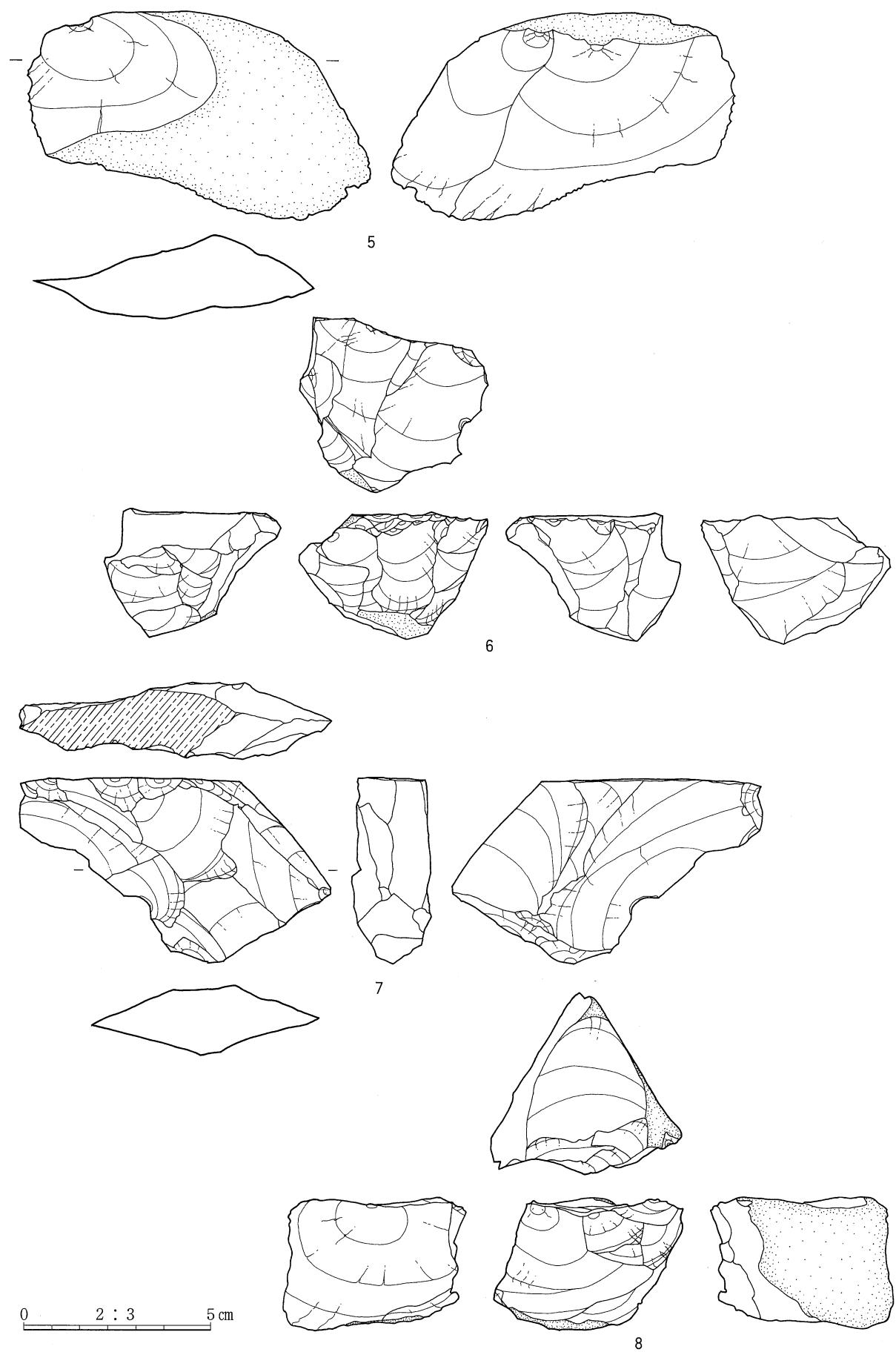
第10図 石器ブロック2分布図及び出土遺物



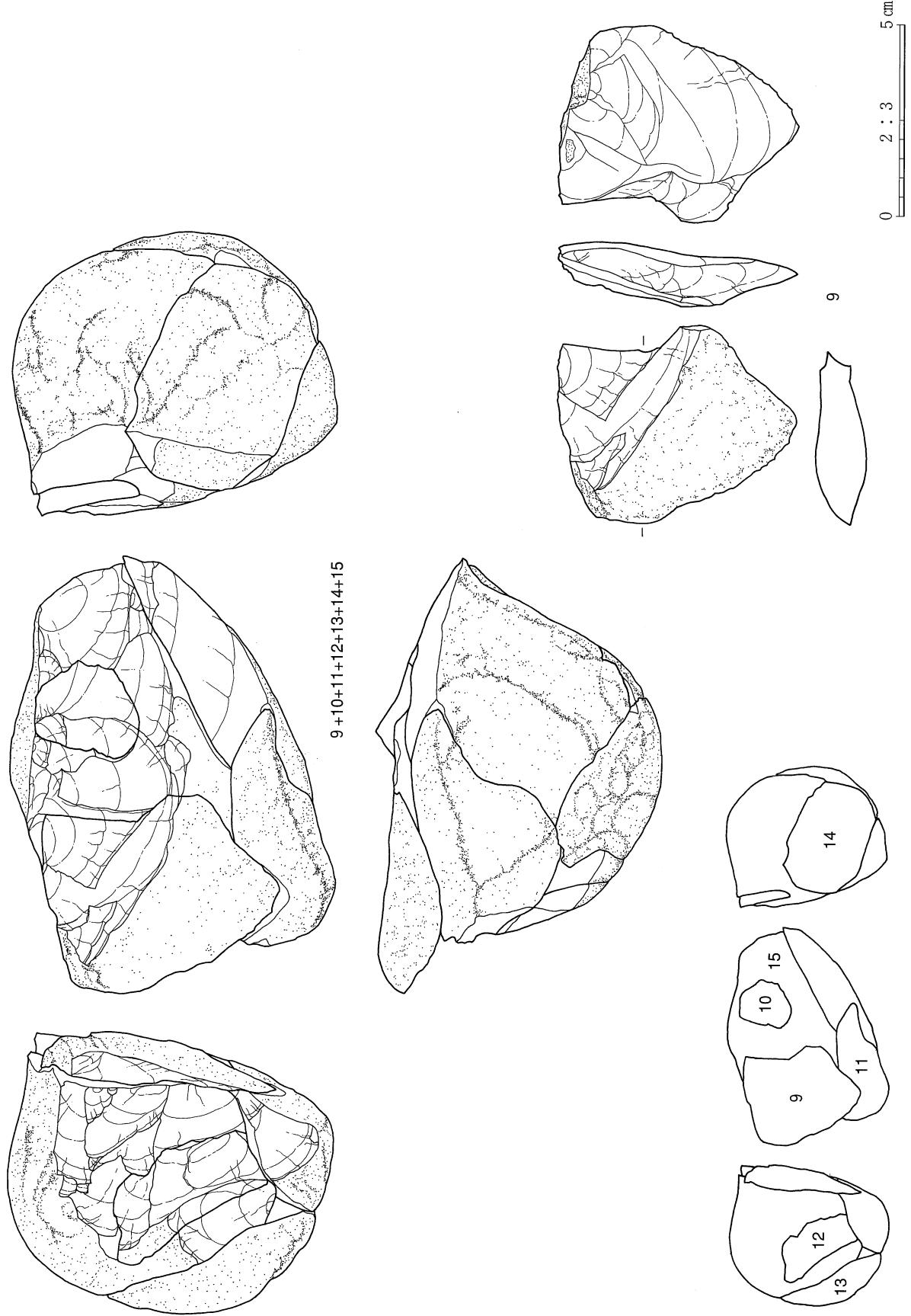
第11図 磯群1 実測図及び石材別グラフ



第12図 石器実測図(1)

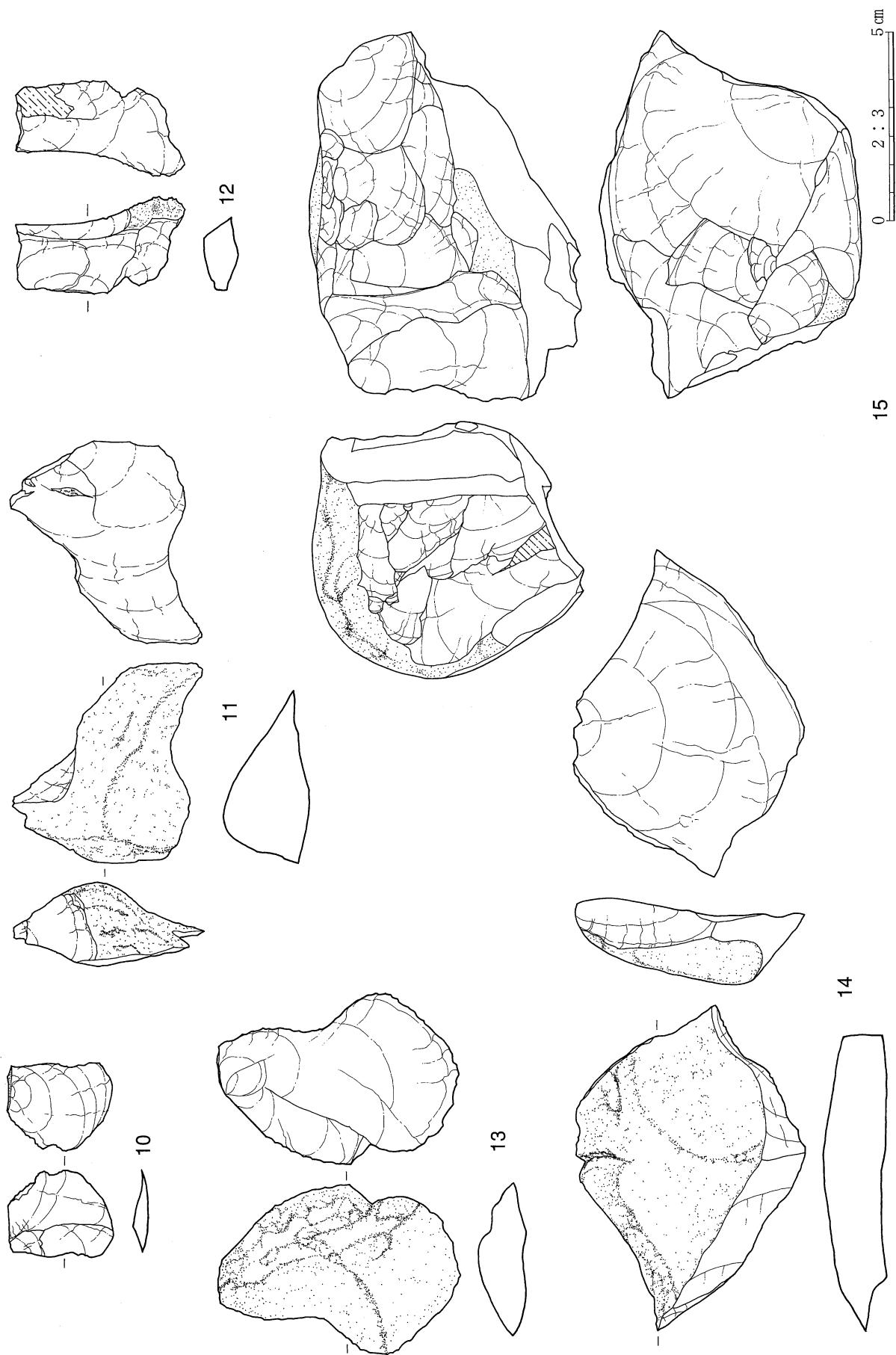


第13図 石器実測図(2)



第14図 接合資料実測図(1)

第15図 接合資料実測図(2)



礫群 1 (第11図)

礫群 1 はO3グリッド周辺のブロック 2 の南側に位置し、IX a 層中で検出した。径約4.0m×3.5mの範囲内に46点のホルンフェルスを中心とした礫と石器 1 点で構成されている。ホルンフェルスの個数が尾鈴山酸性岩の個数より圧倒的に多いが、重量は全体の半分以上を尾鈴山酸性岩で占められている。また、炭化物等は確認されていないが、尾鈴山酸性岩と砂岩で被熱による赤化現象が認められ、尾鈴山酸性岩には煤の付着も見られた。

(2) 遺物

第 I 文化層より出土した遺物は、ブロック 1 より 10 点である。ブロック 2 より 7 点、ブロック外より剥片 4 点が出土した。

二次加工剥片 (第12図 1, 3, 4)

1, 3, 4 はホルンフェルス製の二次加工剥片である。1 は主要剥離面の打瘤近くを剥離した後が認められる。更に裏面右側縁からの剥離を行っている。両面からの二次加工を施す。3 は裏面に僅かに二次加工を施している。3 は主要剥離面側の打瘤部分を平坦剥離により除去している。

剥片 (第12図 2, 第13図 5)

剥片は 2 点のみでそれぞれホルンフェルス製と頁岩製である。2, 5 は平坦な自然面を打面にして剥離された剥片であり、5 は幅広な剥片である。

石核 (第13図 6 ~ 8)

石核は頁岩、緑色桂質岩、ホルンフェルスがそれぞれ 1 点出土している。6 は上側面図の作業面を90度転移し、打面として剥片剥離作業を行っている角錐状の残核である。剥離した剥片は寸詰まりの縦長剥片である。7 は裏面図中央に主要剥離面を残し、表裏面を打面にして剥離が行われている。また、平坦な節理面を打面にした剥離が見られる。8 は原石の比較的平坦な自然面を打面にして剥片を剥離した後、主要剥離面を打面に転移させ、表皮を剥離している。更に、その打面を90度転移して剥離作業を行っている。

(3) 石材及び接合資料

ここで確認された石材は、頁岩 2 個体、緑色珪質頁岩 1 個体、母岩 1 のホルンフェルスを含む 6 個体あり、全体では 9 個体確認された。

ホルンフェルス

母岩 1

接合資料 1 の石材で他にブロック 1 より 1 点出土している。(図面未掲載) 磨面、剥離面の風化が著しく、粉を吹いたような状態である。全体が灰白色を呈している。

接合 1 (第14・15図)

石核である 15 に 6 点の剥片が接合している。自然面の平坦な表面上側から急角度で剥離作業を行い 10 を剥出している。その後打面を90度右に転移して、9, 11 を剥出している。その後更に、左に90度転移させ、13 を剥ぎ取った後に 12 を剥離している。最後に下側面の右下縁より幅広の剥片を剥出している。

第1表 石器ブロック別石器組成表(1)

	ナイフ形石器	角錐状石器	台形石器	剥片 尖頭器	スクレ イバー	2次加工 剥片	剥片	碎片	石核	礫器	敲石	磨石	台石	計
ブロック1							8		2					10
ブロック2						3	2		2					7
ブロック外							5							5
計	0	0	0	0	0	3	15	0	4	0	0	0	0	22

第2表 石材別石器組成表(1)

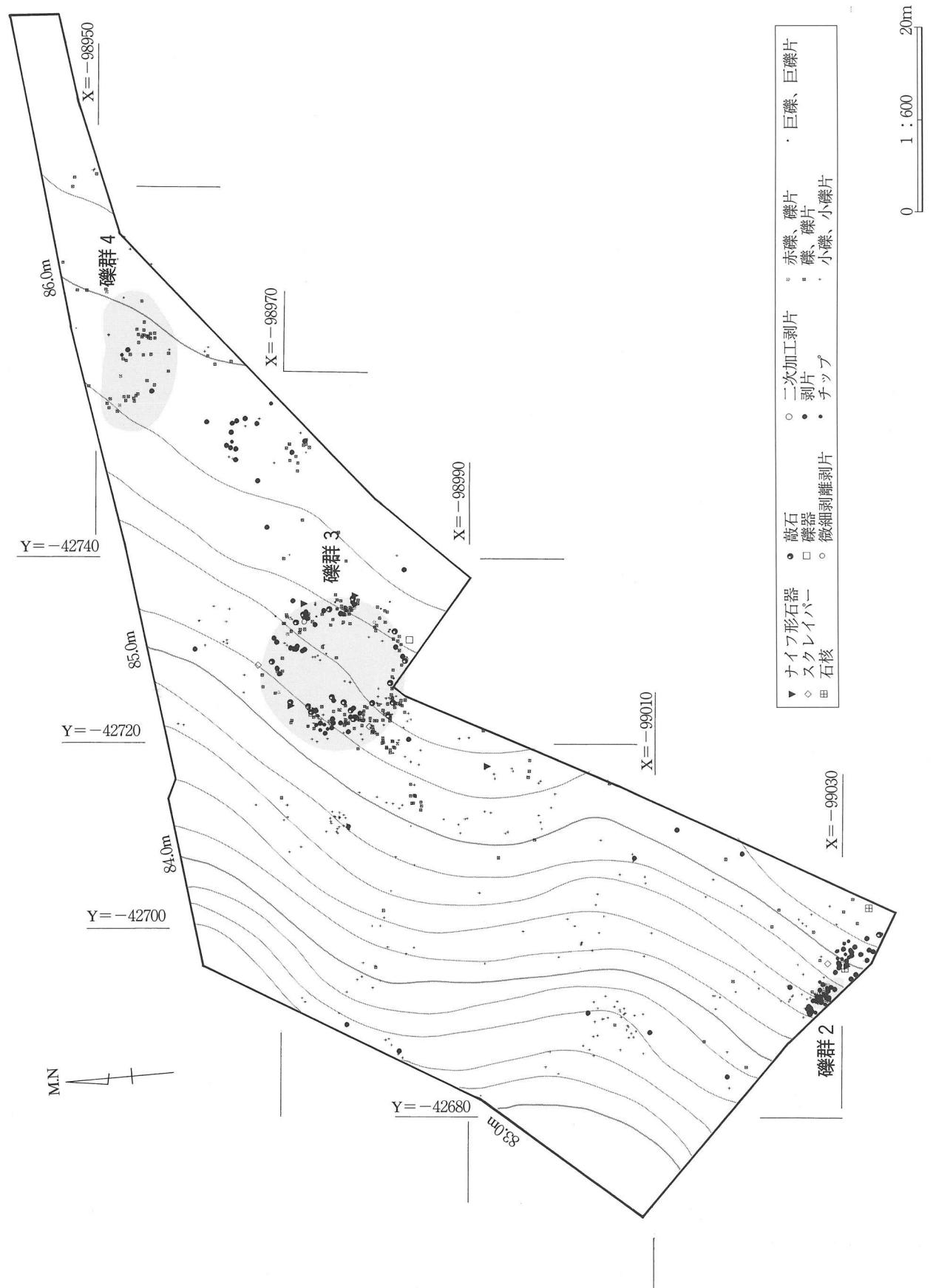
石器	ナイフ形石器	角錐状石器	台形石器	剥片 尖頭器	スクレ イバー	2次加工 剥片	剥片	碎片	石核	礫器	敲石	磨石	台石	計
頁岩									2					2
ホルンフェルス							18		2					20
砂岩														
チャート														
黒曜石														
計							18		4					22

第3表 石器計測表(1)

図面番号	注記番号	区	グリッド	層位	器種	石材	ブロック	母岩番号	接合資料	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	国土座標X座標	国土座標Y座標	レベル(m)
1	3704	D	O 2 d	IXa	F	Hol f	2			4.8	7.4	1.9	64.2	-98967.984	42750.129	85.262
2	3709	D	O 3 a	IXa	F	Hol f	2			5.2	6.2	1	34.5	-98970.605	42750.032	85.268
3	2967	A	I 5 a	IXa	F	Hol f				8	6	2.9	104	-98990.919	42691.413	83.360
4	3761	D	O 2 d	IXa	F	Hol f	2			8.9	4.3	1.8	46.1	-98966.153	42750.653	85.208
5	3188	A	I 3 d	IX b	F	Hol f	1			5.5	9.1	2.3	94.1	-98976.813	42692.490	83.284
6	3765	D	O 2 d	IXa	Co	S h	2			3.45	5	4.7	60.8	-98965.500	42750.500	85.188
7	C T	A	I 4 a	IX b	Co	G. S h	1			5	8.3	2.1	71.4	-98979.970	42690.000	83.100
8	3708	D	N 3 d	IXa	Co	Hol f	2			3.5	5.1	4.9	81.3	-98972.123	42748.445	85.236
9	3182	A	I 3 d	IX b	F	Hol f	1	1	1	6.25	5.2	1.8	39.9	-98977.657	42692.010	83.295
10	3183	A	I 3 d	IX b	F	Hol f	1	1	1	2.8	2.4	0.6	3.5	-98977.272	42691.834	83.283
11	3189	A	I 3 d	IX b	F	Hol f	1	1	1	5.1	5.4	2.3	41.1	-98976.711	42692.514	83.300
12	3191	A	I 3 d	IX b	F	Hol f	1	1	1	4.5	2.6	0.9	10.2	-98976.302	42692.333	83.332
13	3237	A	I 3 d	IX b	F	Hol f	1	1	1	6.4	4.65	1.45	30.6	-98978.672	42692.336	83.268
14	3181	A	I 3 d	IX b	F	Hol f	1	1	1	6.7	8.8	2.4	94.7	-98977.678	42691.942	83.296
15	3187	A	I 3 d	IX b	Co	Hol f	1	1	1	7.2	9.9	6.9	517.8	-98977.070	42692.692	83.325
3227	A	I 5 c	IXa	F	Hol f									-98997.055	42696.443	83.568
3273	A	M 3 d	IXa	F	Hol f					2.6	1.5	0.5	1.5	-98975.650	42732.566	84.983
3278	A	M 3 d	IXa	F	Hol f					3.8	2.6	0.5	3	-98976.272	42731.009	84.947
3642	D	Q 0 c	IXa	F	Hol f					11.8	4	4.5	290.7	-98948.000	42778.370	85.676
3705	D	O 2 d	IXa	F	Hol f	2				4.9	6.5	1.6	34.8	-98967.065	42750.512	85.270
3754	D	O 3 a	IXa	F	Hol f	2				3.8	6.3	1.8	28.1	-98972.975	42751.992	85.367

(4) 小結

第I文化層では、出土した遺物の周辺のみをトレンチ状に確認したに留まっているため、本遺跡での全体の様相を伺い知ることはできない。また、第I文化層では、IXa層とIXb層の二層にかけて出土しているが、文化層を2層にするには資料に乏しいため、あえて同一層とした。テフラ分析の結果、第I文化層の上下層には霧島アワオコシスコリアに由来するテフラと姶良・大塚に由来する可能性があるテフラが確認されている。このことから少なくとも、両テフラ間にある第I文化層はKr-Awより上位で、A-Otより下位にある可能性がある。石器石材としての利用はホルンフェルスが主体であり、他の石材については豊富ではない。また礫・礫片については、頁岩起源のホルンフェルスが多くみられ、尾鈴山酸性岩もみられる。



第16図 VIII層遺構及び遺物分布図

2 第II文化層 -MB2-

第2文化層では、AT火山灰層直下の約10cm下部より7基の石器ブロックと礫群3基を検出し、VII層下部より礫群1基を検出した。出土遺物総数は、181点であり、VII層下部からの遺物は破損した敲石1点のみである。出土遺物の内訳は以下の表の通りである。

第4表 石材別石器組成表(2)

	ナイフ形石器	スクレイパー	2次加工剥片	石核	礫器	剥片	碎片	敲石	台石	合計
頁岩	4	1	3	3	1	87	26			125
流紋岩	2									2
ホルンフェルス	2					19	1	1		23
砂岩		1				3		19	1	24
黒曜石		1				2				3
チャート						3	1			4
計	8	3	3	3	1	114	28	20	1	181

(1) 遺構

石器ブロック

石器ブロック外（第17図）

石器ブロック外には22点の出土遺物が認められ、ナイフ形石器1点、剥片、敲石2点、台石1点

石器ブロック3（第18図）

VII層(MB2)の直上で検出し、A区南西壁際よりに分布し、調査区外に延びる。出土遺物は32点で構成され、その内訳はナイフ形石器1点、二次加工剥片1点、剥片22点、碎片8点で、接合資料1点が含まれる。構成石材はすべて頁岩である。また、礫群2も石器ブロック3に含まれる。

石器ブロック4（第18図）

石器ブロック4は、VII層確認トレンチ中に確認された所で、石器ブロック3の北東に隣接し、VII層(MB2)直上で検出される。石器ブロック3同様に調査区外に延びる。出土遺物は31点で構成され、その内訳は、ナイフ形石器1点、スクレイパー1点、石核1点、敲石1点、剥片18点、碎片9点で、接合資料1点が含まれる。構成石材の多くは頁岩が中心で、チャートと砂岩が含まれる。

石器ブロック5（第19図）

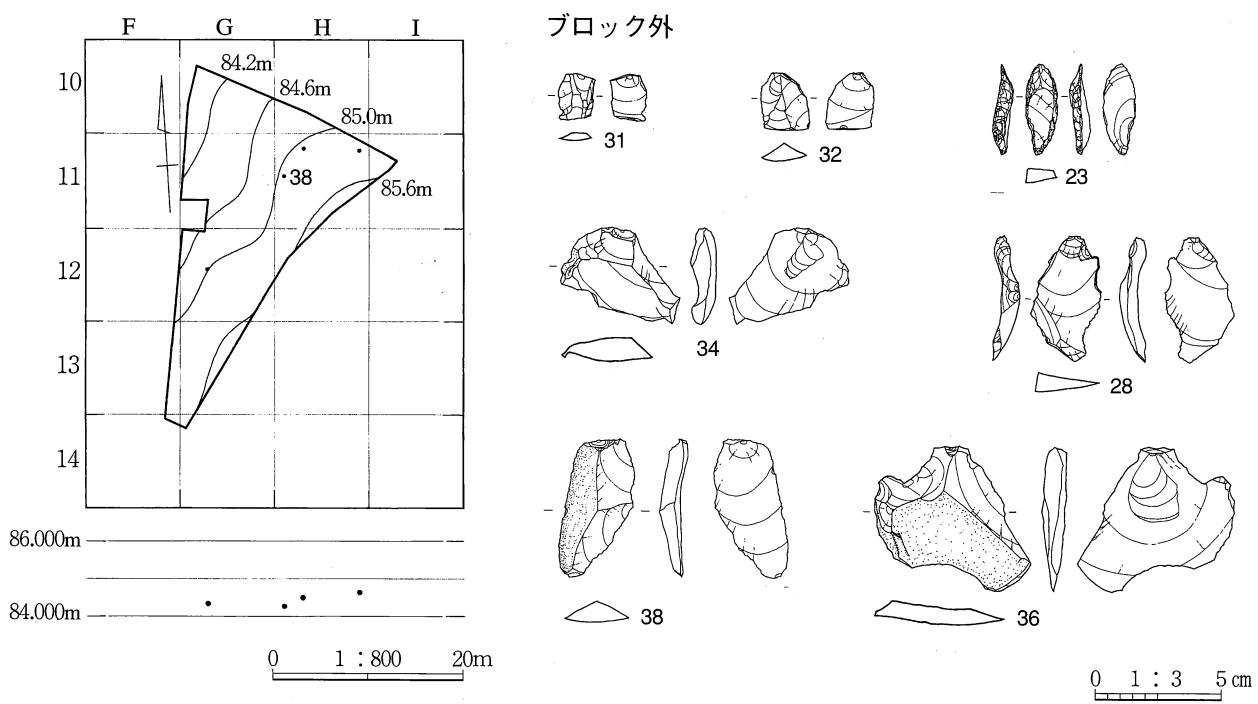
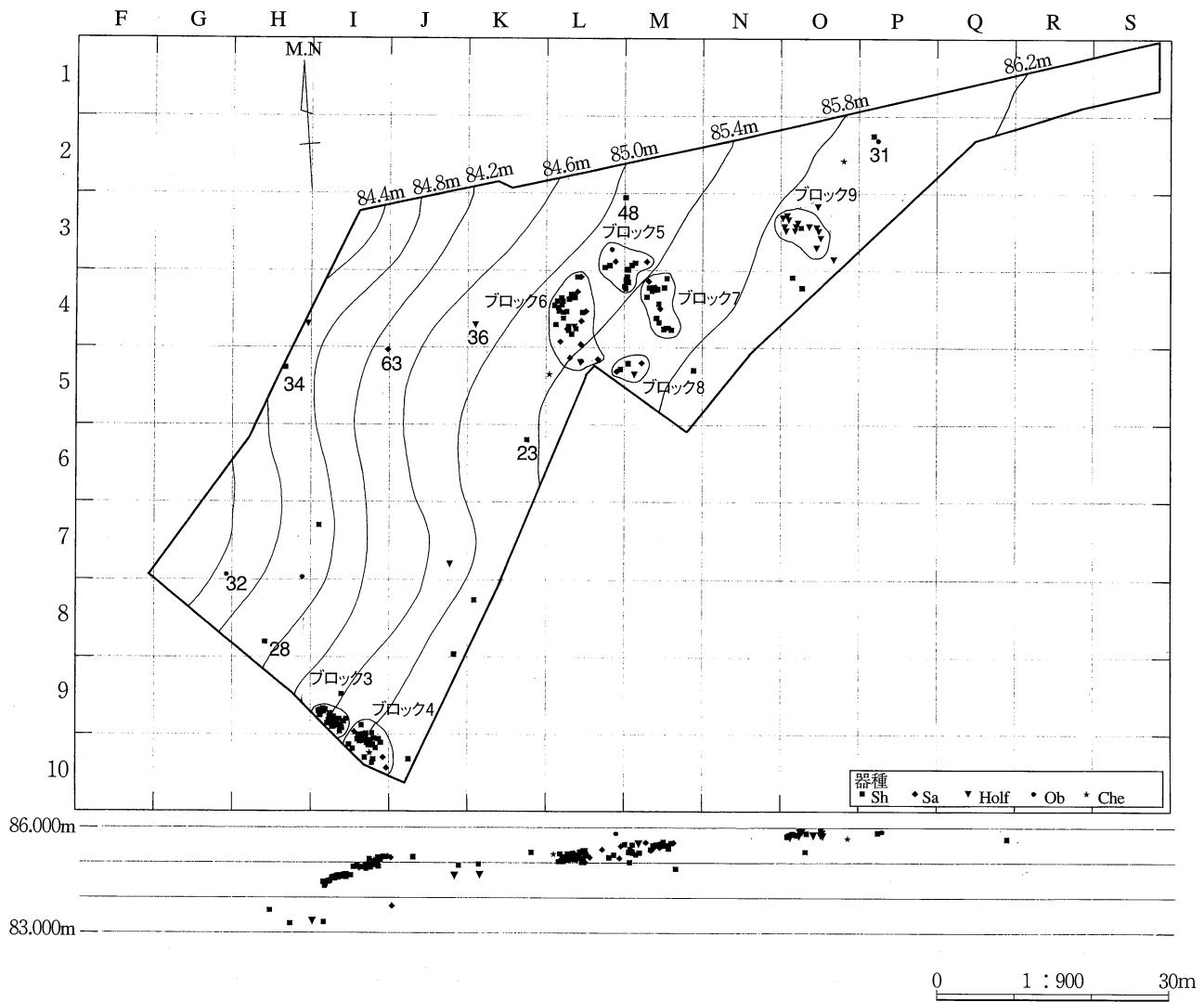
石器ブロック5はM3グリッド中心に分布し、出土遺物12点で構成される。その内訳は搔器（ラウンドスクレイパー）1点、敲石1点、剥片10点で接合資料1点を含む。搔器（ラウンドスクレイパー）が黒曜石、敲石が砂岩で剥片はすべて頁岩である。

石器ブロック6（第19図）

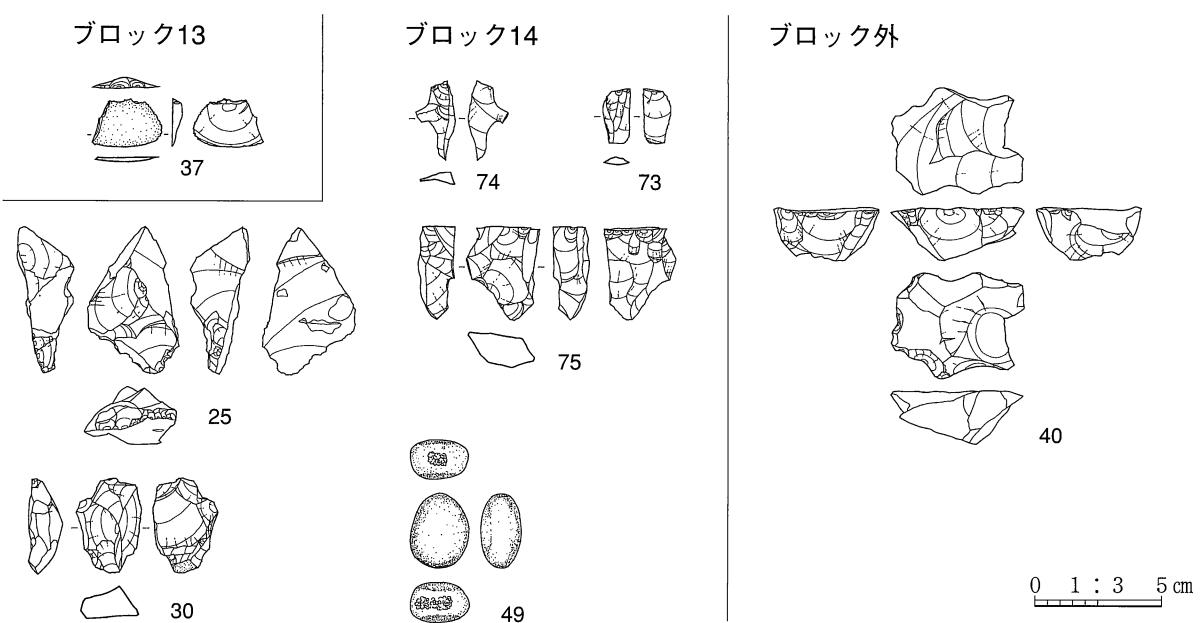
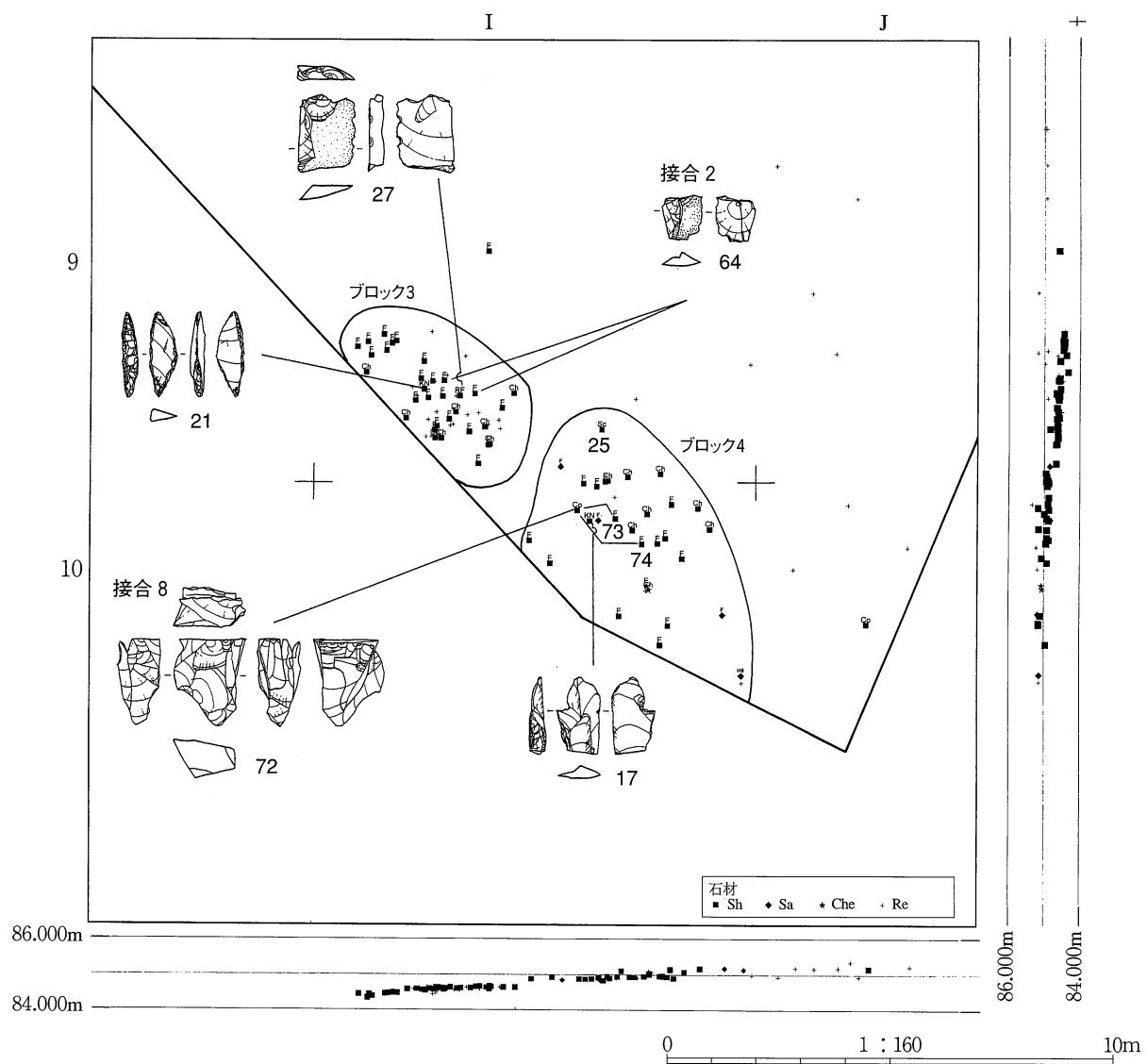
石器ブロック6はM3グリッドの南西側に分布し、出土遺物36点と多数の礫で構成されており、礫群3の中心である。出土遺物の内訳は、ナイフ形石器2点、搔器（エンドスクレイパー）1点、石核1点、敲石11点、剥片14点、碎片7点で、接合資料2点を含む。敲石の多さが目立つ。石材は頁岩23点、砂岩11点、ホルンフェルス2点で構成される。

石器ブロック7（第19図）

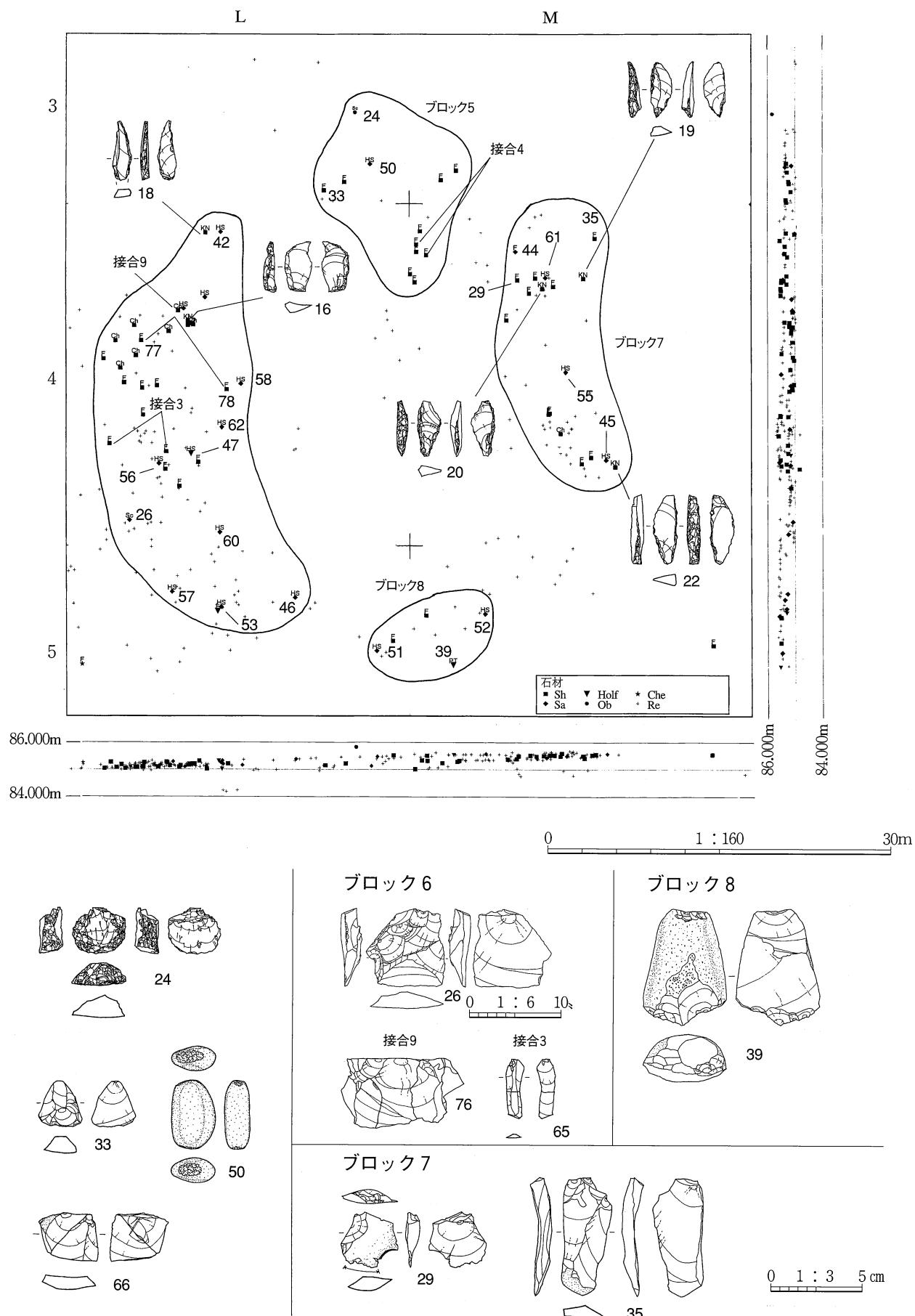
石器ブロック7はM3グリッドの北東側に分布し、出土遺物20点で構成され周囲に礫が点在している。



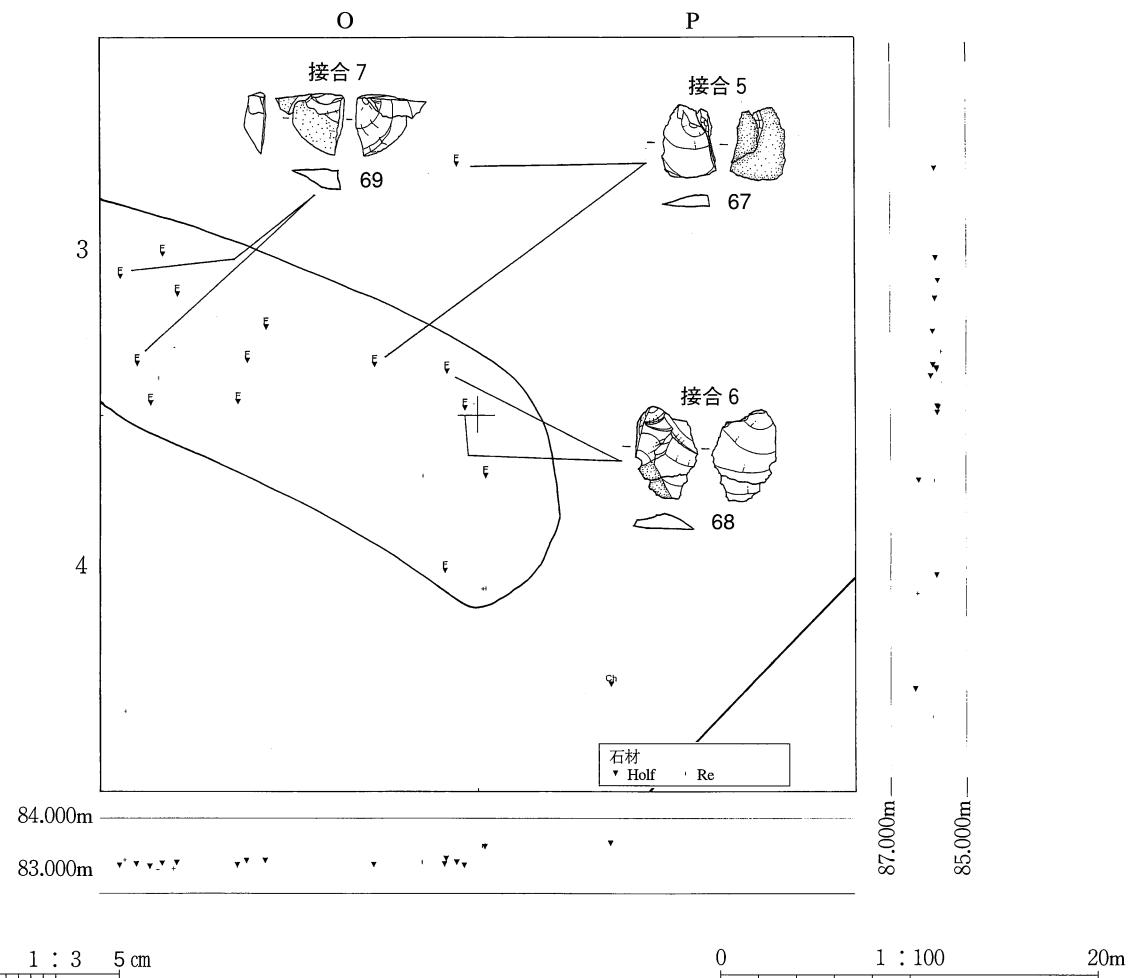
第17図 石器ブロック分布図及び石器ブロック外出土遺物



第18図 石器ブロック3・4分布図及び出土遺物



第19図 石器ブロック5～8分布図及び出土遺物



第20図 石器ブロック9分布図及び出土遺物

第5表 石器ブロック別石器組成表(2)

器種 ブロック	ナイフ 形石器	スクレ イバー	二次加工 剥 片	石核	礫 器	敲 石	碎 片	剥 片	台 石	合 計
ブロック3	1		1				8	22		32
ブロック4	1	1		1		1	9	18		31
ブロック5		1				1		10		12
ブロック6	2	1		1		11	7	14		36
ブロック7	3					4	2	11		20
ブロック8					1	2		2		5
ブロック9								13		13
ブロック外	1			1		1	2	26	1	32
合計	8	3	1	3	1	20	28	116	1	181

第6表 石器ブロック別石材組成表(1)

石材 ブロック	頁 岩	流紋岩	ホルン フェルス	黒曜石	チャート	砂 岩	その他	合 計
ブロック3	31	1						32
ブロック4	25				2	4		31
ブロック5	10			1		1		12
ブロック6	22		3			11		36
ブロック7	13		3			4		20
ブロック8	2		1			2		5
ブロック9			13					13
ブロック外	21	1	4	2	2	2		32
合 計								181

出土遺物の内訳は、ナイフ形石器3点、剥片11点、碎片2点、敲石4点で構成される。石材は頁岩13点、砂岩4点、ホルンフェルス2点である。

石器ブロック8（第19図）

石器ブロック8はM4グリッドの南側に分布し、出土遺物は5点で構成され、その内訳は剥片2点、礫器1点、敲石2点である。石材は頁岩2点、砂岩2点、ホルンフェルス1点で構成される。

石器ブロック9（第20図）

石器ブロック9はO2グリッドからP3グリッドに分布し、出土遺物は13点で、その内訳はすべて剥片で構成される。構成石材はホルンフェルスのみである。

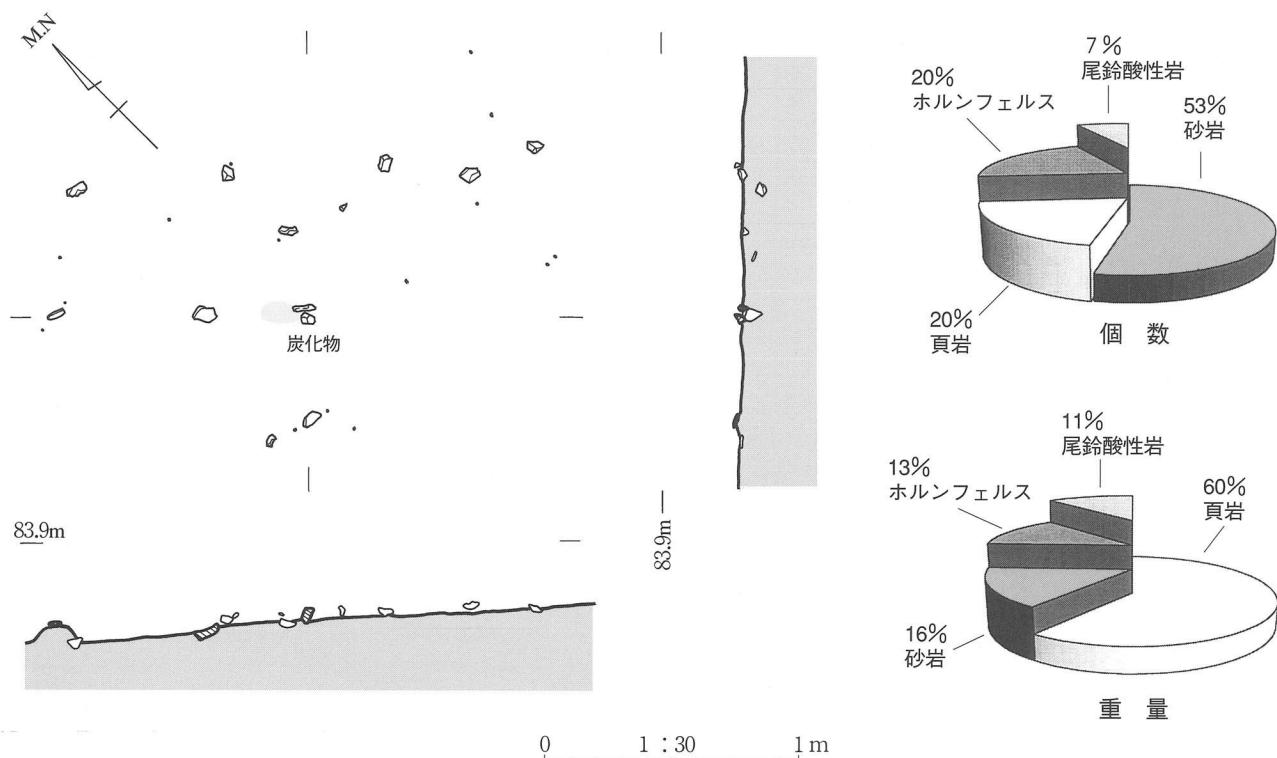
礫群

礫群2（第21図）

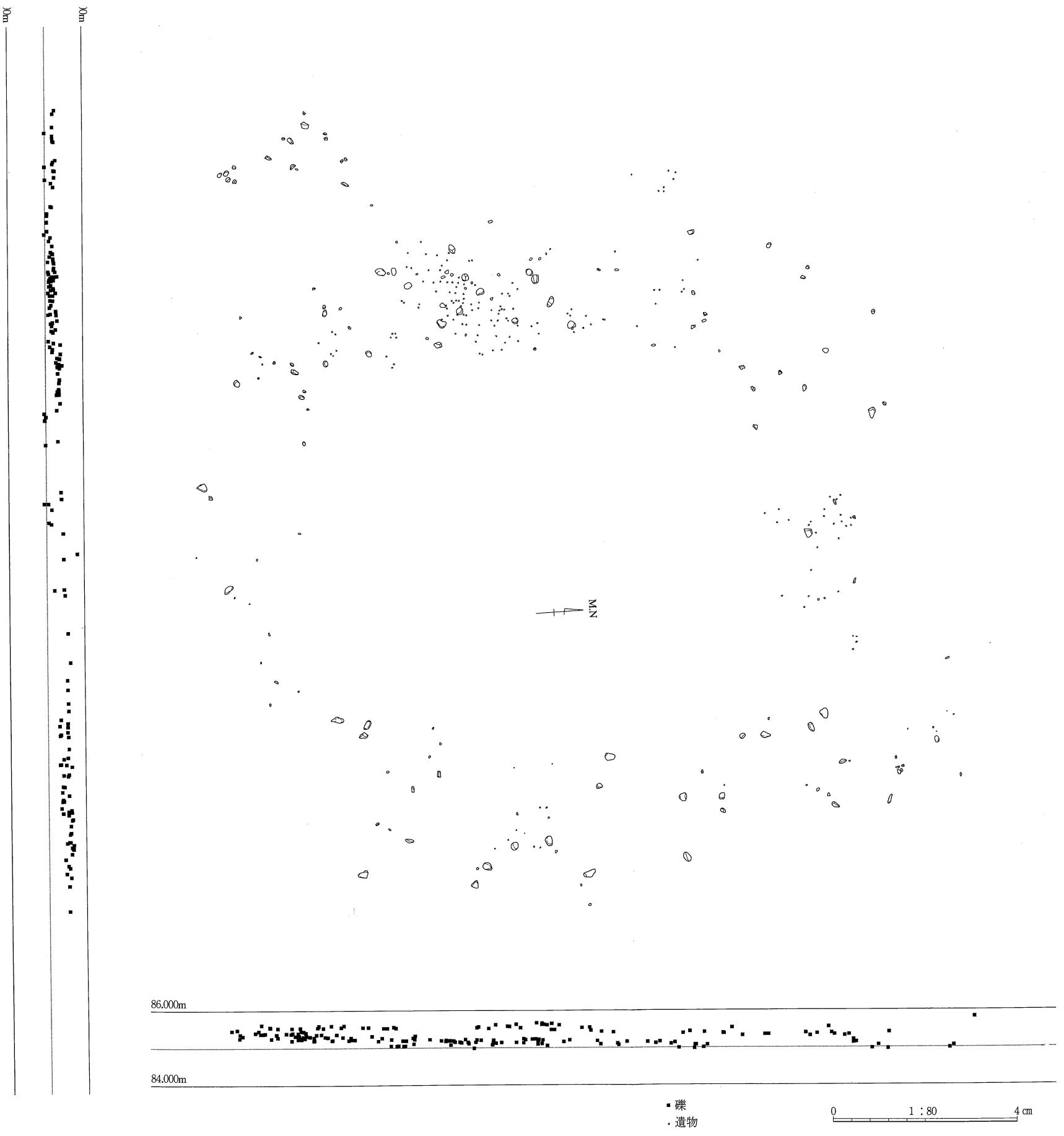
礫群2はA区の南西壁際で検出される。ブロック3の中の礫群である。石器14点、礫15点の29点から構成される。石器の内訳はナイフ形石器1点、2次加工剥片1点、剥片5点、チップ7点である。石器の石材はすべて頁岩である。礫の石材は頁岩、砂岩、尾鈴山酸性岩、ホルンフェルスであり、礫・石器の総重量は1950gである。石器の接合は見られないが、砂岩礫が2点と3点それぞれ接合している。受熱し赤化しているものは砂岩が多く、うち1点は煤の付着が見られ、炭化物も確認された。

礫群3（第22図）

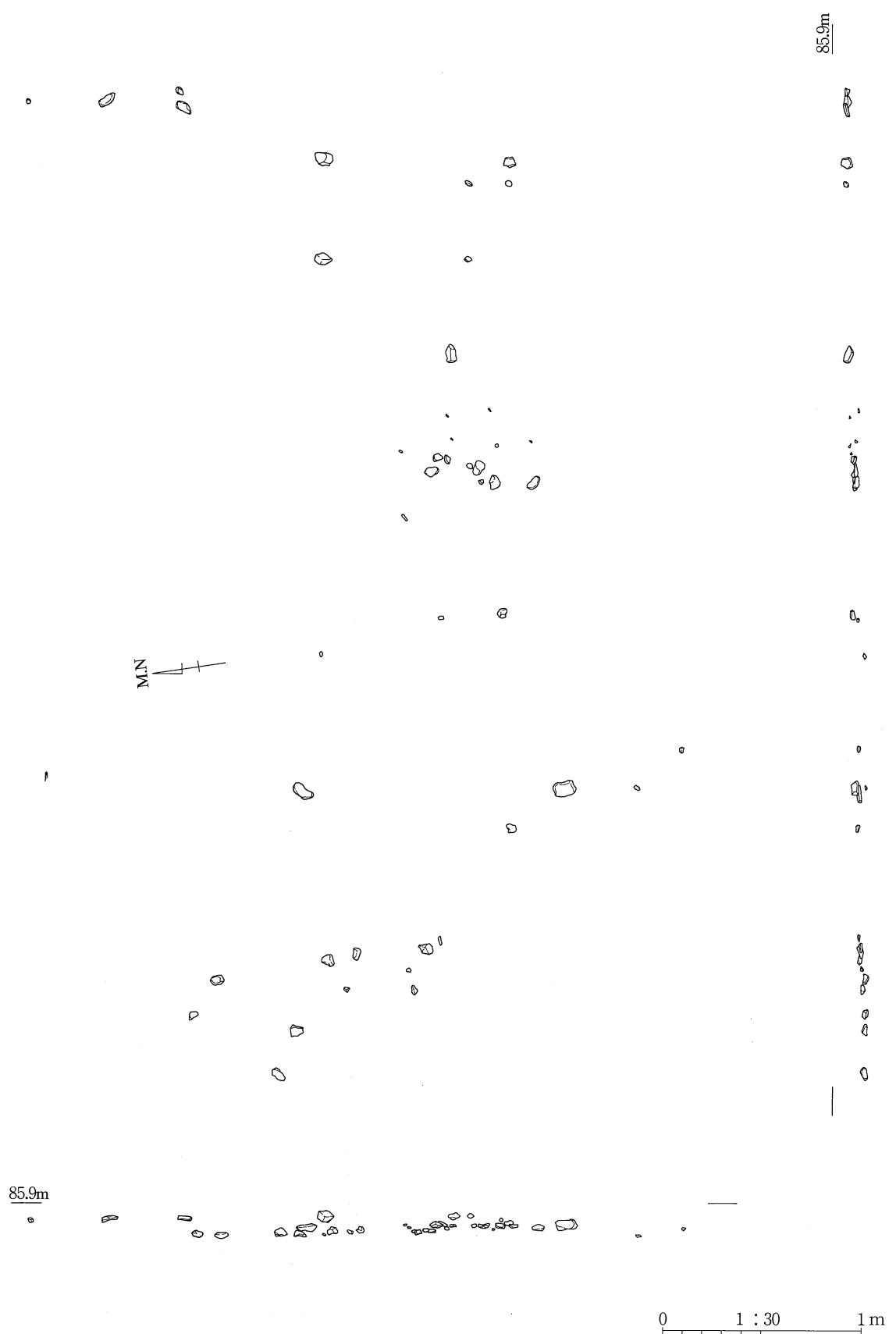
VII層上部で検出した。L3グリッドからN4グリッドにかけての広い範囲に分布しており、環状をなしている。石器78点、礫（小礫片含む）250点が出土した。ブロック5～ブロック8の石器はこの礫群3に含まれる。内訳は、ナイフ形石器5点、スクレイパー2点、剥片41点、石核1点、敲石19点、礫器1



第21図 磕群2実測図及び石材別グラフ



第22図 磯群3実測図



第23図 磯群4 実測図

点、碎片 9 点である。礫では、個体数、重量数とも尾鈴山酸性岩が多く、L4グリッド周辺に炭化物の集中がみられ、受熱による赤化した尾鈴山酸性岩が認められた。ホルンフェルスについては個数は少ないものの、重量の大きいものが見られる。

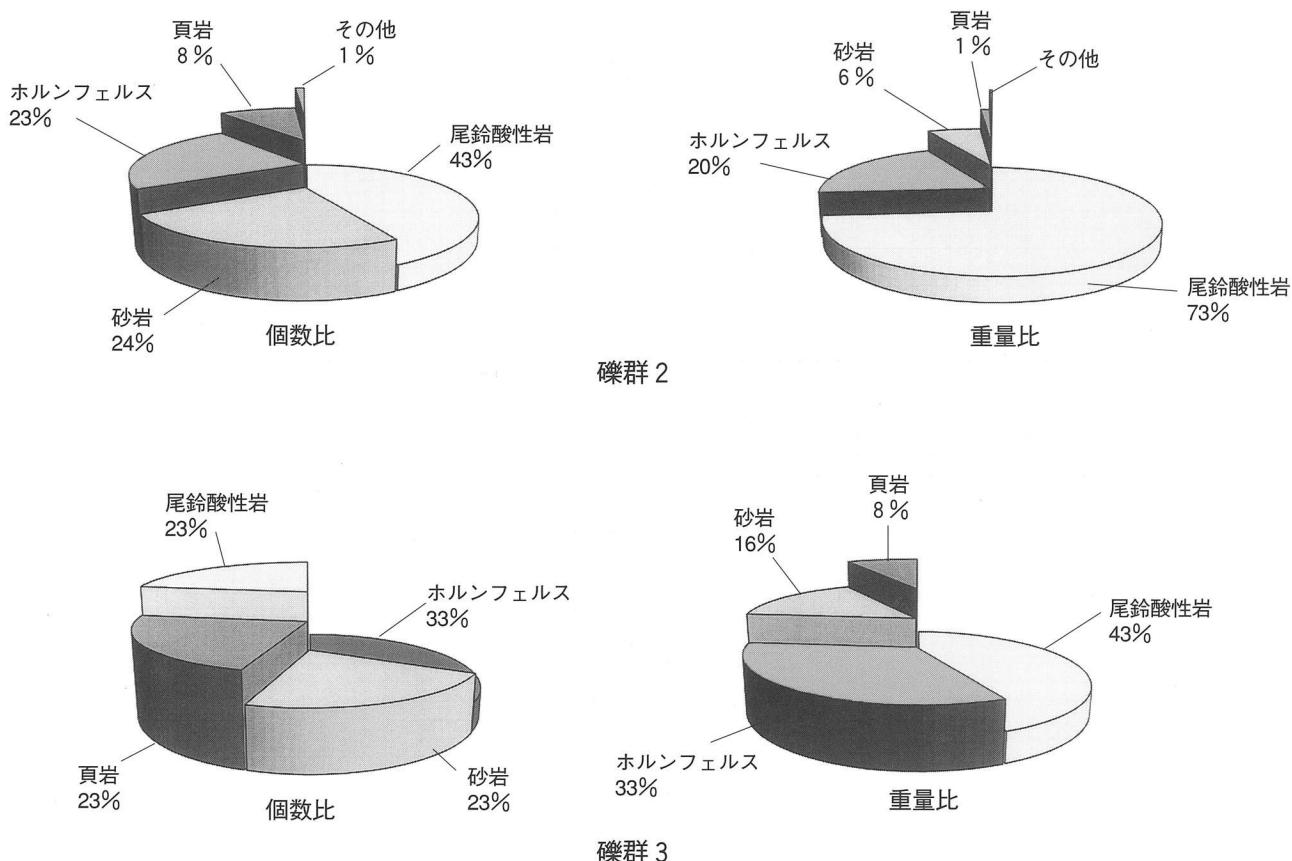
礫群 4 (第23図)

礫群 4 はⅧ層下部で検出された。O1グリッドからP1グリッドにかけて分布している。P1グリッド周辺にやや密にあるものの全体的には散漫である。炭化物等も検出されなかったが、尾鈴山酸性岩に受熱による赤化現象が見られた。ここでの礫個体数では石材利用に突出したものがなく、ほとどの石材も均等に使われている。しかし、個体数と重量を比較すると尾鈴山酸性岩の占める割合が大きい。

この礫群では石器はほとんど確認されていないが、敲石（第28図59）とみられる石器が礫を加撃した衝撃で剥離崩壊したと思われる扁平円礫が 1 点確認されている。

第7表 矿群別個数・重量表

	Ⅷ層全体			礫群 2			礫群 3			礫群 4		
	全個数 (点)	全重量 (g)	平均 (g)	個数 (点)	重量 (g)	平均 (g)	個数 (点)	重量 (g)	平均 (g)	個数 (点)	重量 (g)	平均 (g)
尾鈴山酸性岩	109	164800.3	1511.9	1	162	162	91	136388.3	1498.8	9	22537.3	2504.1
ホルンフェルス	99	63846.9	644.9	3	191.4	63.8	50	36674.4	733.5	13	17333.6	1333.4
頁岩	53	6864.2	129.5	3	864	288	18	1815	100.8	9	4103.5	455.9
砂岩	114	22358.2	196.1	8	227	28.4	52	11036.2	212.2	9	8485.8	942.9
他	2	522.3	261.2				2	522.3	261.2			



第24図 石材別グラフ

(2) 遺物

ナイフ形石器（第25図 16～23）

ナイフ形石器は8点出土しており、23以外はいずれも石器ブロック内出土である。すべて長さが4cm内に収まる小型のナイフ形石器である。16～18は一側縁加工で16は打瘤部分が残されている。18は僅かに基部加工がなされている。19～23は二側縁加工のナイフ形石器である。19～21は対向調整加工が施されている。21の刃部には使用痕の刃こぼれが認められる。20・22は先端部が欠損している。23の二側縁加工は基部から先端部まで加工が認められる。石材は頁岩製が4点、流紋岩2点、うち1点は風化している。ホルンフェルスが2点である。

スクレイパー（第25図 24～26）

スクレイパーは3点出土した。24は黒曜石製でラウンドスクレイパーである。片面調整で打面部を除去した部分以外はすべて裏面からの調整が施してある。25は頁岩製のスクレイパーで左側縁から右側縁にかけて調整が施してある。26は砂岩製のスクレイパーで幅広の剥片を素材にしており、左側縁上部に僅かな調整を施した直刃的な刃部を形成している。

二次加工剥片（第26図 27～28）

27は打面に加擊し、打面除去を試みるが、僅かに残る。右側縁に二次加工を施す。28は左側縁に二次加工を施す。

剥片（第26図 29～38）

29・37は複剥離打面、それ以外は単剥離打面である。37は打面調整剥片か。

礫器（第27図 39）

長楕円の礫に裏面から剥離し、下縁に両面からの刃部を調整している。

石核（第27図 40）

40は主要剥離面を作業面に転移し、左右縁に剥離を行っている。

敲石・磨石・台石（第27・28・29図 41～63）

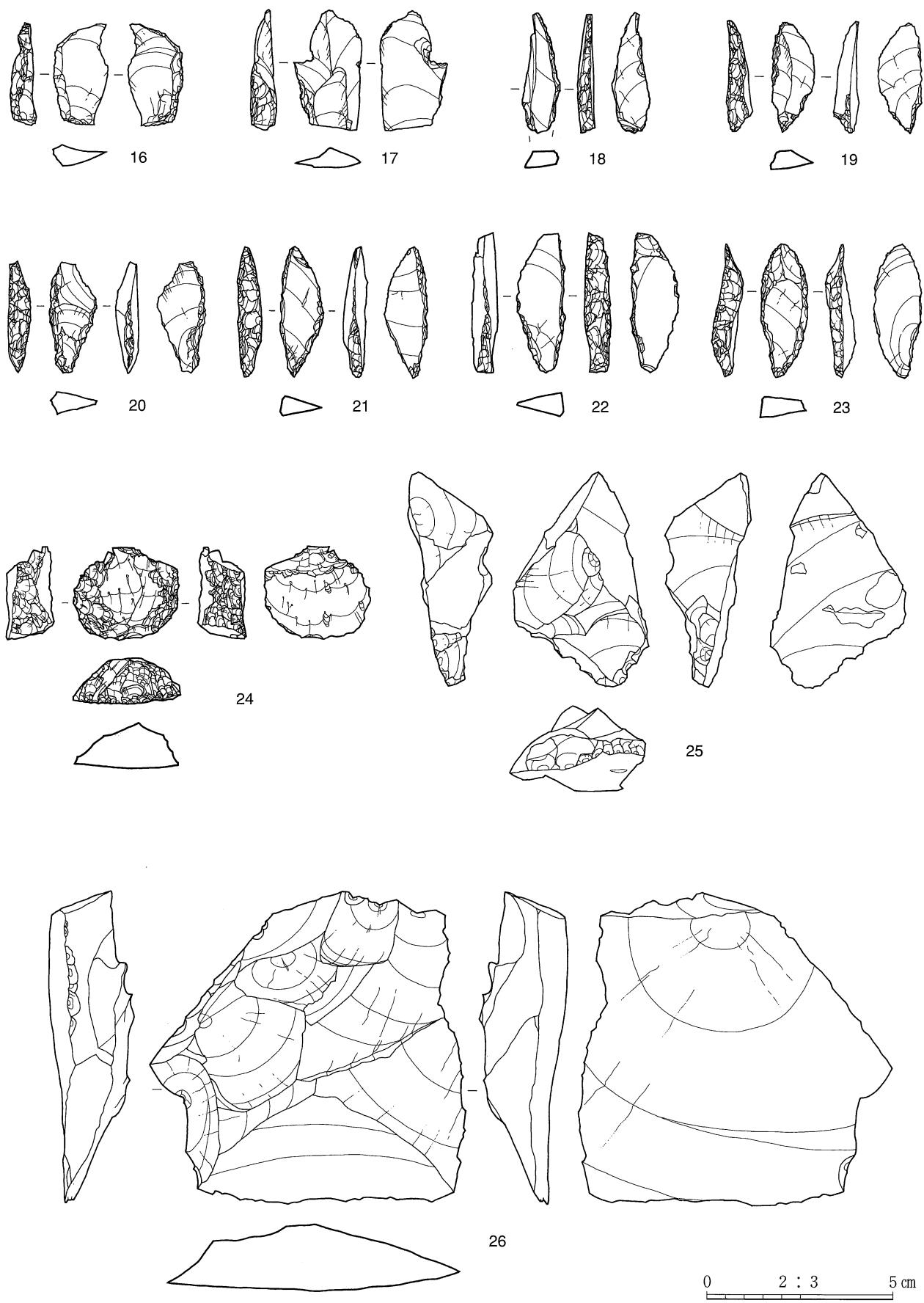
49～59までが敲石である。拳大からやや小さめの楕円と長楕円のものがみられる。60～61が敲石にやや磨面がみられる。45・47・48・57・58は敲打痕が弱い。55は砂岩製であるが、風化が著しく、崩壊状態で確認された。59は礫群3から確認された敲石で強い加撃により剥離したものである。60・61は敲石に磨面が見られる。62は片面と側面に磨面が見られる。63は台石で表面中心付近に窪みが認められる。

(3) 石材及び接合資料（第29・30図 64～79）

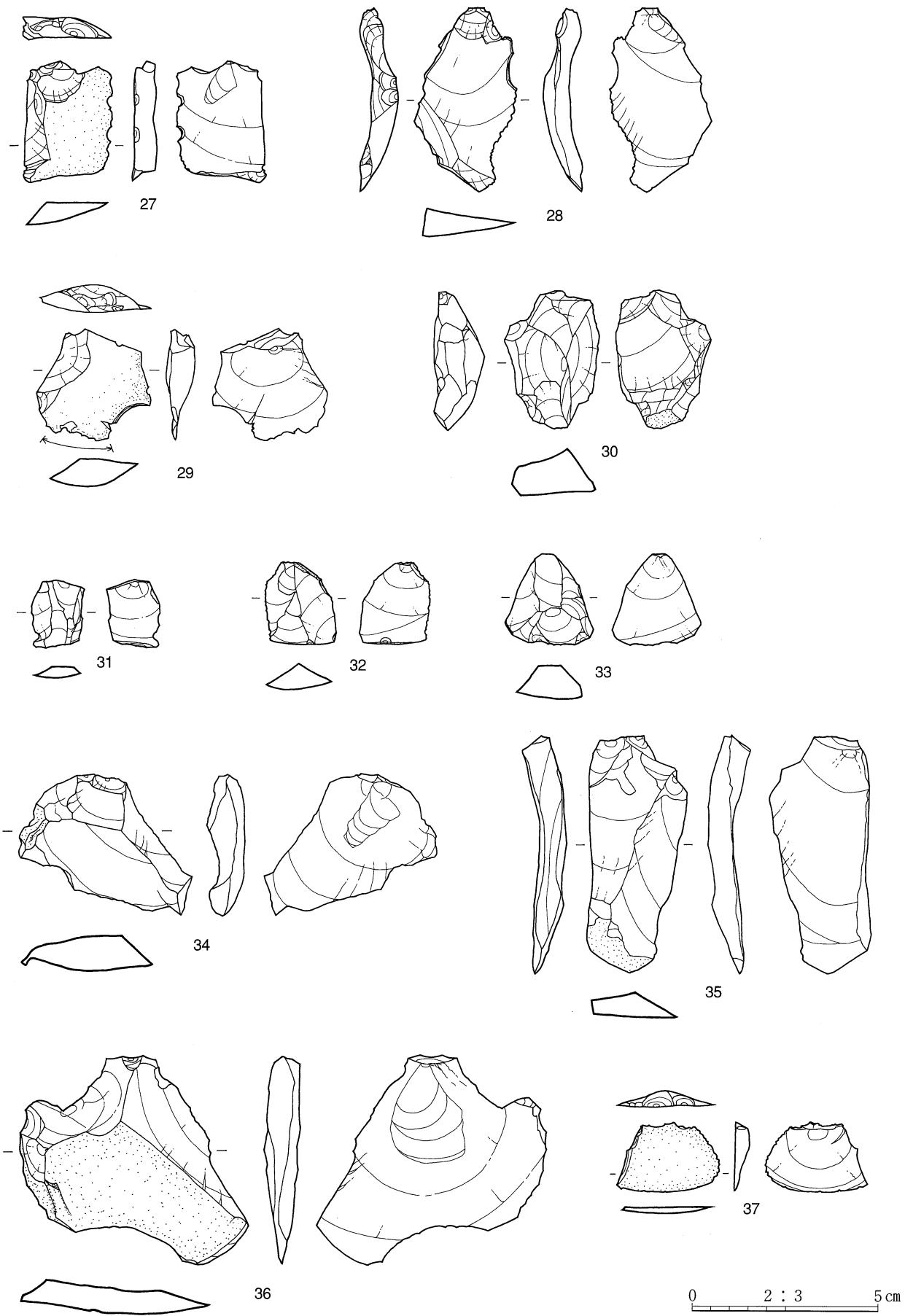
石材、石質別では、頁岩は10個体、黒曜石3個体、砂岩24個体、チャート2個体、ホルンフェルス8個体、流紋岩2個体を分類した。砂岩の24個体は敲石の個体が多く含まれる。流紋岩の2個体はナイフ形石器のみであり、剥片等が確認されていない。

接合2～接合4、接合8・9は頁岩製の接合資料だが、石質はそれぞれ異なっている。接合5～7はホルンフェルス製で接合5・6は同一石材石質である。

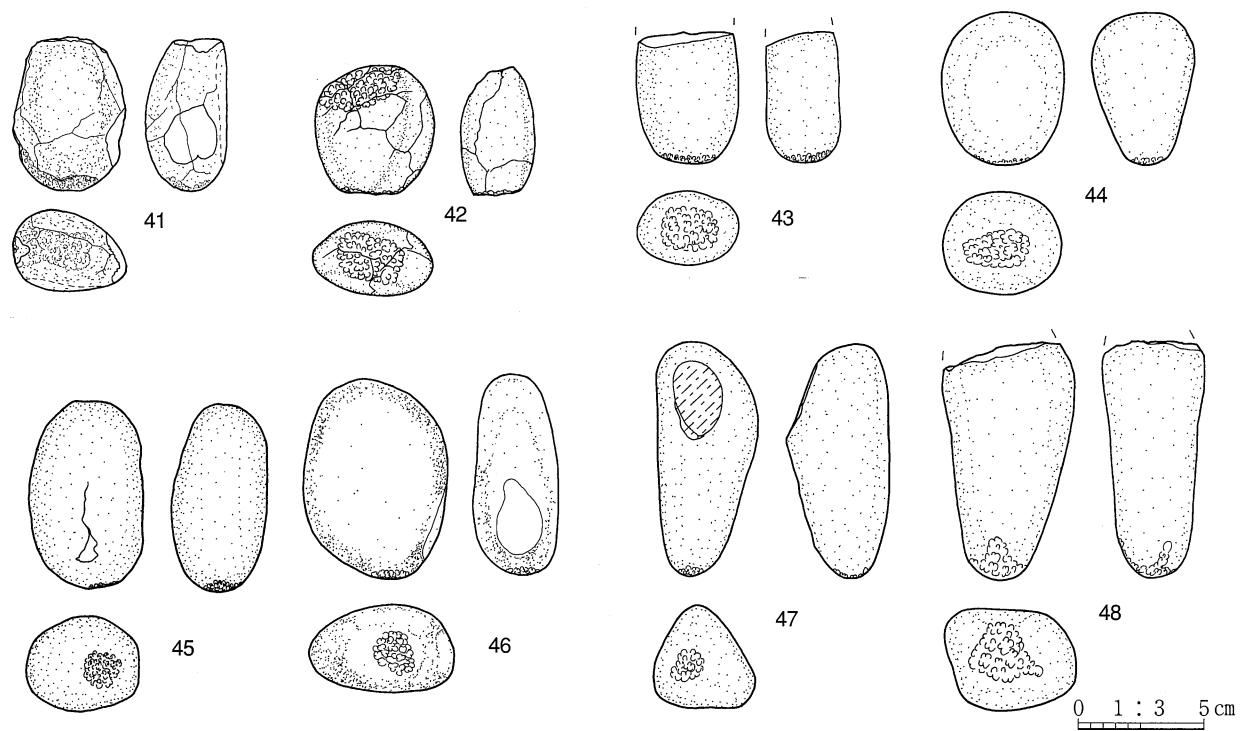
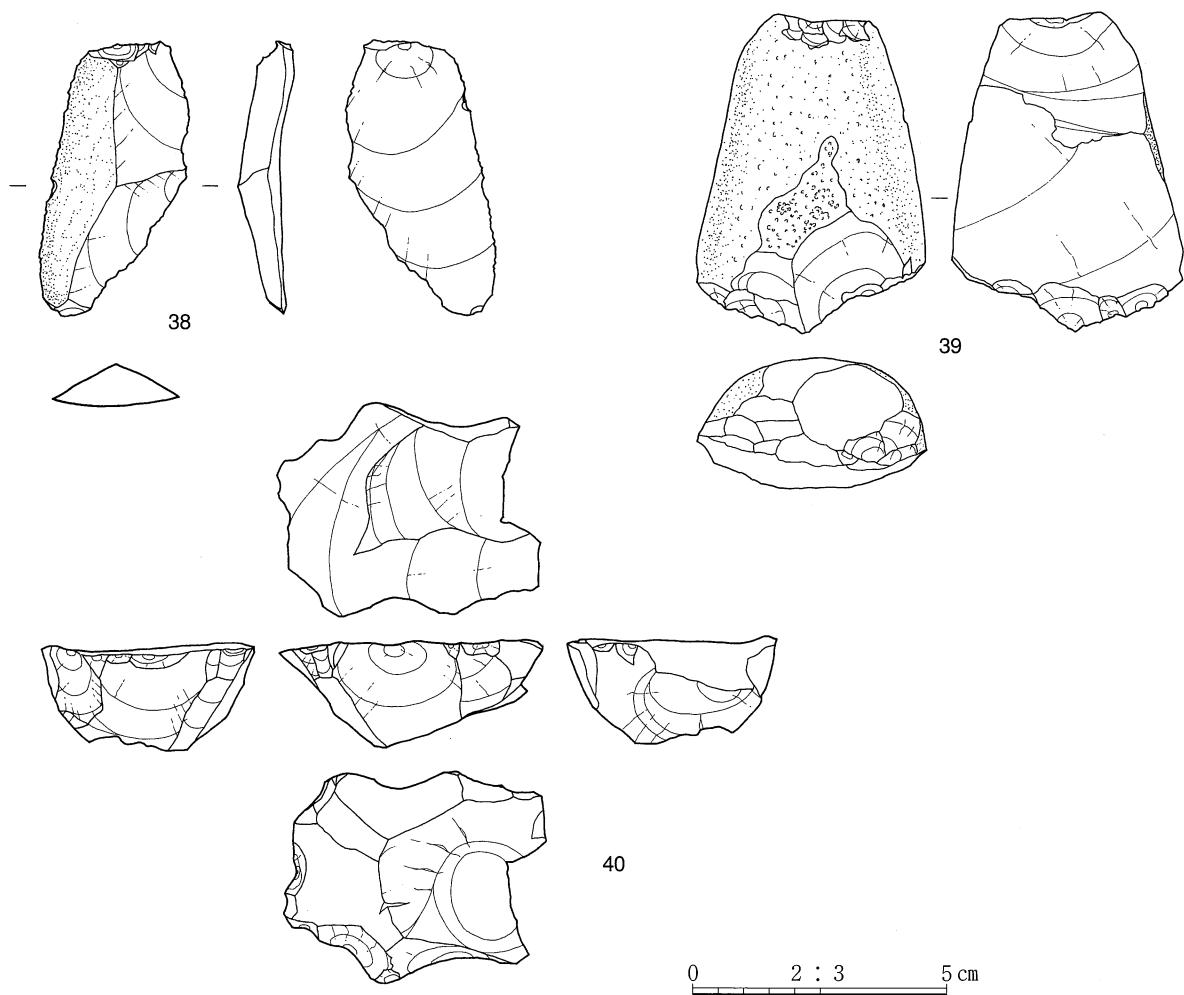
接合2～接合4、接合6は折面同士の接合資料で、接合5、接合7、8は剥離面同士の接合資料である。接合2は剥出する際に、打点近くから折れたものである。接合3は縦長素材の剥片を剥出した後、折れたものである。接合4は剥出した後に、主要剥離面の中央付近より加撃を受け、折れたものである。



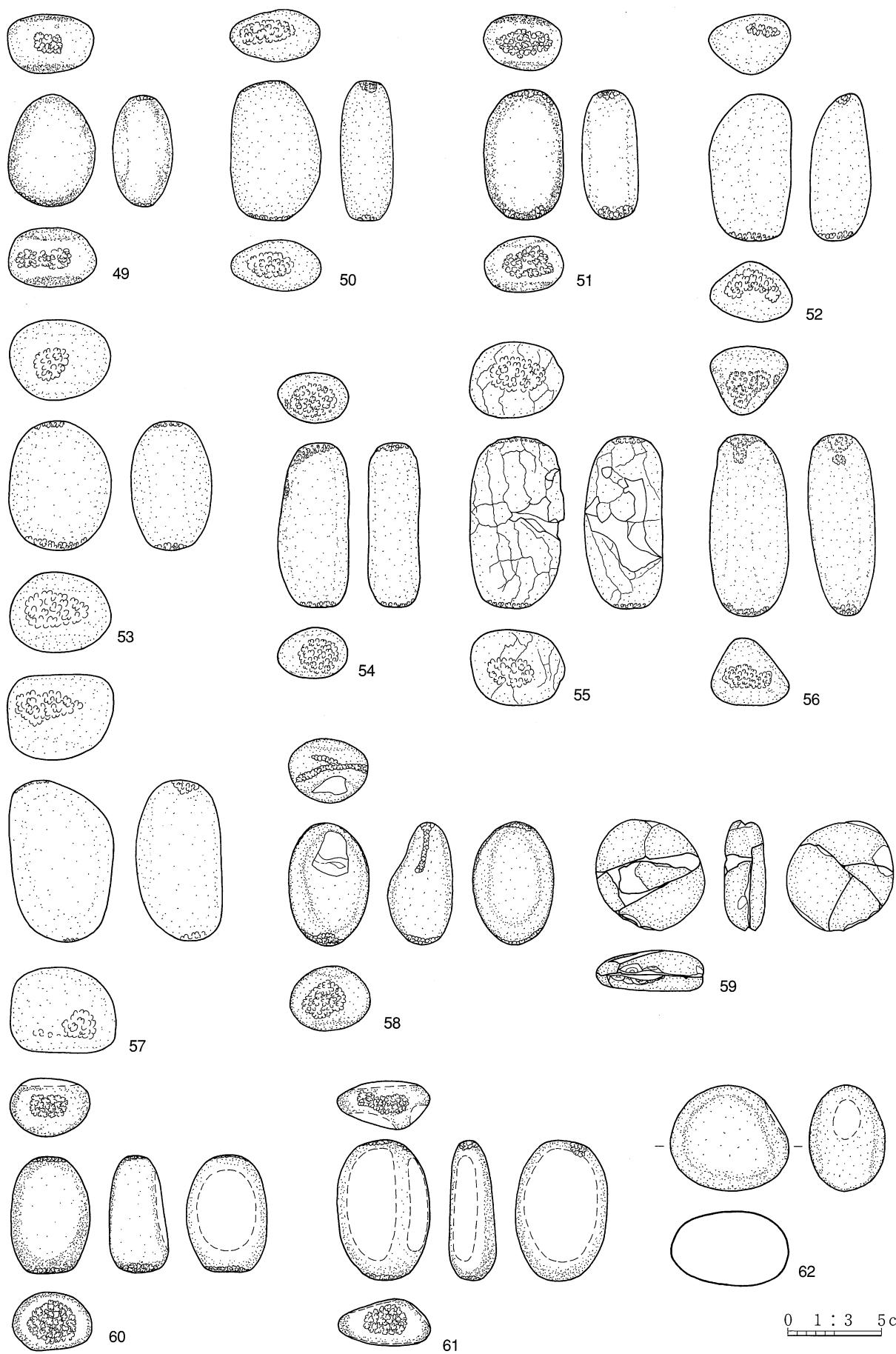
第25図 石器実測図(3)



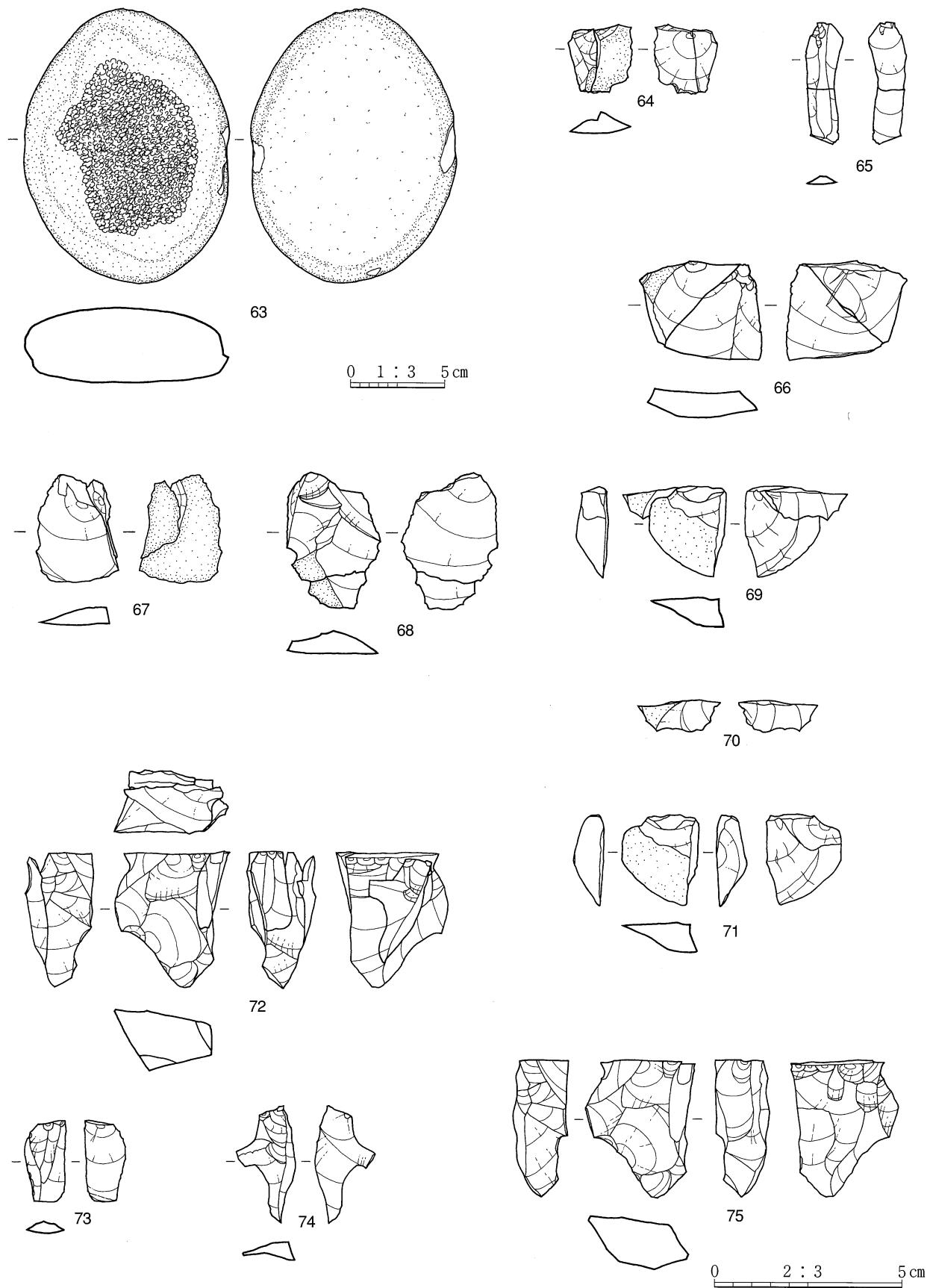
第26図 石器実測図(4)



第27図 石器実測図(5)

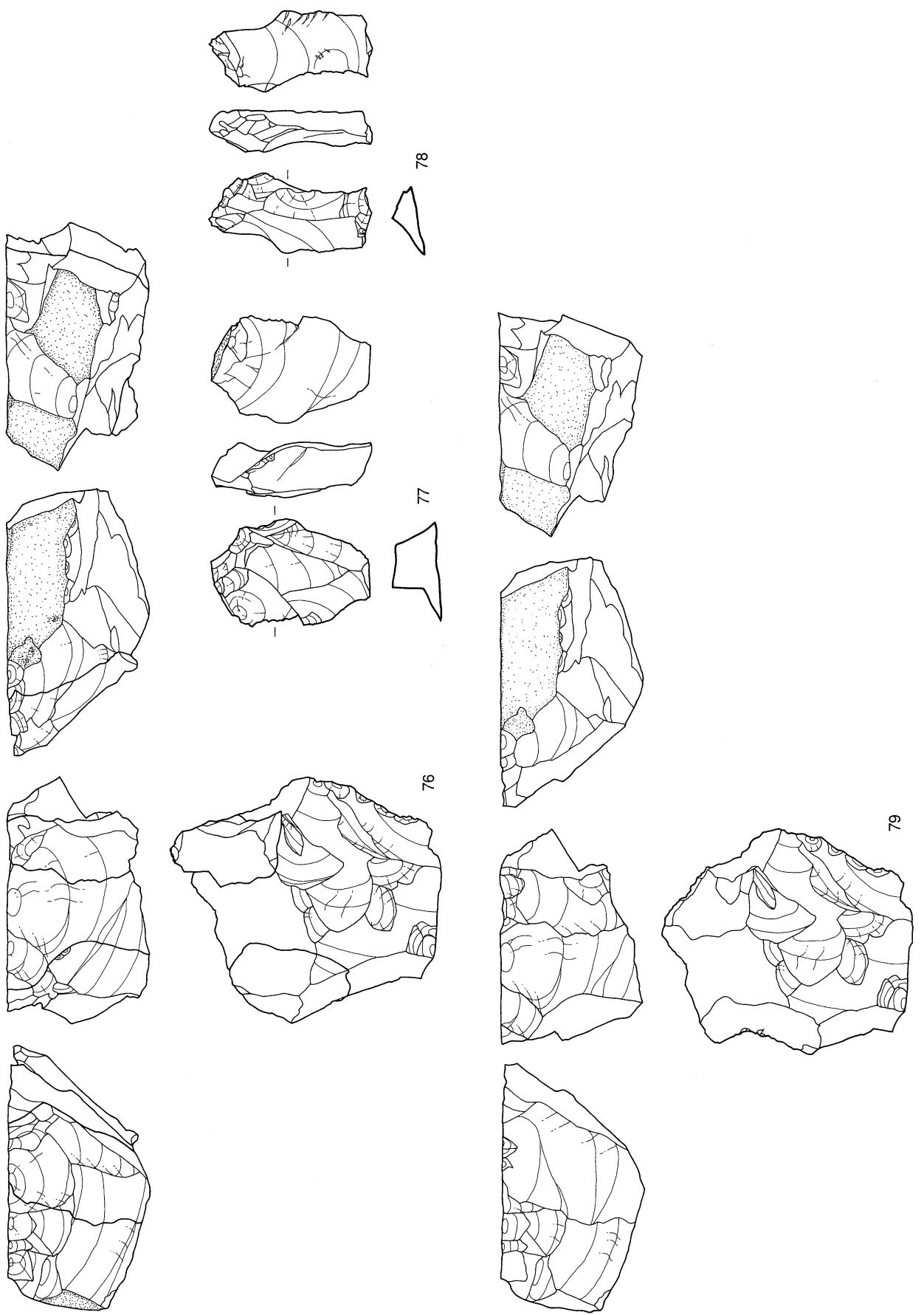


第28図 石器実測図(6)



第29図 石器及び接合資料実測図

第30図 接合資料実測図(3)



接合 8 の 72 は正面下縁部より剥離した後、180度打面を回転させ、平坦な打面から、垂直に近い打角で 73・74 の小さな縦長の剥片を剥出している。77 は自然面の平坦面を打面に、連続的に剥離が行われ、78・79 を剥出している。その後、一部打面を 180 度転移させ剥離が行われている。

(4) 植生と古環境

この第Ⅱ文化層では、AT火山灰層の下層まで除去したところ、AT火山灰の混在層が認められ、その混在層が幾重にも尾根から谷筋に流れるように確認された。石器ブロックや礫群の一部はこのAT混在層の筋上に設定されている。この筋状のAT混在層はⅧ層上面の微地形によりAT火山灰が流出した可能性が考えられる。普段から流水があるのではなく、降水の場合のみに、流水がまとまってみられる窪みと考えられた。そのため、AT混在層を含む上下層の植物珪酸体分析を行い、植生による違いを確認した。この結果より、AT混在層の窪地状を呈するところでは、ヨシ属が僅かにみられ、基本土層と比較して、ミヤコザサ節などのイネ科植物が少ないとから湿地的な環境で、火山灰堆積物が植生によって保持されにくい状況であったと考えられる。

(5) 小結

この文化層では、AT火山灰層の流出が筋状に幾重かみられ、石器ブロックや礫群の一部はその微地形の窪み状を呈しているところに設定されていた可能性がある。礫群 2 では石器ブロックとの混在で、多くの敲石を確認している。流紋岩製のナイフ形石器は外に同一石材がみられないため、持ち込まれた可能性が高い。石器ブロック 3, 4 と石器ブロック 5~9 は小さな谷（沢？）を挟んだ微高地に立地している。礫群の性格的にも石器ブロック 3 に重複する礫群 2 と礫群 3・4 は平均重量が小さく、規模的に小さい。

第8表 石器計測表(2)

図面番号	注記番号	区	グリッド	層位	器種	石材	石質	ブロック	母岩番号	接合番号	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	国土座標 X 座標	国土座標 Y 座標	レベル
16	2797	A	L 3a	Ⅷ	KN	Sh	B	6			2.8	1.5	0.75	2.3	-98973.416	42723.542	85.199
17	2193	A	I 9b	Ⅷ	KN	Sh	A	4			3.25	1.8	0.7	3.6	-99030.866	42696.251	84.875
18	3107	A	L 3a	Ⅷ	KN	Holf	F	6			3.2	1	0.5	1.5	-98970.832	42724.052	85.021
19	3650	D	M 3b	Ⅷ	KN	Sh	G	7			3.05	1.2	0.7	1.8	-98972.198	42735.095	85.406
20	3561	D	M 3a	Ⅷ	KN	Sh	B	7			3	1.3	0.65	2.1	-98972.487	42733.899	85.513
21	2623	A	I 8d	Ⅷ	KN	Rhy		3			3.5	1.2	0.7	2.2	-99027.875	42692.503	84.543
22	3252	A	M 3c	Ⅷ	KN	Holf	G	7			3.82	1.35	0.75	3.2	-98977.697	42736.024	84.831
23	2939	A	K 5b	Ⅷ	KN	Rhy					3.65	1.25	0.9	3	-98991.978	42717.573	85.294
24	2659	A	L 2c	Ⅷ	S c	O b		5			2.55	2.85	1.25	8.5	-98967.284	42728.419	85.821
25	2203	A	I 8c	Ⅷ	S c	Sh	G	4			5.8	3.7	2.3	27.4	-99028.787	42696.518	84.827
26	3203	A	L 3d	Ⅷ	S c	S a		6			8.5	8.5	2.4	1448	-98979.241	42721.835	85.080
27	2636	A	I 8d	Ⅷ	RF	Sh	A	3			3.3	2.5	0.7	6	-99028.021	42693.303	84.615
28	2234	A	H 7d	Ⅷ	RF	Sh	F				5	2.8	1.1	7.5	-99018.015	42684.194	83.645
29	3557	D	M 3a	Ⅷ	F	Sh	G	7			3	3.1	0.8	5.1	-98972.239	42733.164	85.492
30	2212	A	I 9b	Ⅷ	F	Che		4			3.8	2.58	1.35	11.8	-99032.336	42697.540	85.075
31	3478	D	P 1d	Ⅷ	F	O b					2	1.5	0.3	1	-98953.175	42762.450	85.874
32	2559	A	G 6c	Ⅷ	F	O b					2.29	1.95	0.75	2.6	-99009.706	42688.943	82.916
33	2667	A	L 2c	Ⅷ	F	Sh	H	5			2.51	2.4	1.1	5.1	-98969.582	42727.511	85.149
34	3082	A	H 4b	Ⅷ	F	Sh	F				3.9	4.6	1	13.4	-98982.601	42686.748	83.265
35	3551	D	M 3b	Ⅷ	F	Sh		7			6.4	2.8	1.1	15.7	-98971.013	42735.429	85.553
36	2912	A	K 3d	Ⅷ	F	Holf	C				5.7	5.2	9	21.7	-98977.059	42710.980	84.649
37	2640	A	I 8d	Ⅷ	F	Sh	B	3			1.9	2.8	0.4	1.9	-99028.844	42693.520	84.616

第8表 石器計測表(2)

図面番号	注記番号	区	グリッド	層位	器種	石材	石質	ブロック	母岩番号	接合番号	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	国土座標X座標	国土座標Y座標	レベル
38	21	C	H10a	VIII	F	S h	D				5.4	2.9	1.1	11.1	-99044.500	42681.000	84.262
39	3627	D	M 4 a	VIII	Cho	S h		8			6.3	4.6	2.6	84.2	-98983.504	42731.271	85.540
40	2230	A	J 9 a	VIII	Co	S h	H				4.2	5.2	2.1	41.6	-99033.206	42702.507	85.159
41	2653	A	H 4 c	IX b	H S	S a					6.1	4.3	3.1	74	-98985.456	42689.024	85.156
42	3108	A	L 3 a	VIII	H S	S a		6			5.15	4.75	3	91.4	-98970.810	42724.491	85.010
43	2781	A	L 3 a	VIII	H S	S a		6			5.2	4	2.9	99.5	-98972.727	42724.036	85.123
44	3550	D	M 3 a	VIII	H S	S a		7			6.15	4.8	3.15	165.5	-98971.401	42733.111	85.395
45	3594	D	M 3 c	VIII	H S	S a		7			7.6	4.6	3.9	182.7	-98977.497	42735.759	85.570
46	3626	D	L 4 b	VIII	H S	S a		6			8.05	5.8	3.5	221.5	-98981.519	42726.656	85.375
47	3035	A	L 3 d	VIII	H S	Holf		6			9.4	4.15	4.1	188	-98977.298	42723.629	85.155
48	2956	A	M 2 d	VIII	H S	S a					9.55	5.25	4.15	260	-98968.850	42732.860	85.351
49	2538	A	I 9 b	VIII	H S	S a		4			5.95	4.7	3.2	112.2	-99034.355	42699.700	85.140
50	2662	A	L 2 c	VIII	H S	S a		5			7.5	4.85	2.75	147.7	-98968.810	42728.856	85.128
51	3621	D	L 4 b	VIII	H S	S a		8			6.95	4.25	3	133	-98983.088	42729.034	85.473
52	3611	D	M 4 a	VIII	H S	S a		8			7.8	4.45	3.3	147.9	-98982.004	42732.209	85.577
53	2983	A	L 4 a	VIII	H S	S a		6			6.95	5.5	4.4	209.5	-98981.789	42724.504	85.314
54	2783	A	L 3 a	VIII	H S	S a		6			8.9	3.8	2.8	141	-98973.054	42723.414	85.093
55	3572	D	M 3 a	VIII	H S	S a		7			9.3	5.1	4.15	243.6	-98974.931	42734.579	85.504
56	3033	A	L 3 d	VIII	H S	S a		6			9.8	4.2	3.6	199.7	-98977.584	42722.700	85.160
57	2974	A	L 4 a	VIII	H S	S a		6			8.75	5.7	4.65	354.2	-98981.343	42723.069	85.280
58	2802	A	L 3 c	VIII	H S	S a		6			6.6	4.3	3.4	122.9	-98975.267	42725.087	85.152
59	3479	D	P 1	VIII	H S	S h	L								-98953.414	42761.949	85.835
59	3518	D	P 1	VIII	H S	S h	L								-98954.102	42764.743	85.706
59	3681	D	P 1	VIII	H S	S h	L								-98954.267	42764.143	85.598
59	3690	D	P 1	VIII	H S	S h	L								-98955.994	42764.324	85.574
59	3692	D	P 1	IXa	H S	S h	L								-98955.427	42764.702	85.550
59	3693	D	P 1	VIII	H S	S h	L								-98954.854	42764.663	85.666
59	3695	D	P 1	VIII	H S	S h	L				4.1	3.3	0.9	18	-98952.663	42761.459	85.480
60	3022	A	L 3 d	VIII	H S	S a		6			6.3	4.3	3.1	125.1	-98979.600	42724.459	85.247
61	3559	D	M 3 a	VIII	H S	S a		7			7.6	5	2.6	134.1	-98972.166	42733.989	85.433
62	3038	A	L 3 d	VIII	H S	S a		6			5.75	6.35	4.1	192.7	-98976.538	42724.526	85.190
63	2716	A	I 4 b	VIII	A S	S a					14.7	10.9	4.1	885	-98980.342	42699.811	83.768
64	2585	A	I 8 d	VIII	F	S h	A	3		2	1.9	1.2	0.5	1.1	-99027.973	42693.645	84.655
64	2591	A	I 8 d	VIII	F	S h	A	3		2	1.7	0.8	0.5	0.5	-99027.677	42692.950	84.601
65	2686	A	L 3 d	VIII	F	S h	A	6		3	1.5	0.8	0.2	0.3	-98977.242	42722.910	85.245
65	2701	A	L 3 d	VIII	F	S h	A	6		3	1.8	0.9	0.3	0.5	-98977.008	42721.266	85.255
66	2899	A	M 3 a	VIII	F	S h	E	5		4	2.3	2.6	0.7	3.5	-98971.183	42730.211	85.367
66	2901	A	M 3 a	VIII	F	S h	E	5		4	2.6	2.6	0.6	3.9	-98971.500	42730.500	85.276
67	3487	D	O 2 a	VIII	F	Holf	A	9		5	2.1	0.9	0.5	0.7	-98964.317	42753.624	85.773
67	3489	D	O 2 a	VIII	F	Holf	A	7		5	2.9	2.2	0.5	2.9	-98961.671	42754.722	85.836
68	3488	D	O 2 a	VIII	F	Holf	A	9		6	2.9	2.6	0.6	4.6	-98964.407	42754.583	85.928
68	3505	D	O 2 a	VIII	F	Holf	A	9		6	1.1	1.6	0.2	0.3	-98964.900	42754.822	85.756
70	3542	D	O 2 a	VIII	F	Holf	E	9		7	0.8	2.2	0.6	0.7	-98963.153	42750.264	85.748
71	3535	D	O 2 a	VIII	F	Holf	E	9		7	2.4	2	0.8	3.1	-98964.302	42750.485	85.785
73	2195	A	I 9 b	VIII	F	S h	D	4		8	2.2	1.1	0.45	0.8	-99030.813	42696.832	84.936
74	2210	A	I 9 b	VIII	F	S h	D	4		8	3.1	1.65	0.55	1.2	-99031.390	42697.432	84.945
75	2192	A	I 9 b	VIII	Co	S h	D	4		8	3.7	2.95	1.4	14.6	-99030.618	42695.974	84.870
77	2793	A	L 3 a	VIII	F	S h	F	6		9	4.1	2.9	1.5	15.9	-98973.992	42722.179	85.097
78	3042	A	L 3 d	VIII	F	S h	F	6		9	4.3	2.2	1.1	6.7	-98975.431	42724.668	85.207
79	2784	A	L 3 a	VIII	Co	S h	F	6		9	6.95	6.6	7.2	181.5	-98973.111	42723.249	85.087
2191	A	I 9 a	VIII	F	S h	C	4				1.7	3.8	1	5	-99031.825	42695.363	84.923
2194	A	I 9 b	VIII	F	S a		4				1.7	1	0.2	0.3	-99030.851	42696.450	84.833
2197	A	I 9 b	VIII	Ch	S h		4				0.5	0.4	0.1	-	-99030.338	42697.060	84.866
2198	A	I 9 b	VIII	F	S h	I	4				2.4	2.5	1	2.7	-99030.086	42696.411	84.917
2199	A	I 9 b	VIII	F	S h	D	4				2.4	0.9	0.4	0.6	-99030.017	42696.111	84.869

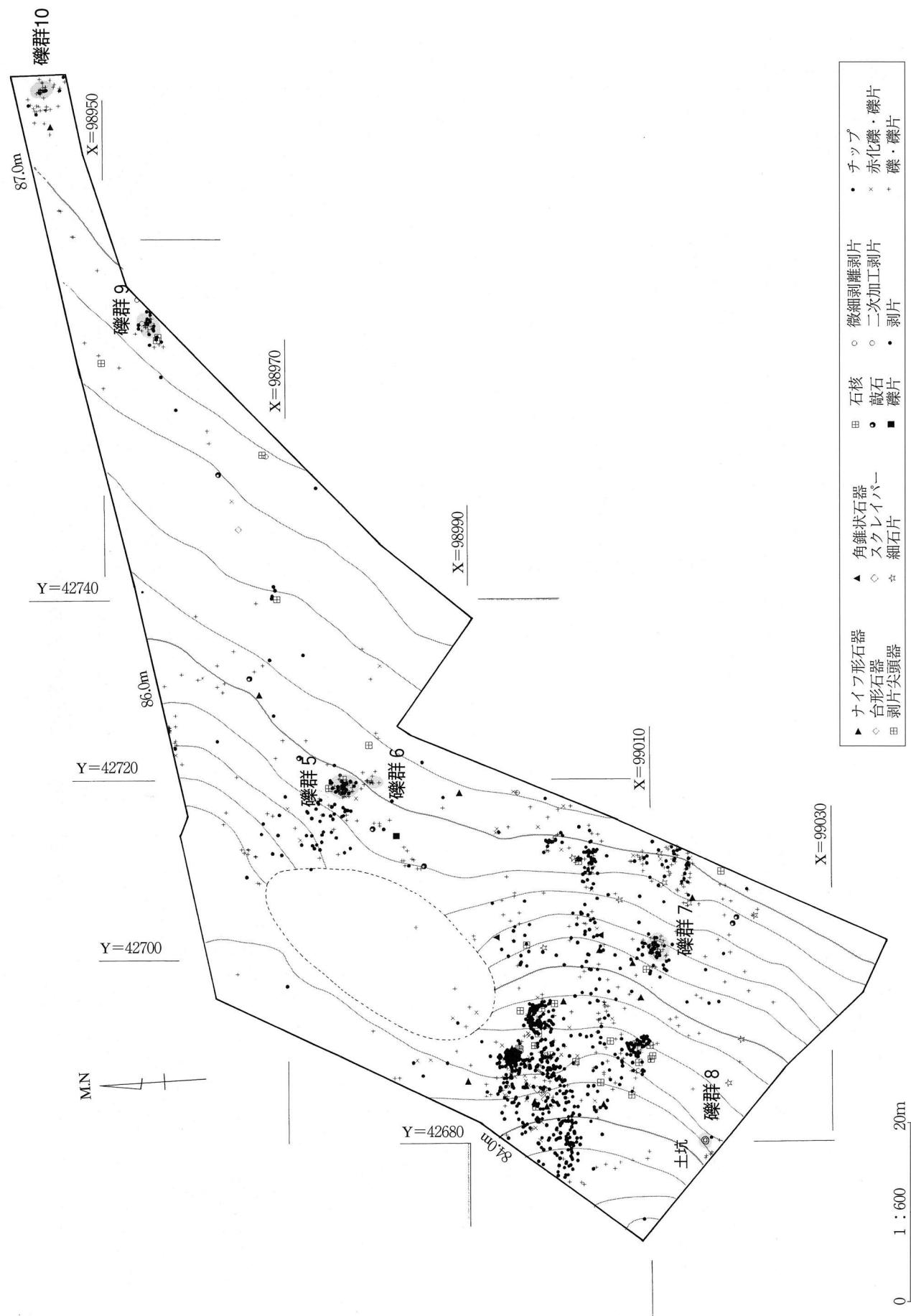
第8表 石器計測表(2)

図面番号	注記番号	区	グリッド	層位	器種	石材	石質	ブロック	母岩番号	接合番号	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	国土座標X座標	国土座標Y座標	レベル
2200	A	I 8 c	VIII	F	S h	E		4			0.9	1.4	0.4	0.5	-99029.967	42696.604	84.943
2201	A	I 8 c	VIII	C h	S h	E		4			0.8	0.8	0.4	0.2	-99029.955	42696.660	84.895
2202	A	I 8 c	VIII	C h	S h	A		4			0.9	0.8	0.3	0.1	-99029.865	42697.110	84.928
2204	A	I 8 c	VIII	C h	S h	A		4			1.1	0.8	0.5	4	-99029.793	42697.845	84.950
2207	A	I 9 b	VIII	C h	S h	A		4			1.1	0.8	0.3	0.2	-99030.707	42697.551	84.995
2208	A	I 9 b	VIII	F	S h	D		4			3.6	1.3	0.9	3.6	-99030.489	42698.097	84.893
2209	A	I 9 b	VIII	C h	S h	G		4			0.3	0.3	0.5	1.1	-99031.073	42697.220	84.929
2211	A	I 9 b	VIII	F	S h	G		4			1.7	2	0.3	0.9	-99031.378	42697.783	84.953
2213	A	I 9 b	VIII	C h	C h e			4			0.6	1	0.3	0.1	-99032.427	42697.586	85.057
2215	A	I 9 b	VIII	F	S h	I		4			2.6	3.8	1	6.2	-99033.024	42696.921	85.103
2216	A	I 9 b	VIII	F	S h	I		4			2.6	2.9	1.3	5	-99033.673	42697.844	84.957
2217	A	I 9 b	VIII	F	S h	I		4			5	3.3	1.5	16.2	-99033.237	42698.022	85.146
2219	A	I 9 b	VIII	F	S h	C		4			3.2	3.5	0.8	5.6	-99031.714	42698.337	85.074
2220	A	I 9 b	VIII	F	S h	D		4			2.3	2.2	1.1	5.7	-99031.256	42697.957	84.927
2222	A	I 9 b	VIII	C h	S h	A		4			0.6	1.2	0.2	-	-99030.575	42698.692	85.171
2223	A	I 9 b	VIII	C h	S h			4			0.9	0.9	0.2	0.1	-99031.049	42698.969	85.154
2224	A	I 9 b	VIII	F	S a			4			2.5	1.9	1	4	-99032.994	42699.264	85.177
2519	A	I 6 a	VIII	F	S h						2.2	1.2	2.2	3	-99003.006	42691.031	83.302
2531	A	I 8 c	VIII	F	S a			4			2.2	1.1	0.3	0.7	-99029.630	42695.597	84.844
2550	A	J 7 c	VIII	F	S h	F					3	2.7	0.6	2.8	-99019.607	42708.295	84.926
2569	A	J 6 c	VIII	F	H o l f	D					2	2.8	0.4	2.3	-99007.990	42707.765	84.621
2573	A	K 7 a	VIII	F	S h						1.4	1.8	0.3	0.4	-99012.583	42710.842	84.960
2579	A	I 9 a	VIII	F	S h	C		4			2.1	1	0.3	0.4	-99031.305	42694.892	84.878
2582	A	I 8 d	VIII	F	S h	A		3			2.6	1.5	0.4	0.7	-99028.807	42692.743	84.627
2583	A	I 8 d	VIII	F	S h	E		3			1.8	0.6	0.5	0.5	-99028.715	42692.791	84.625
2584	A	I 8 d	VIII	F	S h	A		3			2	2.2	0.8	3.7	-99028.558	42693.066	84.638
2593	A	I 8 d	VIII	F	S h	E		3			0.6	0.9	0.2	0.1	-99027.691	42692.691	84.576
2594	A	I 8 d	VIII	F	S h	E		3			1.2	0.8	0.2	0.1	-99028.067	42692.595	84.598
2595	A	I 8 d	VIII	F	S h	E		3			1.1	2.3	0.6	0.9	-99028.127	42692.309	84.590
2597	A	I 8 d	VIII	F	S h	A		3			1	1.2	0.3	0.3	-99027.632	42692.428	84.564
2598	A	I 8 d	VIII	F	S h	A		3			1.3	0.9	0.2	0.3	-99027.237	42692.495	84.554
2601	A	I 8 d	VIII	F	S h	E		3			1.4	1	0.4	0.4	-99026.773	42691.867	84.477
2602	A	I 8 d	VIII	F	S h	A		3			2.7	1.9	0.6	1.4	-99026.826	42691.771	84.481
2603	A	I 8 d	VIII	F	S h	E		3			1.3	0.8	0.3	0.3	-99026.988	42691.646	84.469
2605	A	I 8 d	VIII	F	S h	A		3			1.6	1.6	0.3	0.5	-99026.627	42691.588	84.452
2606	A	I 8 d	VIII	F	S h	E		3			1.7	1.3	0.2	0.4	-99026.795	42691.226	84.437
2607	A	I 8 d	VIII	F	S h	A		3			0.8	1.4	0.4	0.3	-99026.908	42690.987	84.442
2619	A	I 8 d	VIII	C h	S h	A		3			0.8	1.2	0.2	-	-99028.534	42692.093	84.577
2620	A	I 8 d	VIII	C h	S h	E		3			1	0.8	0.3	0.1	-99027.489	42691.188	84.337
2621	A	I 8 d	VIII	F	S h	B		3			1.3	1.6	0.3	0.4	-99027.099	42691.298	84.385
2625	A	I 8 d	VIII	F	S h	A		3			0.8	1.2	0.2	-	-99028.032	42692.915	84.573
2629	A	I 8 d	VIII	C h	S h	G		3			0.9	0.3	0.2	-	-99028.978	42692.753	84.600
2631	A	I 8 d	VIII	C h	S h	A		3			1.1	1.6	0.3	0.3	-99028.984	42692.891	84.612
2634	A	I 8 d	VIII	C h	S h	B		3			0.6	1	0.2	-	-99028.392	42693.218	84.604
2641	A	I 8 d	VIII	C h	S h	E		3			0.9	1.1	0.3	0.1	-99028.733	42693.879	84.630
2644	A	I 8 d	VIII	F	S h	G		3			3.2	1.8	1	3.2	-99028.300	42694.262	84.636
2646	A	I 8 d	VIII	F	S h	A		3			0.8	1	0.5	0.4	-99029.137	42693.952	84.668
2647	A	I 8 d	VIII	C h	S h	A		3			1	0.5	0.3	0.2	-99029.121	42693.986	84.648
2648	A	I 8 d	VIII	F	S h	B		3			1.1	1.5	0.5	0.6	-99029.565	42693.730	84.662
2650	A	I 8 d	VIII	C h	S h	A		3			1.1	1	0.3	0.3	-99027.964	42694.528	84.638
2664	A	L 2 c	VIII	F	S h	H		5			3.2	1.7	0.8	2.4	-98969.339	42728.107	85.215
2681	A	L 3 d	VIII	F	S h	C		6			1.8	1.3	0.4	0.9	-98977.753	42722.882	85.268
2684	A	L 3 d	VIII	F	S h	C		6			1.5	1.1	0.4	0.6	-98977.549	42723.831	85.308
2696	A	L 3 d	VIII	F	S h	H		6			3.2	2.2	0.6	2.8	-98976.178	42722.235	85.250
2751	A	L 2 b	VIII	F	S h	K					3.2	1.9	0.6	3.2	-98960.542	42730.133	85.011
2790	A	L 3 a	VIII	C h	S h	A		6			0.5	0.6	0.1	-	-98973.991	42721.431	85.068

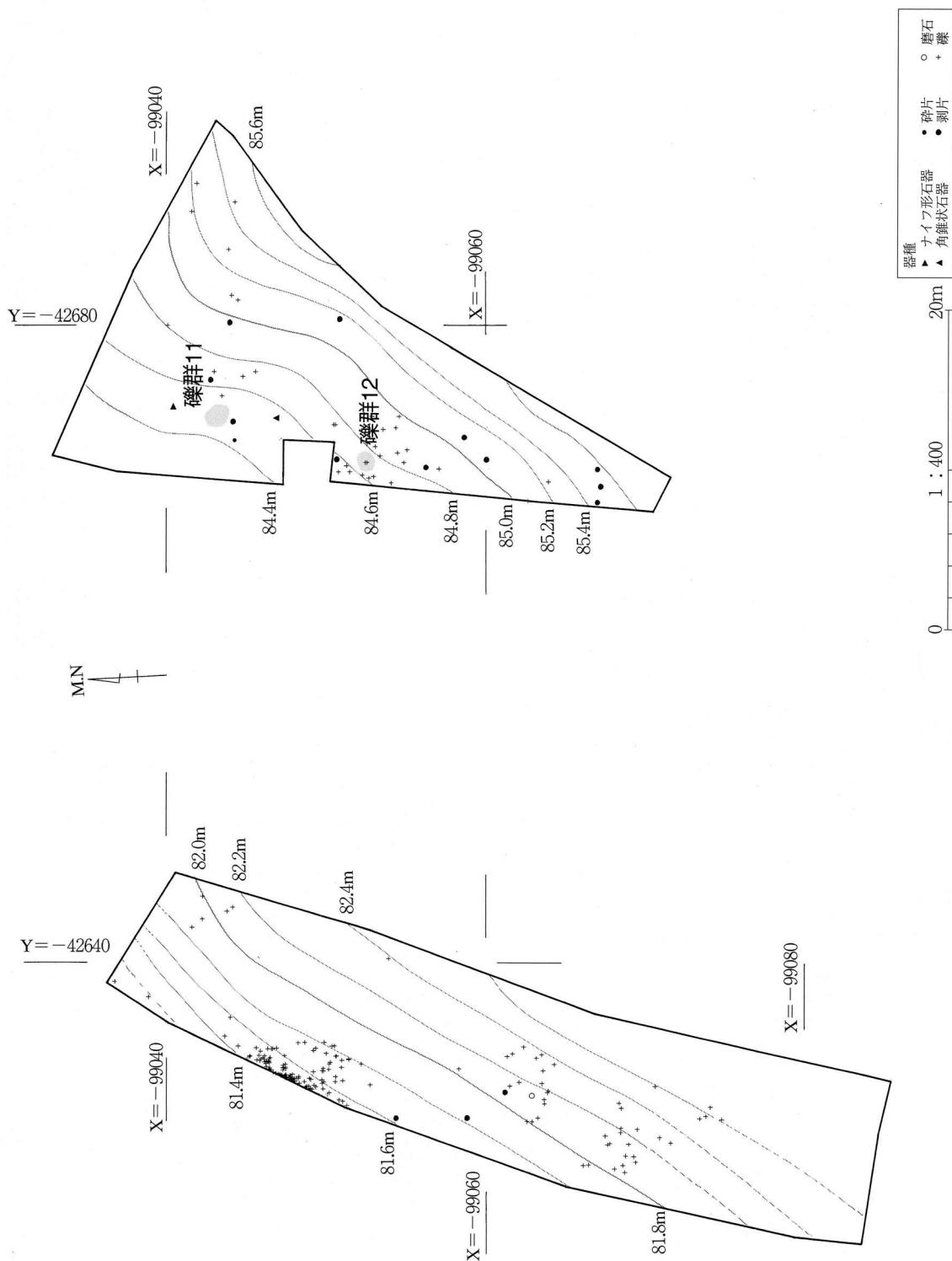
第8表 石器計測表(2)

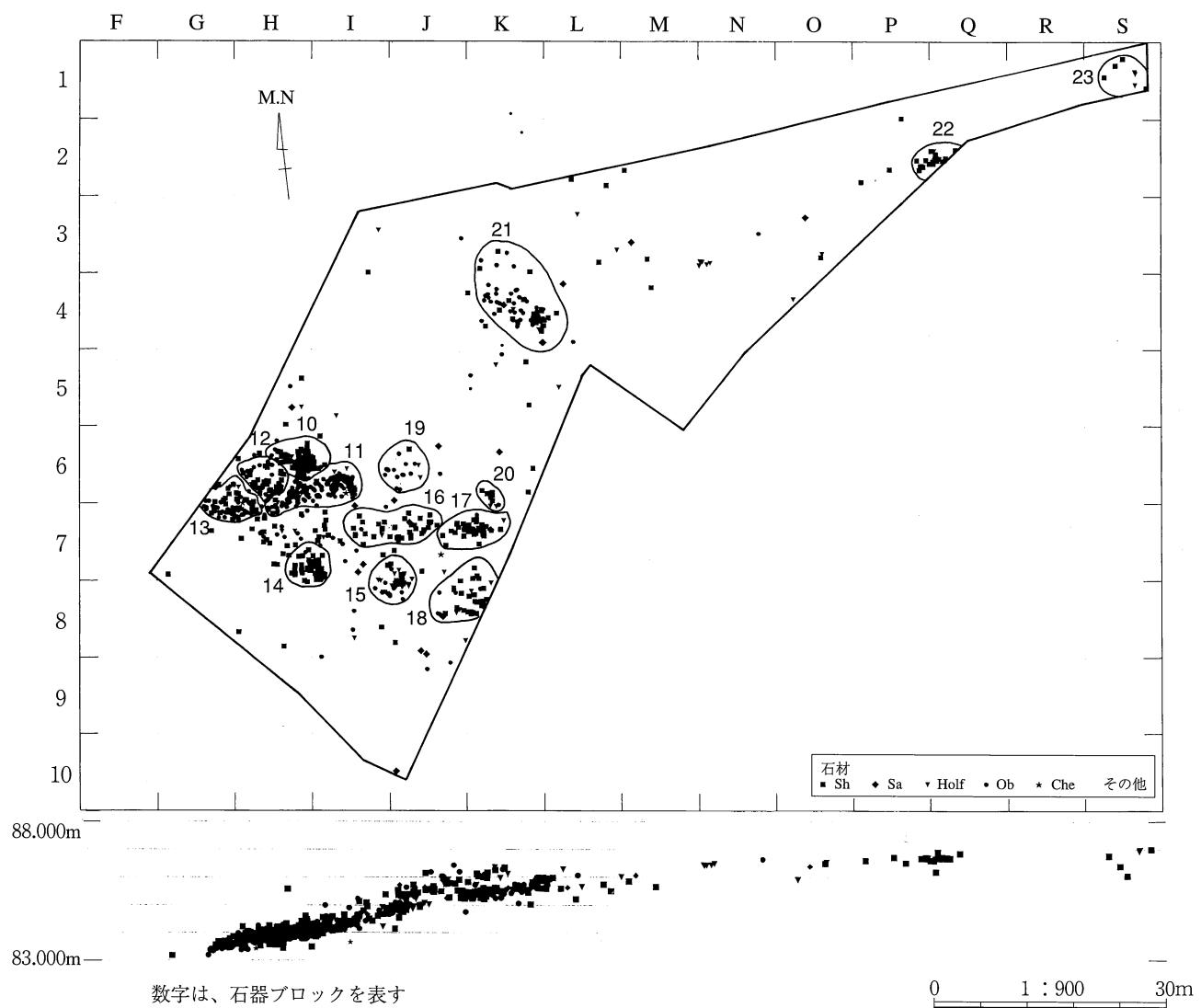
図面番号	注記番号	区	グリッド	層位	器種	石材	石質	ロック	母岩番号	接合番号	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	国土座標X座標	国土座標Y座標	レベル
2791	A	L 3 a	VIII	C h	S h	A		6			1.1	0.4	0.1	-	-98973.547	42721.978	85.074
2792	A	L 3 a	VIII	F	S h	G					1.9	1.9	0.5	-	-98973.607	42621.239	85.119
2796	A	L 3 a	VIII	C h	S h			6			0.9	0.3	0.2	-	-98973.719	42722.978	85.140
2798	A	L 3 a	VIII	F	S h	C		6			0.5	1.8	0.4	0.3	-98973.538	42723.539	85.159
2799	A	L 3 a	VIII	C h	S h	C		6			0.7	0.9	0.2	-	-98973.491	42723.657	85.206
2800	A	L 3 a	VIII	C h	S h	A		6			0.6	0.8	0.1	-	-98973.524	42723.692	85.195
2806	A	L 3 a	VIII	C h	S h	C		6			0.9	1	0.2	0.1	-98974.430	42722.025	85.078
2807	A	L 3 a	VIII	C h	S h			6			1.1	0.5	0.3	-	-98974.801	42721.571	85.170
2808	A	L 3 a	VIII	F	S h	C		6			2.3	0.9	0.3	0.4	-98974.523	42721.081	85.035
2896	A	M 3 a	VIII	F	S h	J		5			1.6	1.3	0.4	0.5	-98972.299	42730.164	85.302
2897	A	M 3 a	VIII	F	S h	I		5			1.5	1	0.3	0.3	-98972.061	42730.034	85.303
2898	A	M 3 a	VIII	F	S h	I		5			1.1	1.2	0.2	0.1	-98971.403	42730.214	85.375
2900	A	M 3 a	VIII	F	S h	E		5			1.4	0.8	0.2	0.2	-98970.798	42730.323	85.322
2949	A	M 2 d	VIII	F	S h	C					3.5	2.3	0.9	7.1	-98969.820	42730.340	85.330
2950	A	M 2 d	VIII	F	S h	G					3	2.2	0.1	4.3	-98969.900	42730.500	85.316
2965	A	M 2 d	VIII	C h	S h	G					0.7	0.4	0.2	-	-98968.744	42731.426	85.315
3014	A	L 4 d	VIII	F	C he						0.6	0.6	0.3	-	-98983.476	42720.456	85.240
3039	A	L 3 d	VIII	F	S h	C		6			2.5	2.2	0.7	4.7	-98975.386	42722.209	85.088
3041	A	L 3 d	VIII	F	S h	C		6			1.7	1.1	0.4	0.4	-98975.314	42722.642	85.096
3111	A	L 4 a	VIII	F	Holf	B		6			3.1	3	0.2	1.6	-98981.911	42724.397	85.309
3156	A	I 8 a	VIII	F	S h	F					2.1	1.3	0.4	1.3	-99024.760	42693.942	84.592
3196	A	H 3 c	VIII	F	Holf	D					2.6	2.6	0.3	2.5	-98976.955	42689.590	83.332
3205	A	L 3 d	VIII	F	S h	C		6			2.3	1.2	0.3	1.1	-98978.251	42723.290	85.138
3211	A	L 3 d	VIII	F	S h	C		6			1.9	2.1	0.7	2.3	-98975.234	42721.685	85.037
3247	A	M 2 d	VIII	F	S h	J		5			3.1	2.2	0.7	3.9	-98969.005	42731.371	85.286
3248	A	M 2 d	VIII	F	S h	J		5			3.3	1.9	0.6	3.1	-98969.285	42730.933	85.235
3480	D	P 1 d	VIII	C h	S h						0.9	0.6	0.8	-	-98952.543	42761.889	85.853
3485	D	O 2 a	VIII	F	Holf	A		9			2.5	1.1	0.5	1	-98964.828	42750.663	85.727
3486	D	O 2 a	VIII	F	Holf	A		9			3.8	3.6	0.7	8.8	-98964.813	42751.817	85.763
3506	D	O 2 d	VIII	F	Holf	A		9			4.7	2.4	1.2	6.4	-98967.065	42754.560	85.786
3512	D	O 3 a	VIII	F	S h						2.4	3.7	0.6	2.5	-98970.871	42751.512	85.779
3514	D	O 3 a	VIII	F	S h	B					1.3	2.7	0.8	2.5	-98972.231	42752.739	85.834
3519	D	M 4 b	VIII	F	S h	F					1.9	1.5	0.4	0.6	-98982.932	42738.876	86.062
3527	D	O 2 c	VIII	F	Holf	B		9			1.2	1.7	0.7	1	-98965.805	42755.099	86.257
3530	D	O 2 c	VIII	C h	Holf	A		7			0.6	1	0.1	-	-98968.576	42756.764	86.350
3531	D	O 2 a	VIII	F	Holf	B		9			1.5	2.7	0.6	1.1	-98964.261	42751.940	85.872
3532	D	O 2 a	VIII	F	Holf	A		9			1.4	2.1	0.5	0.8	-98963.822	42752.187	85.881
3533	D	O 2 a	VIII	F	Holf	B		9			2.1	2.5	0.6	3.3	-98963.388	42751.018	85.826
3534	D	O 2 a	VIII	F	Holf	B		9			2.2	2.8	0.6	1.4	-98962.856	42750.825	85.809
3558	D	M 3 a	VIII	F	S h	G		7			2.44	1.5	0.7	2.4	-98972.184	42733.688	85.488
3560	D	M 3 a	VIII	F	S h	G		7			2.1	1.9	1.1	4.2	-98972.422	42734.216	85.528
3565	D	M 3 a	VIII	F	S h	G		7			2.2	2.7	0.6	2.4	-98972.619	42733.509	85.518
3576	D	M 3 d	VIII	F	S h	H		7			1.9	1.8	0.6	0.8	-98976.171	42734.078	85.529
3577	D	M 3 d	VIII	F	S h			7			1.2	1.4	0.4	0.6	-98976.139	42734.107	85.539
3583	D	M 3 d	VIII	C h	S h	B		7			0.9	1.2	0.3	0.2	-98976.732	42734.430	85.593
3615	D	M 4 a	VIII	F	S h	H		8			2.4	3.2	0.7	4.9	-98982.050	42730.486	85.510
3618	D	L 4 b	VIII	F	S h	F		8			2.8	2.1	1.1	6.4	-98982.794	42729.504	85.521
3652	D	M 3 a	VIII	F	S h						2.8	3.4	0.7	4.4	-98974.322	42734.387	85.490
3654	D	M 3 a	VIII	F	S h	G		7			2.3	1.7	0.6	2.1	-98973.405	42732.847	85.374
3657	D	M 3 c	VIII	F	S h	B		7			2.4	1.4	0.4	0.9	-98977.427	42735.316	85.524
3658	D	M 3 c	VIII	F	S h	B		7			3.2	1.8	0.7	4.5	-98977.606	42735.045	85.496
3673	D	O 1 c	VIII	F	C he						1.1	2.4	0.4	0.8	-98955.781	42758.022	85.698
5013	C	G11d	VIII	F	S h						2	3.5	0.8	3.3	-99057.400	42672.900	84.332
5017	C	H10a	VIII	F	S h	B					3.5	3.2	0.9	7	-99041.600	42683.100	84.324
5056	C	H10b	VIII	F	S h	J					1.9	1.2	0.6	1.2	-99041.800	42689.000	84.633
5060	C		VIII	F	Holf												

第31図 VI層A・D区遺構及び遺物分布図



第32図 VI層B・C区遺構及び遺物分布図





第33図 VI層石器ブロック分布図

第9表 石器ブロック別石器組成表(3)

器種 ブロック	ナイフ 形石器	角錐状 石器	台形 石器	剥片 尖頭器	スクレ イバー	2次加 工剥片	剥片	碎片	石核	礫器	敲石	磨石	台石	計
ブロック10	3						110	25	5					143
ブロック11						1	116	40	7					164
ブロック12	3				5	1	28	2	1					40
ブロック13							70	10						80
ブロック14						2	55	3	5					65
ブロック15		1				2	38	5	2					48
ブロック16		2					29	7			1			39
ブロック17	1						33	10	1					45
ブロック18	1					1	31							33
ブロック19		1					12	3	1					17
ブロック20							15							15
ブロック21							52	11	2		1			66
ブロック22						1	17	2	4					24
ブロック23	1						7							8
ブロック外	6	3	1	1	1	1	125	26	7	1	7	4	1	184
計	15	7	1	1	6	9	738	144	35	1	8	5	1	971

3 第Ⅲ文化層 -ML 2 -

第Ⅲ文化層では、石器ブロック14基、礫群6基、土坑1基、ピット3基の遺構を確認しており、遺物はVI a層～VI c層にかけて出土した。遺物のおもな出土層位はVI b層に集中している。VI c層の遺物はすべてVI c層直上での検出である。

(1) 遺構

1 石器ブロック

A区、D区での石器ブロックは11基認められた。第3節の基本的な捉え方でも述べたように、ここで石器ブロックは一部谷地形に沿って遺物が流れている可能性があり、石器集中ヶ所的な意味合いを含む。A区の南西側の斜面上に集中しており、D区の平坦面では散漫な状況である。

石器ブロック10

石器ブロック10はI5～I6グリッド周辺に分布し、V b層下部からVI b層で検出した。出土遺物総数は143点で、その内訳はナイフ形石器、石核、剥片、碎片である。石器ブロック内の接合資料が5点、石器ブロック10と他の石器ブロックとの接合資料が8点含まれる。接合資料の状況から一部の遺物はH6グリッド方向の微傾斜地に流れ込んでいると思われる。構成石材はほとんどが頁岩で占められ、他に黒曜石やホルンフェルスが僅かに含まれる。頁岩では母岩1と母岩7が中心である。

石器ブロック11

石器ブロック11は石器ブロック10の東に隣接し、I6グリッドの東側から西側にかけて分布しており、ブロックの中心はI6グリッドの東側にある。石器ブロック10と同様にH6グリッド方向に流れ込んでいるものと思われる。出土遺物総数は164点を数え、VI b層で検出した。主に黒曜石の剥片が中心である。石器ブロック内接合資料は4点、石器ブロック11と他の石器ブロックまたは石器ブロック外との接合資料は5点である。黒曜石以外の構成石材は、ホルンフェルスとチャートが含まれる。ホルンフェルスは母岩8である。

石器ブロック12

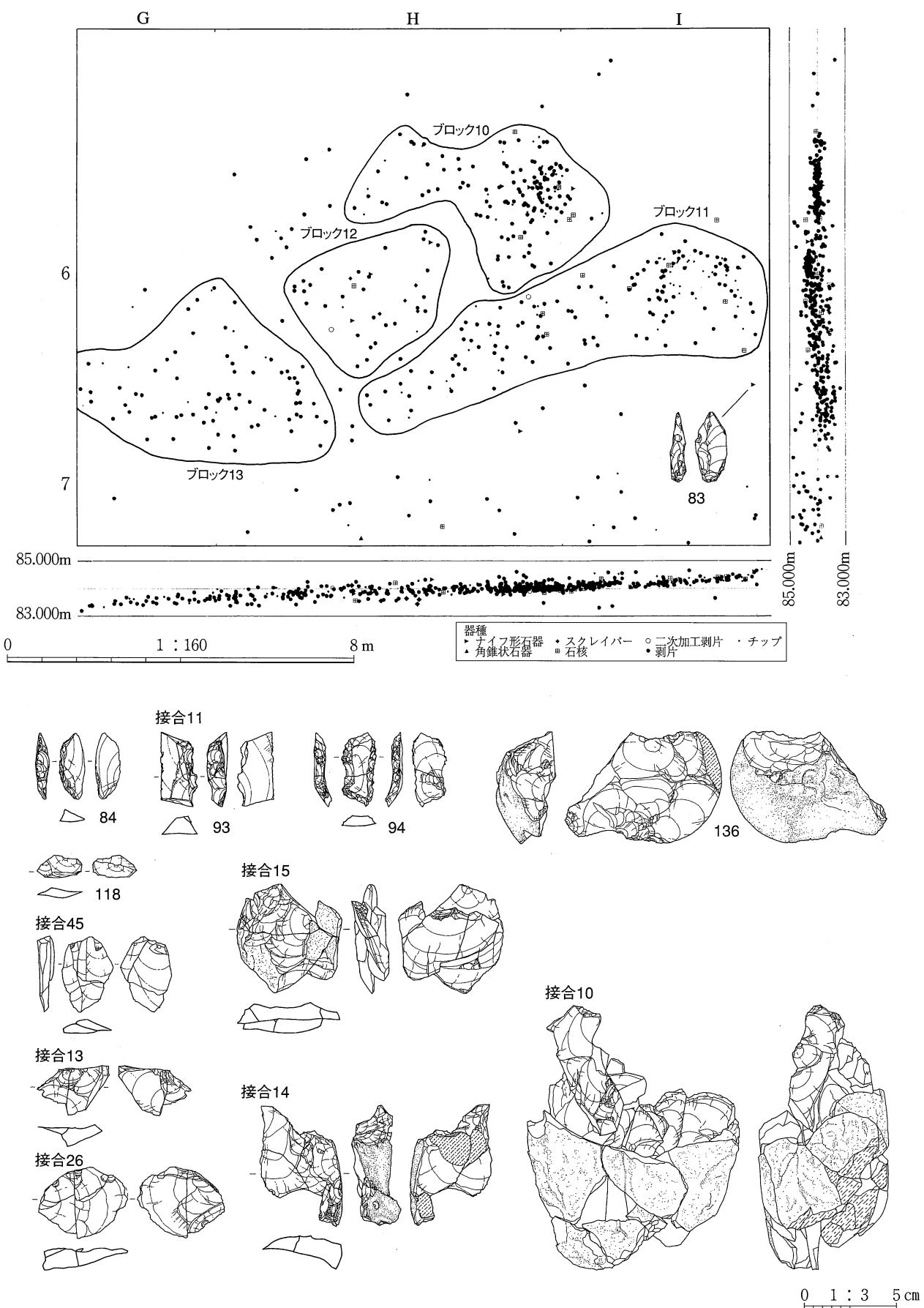
石器ブロック10の南西側に隣接し、H6グリッド周辺に分布する。第Ⅲ文化層で出土したスクレイパー6点のうち5点がこの石器ブロックで出土している。スクレイパー5点中4点はVI c層で検出した。ナイフ形石器は3点出土し、すべて流紋岩製である。ブロック内だけで接合する資料はないが、他の石器ブロックとの接合資料は5点である。構成石材は頁岩、黒曜石、ホルンフェルス、砂岩、流紋岩である。

石器ブロック13

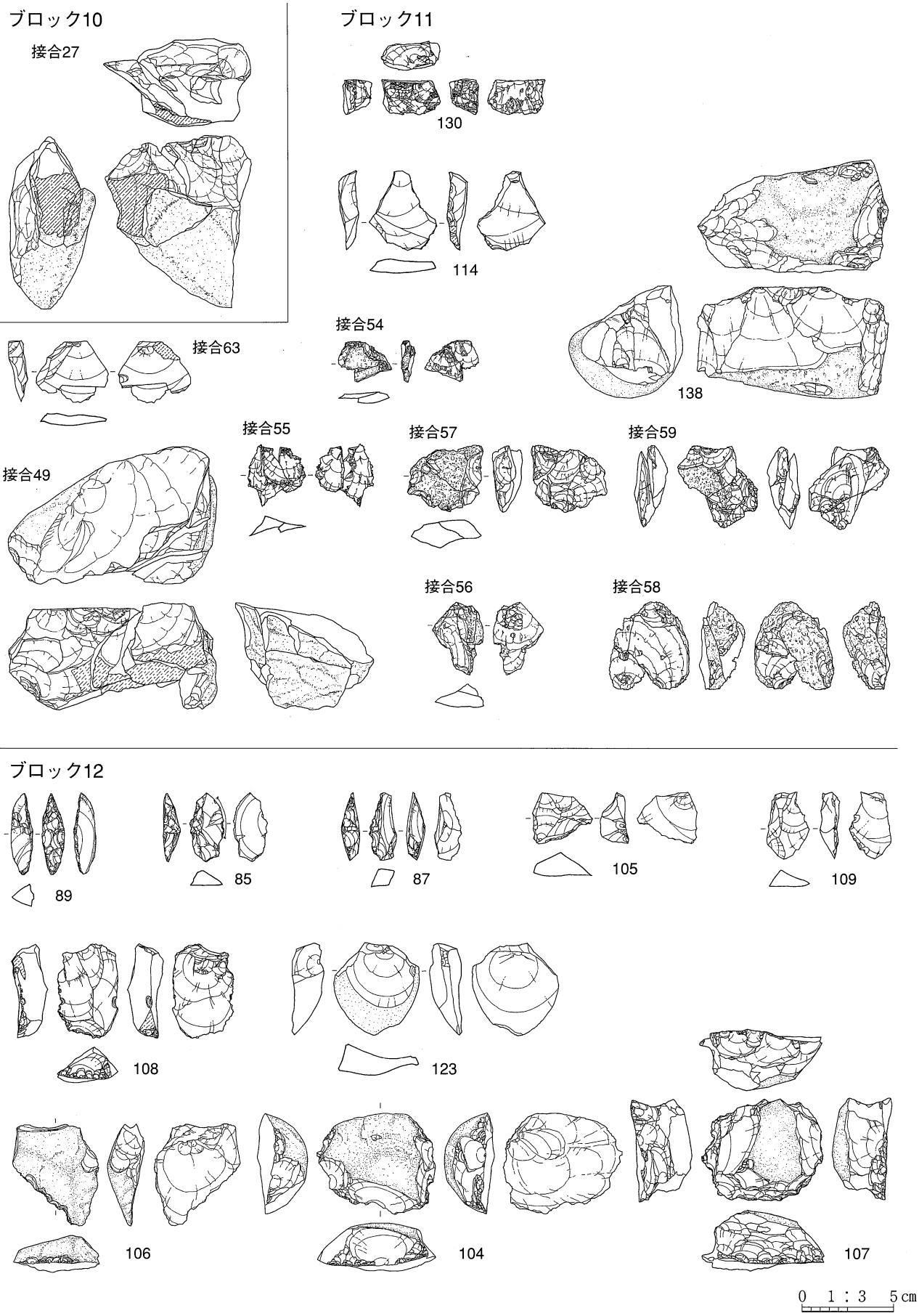
石器ブロック12の南西側に隣接し、H6グリッド中心に分布し、黒曜石の剥片を中心とするブロックである。ブロック内だけの接合資料はないが、他の石器ブロックとの接合資料は7点である。黒曜石以外の構成石材はホルンフェルス、チャート、頁岩が含まれる。

石器ブロック14

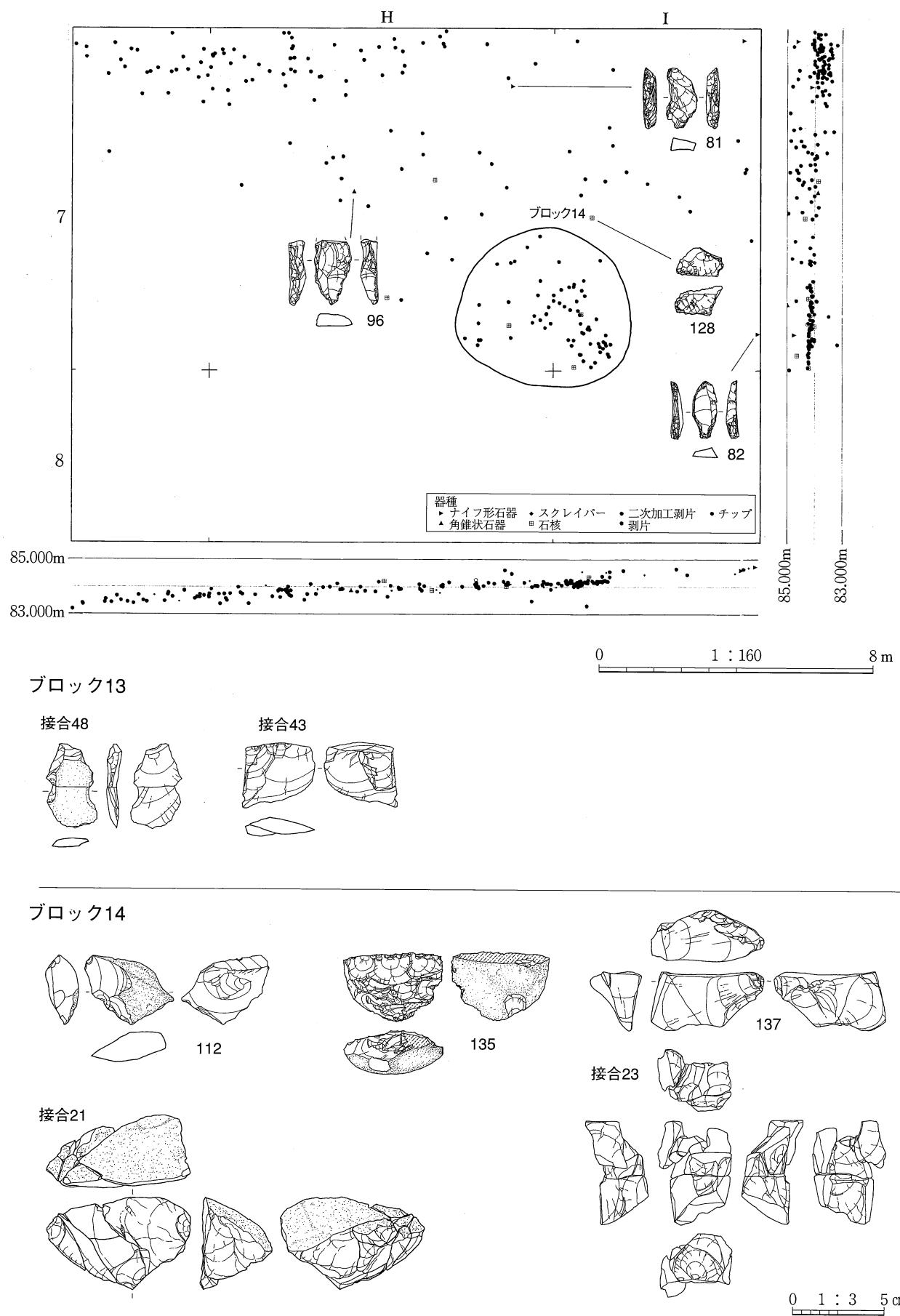
I7グリッドを中心に密集して分布する。頁岩2の石材を中心としたブロックで母岩2にあたる。同一母岩の二次加工剥片1点が出土しており、石器ブロック14外の北西側に母岩2の角錐状石器1点が出土している。接合資料はブロック内で2点を確認している。



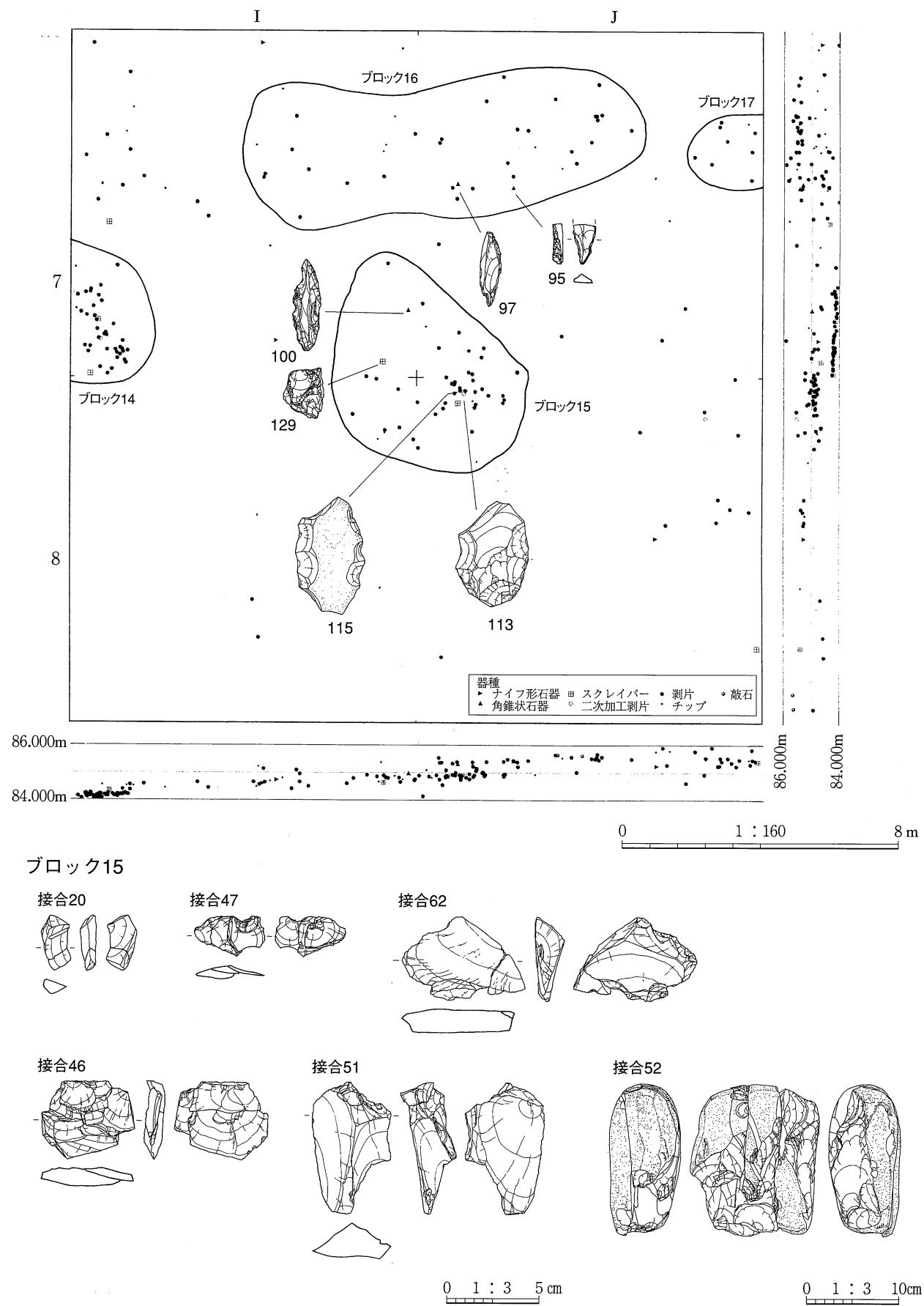
第34図 石器ブロック10~13分布図及び出土遺物



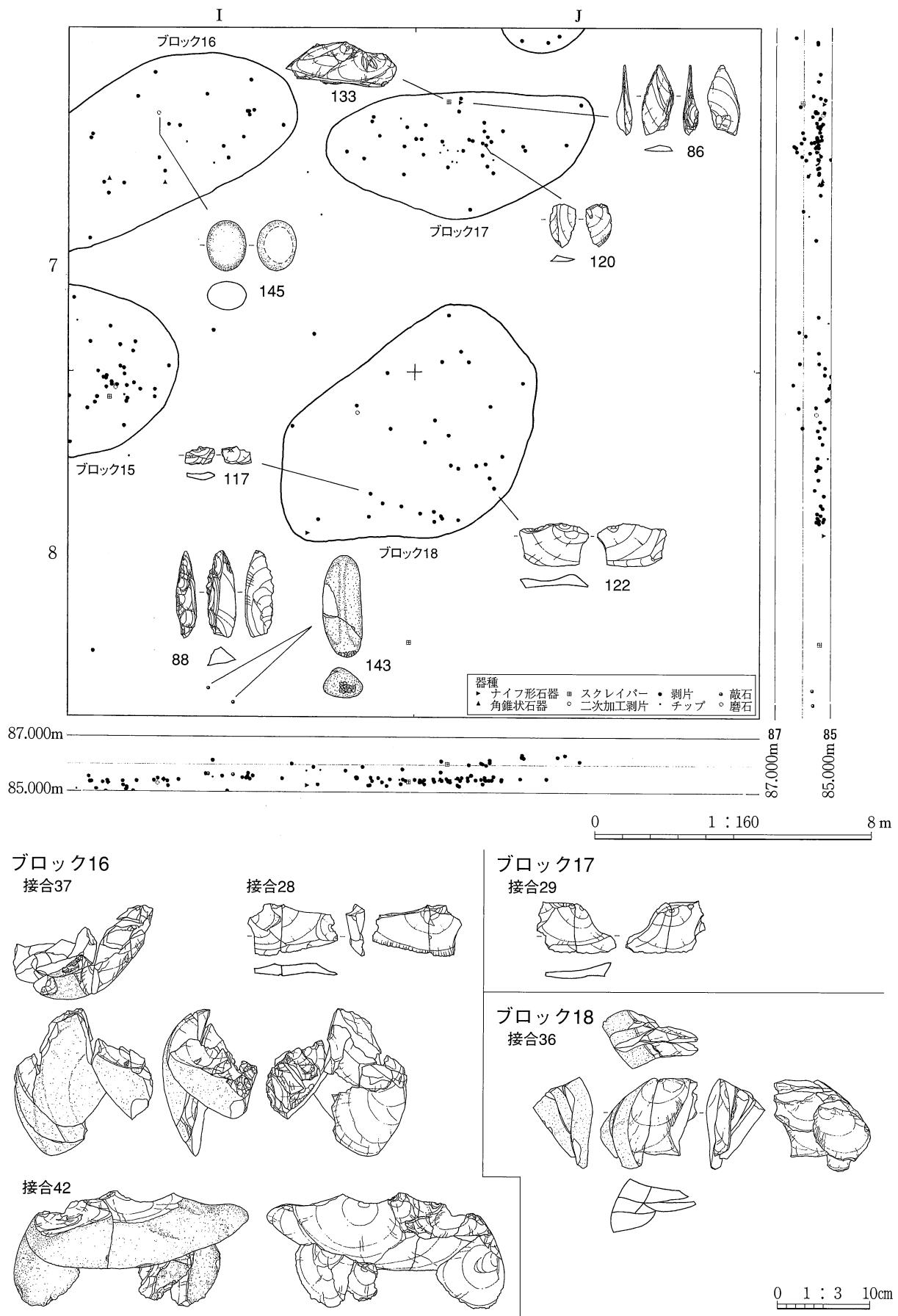
第35図 石器ブロック10～12出土遺物



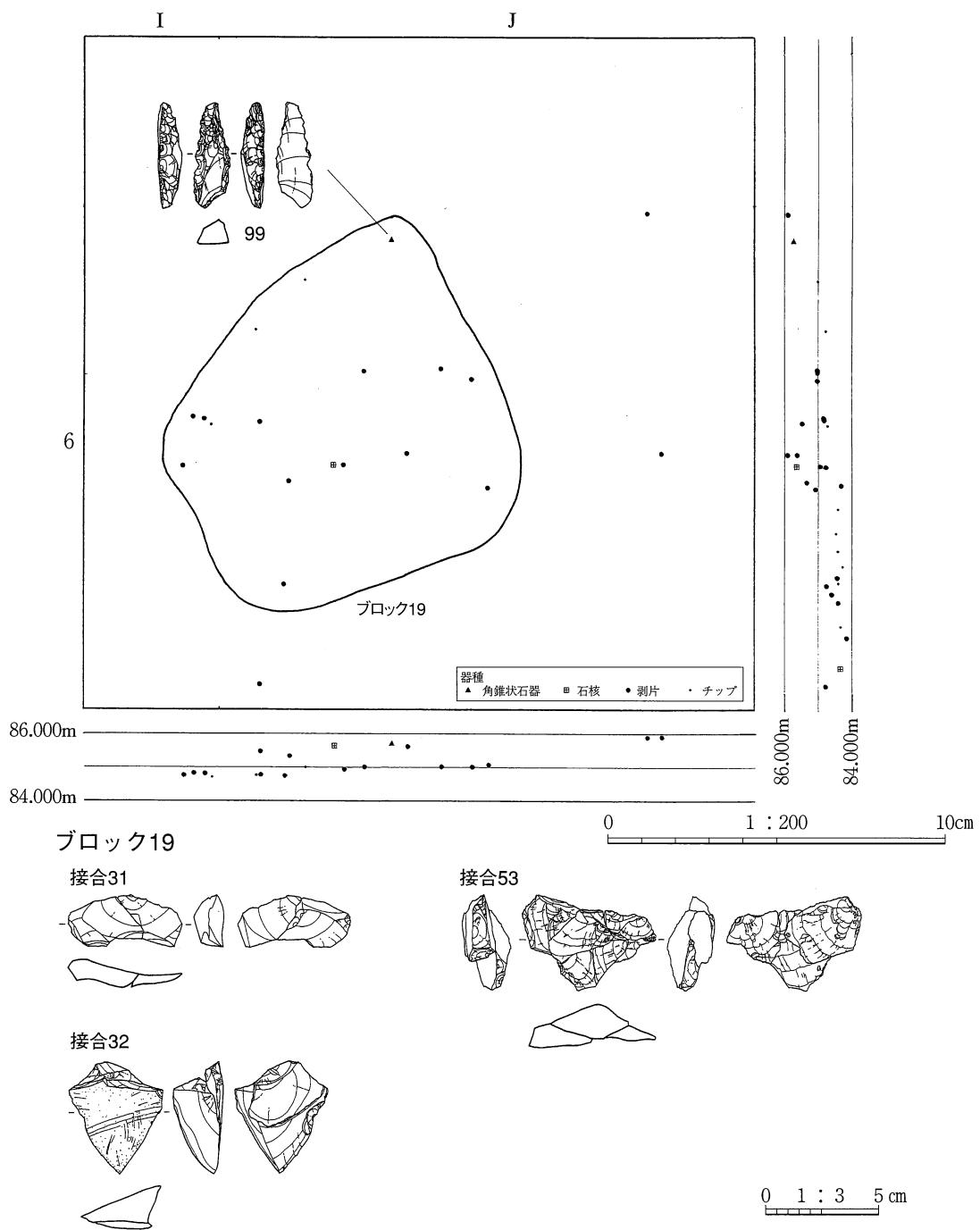
第36図 石器ブロック14分布図及び出土遺物



第37図 石器ブロック15～16分布図及び出土遺物



第38図 石器ブロック17~18分布図及び出土遺物



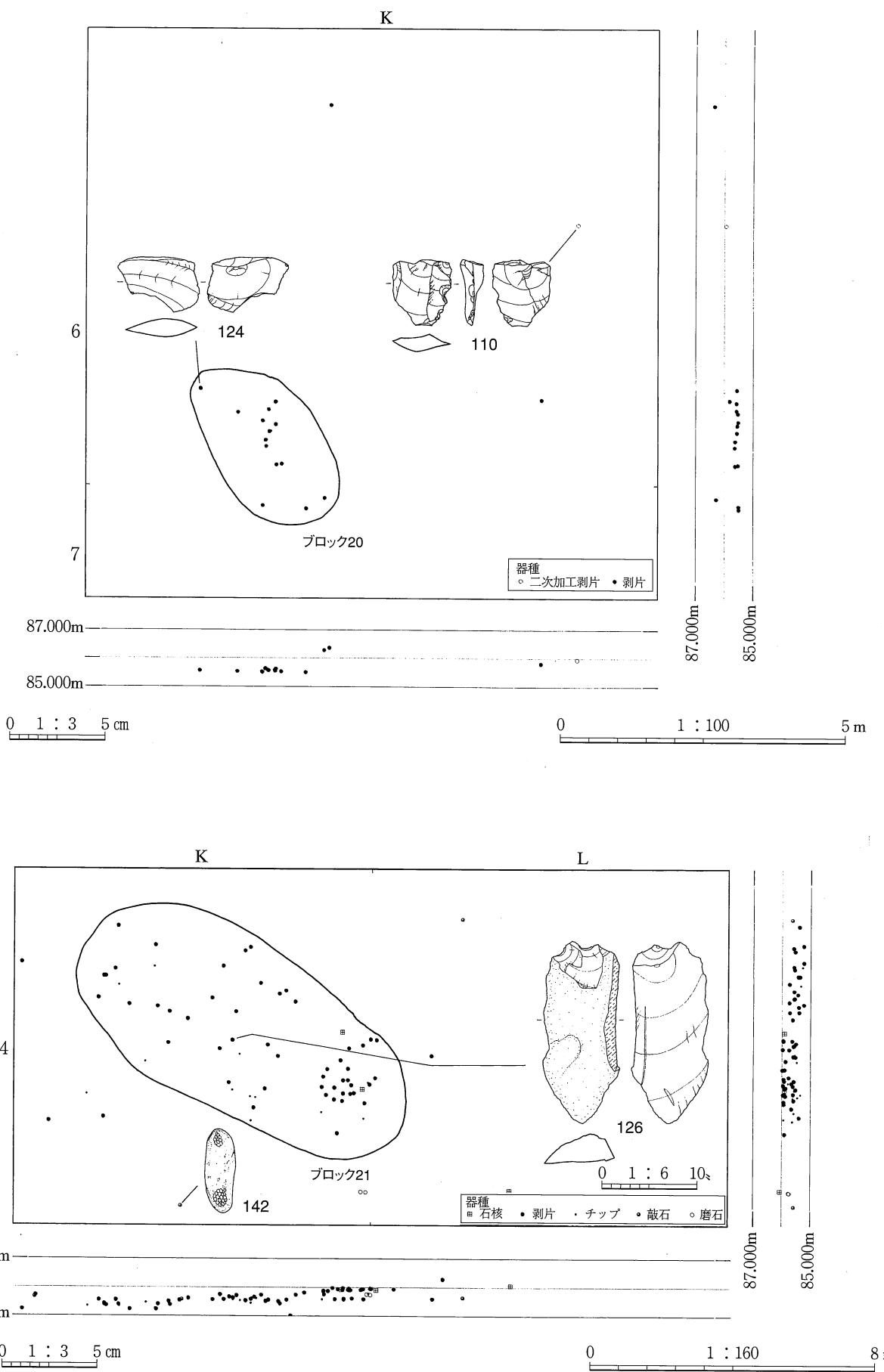
第39図 石器ブロック19分布図及び出土遺物

石器ブロック15

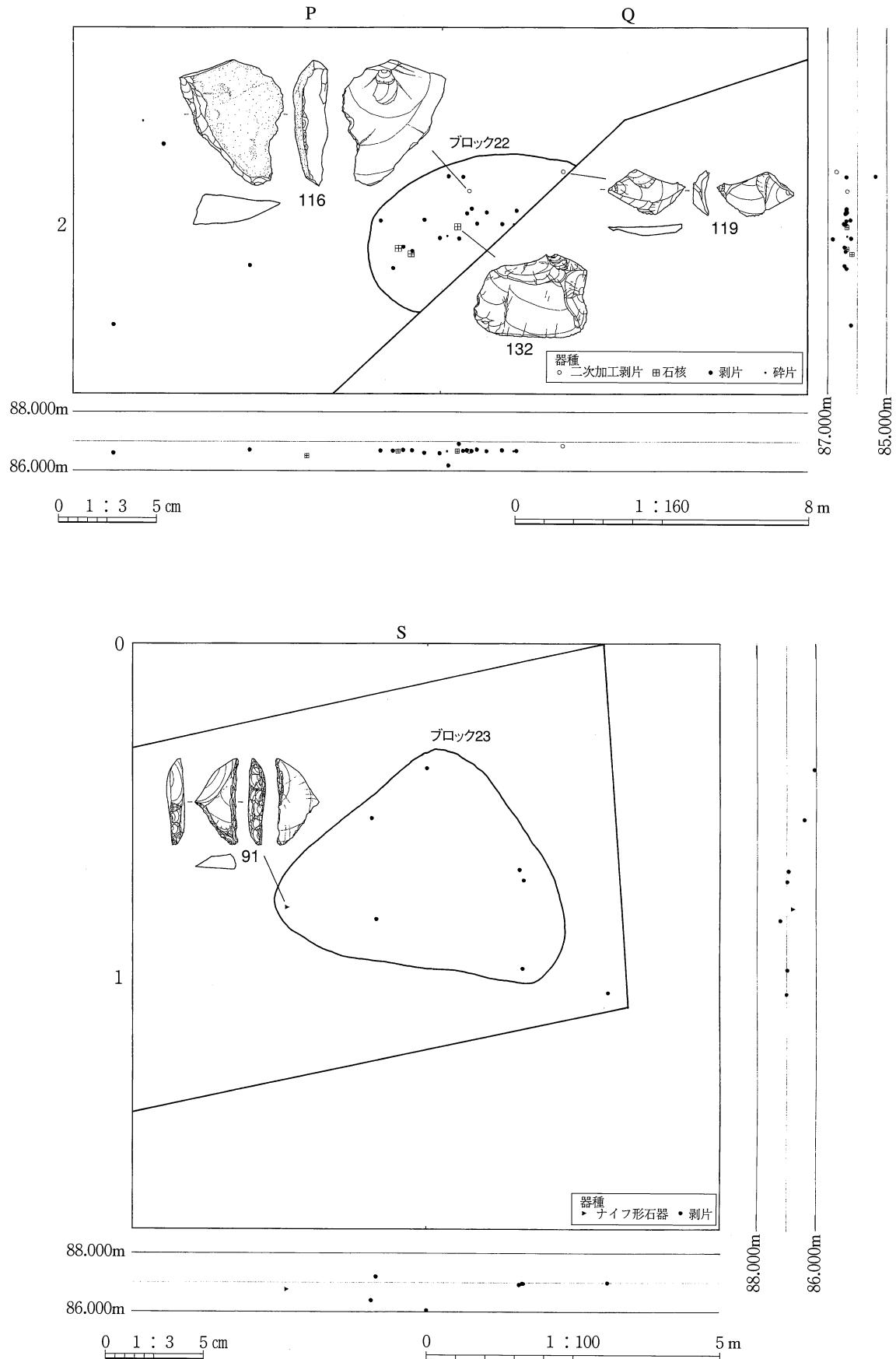
J7グリッドを中心に密集して分布する。流紋岩製の角錐状石器1点と二次加工剥片2点とホルンフェルス製の接合資料が中心である。接合資料はブロック内接合が3点とブロック内とブロック外の接合が4点含まれる。石材はホルンフェルスが中心である。

石器ブロック16

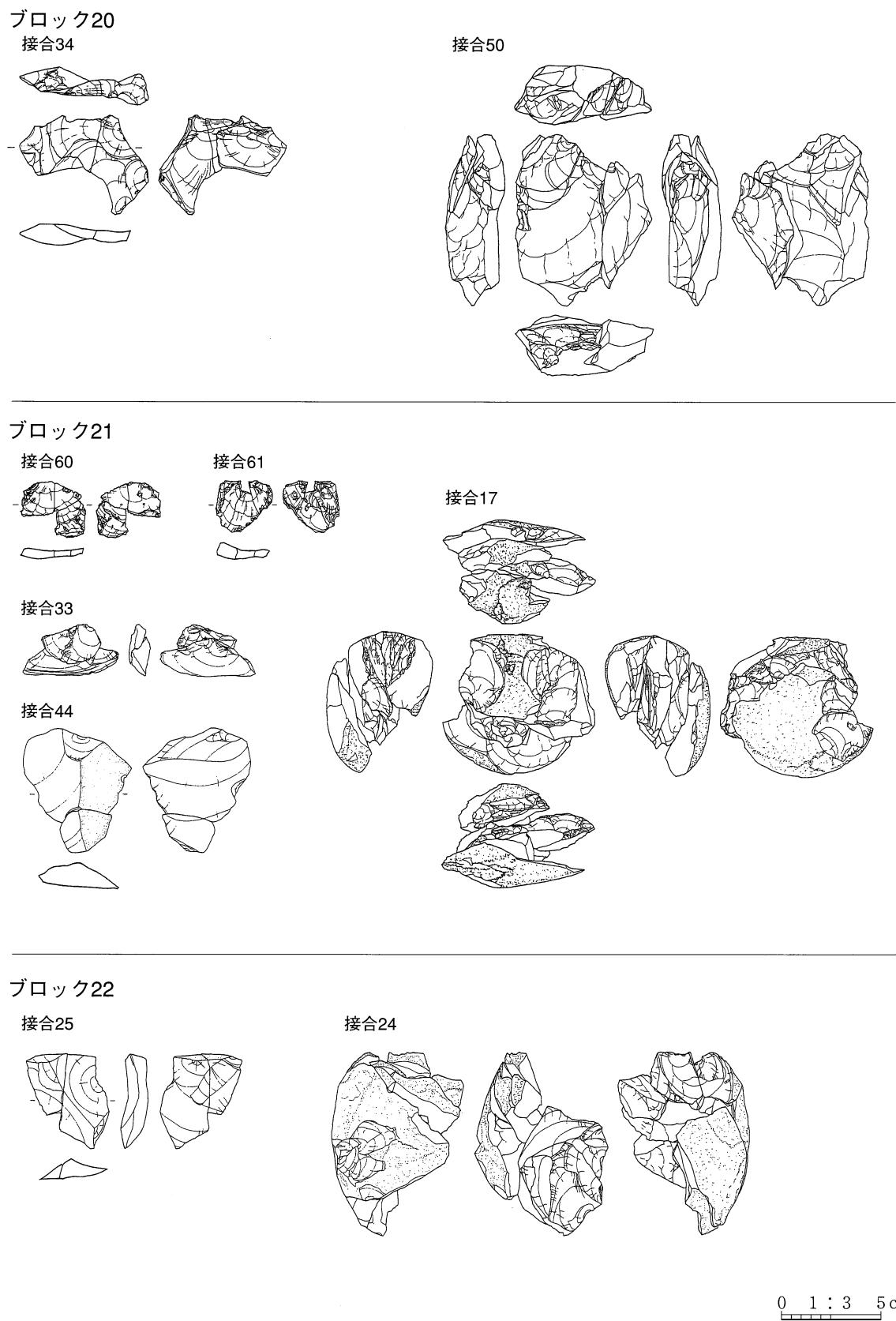
I6グリッド～J6グリッドにかけて散漫に分布する。流紋岩を中心としたブロックである。流紋岩である母岩3の接合資料8点と、ホルンフェルスの接合資料2点が含まれる。



第40図 石器ブロック20~21分布図及び出土遺物



第41図 石器ブロック22～23分布図及び出土遺物



第42図 石器 ブロック20～22出土遺物

石器ブロック17

石器ブロック16の東側に位置し、K6グリッドの南に分布する。流紋岩製のナイフ形石器1点を含む母岩3を中心とする石器ブロックである。石器ブロック17に関わる接合資料が7点含まれる。

石器ブロック18

K7グリッド付近に散漫に分布し、調査区東壁に位置する。母岩の流紋岩を中心とするブロックである。個体の異なる流紋岩のナイフ形石器1点と二次加工剥片が出土している。石器ブロック18に関わる接合資料は7点あり、ホルンフェルスの接合資料36の剥片1点を含む。

石器ブロック19

J5グリッド～J6グリッドにかけて分布し、石器ブロック16の北側に位置する。頁岩の角錐状石器1点、を含む出土総数は17点である。黒曜石の接合資料1点を含む。

石器ブロック20

K6グリッドの東側に位置し、密集して分布する。出土総数14点はすべて剥片で構成され、流紋岩、黒曜石、ホルンフェルスの石材で構成されている。母岩3の接合資料が3点、ホルンフェルスの接合資料が1点含まれる。どちらも他ブロックとの接合関係をもつ。

石器ブロック21

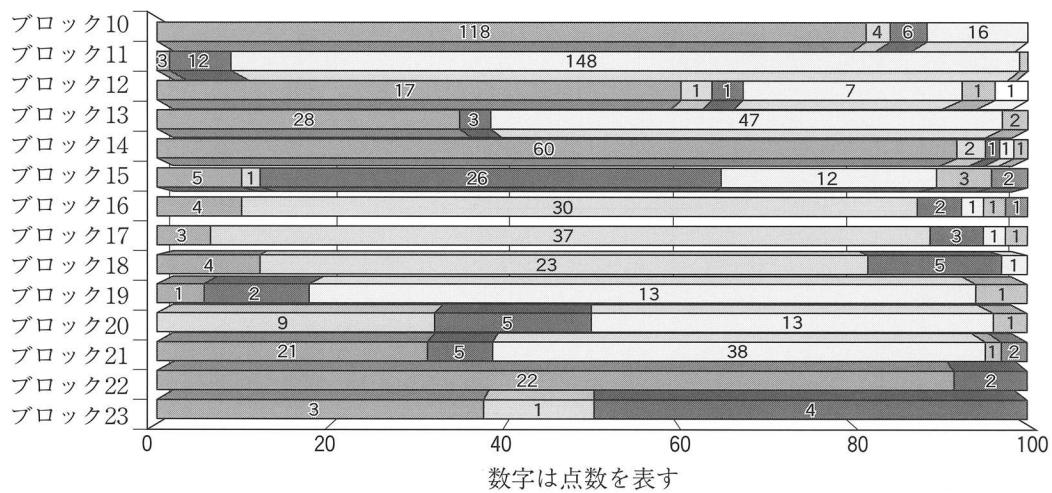
K3グリッド～L4グリッドの範囲に位置し、L4グリッド北側に密集して分布する。主に頁岩と黒曜石の石材で構成され、出土遺物総数は66点である。頁岩は母岩6の接合資料で構成されており、石器ブロック内接合の黒曜石接合資料2点を含む。

石器ブロック22

Q1グリッド～Q2グリッドの調査区南東壁にかけて分布する。頁岩製による母岩5の接合資料2点を中心とする石器ブロックである。頁岩の他にはホルンフェルスの剥片が出土している。

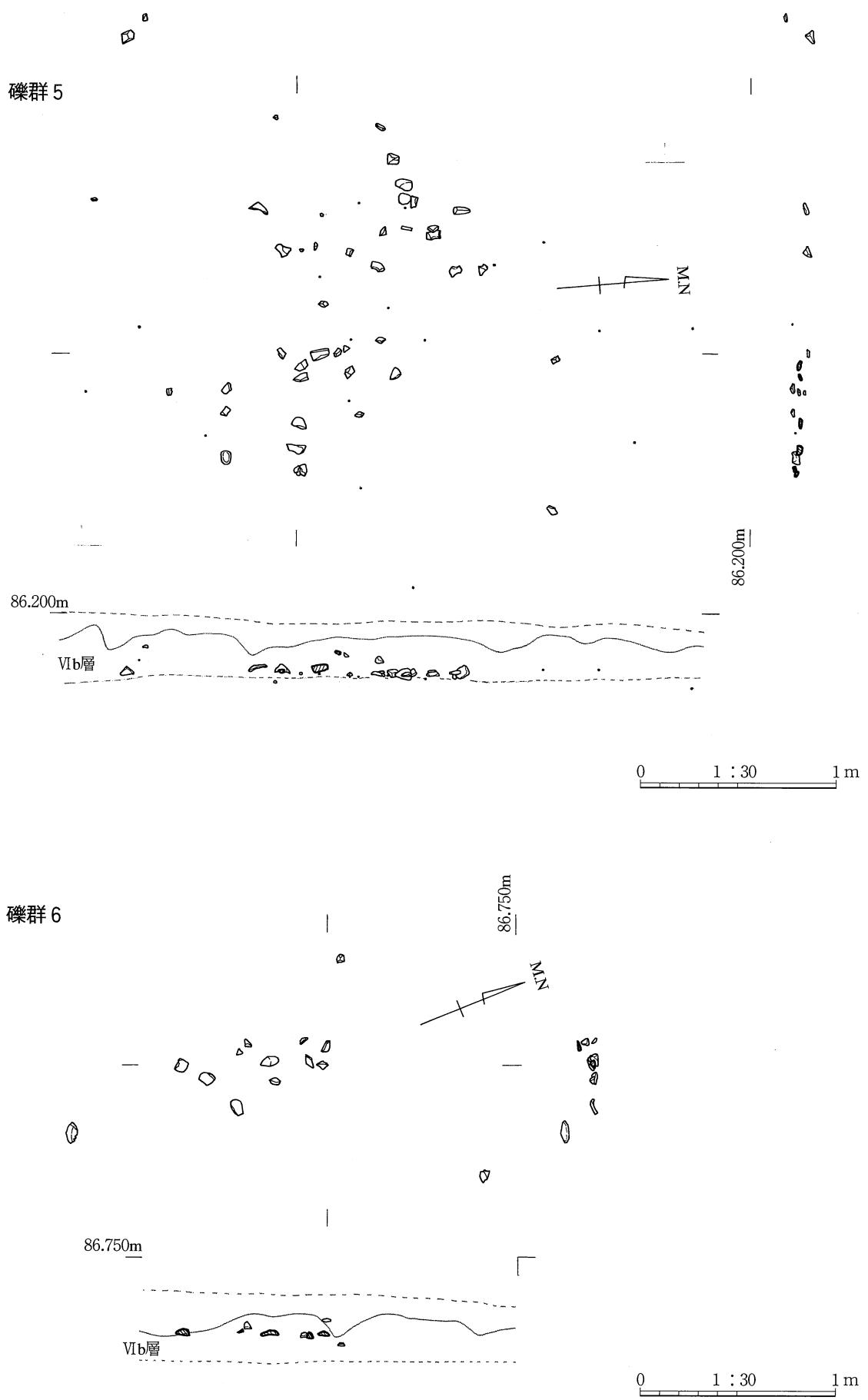
石器ブロック23

調査区の最北東端に位置し、S0グリッド～T1グリッドにかけて散漫に分布する。ナイフ形石器1点と剥片7点で構成されており、石材は流紋岩のナイフ形石器の他はホルンフェルスと頁岩のみの剥片である。

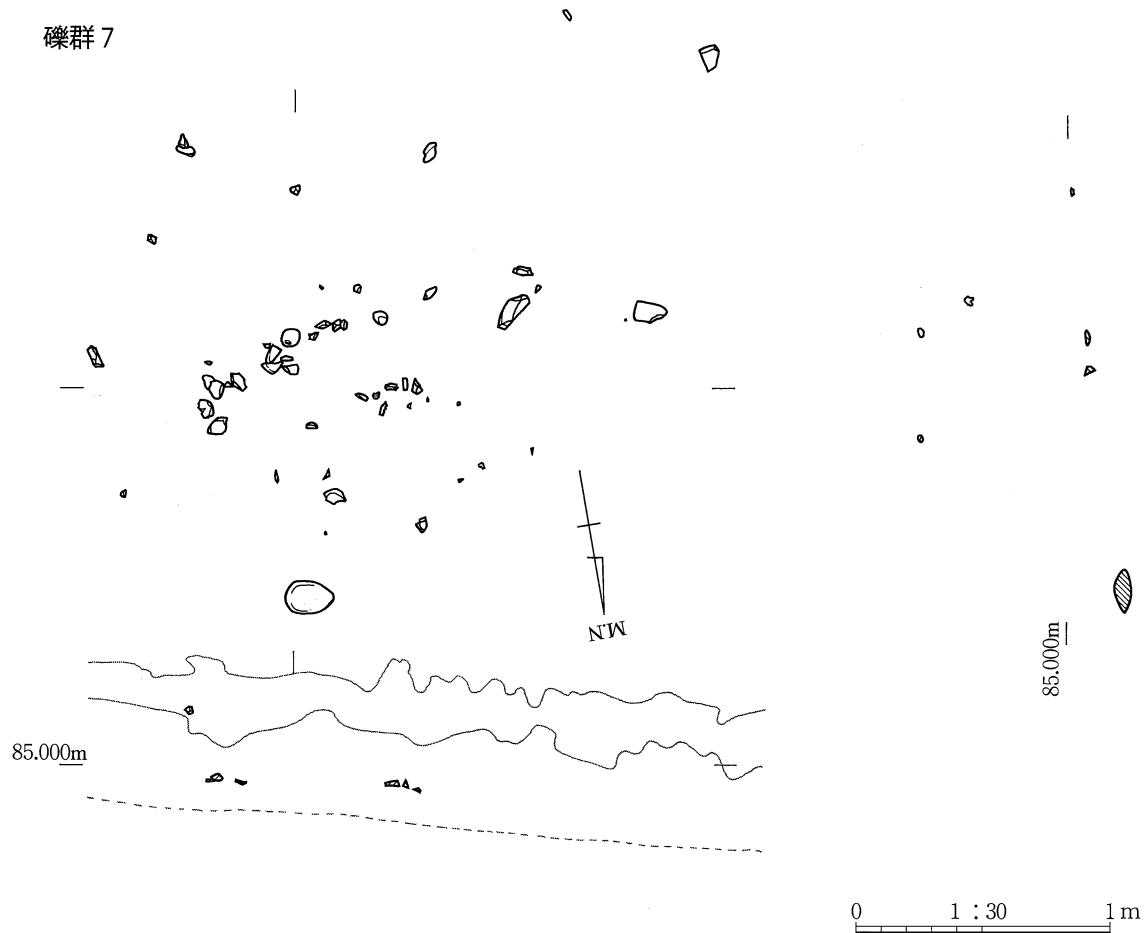


石材
■ 頁岩 ■ 流紋岩 ■ ホルンフェルス ■ 黒曜石 ■ 砂岩 □ チャート ■ その他

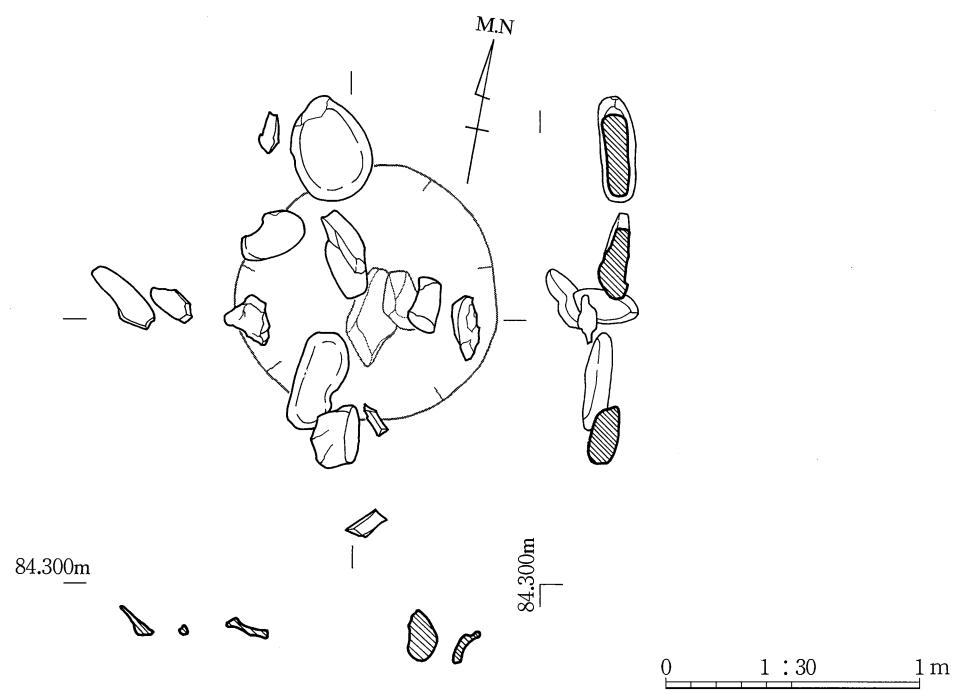
第43図 石器ブロック10～23石材別グラフ



礫群7



礫群8



第45図 磕群7 及び磕群8 実測図

礫群

礫群はA区、C区、D区より8基確認され、すべてVI b層中で検出された。A区、D区の礫群は石器を伴っている特徴を示し、破損礫が目立つ。C区の礫群は個体数が少なく、完形礫が多い。

礫群5（第44図）

L4グリッド周辺の約3.3m×約2.4mの範囲に散在しており、石器18点、礫44点で構成されている。礫群の総重量は3585.5 gで平均重量は81.5 gを示す。赤化率は23%で砂岩の被熱率が高い。炭化物等は検出されていない。礫群内での接合率は砂岩が比較的高く57%を示す。石器の内訳は、石核2点、剥片15点、碎片1点で構成石材は珪質頁岩2の母岩6、黒曜石、ホルンフェルスを中心である。礫群1と石器ブロック19が重複する。

礫群6（第44図）

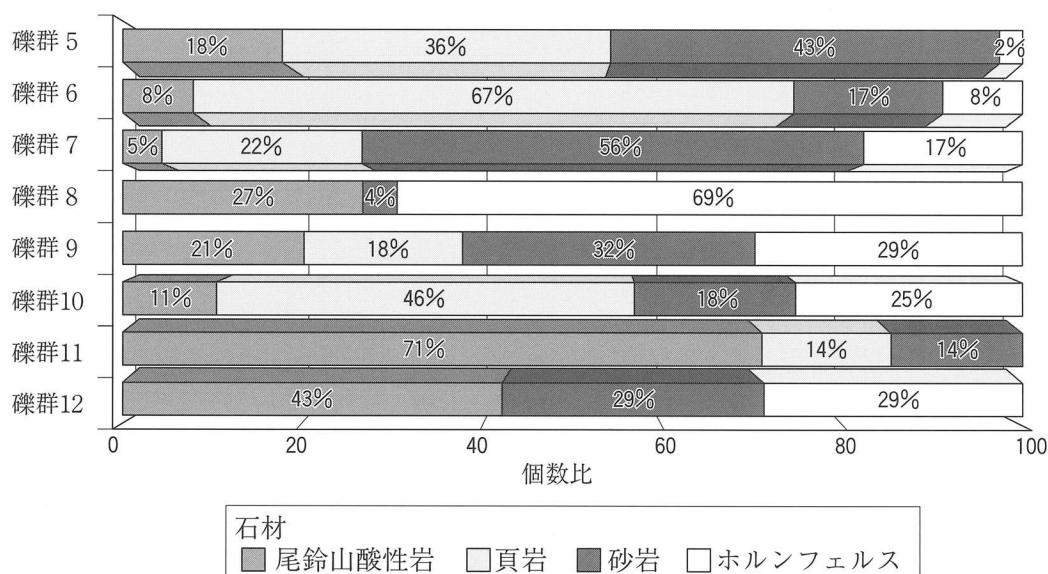
礫群5の南側に隣接し、1.0m×0.7mの範囲に石器2点、礫12点で構成された小規模の礫群である。礫総重量は1,186 gで平均重量は98.8 gである。被熱による赤化率は50%である。礫接合では頁岩の接合率が高い。一部礫群5の礫と接合する。石器は砂岩製磨石（第64図144）の破損礫2点で接合する。

礫群7（第45図）

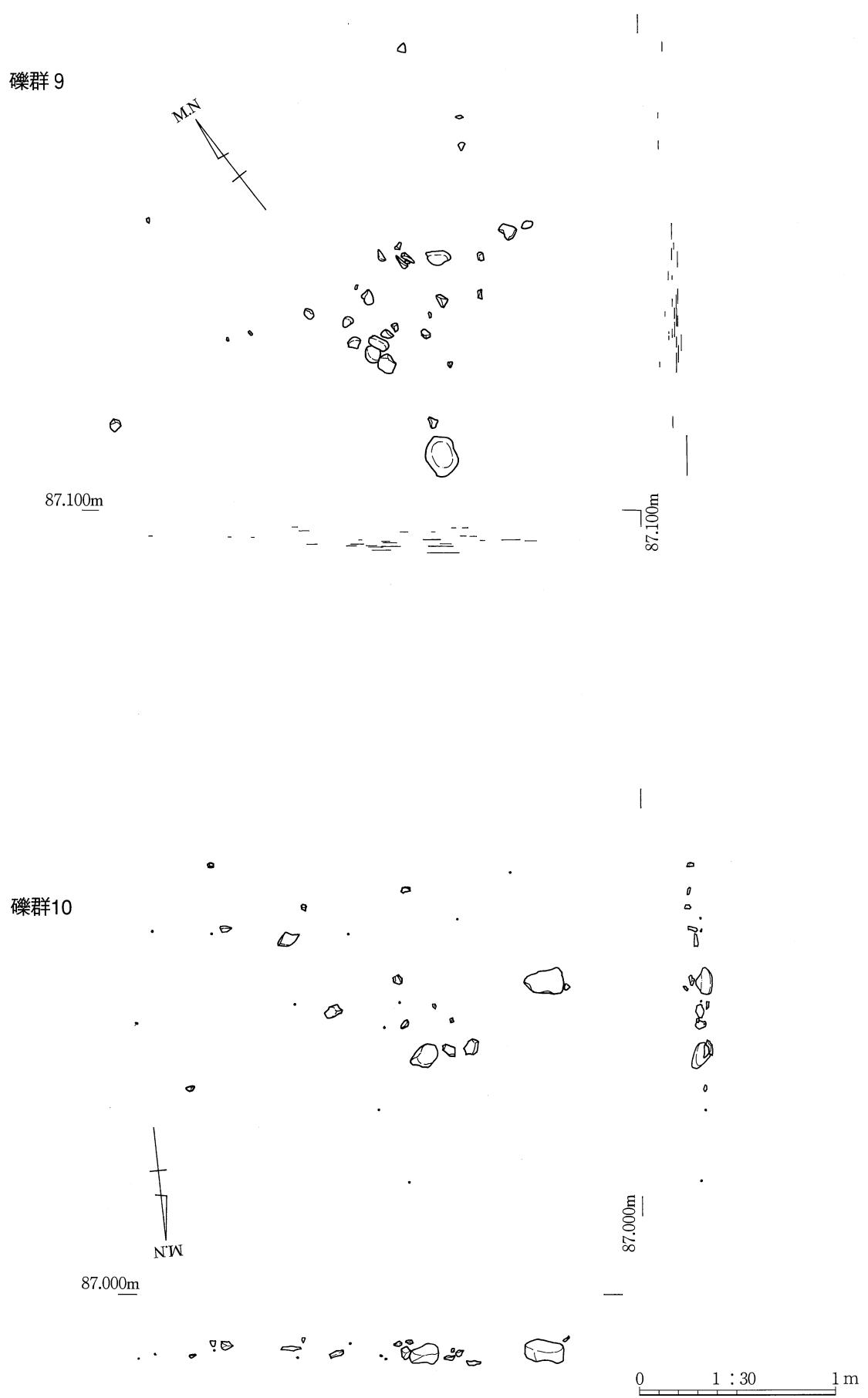
I7グリッド周辺に位置し、3.5m×2.2mの範囲のやや東よりに偏在する。石器30点、礫42点で構成される。石器はホルンフェルスがほとんどで、母岩4（接合50, 51）を中心としたブロック15と重複する。礫総重量は6,534 gで平均重量は155.6 gである。被熱による赤化はあまりみられない。礫の接合率は45%である。

礫群8（第45図）

A区南西側、H8グリッド周辺に位置し、2.0m×1.7mの範囲にする分布する巨礫群である。石器は認められず礫26点で構成される。礫総重量は130,037 gで平均重量は5001.4 gを示す。被熱による赤化は認められない。この礫群4より約10cm下位のVI c層上面より、土坑が検出された。土坑については次項に示す。



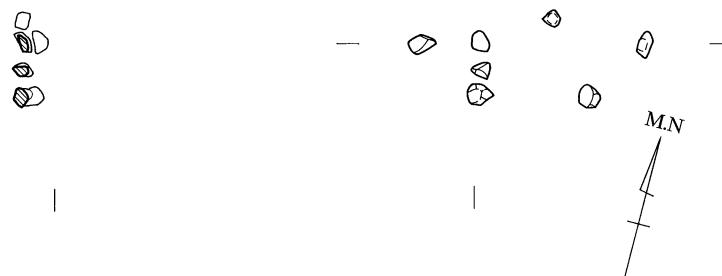
第46図 磕群石材別グラフ(1)



第47図 磯群9 及び磯群10実測図

84.500m

礫群11



84.500m

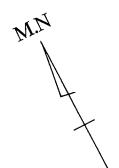
0

1 : 20

1 m

84.000m

礫群12



84.000m

第48図 磫群11及び礫群12実測図

礫群9（第47図）

D区のS0～T0グリッド周辺に位置し、2.5m×1.8mの範囲に分布する。石器2点、礫33点で構成される。総重量は10732.7gで平均重量は315.7gである。10g以下の小礫片が9点含まれる。礫群の集中か所よりやや南に重量6400gの尾鈴山酸性岩の礫が鎮座している。礫の被熱による赤化は認められない。礫群内の接合率は23.5%すべて砂岩である。砂岩だけの接合率では72.7%を示す。石器は母岩5の頁岩2とホルンフェルスを含む。

礫群10（第47図）

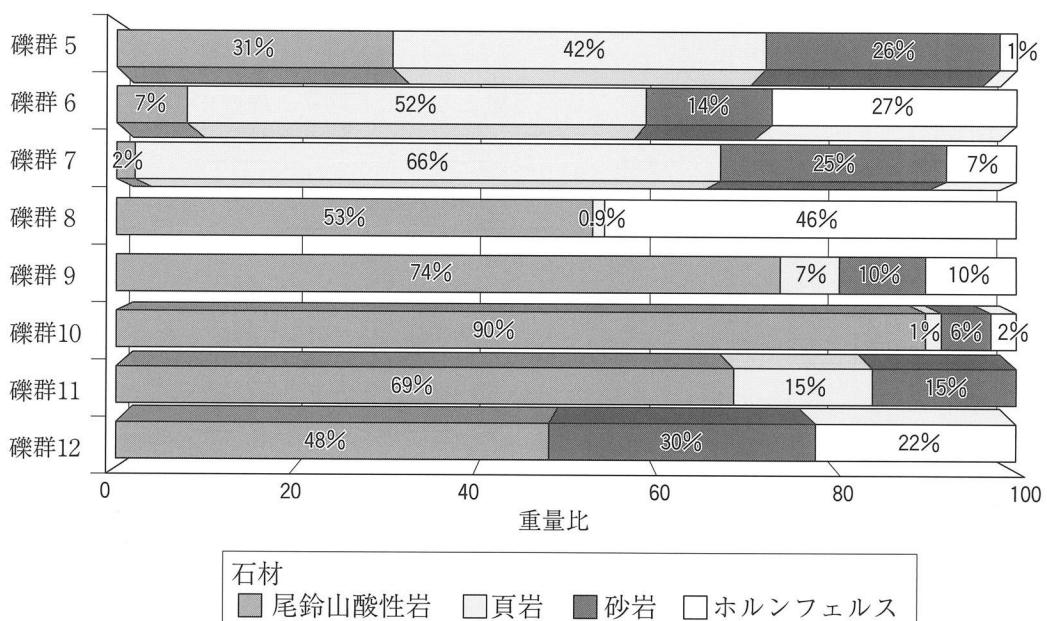
D区のP1～Q1グリッド周辺に位置し、2.5m×1.5mの範囲に分布する。石器11点、礫28点で構成される。礫28点中の13点は小礫片である。礫総重量は6,640.1gで平均重量は442.7gを示す。被熱による赤化は認められない。礫群内の接合率は46.7%であり、砂岩、ホルンフェルスの接合率はそれぞれ、40%と71.4%である。石器の構成は石核、2次加工剥片、剥片、碎片であり、母岩5の頁岩を中心とした石器ブロック20と重複する。

礫群11（第48図）

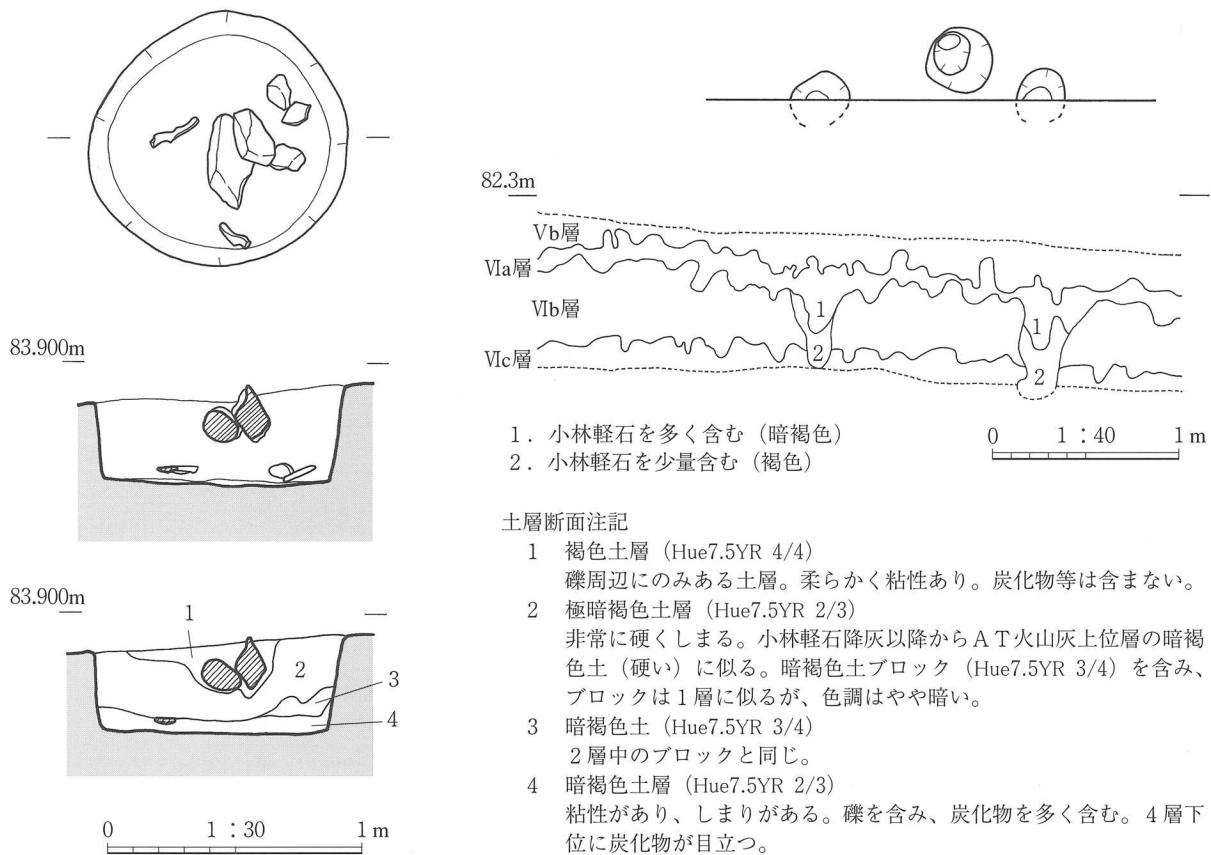
C区のG11グリッド周辺に位置し、1.2m×0.5mの範囲に分布する。石器は伴っておらず、礫7点より構成され、その石材は頁岩1点、砂岩1点、尾鈴山酸性岩5点である。炭化物、被熱による赤化した礫も認められない。総重量は1,077gで平均重量は153.9gを示す。尾鈴山酸性岩の礫はA区ほど大きくなく、拳大のものである。

礫群12（第48図）

C区のG10～G11グリッド周辺に位置し、2.6m×1.0mの範囲に分布する。石器は伴っておらず、礫7点で構成され、その石材は尾鈴山酸性岩3点、砂岩2点、ホルンフェルス2点である。被熱による赤化、炭化物等は確認されていない。総重量は3,406gで平均重量は486.6gを示す。

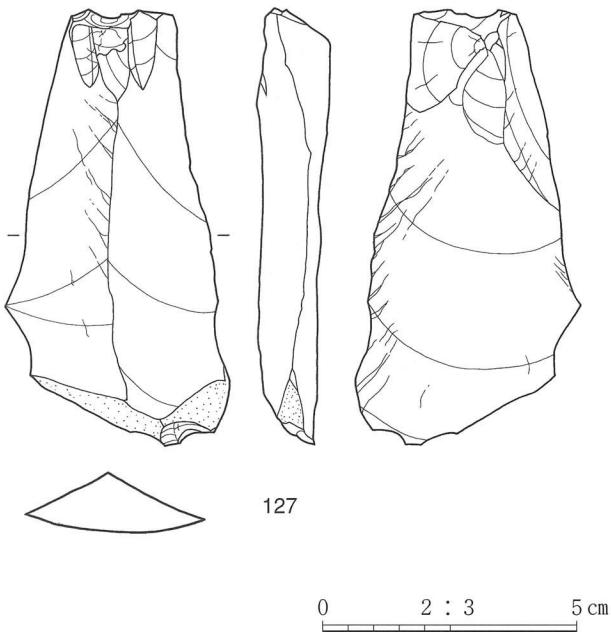


第49図 磕群石材別グラフ(2)



第50図 土坑1実測図及び断面図

第51図 ピット実測図及び土層断面図



第52図 土坑1内出土遺物実測図

土坑1

1.04m × 1.04m のほぼ円形に近いプランで VI c 層上面より検出される。埋土中の中心部よりやや大きめの礫が確認され、土坑底面より 4 点（うち 1 点は実測終了後壁面際で確認されたため図面に残されていない。）検出された。さらに底面壁際よりホルンフェルス製の剥片が 1 点出土している。掘り込みは VI c 層上面から AT 火山灰層を掘り抜き、Ⅷ層 (MB 2) の中位よりやや上部までみられる。掘り込みはほぼ垂直に掘られている。埋土は注記（第51図）にあるように極暗褐色から暗褐色の土層で VI b 層に酷似している。床面に近いほど炭化物粒（約 3 mm～5 mm 大）が増える。

土坑床面で検出した炭化物粒 2 点を自然科学分析した結果、 17600 ± 70 y BP (補正 ^{14}C 年代 17570 ± 70

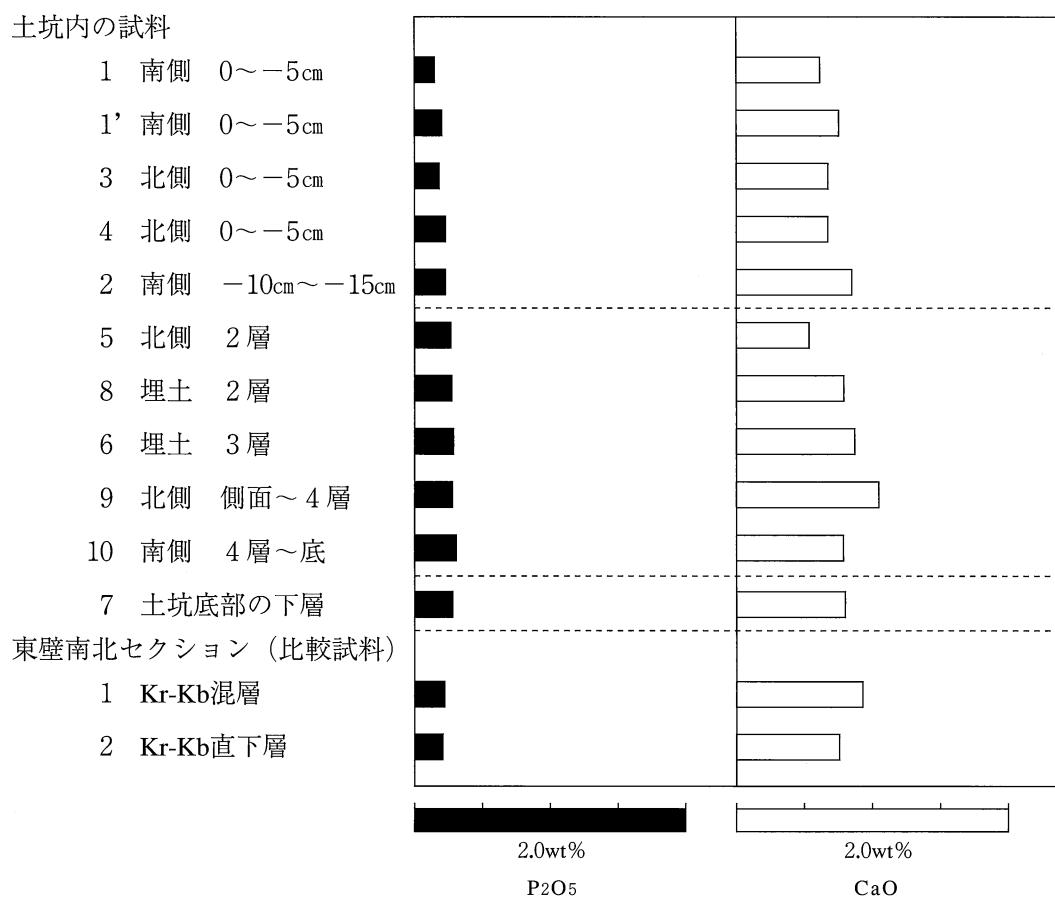
y BP) と 16380 ± 40 y BP (補正 ^{14}C 年代 16360 ± 40 y) の年代値がえられた。したがってこの土坑は検出した時期とほぼ一致する。

また、土坑におけるリン・カルシウム分析も同時に行い、土坑埋土下部のリン酸含有量は埋土上部と比較して1.4倍の相対的に高い値を得ている。A区東壁南北セクションの比較資料 (Kr-kb混層、直下層) とくらべても同様の相対的に高い値となっている。また、カルシウム含有量は埋土下部のほうが埋土上部より相対的にやや高い値を示す。この結果より、土坑の底部付近にはリン酸、カルシウムを多く含む生物遺存体が存在していた可能性が示唆される。

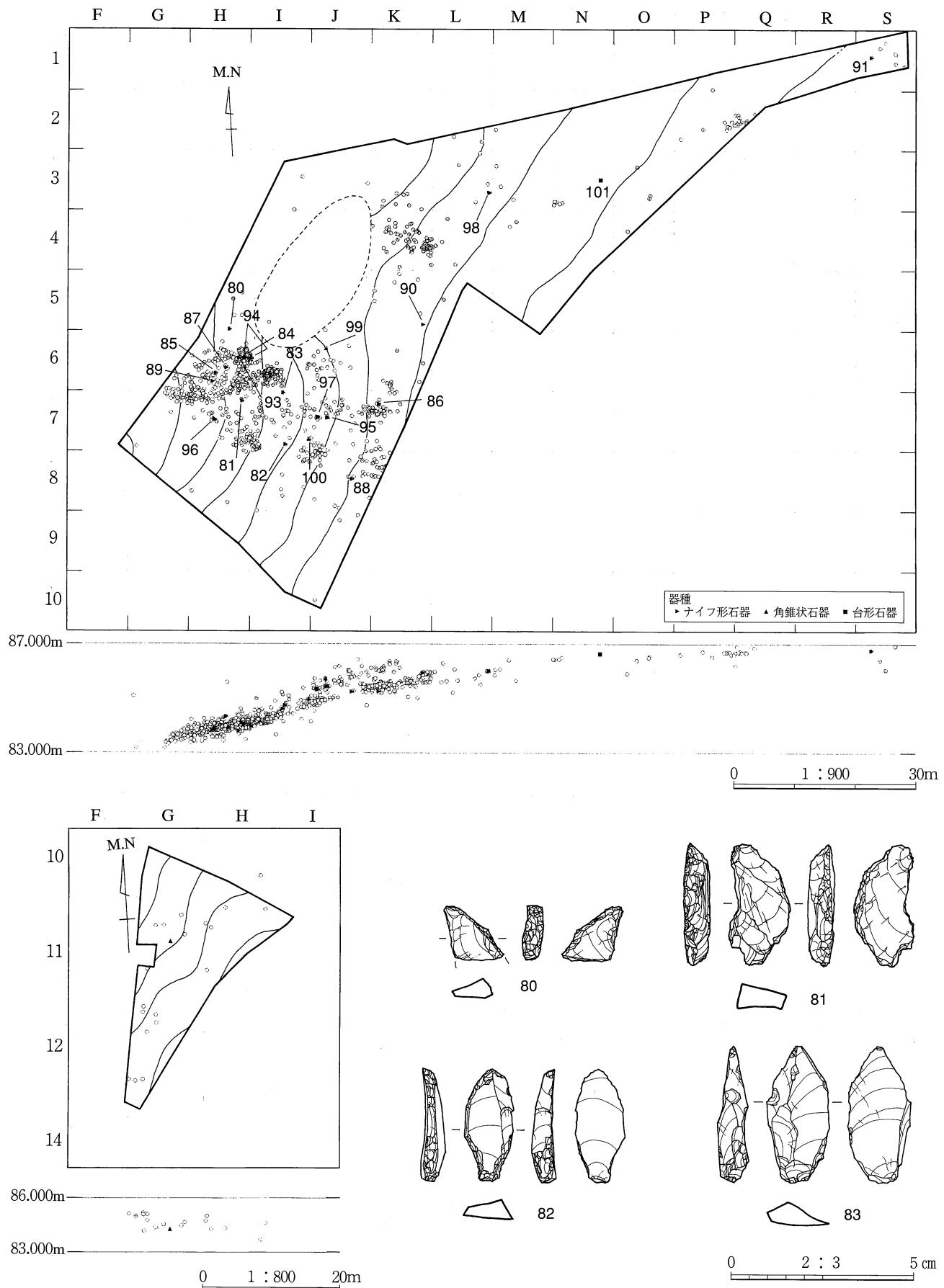
土坑内で確認した2次加工剥片は、打面近くより加擊し、裏面の右上部が剥離されている。また、正面の下縁右下に小さな剥離痕がみられる。

ピット (第51図)

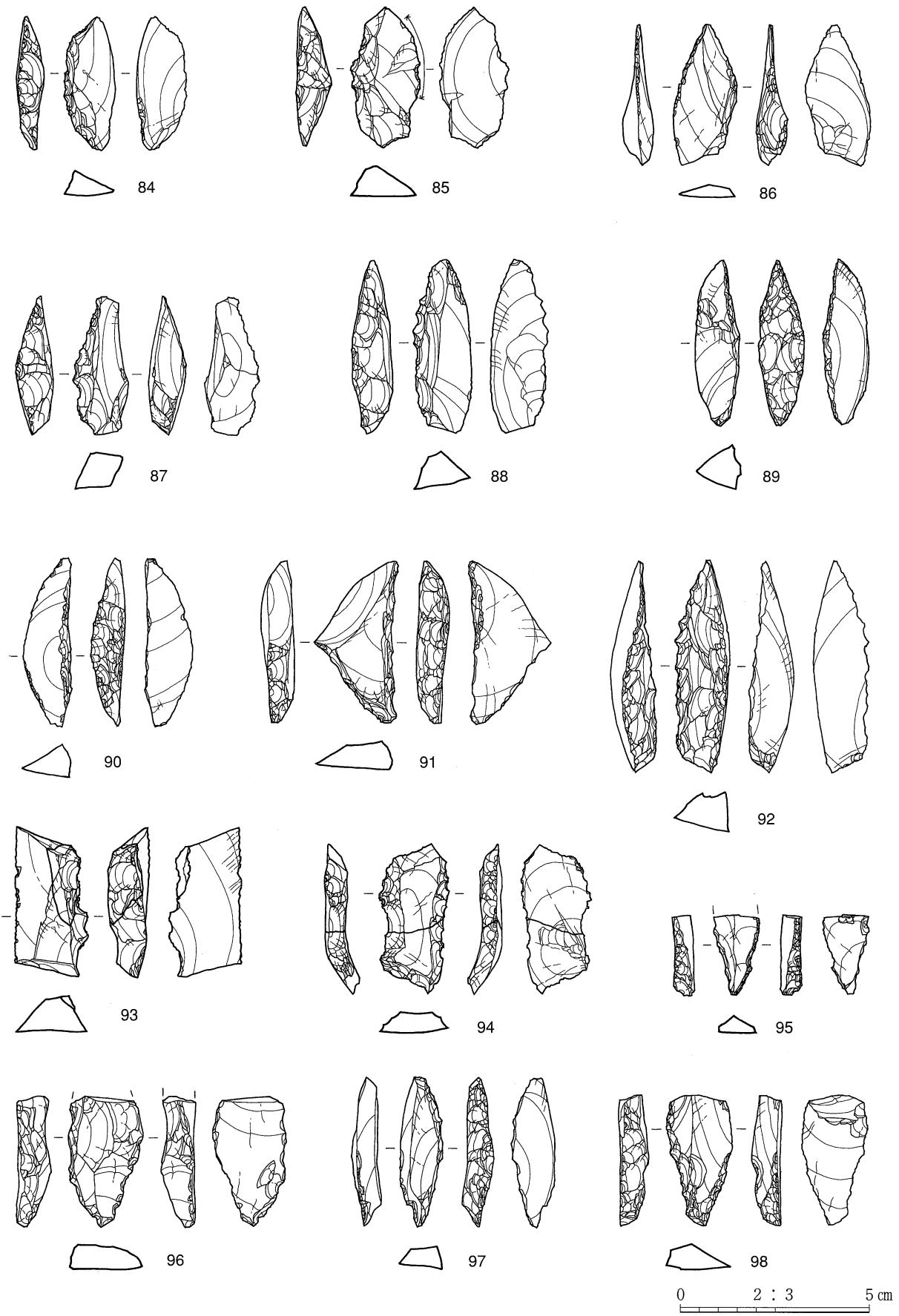
B区より検出される。後期旧石器面の調査を $10\text{m} \times 10\text{m}$ の25%掘り下げを行っていた際に、土層確認用のベルトより VI b 層を切り、VI c 層まで入り込んだ VI a 層 (主に小林軽石を含む層) を2カ所確認した。そのため、VI b 層上面まで注意深く精査を行った結果、2カ所に隣接してさらに1基を確認した。



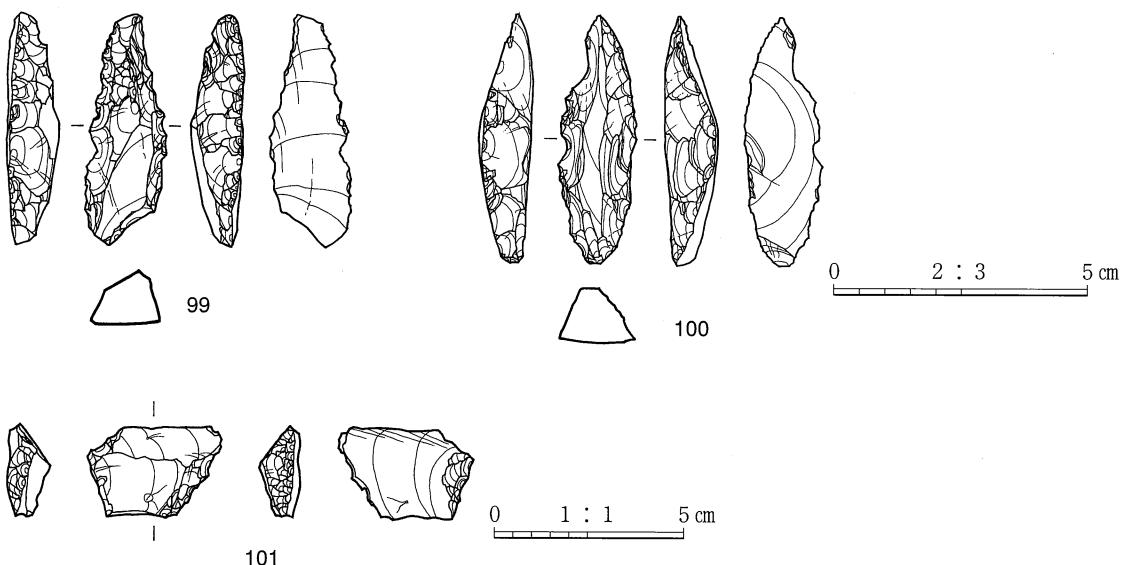
第53図 土坑1内リン・カルシウム含量グラフ



第54図 器種別分布図及び石器実測図(1)



第55図 石器実測図(7)



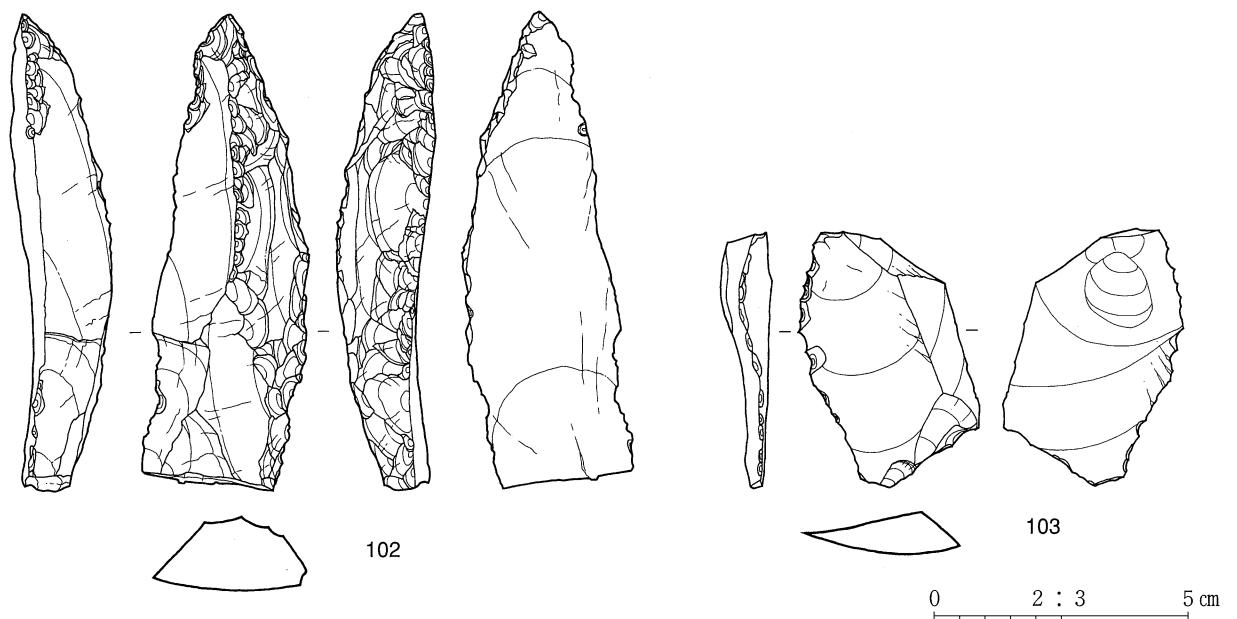
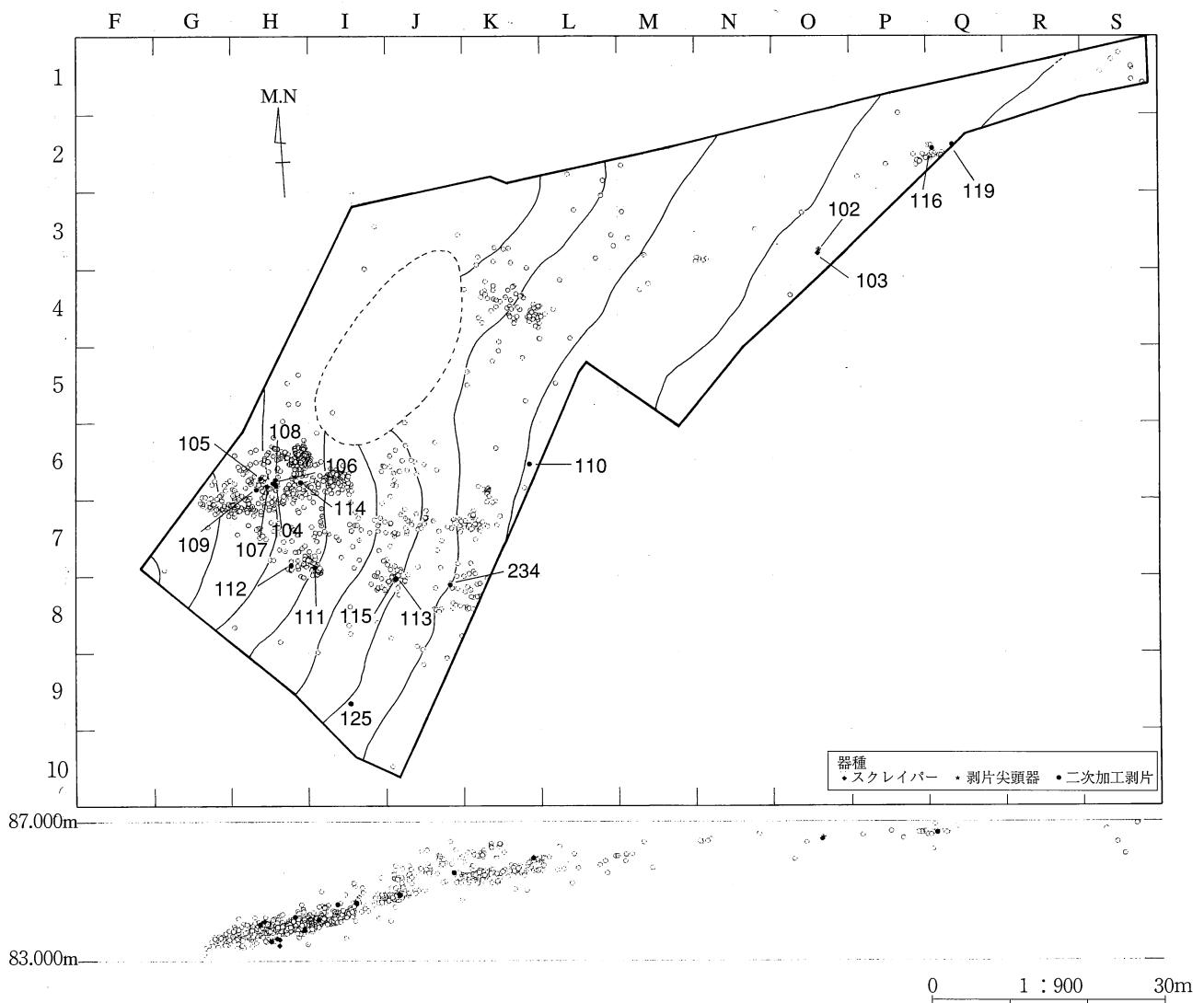
第56図 石器実測図(8)

(2) 遺物

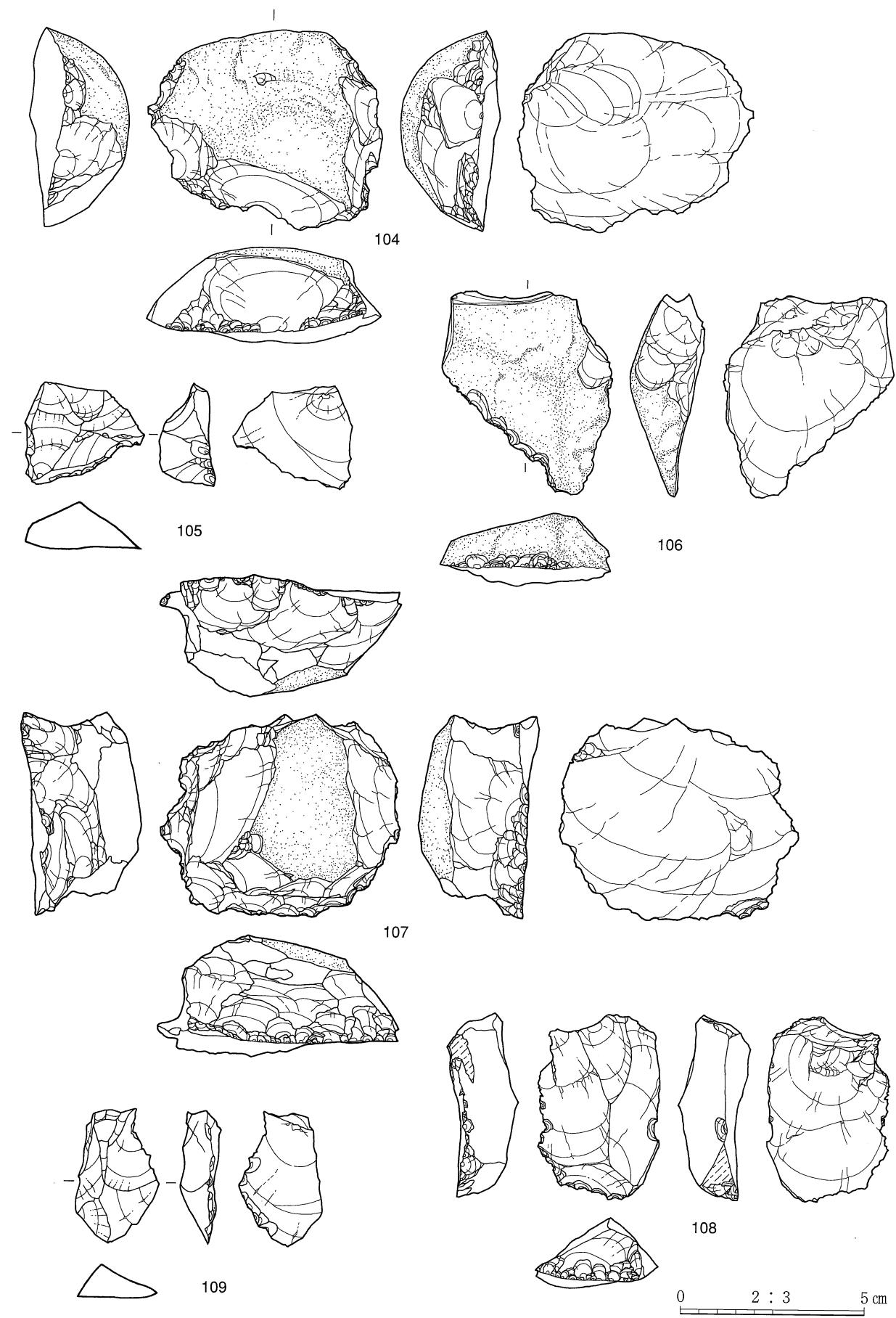
ナイフ形石器はV a層からVI b層にかけて出土しており、流紋岩がほとんどを占める。角錐状石器とともにほとんどが遺物の集中している付近で出土しており、単独で出土したのは台形石器のみである。

ナイフ形石器（第53図 80～101）

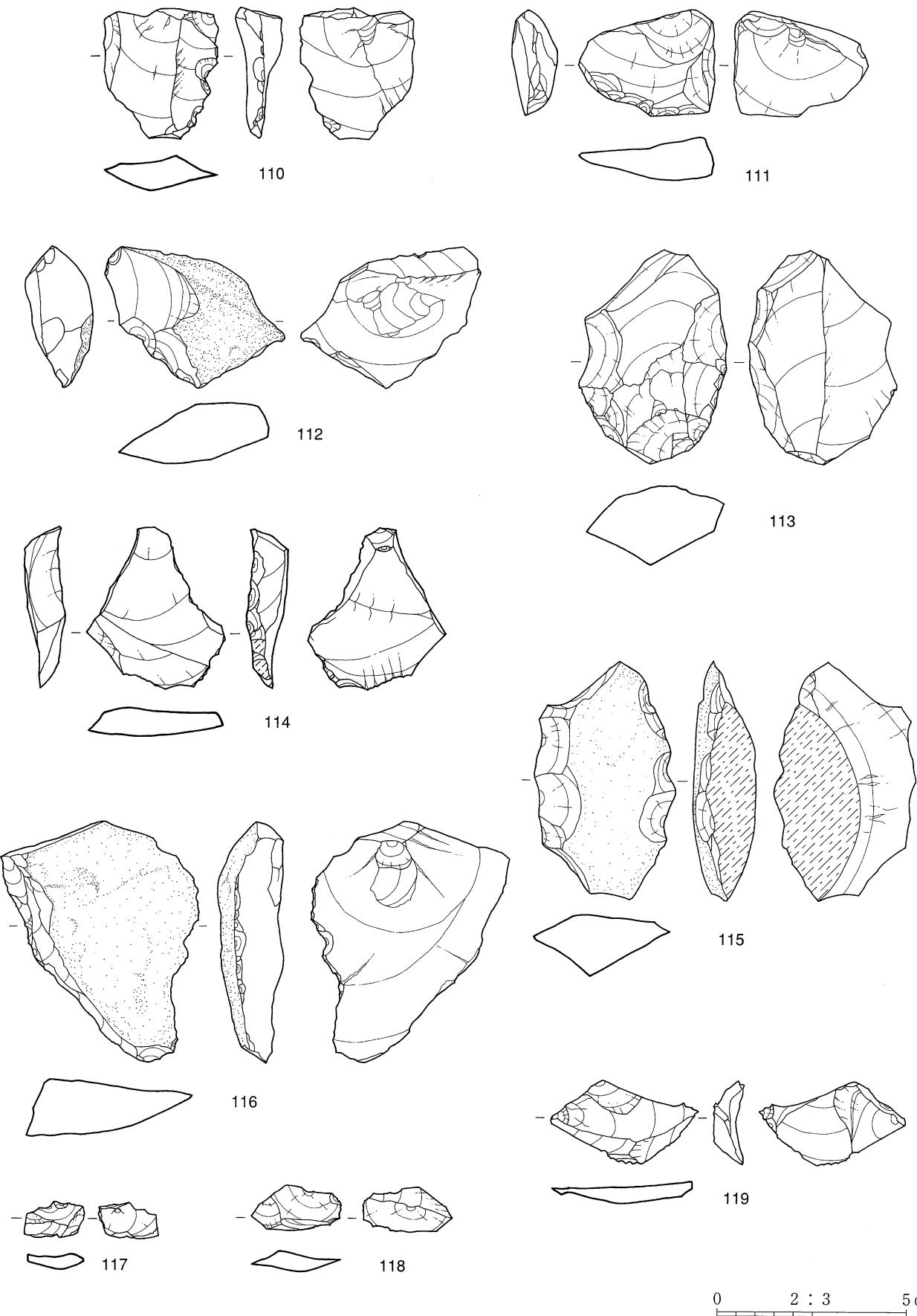
ナイフ形石器は20点出土しており、うち2点は接合資料である。80は下端部のみでアクシデントに起因した折損と思われる。上端部は確認できていない。一側縁加工の対向剥離がみられる。母岩1の珪質頁岩1である。81は黒曜石製の切出し形のナイフである。裏面側の主要剥離面側から打面部を除去するように剥離作業を行い、急角度の調整が施されている。82は左側縁の上部に調整剥離を施し、基部の両側に加工がみられるが、主要剥離の打面を残す。83はホルンフェルス製で表面側から打面部を除去するように剥離作業を行い、その後左側縁基部に表面側からの僅かな調整剥離がみられる。84は流紋岩6の石材で横長剥片を素材とする。左側縁に主要剥離面からの調整剥離を施し、右側縁下部に微細な剥離がみられる。85は流紋岩7の石材で横長剥片を素材とし、裏面側からの調整剥離を施している。刃部には使用痕とみられる微細剥離痕がみられる。86は84と同一母岩の流紋岩6である。素材の主要剥離面側から打面部を除去するように比較的大きな剥離が施される。その後、調整剥離を行っている。刃部の左側縁には一部連続的な微細調整剥離がみられる。87は主要剥離面側から打点を除去し、裏面側から調整剥離を施している。88の石材は流紋岩2で横長剥片を素材として裏面側からの調整剥離が施される。右側縁先端には、僅かな調整剥離がみられる。89は流紋岩1の横長剥片を素材とし、打面側の右側縁に対向調整剥離がみられる。90は流紋岩5の石材で縦方向の剥離痕のある表側にそれに直交する方向から剥離された裏面からなる横長剥片である。左側縁上部に微細に連続して剥離された調整剥離がみられる。91は切り出し形のナイフ形石器で二側縁加工を施している。調整剥離は主要剥離面から急斜な角度での調整が施される。92は流紋岩3の石材で一側縁加工の対向調整剥離がみられる。93はナイフ形石器とブランディングチップとの接合資料である。横長剥片素材で打面側に主要剥離面から急斜度の調整剥離が施される。94は珪質頁岩の石材で二側縁加工の切出形ナイフの接合資料である。95は二側縁に基部調整加



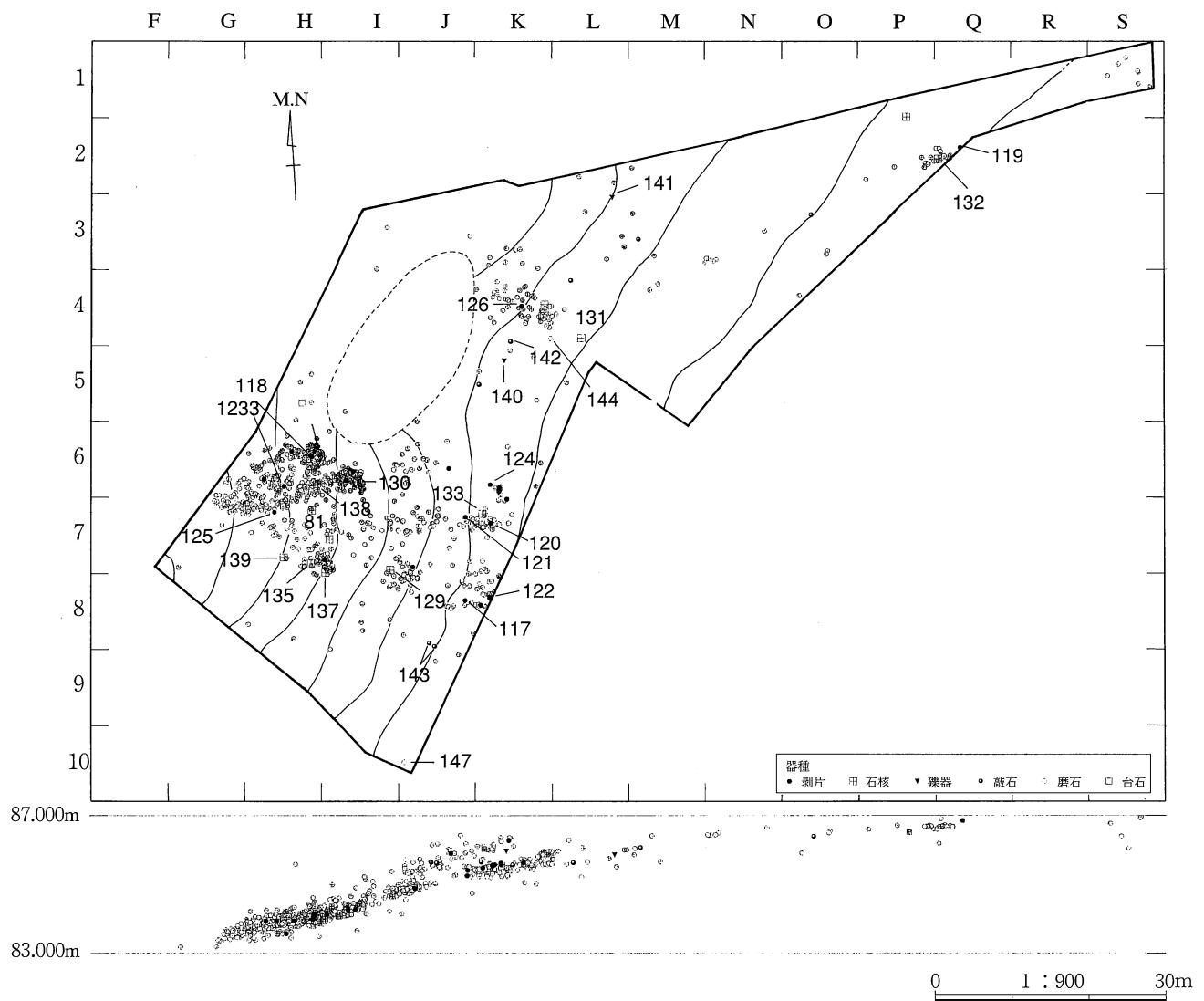
第57図 器種別分布図及び石器実測図(2)



第58図 石器実測図(9)



第59図 石器実測図(10)



第60図 器種別分布図

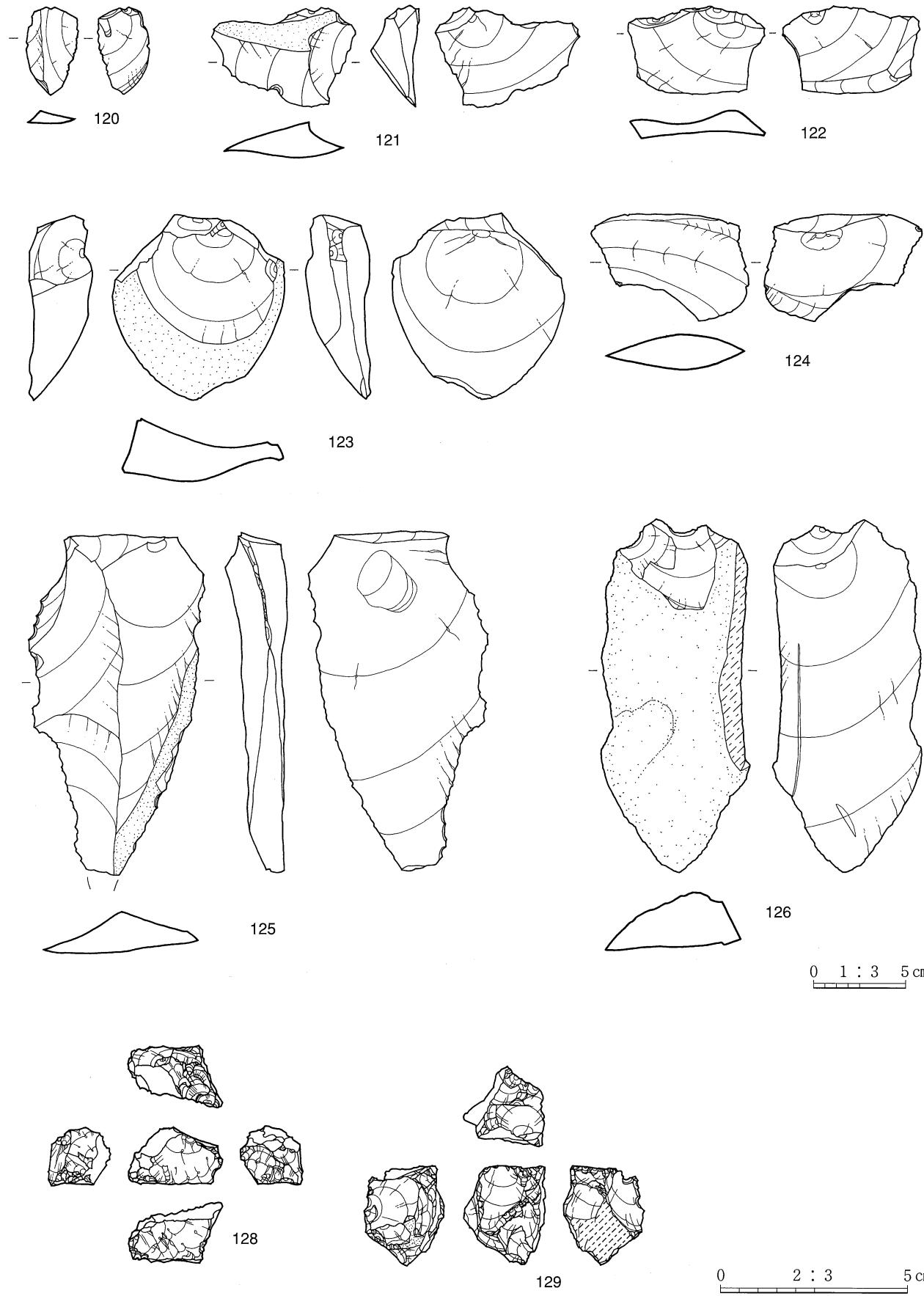
工の施されたものであり、折損している。96は頁岩で母岩2の石材である。縦長剥片を素材とし、左側縁に急斜度の調整剥離が施される。97は横長剥片を素材とし、右側縁に急斜度の調整剥離が行われ、左側縁下部に微細な剥離を施している。98は流紋岩4の石材で左側縁に急斜度の調整剥離を施し、右側縁下部に僅かな微細剥離を施す。

角錐状石器（第56図 99、100）

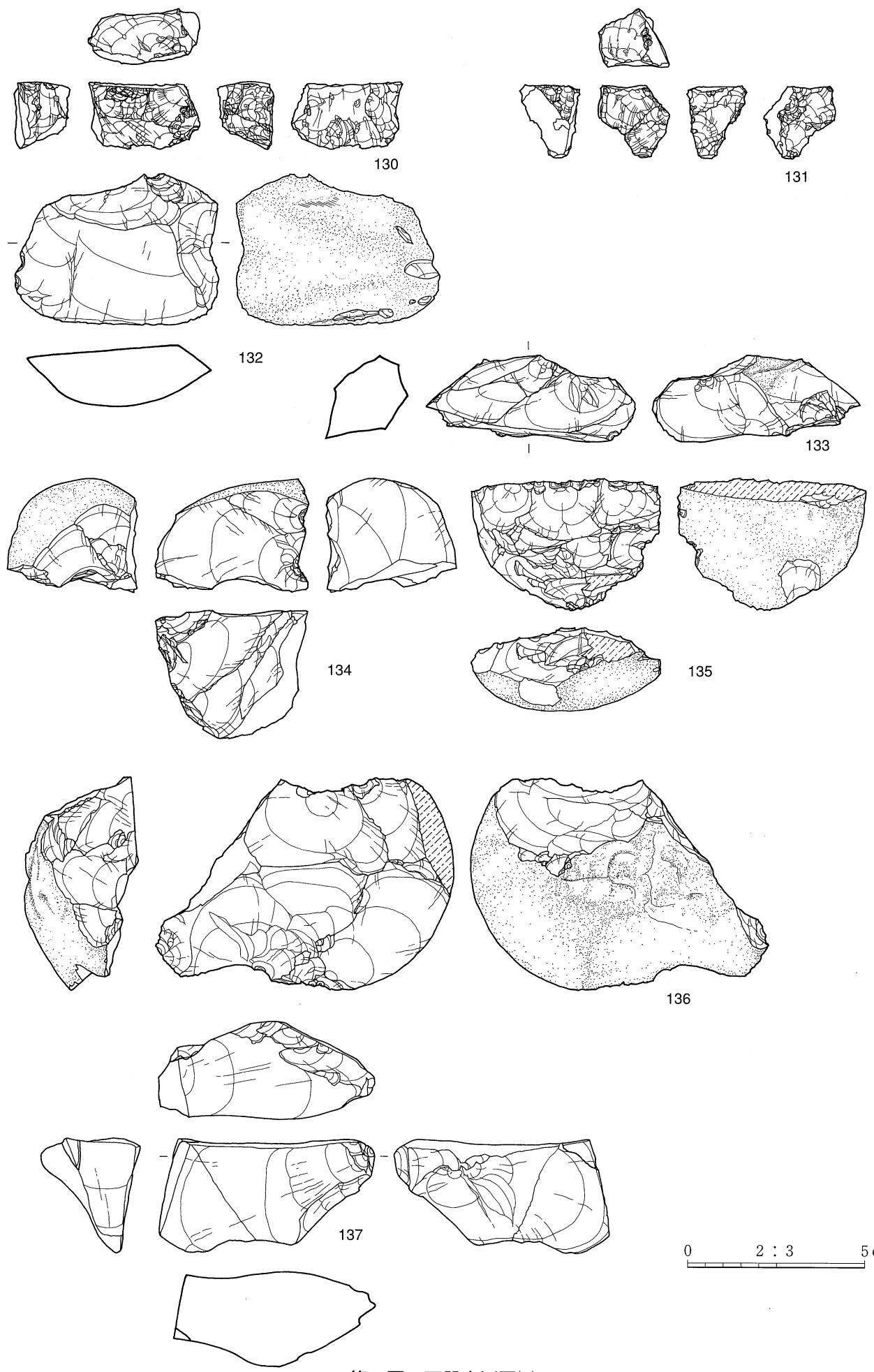
99は頁岩Bの石材で縦長剥片を素材とし、外形は概ね左右対称である。左側縁にはやや大振りの調整で構成されるが、右側縁は微細な調整が施される。これに対し、100は流紋岩5の石材で横長剥片を素材としている。左側縁は主要剥離面からの粗い調整を施し、抉りがみられる。右側縁は細部調整できれいに仕上げている。主要剥離面に素材剥片の打瘤の膨らみが残されているため、側面がやや捻れた感がある。

台形石器（第56図 101）

台形石器は、1点のみの出土であり、僅かに不純物を含む黒曜石製である。素材剥片を器軸に対して横位に用い、二側縁に加工を施す。右側縁は主要剥離面からの調整剥離で、左側縁は表面側からの剥離調整である。

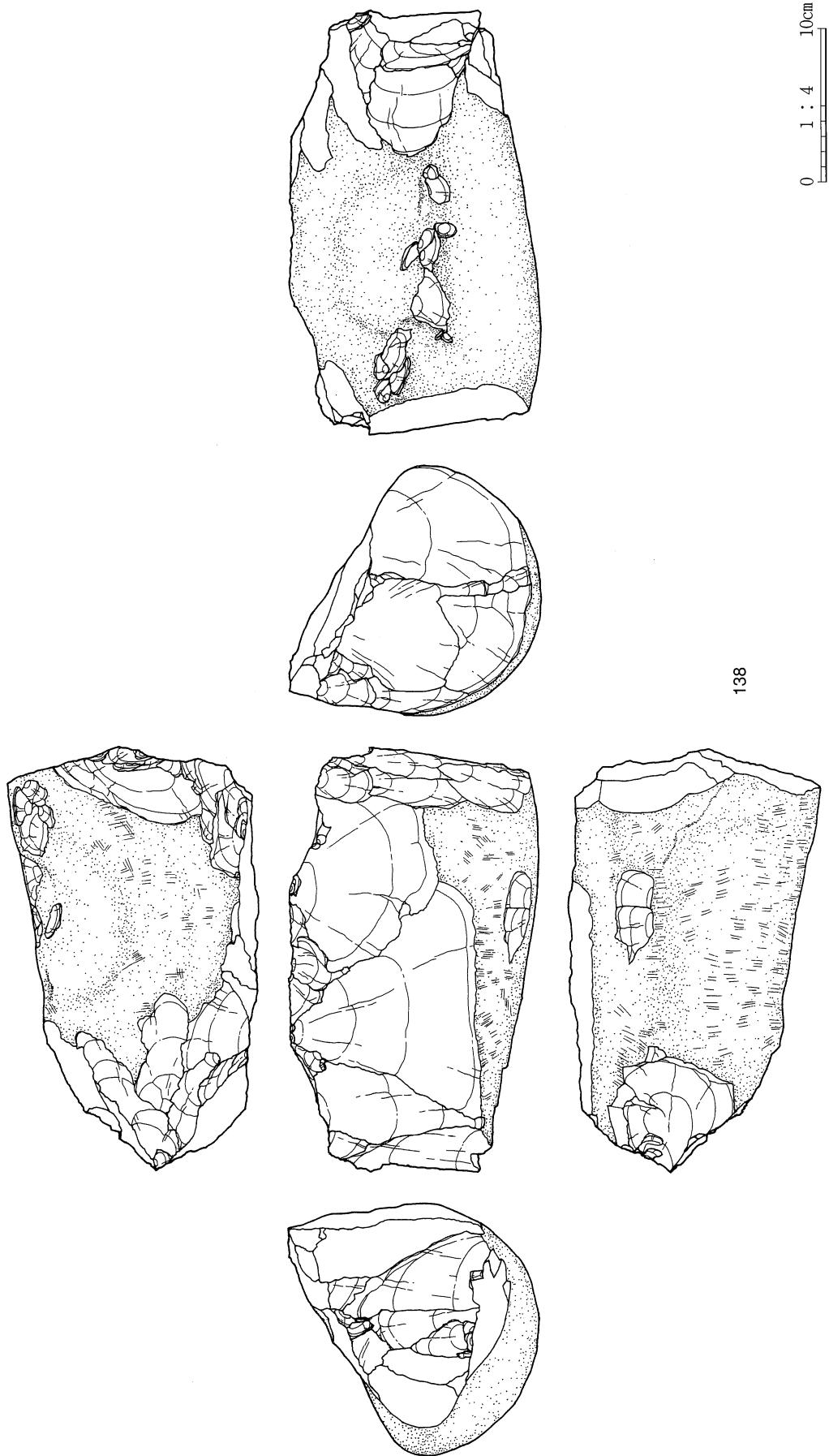


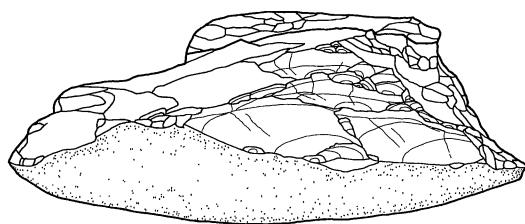
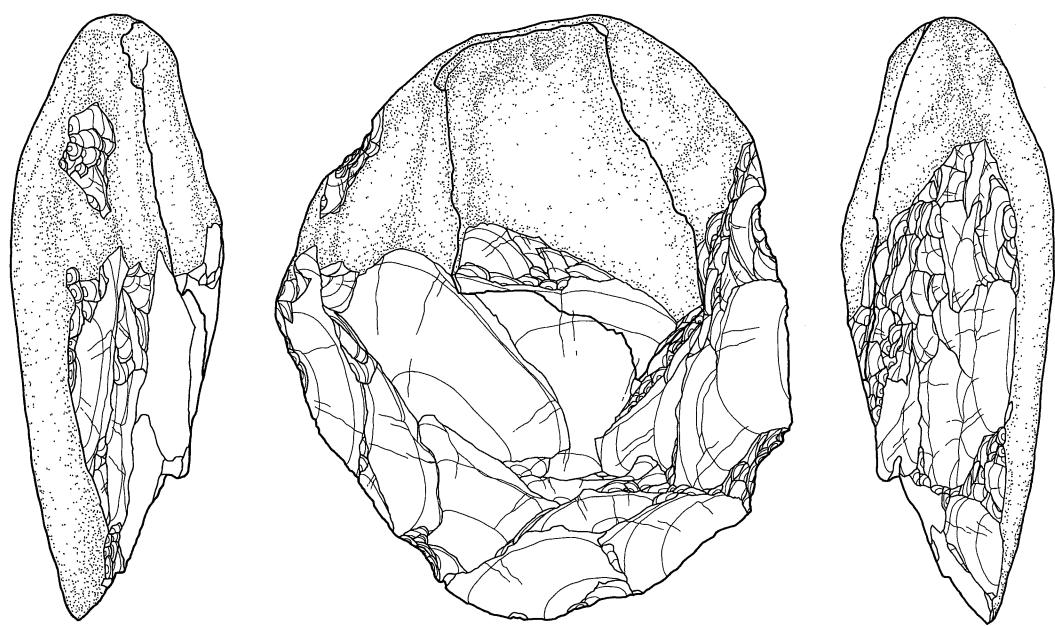
第61図 石器実測図(11)



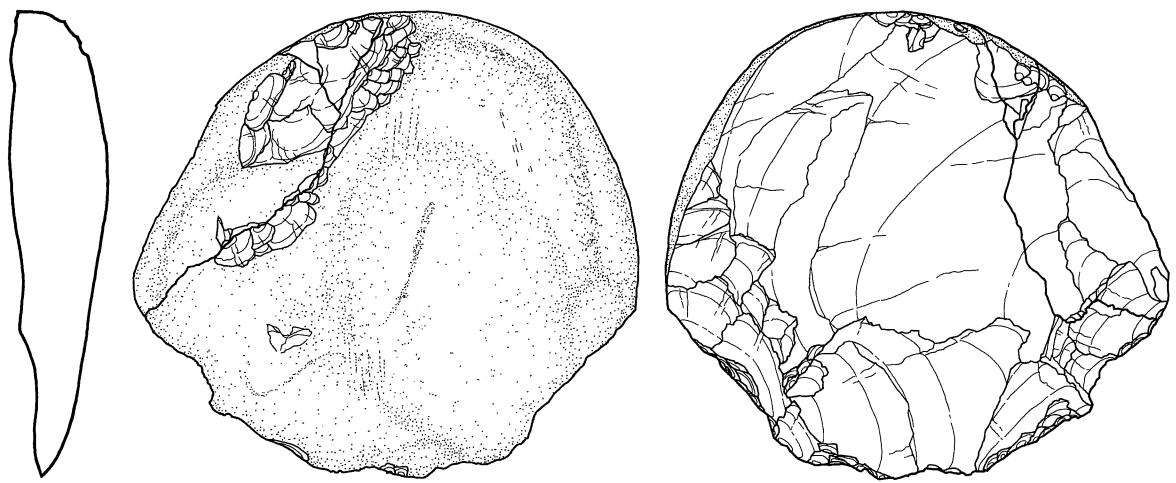
第62図 石器実測図(12)

第63図 石器実測図(3)





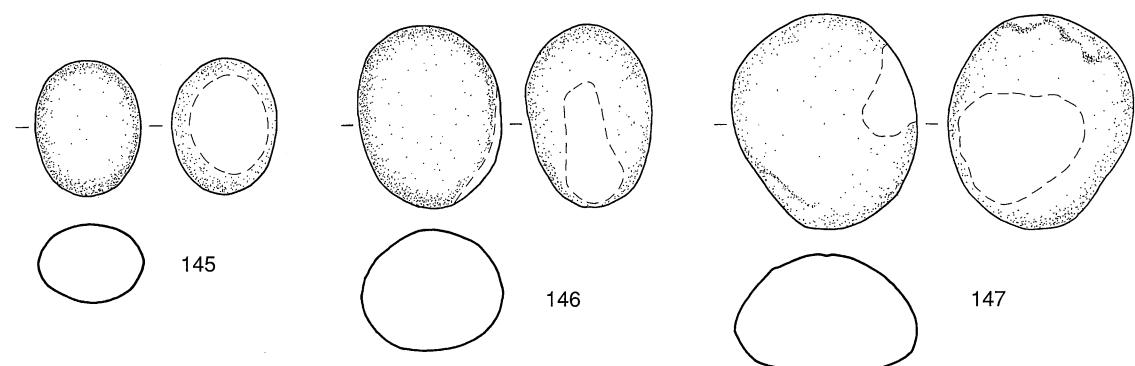
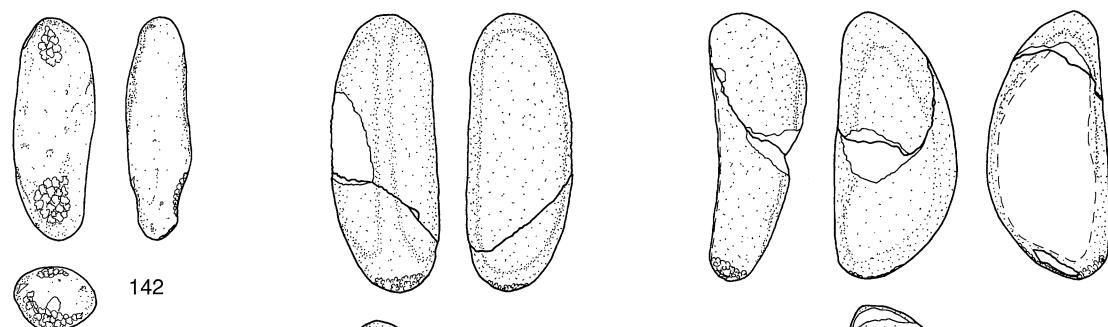
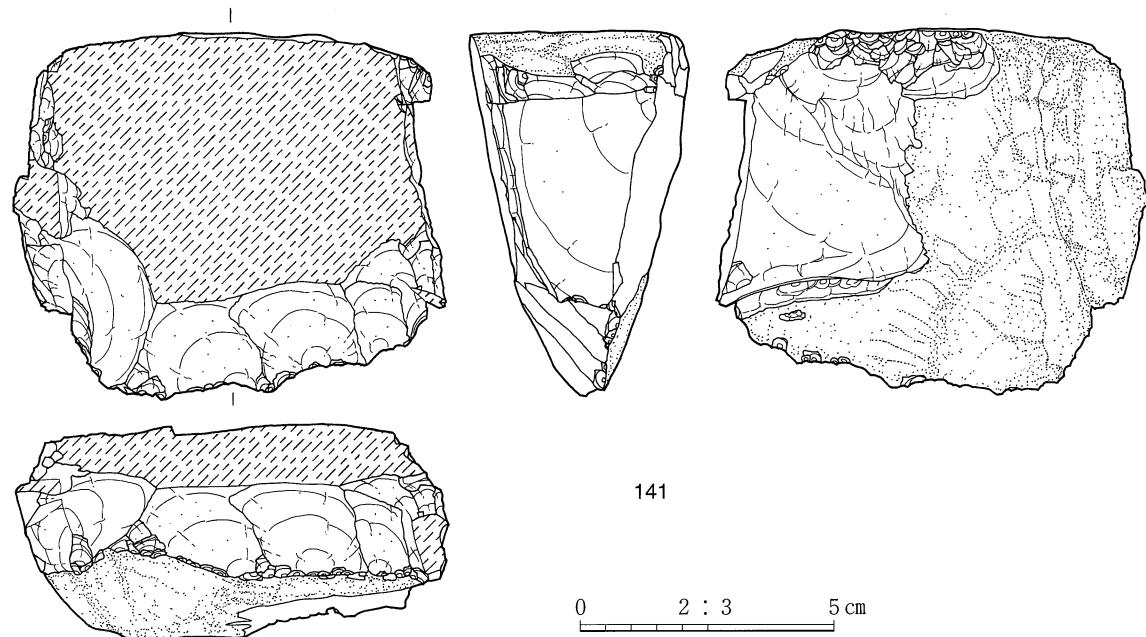
139



140

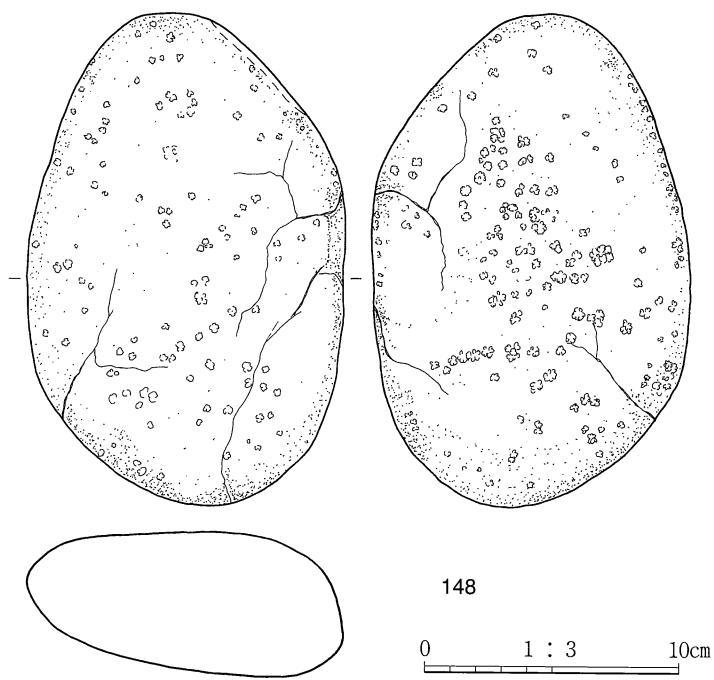
0 2 : 3 5 cm

第64図 石器実測図(14)



0 1 : 3 10cm

第65図 石器実測図(15)



第66図 石器実測図(16)

の剥片を作出し、その後細かな調整を施している。最大厚の表面側中央付近では、礫表面が広く残されている。105は下縁部から右側縁にかけて主要剥離面より加工を施している。106は原礫から作出了した剥片を素材とし、左側縁に主要剥離面から微細剥離の調整を行っている。107は104と同一石材で、原礫から肥厚に剥出したのち、表面側の左右から粗割の要領で、大きな剥片を剥出し、その後、細かな調整を全面にわたって加えている。この107は円形の搔器で礫面を大きく残す。107は流紋岩製で表面側上部の左側縁から下縁部にかけて調整剥離が施される。

二次加工剥片（第58・59図 109～116）

109は流紋岩の母岩3の石材で表面側の右側縁の中位から下部にかけて表面側から主要剥離面に微細な剥離を施している。110は右側縁の中央から下部にかけて加工を施している。111は母岩2の頁岩で横長剥片を素材に打面部を加工により除去している。112は111と同様に母岩2の頁岩で礫面を大きく残した剥片素材に下縁部から左側縁にかけて加工がみられる。113は左右両側縁から求心的に剥離を施しており、2次加工剥片よりむしろ石核として利用した可能性がある。114は左側縁の主要剥離面から加工を施している。115は両側縁から求心的に剥離を施し、中央に礫面を残す。116は礫からの剥出した素材を利用し、右側縁に礫面からの微細な剥離を施している。

剥片（第59・61図 117～126）

117, 118, 119は調整剥片である。119は微細剥離が下縁側にみられる。121は自然面を残した不定形の剥片である。122は打面再生剥片。123は主要剥離面下縁部に微細剥離痕がみられる。124はやや幅広の不定形剥片である。125はチャート製の縦長剥片で左側縁中央よりやや高位に微細剥離痕がみられる。

剥片尖頭器（第57図 102）

102は縦長剥片を素材としたホルンフェルス製で、1点のみの出土である。右側縁の下端部から上端部まで加工を施し、特に中位から上端部にかけて細かな調整剥離を行っている。表面中央の稜線上に微細な調整剥離を施している。左側縁上部に調整剥離がみられる。

スクレイパー（第57・58図 103～108）

スクレイパーは6点出土している。そのうち103以外はすべてH5グリッド周辺より出土しており、その中でも104, 106, 107, 108はVIc層上面で検出されている。103は頁岩製で表面左側縁の下縁から上縁までの主要剥離面から剥離がみられる。中位よりやや上側に表面側からの剥離がみられる。

104は原礫から大振りの剥片を作出し、表面側の左側縁から右側縁にかけて粗め

126はホルンフェルス製の縦長剥片で大型である。

石核（第61・62・63・64図 128～139）

128, 130, 131は黒曜石製の石核である。いずれも打面を頻繁に転移し、剥離作業を行っている。黒曜石には不純物が多く含まれ、比較的小振りのサイコロ状や角錐状の石核が目立つ。129は石英の石核で表面の上部を打面とし、剥出作業を行い、その後90度転移して剥離作業が行われている角錐状の石核である。132は礫から剥片を作出し、右側縁から剥離を行い、上縁の打面を剥出している。133は礫から剥出した後に、作業面を転移しながら剥離作業を行っている。135は平坦な節理面を打面に設定し、急角度で剥出作業を行っている。寸詰まりの幅広剥片が剥出された。表皮は被熱により赤化している。136は拳大の礫を剥出し、剥離面を作業面として剥離作業を行い、180度転移して剥離作業を行っている。137は母岩2の石核である。138はホルンフェルスの楕円状横長礫で平坦な自然面を打面とし、剥出を行っている。139は拳大の大きさの多孔質のホルンフェルスで比較的扁平な礫である。礫面の片面にのみ剥離を行っており、右側縁には細かな剥離を施している。

礫器（第64・65図 140～141）

140は拳大よりやや小さめの扁平円礫を自然面を打面とし、大きく二つに分割した後、鋭利になっている末端部の両側縁に刃部を作出している。141は流紋岩製で自然面と剥離面で構成された礫の薄い先端に自然面から剥離を施し、刃部を作出している。裏面には石核として利用した剥離痕がみられる。

敲石（第65図 142～144）

142は尾鈴山酸性岩の石材で長楕円礫の敲石である。加撃により表皮が剥離している。143は砂岩製の敲石で、敲打時の衝撃により、折損した可能性がある。144は敲石兼磨石である。礫の中央から下縁部にかけて一部が被熱による赤化を受けている。

磨石・台石（第65図 145～148）

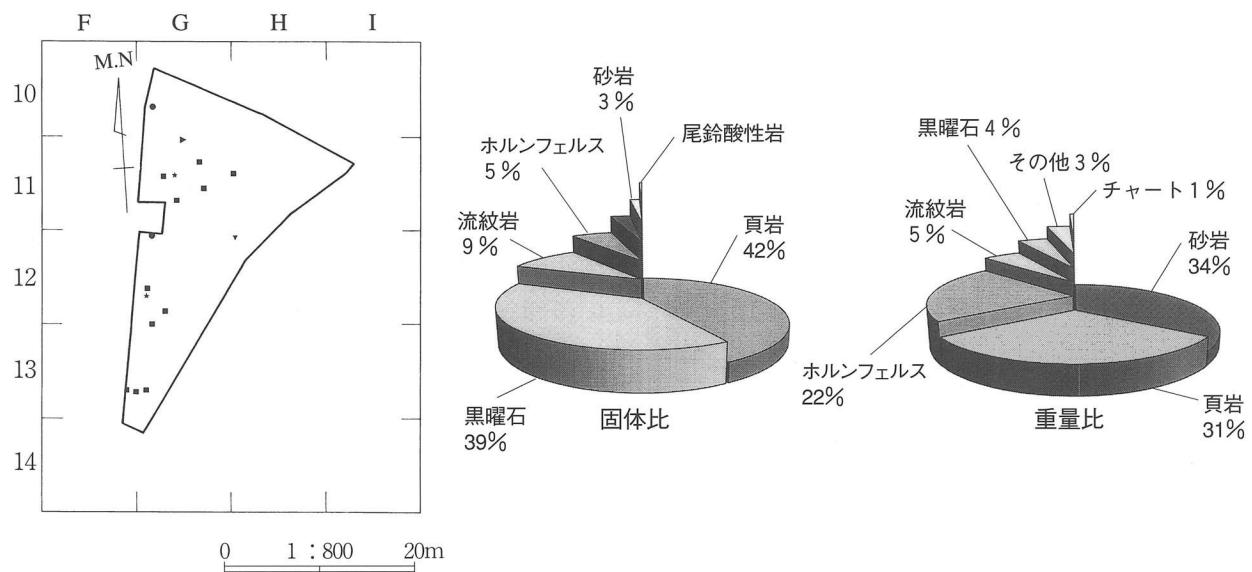
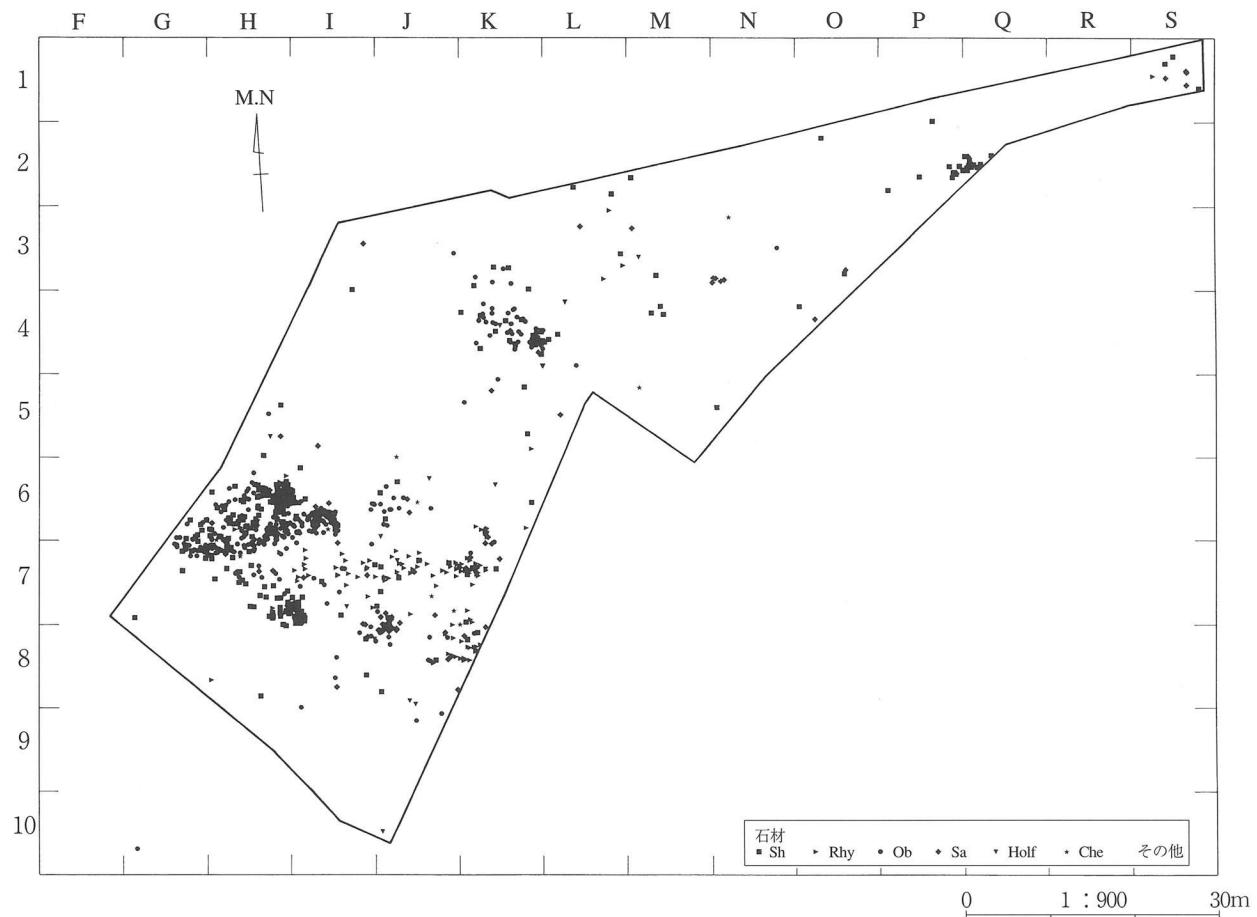
145, 146, 147は砂岩製の磨石である。145, 146は全体的に滑らかな卵状の円礫を用い、147はやや表面がザラザラしている楕円礫を使用している。148は表裏全体にあばた状の凹みがみられる。

第10表 石器計測表(3)

図面番号	注記番号	区	グリッド	層位	器種	石材	石質	ブロック	母岩番号	接合番号	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	国土座標X座標	国土座標Y座標	レベル	
80	1663	A	H 4 c	VI b	KN	S h	Shk-2				1.52	1.65	0.6	1	-98989.788	42686.697	83.921	
81	1525	A	H 6 b	VI b	KN	O b	1				3.3	1.8	0.7	4.5	-99001.688	42688.785	84.105	
82	1734	A	I 6 c	VI b	KN	S h	4				3.1	5.4	0.7	2.2	-99008.930	42695.924	84.741	
83	2323	A	I 6 b	VI b	KN	Holf	10				3.75	1.72	0.9	4.6	-99000.353	42695.520	84.609	
84	2271	A	H 5 b	VI b	KN	Rhy	6		7		3.6	1.4	0.78	3.1	-98994.587	42689.287	84.062	
85	1308	A	H 5 d	VI b	KN	Rhy	7	12			3.75	1.9	0.92	4.8	-98997.123	42684.460	83.864	
86	1991	A	K 6 a	VI b	KN	Rhy	6	12	7		3.8	1.7	0.9	2.8	-99002.163	42711.317	85.258	
87	132	A	H 5 d	V b	KN	Rhy	7	12			3.72	1.5	1.05	4.8	-98996.200	42686.200	84.335	
88	1871	A	J 7 b	VI b	KN	Rhy	2	13			4.7	1.6	1.1	6.6	-99014.667	42706.918	85.250	
89	1293	A	H 5 d	VI b	KN	Rhy	1	12			4.5	1.2	1.3	5.1	-98998.477	42683.931	83.815	
90	1213	A	K 4 c	V a	KN	Rhy	5				4.55	1.3	0.9	3.6	-98988.980	42718.580	85.936	
91	3328	D	S 0 a	VI b	KN	S h	2		5		4.35	2.22	0.9	7	-98944.504	42792.630	86.772	
92	20	C	G10a	VI b	KN	Rhy	3				6.6	1.5	1.25	8.5	-99040.350	42674.900	84.262	
93	2147	A	H 5 b	VI b	KN	S h	Shk-1	10			12	4.05	1.95	1	6.9	-98994.581	42688.266	83.795
94	1685	A	I 5 a	VI b	KN	S h	Shk-1	10			11	2.35	1.85	0.6	3.2	-98994.645	42690.327	83.980
95	2264	A	H 5 b	VI b	KN	S h	Shk-1	10			11	1.5	2.2	0.6	2.1	-98994.609	42689.061	84.022
96	1160	A	J 6 a	VI b	KN	S h	6				2.1	1.2	0.5	1.3	-99004.490	42702.780	85.441	

第10表 石器計測表(3)

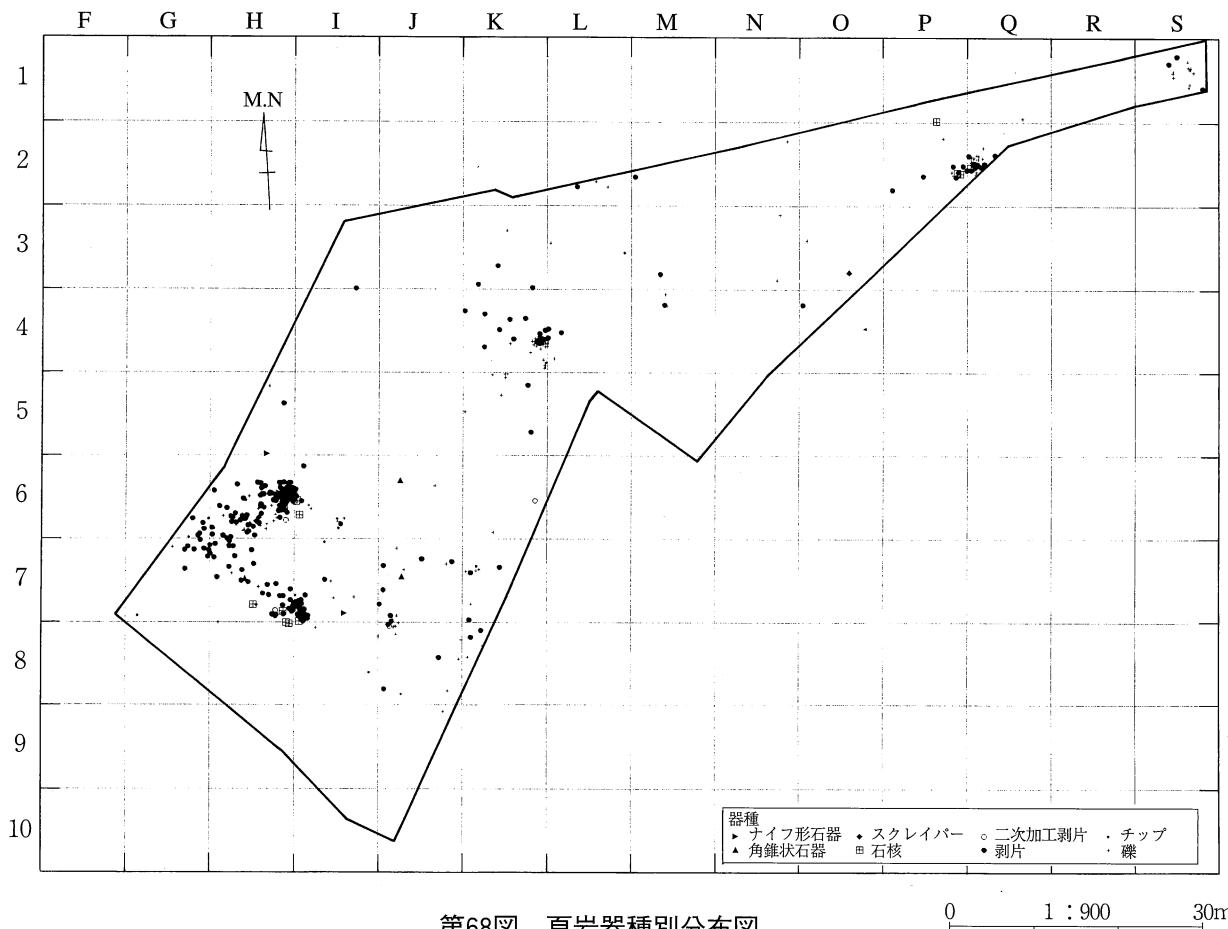
図面番号	注記番号	区	グリッド	層位	器種	石材	石質	ブロック	母岩番号	接合番号	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	国土座標X座標	国土座標Y座標	レベル
96	1224	A	H 6 a	VI b	KN	S h	1		4		3.5	2	1	6.4	-99004.768	42684.167	83.884
97	1168	A	J 6 a	VI b	KN	Rhy	5				4	1.15	0.8	3.6	-99004.380	42701.170	85.323
98	1040	A	L 2 c	VI b	KN	Rhy	4				3.52	1.8	0.8	4.5	-98967.000	42729.500	86.006
99	1131	A	J 5 a	VI b	KS	S h	7				4.5	1.5	1.1	6.7	-98992.980	42702.580	85.730
100	1746	A	I 6 c	VI b	KS	Rhy	5	15			4.95	1.6	1.1	6.8	-99008.043	42699.744	84.985
101	3390	D	N 2 b	VI a	TP	O b	6				1.2	1.7	0.5	0.9	-98964.875	42747.838	86.643
102	3470	D	O 2 c	VI b	SPB	Holf	5				9.35	3.1	1.6	50.5	-98967.502	42756.053	86.540
103	3471	D	O 2 c	VI b	S c	S h	10				5.1	3.6	1	13.1	-98967.950	42755.905	86.498
104	2097	A	H 5 c	VI c	S c	S h	5	12			5.35	6.25	2.6	95.9	-98998.207	42685.816	83.610
105	1304	A	H 5 d	VI b	S c	S h	Shk-1	12			2.8	3.2	1.5	10.3	-98997.245	42683.872	84.128
106	2096	A	H 5 c	VI c	S c	S h	5	12			5.35	4.6	1.8	42.9	-98997.901	42685.449	83.644
107	2101	A	H 5 d	VI c	S c	S h	5	12			5.5	6.5	3	123.4	-98998.282	42684.715	83.560
108	2095	A	H 5 c	VI c	S c	S h	9	12			5.1	3.3	1.5	31.3	-98997.456	42685.764	83.442
109	1294	A	H 5 d	VI b	RF	Rhy	6	12	7		3.7	2.3	1.1	7.4	-98998.735	42683.325	84.040
110	1028	A	K 5 c	VI b	RF	S h	5				3.5	3	1.3	9	-98995.450	42718.600	85.943
111	1559	A	I 6 d	VI b	RF	S h	1	14	4		2.8	3.6	1.2	10.6	-99008.906	42690.862	84.185
112	2311	A	H 6 c	VI b	RF	S h	1	14	4		3.8	4.8	1.8	24.4	-99008.616	42687.802	84.260
113	SI3-24	A	J 7 a	VI b	RF	Holf	3	15			5.7	3.9	2.1	43.6	-99010.470	42701.310	84.906
114	1633	A	H 5 c	VI b	RF	S h	Shk-1	11	2		4.3	3.6	1.1	12.9	-98997.793	42689.028	83.887
115	SI3-20	A	J 7 a	VI b	RF	Holf	3	15			6.3	3.7	1.6	1.6	-99010.370	42701.400	84.881
116	3335	D	Q 1 a	VI b	RF	S h	2		5		6.4	5.2	1.7	46.3	-98954.444	42770.780	86.670
117	1875	A	J 7 b	VI b	F	Rhy	6	18	7		1	1.6	0.4	0.5	-99013.531	42708.730	85.255
118	2145	A	H 5 b	VI b	F	S h	Shk-1	10	2		1.2	2.4	0.5	1.3	-98994.668	42688.752	84.124
119	3332	D	Q 1 a	VI b	F	S h	2	22	5		2.2	3.9	0.8	4	-98953.916	42773.349	86.853
120	2341	A	K 6 a	VI b	F	Rhy	6	17	7		2.3	1.4	0.4	0.9	-99003.399	42712.053	85.543
121	2359	A	J 6 b	VI b	F	Rhy	6	17	7		2.7	3.9	1.3	7.7	-99002.588	42708.795	85.410
122	1915	A	K 7 a	VI b	F	Rhy	6	18	7		2.3	3.7	0.7	4.8	-99013.367	42712.310	85.578
123	2098	A	H 5 c	VI c	F	Rhy	9	12			5	4.35	1.7	33.5	-98998.571	42685.157	83.563
124	1968	A	K 5 d	VI b	F	Rhy	6	20	7		2.9	4.3	1	10.7	-98998.337	42711.997	85.554
125	1234	A	H 6 a	VI b	F	Che	6	13			9.2	4.8	1.7	50.9	-99001.948	42683.911	83.930
126	1112	A	K 3 b	VI b	F	Holf	9	21			19.1	8	4	550	-98974.800	42716.100	85.635
127	SC-27	A		VI b	F	S h					8.7	4.5	1.4	44.5			
128	1530	A	I 6 d	VI b	Co	O b	2				1.55	2.4	1.1	5.3	-99005.519	42691.095	84.356
129	1743	A	I 6 c	VI b	Co	石英		15			2.65	2.15	2	10.3	-99009.538	42699.007	84.645
130	1424	A	I 5 d	VI b	Co	O b	2	11			1.8	3.05	1.6	10.6	-98997.939	42694.720	84.436
131	1038	A	L 3 d	VI b	Co	O b	2				2.05	2	1.65	4.5	-98979.020	42723.880	86.062
132	3342	D	Q 1 d	VI b	Co	S h	2	22	5		4.3	5.7	1.6	44.9	-98955.415	42770.458	86.678
133	1178	A	K 6 a	VI b	Co	S h	6	17			2.3	5.9	2	27.3	-99002.140	42710.970	86.040
134	3468	D	P 1 b	VI b	Co	S h	2	22	5		4.05	3.2	3.6	54.1	-98949.889	42766.349	86.517
135	2483	A	H 6 c	VI b	Co	S h	9	14			3.65	5.3	2.3	41.5	-99008.677	42688.683	84.022
136	2282	A	H 5 b	VI b	Co	S h	Shk-1	10	2		5.8	7.8	3.1	133.7	-98994.603	42689.911	83.937
137	2488	A	I 6 d	VI b	Co	S h	1	14			3.7	6	2.4	45.2	-99009.899	42690.574	84.221
138	1632	A	H 5 c	VI b	Co	Holf	7	11			8.1	13.9	8	1100.6	-98998.276	42689.439	83.858
139	167	A	H 6 c	VI b	Co	S h	8				21.9	20.2	4.1	514.1	-99007.875	42685.129	84.216
140	100	A	K 4 a	V b	Cho	Holf	8				10	9.2	2	233.7	-98982.000	42713.830	85.969
141	1005	A	L 2 b	VI b	Cho	Rhy	8				8.5	7.5	4.3	319.1	-98960.500	42727.900	85.858
142	2002	A	K 3 d	VI b	HS	O s		21			8.9	3.2	2.5	83.4	-98979.467	42714.671	85.570
143	1912	A	J 7 d	VI b	HS	S a					5.4	3.1	2.4	44	-99019.595	42704.789	85.621
143	1913	A	J 7 d	VI b	HS	S a					11.1	4.2	3.3	199.5	-99019.179	42704.079	85.646
144	SI2-6	A	K 3 c	VI b	G S	S a					5.7	4	2.9	72	-98979.070	42719.850	85.733
144	SI2-7	A	K 3 c	VI b	G S	S a					9.3	4.7	3.2	140	-98979.080	42719.950	85.725
145	1184	A	J 6 a	VI b	G S	S a		16			5.5	4.1	3.2	102	-99002.480	42702.600	85.306
146	5	B	C12a	VI b	G S	S a					7.3	5.65	5.1	277.9	-99062.836	42631.643	81.772
147	2184	A	J 9 a	VI b	G S	S a					8.6	7.4	4.6	329.5	-99034.847	42700.819	85.723
148	1659	A	H 4 c	VI b	A S	S a					19.6	12.6	6.1	2045	-98987.562	42687.467	83.920



第67図 石材別分布図及び石材別グラフ

(3) 石材及び接合資料

石材は大きく分類して、貞岩、黒曜石、流紋岩、ホルンフェルス、砂岩、尾鈴山酸性岩である。個数は貞岩が多く、ついで黒曜石であるが、総重量では、総個体数が僅か3%足らずの砂岩の重量が圧倒的である。これは台石や磨石等の円礫が多いいためである。対照的に黒曜石では個体数の割りに重量が小さい。本遺跡での黒曜石は日東産の黒曜石が多く、不純物が多くみられ不定形に割れやすい。そのため、碎片等が非常に多く出土している。ここでは石材別接合資料について述べる。



第68図 頁岩器種別分布図

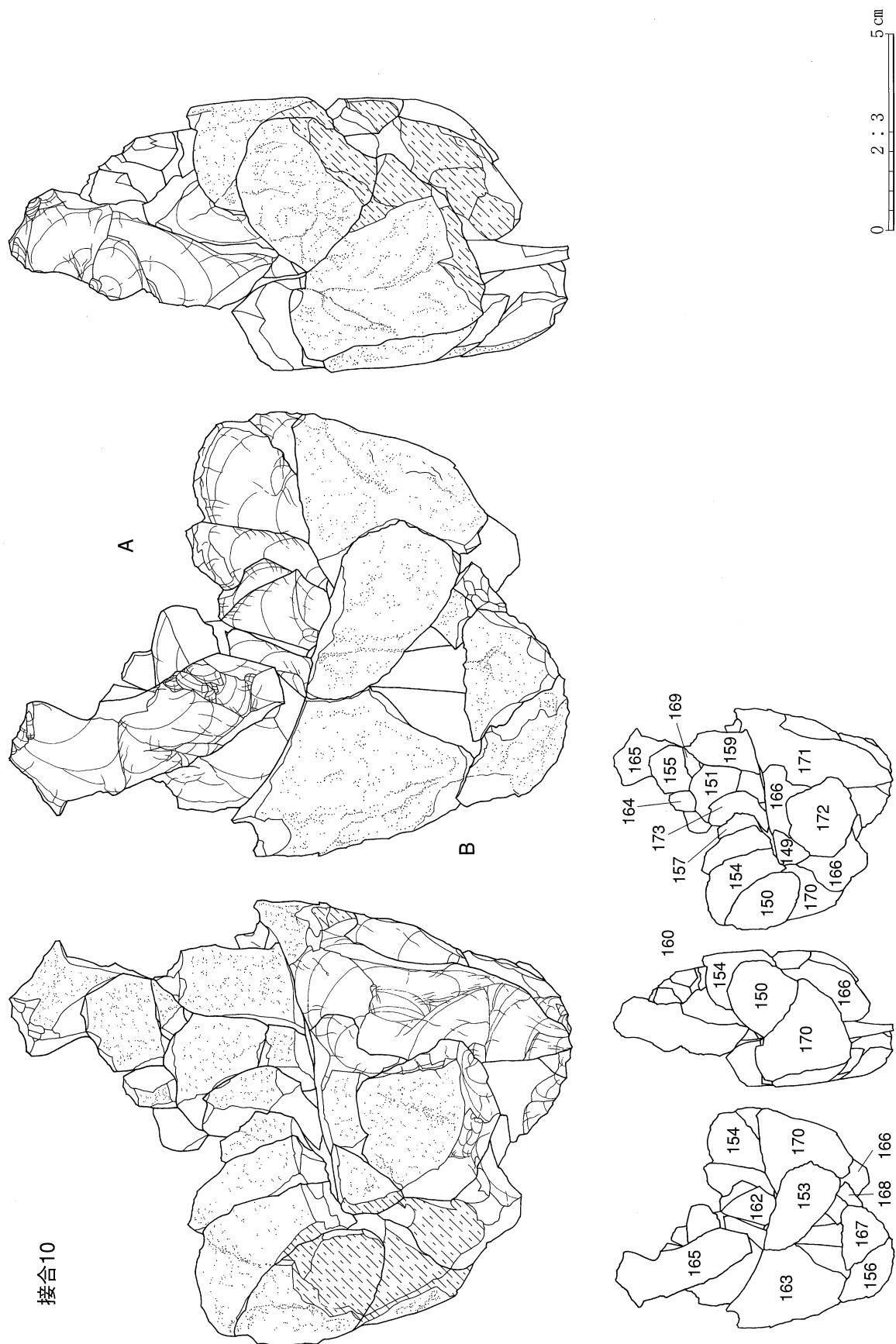
第11表 頁岩石器組成表

	ナイフ形石器	角錐状石器	スクレイパー	二次加工剥片	剥片	石核	碎片	計	総重量(g)	平均重量(g)	母岩
珪質頁岩1(Shk1)	2			1	121	3	25	152	853.3	5.61	2
珪質頁岩2(Shk2)	1				18	1		20	261.8	13.09	3
頁岩1(Sh1)	1			2	63	5	3	74	469.7	6.35	4
頁岩2(Sh2)					16	3		19	303.2	15.96	5
頁岩3(Sh3)					12	1		13	343.4	26.42	6
頁岩4(Sh4)	1				7		2	9	95.9	10.66	
頁岩5(Sh5)			3	1				4	293.5	73.38	
頁岩6(Sh6)					14	1	2	4			
頁岩7(Sh7)		1					1	4			
頁岩8(Sh8)								4			
頁岩9(Sh9)					2	1		4			
頁岩10(Sh10)			1		1			4			
頁岩11(Sh11)	1				2		1	4			
計	5	0	3	4	251	14	30	315	2620.8	9	

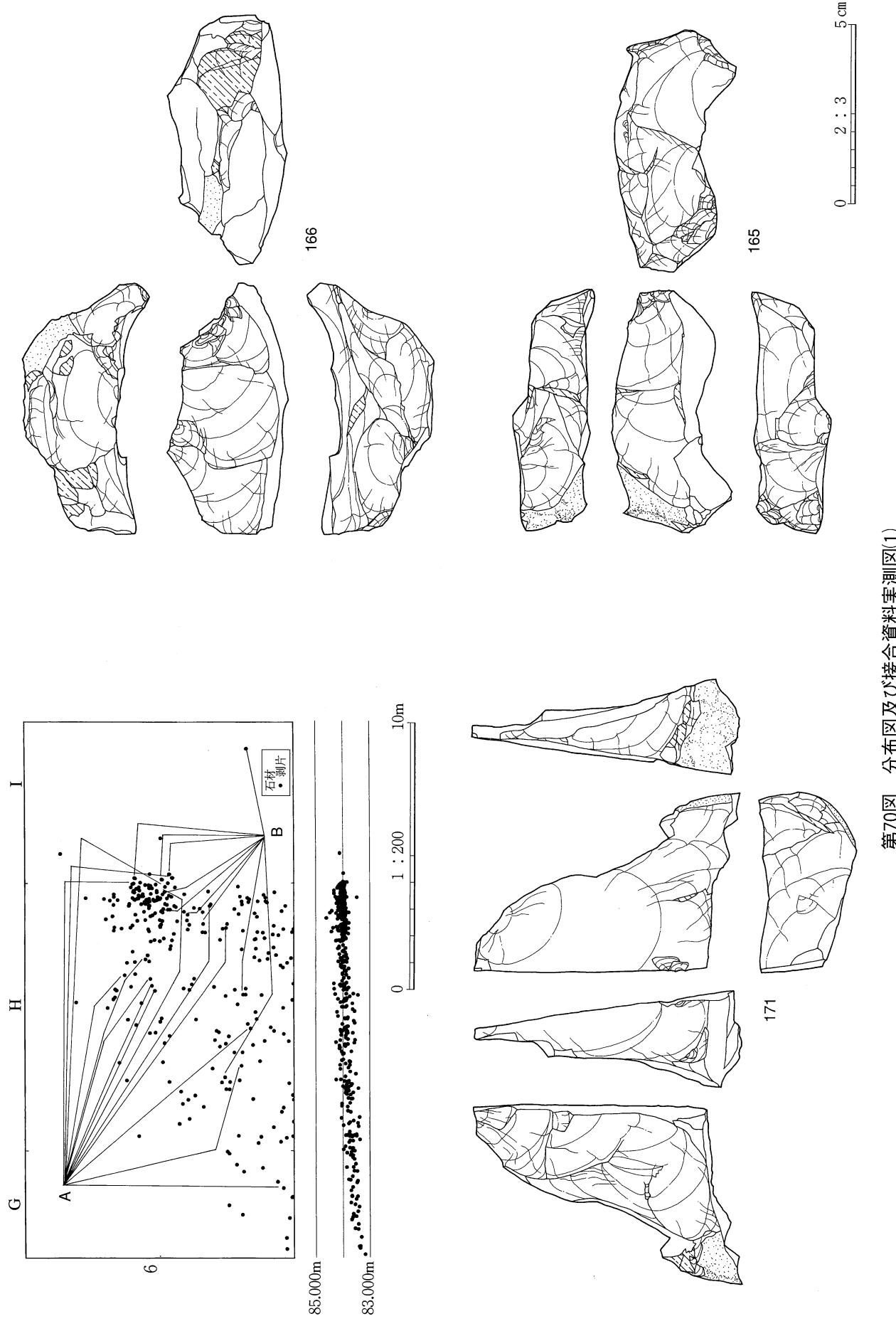
頁岩

VII層における頁岩の占める割合は、42%でもっとも多い数値を示している。この頁岩における石質、母岩の分類を試みると、珪質頁岩2個体、頁岩5個体に分類でき、個体数の少ないものをその他として分類した。珪質頁岩1の総個数は152個で、総重量が853.3gであり、やや他の石質、母岩と比べると突出している。珪質頁岩1の中での母岩1の割合は約27%であるため、石質は同一であるが、母岩の違うものが含まれている可能性が高い。しかし、ここでは珪質頁岩1を更に分類することが困難であったため、同一石材としてまとめた。珪質頁岩1はI5グリッド周辺より検出される。珪質頁岩2はK3グリッド周辺、頁岩1はH5グリッド周辺、頁岩2はP1～Q1グリッド周辺より検出される。頁岩5はいずれもスクレイパーであり、VIc層で検出される。

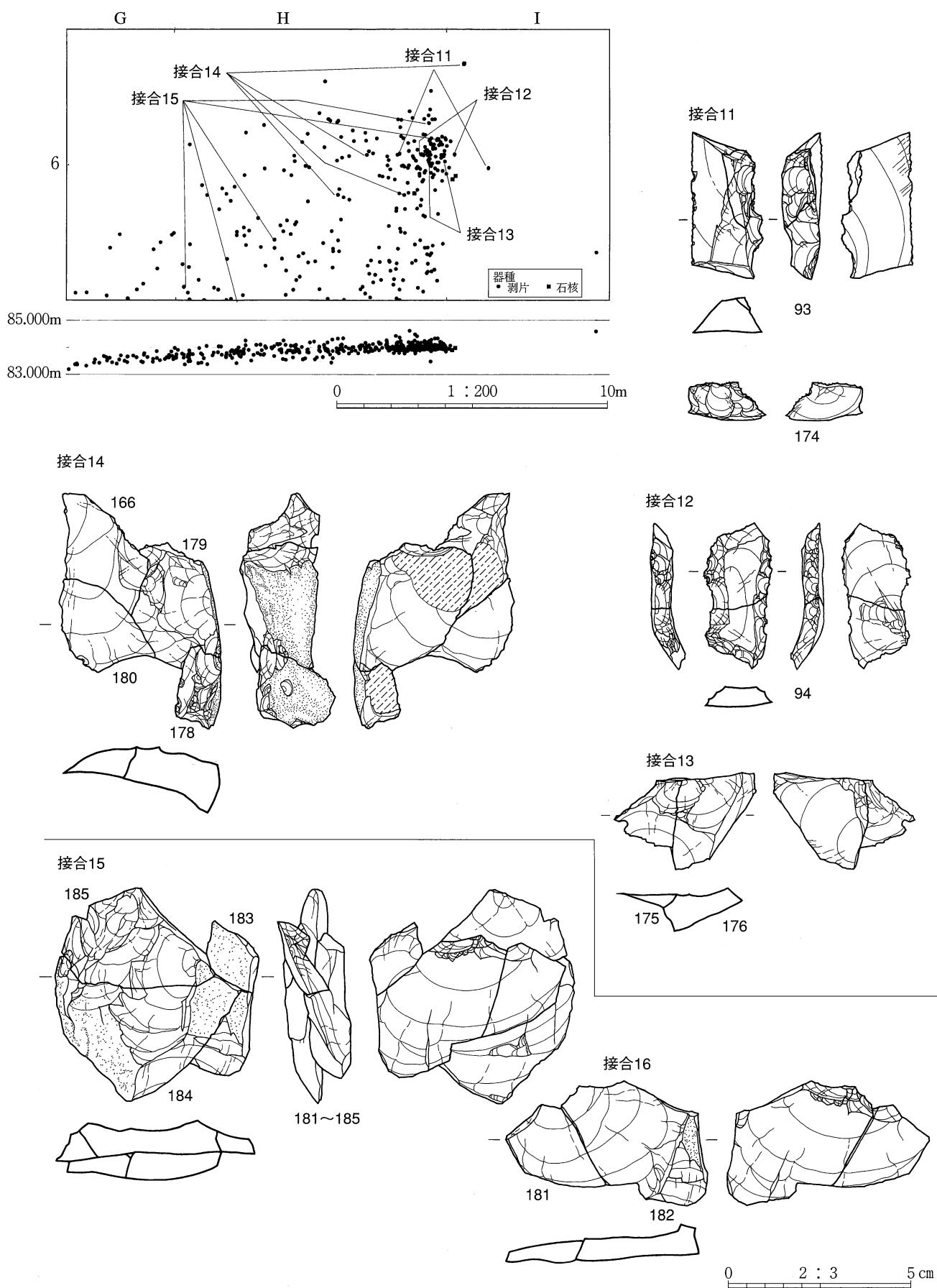
第69図 接合資料実測図(4)



接合10



第70図 分布図及び接合資料実測図(1)



第71図 分布図及び接合資料実測図(2)

Shk- 1

珪質頁岩 1 はH5グリッドを中心に、石器ブロック10～石器ブロック17,21の広い範囲にわたって分布している。頁岩の石材では一番多い出土を示す。母岩 1 の接合状況より、遺物が谷地形に流れ込んでいると思われる。以下接合状況について述べる。

母岩 2

接合10は22点の剥片と3点の石核で構成されている。長径約18cmの円礫をはじめに大きく2分割し、それぞれの分割礫を順次剥片剥離作業を行っている。2分割した正面図Aは14点接合しているが、全容ははっきりしていない。正面図上位の分割礫は162+173が剥離され、161+151+164を剥出している。その後161+151は節理面で剥離している。164は別方向からの剥離に伴い剥出したものと思われる。169+155+2121は、はじめに、169が剥離され、同一打面より155→2121の順に剥出されている。石核の159はあらゆる方向より剥片剥離作業が行われている。同様に165の石核についても打面を頻繁に転移させて剥片剥離作業をしている。また、石核から150→154→160→157の順に剥出している。

もう一つの分割礫Bは正面図下縁より156→167を剥出し、163、171を得ている。石核の166は172を剥出した後、その剥離面を打面に設定し、剥片剥離作業を行っている。170+153+158+168では158+168を剥出し、153を剥離している。接合11はナイフ形石器とプランディングチップの接合である。93の主要剥離面側から194のプランディングチップが剥離されている。接合12も前述したようにナイフ形石器の折れ面接合である。接合13は折面接合である。接合14は剥離面接合である。198→197→199と剥離され、200はアクシデントによる折れと思われる。接合15は礫から表皮である（201+202+203）が剥離され、その後、薄手の横長剥片素材の資料16（204+205）を剥出している。さらに資料16では打面部を主要剥離面側から剥離作業を行っている。それに伴い折れたものと思われる。

Shk- 2

ナイフ形石器 1 点を含み、K3グリッドからL3グリッドにかけて分布しており、石器ブロック21の中心である。その他剥片18点、石核 1 点が出土し、珪質頁岩 2 の母岩は接合状況等から 1 個体のみである。

母岩 3 (6)

接合17は石核 1 点、剥片 8 点の剥離面接合である。やや扁平である円礫を表皮である表面側の191と裏面側の（187+189+193）とを正面側上縁部より剥出し、接合18を得ている。191はその後、石核として利用され、礫面を求心的に剥離し、その剥離面を打面に転用している。接合18は裏面側下縁部より加撃し、（192+194）を剥出した後、192を剥離している。また、接合18の表面中央より加撃し、190と186が分割されている。

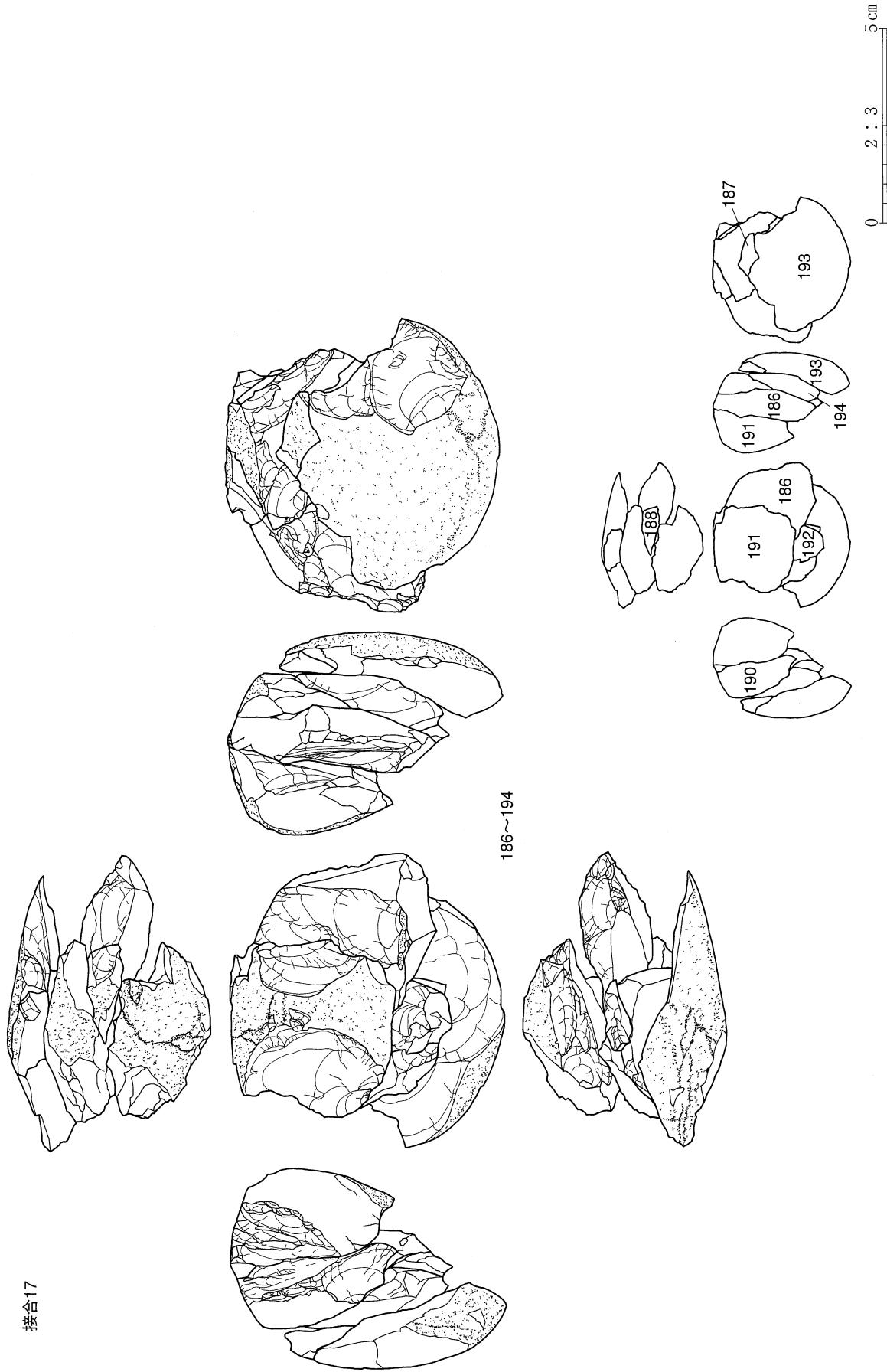
Sh-1

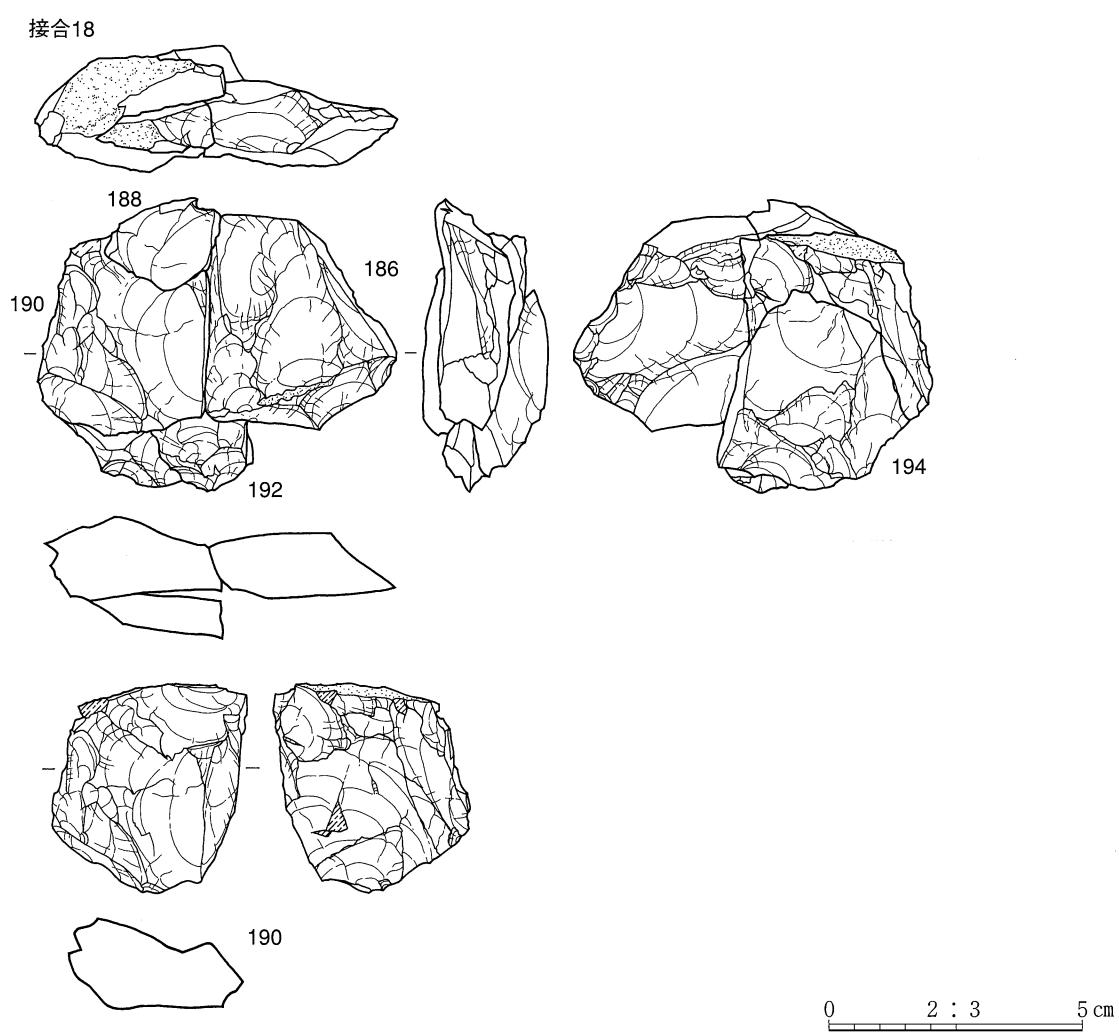
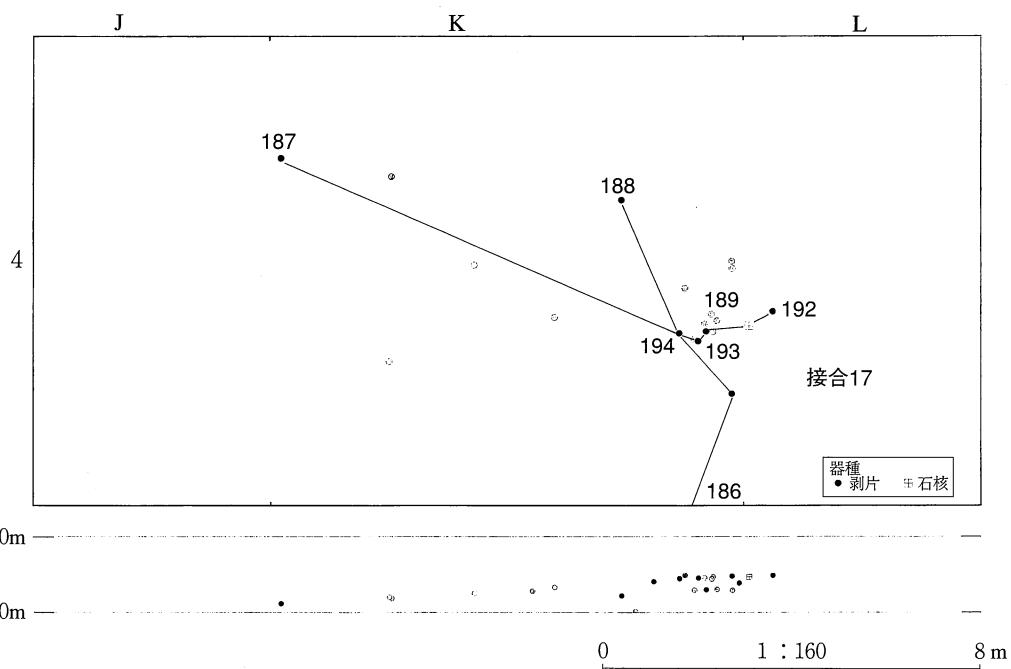
頁岩 1 は主に石器ブロック14を中心に出土し、他の石器ブロックにも僅かに含まれる。ナイフ形石器 1 点、二次加工剥片 2 点、石核 4 点、碎片 3 点、剥片 64 点が確認され、この石材の接合資料 4 点が得られたが、いずれも同一母岩の可能性がある。

母岩 4

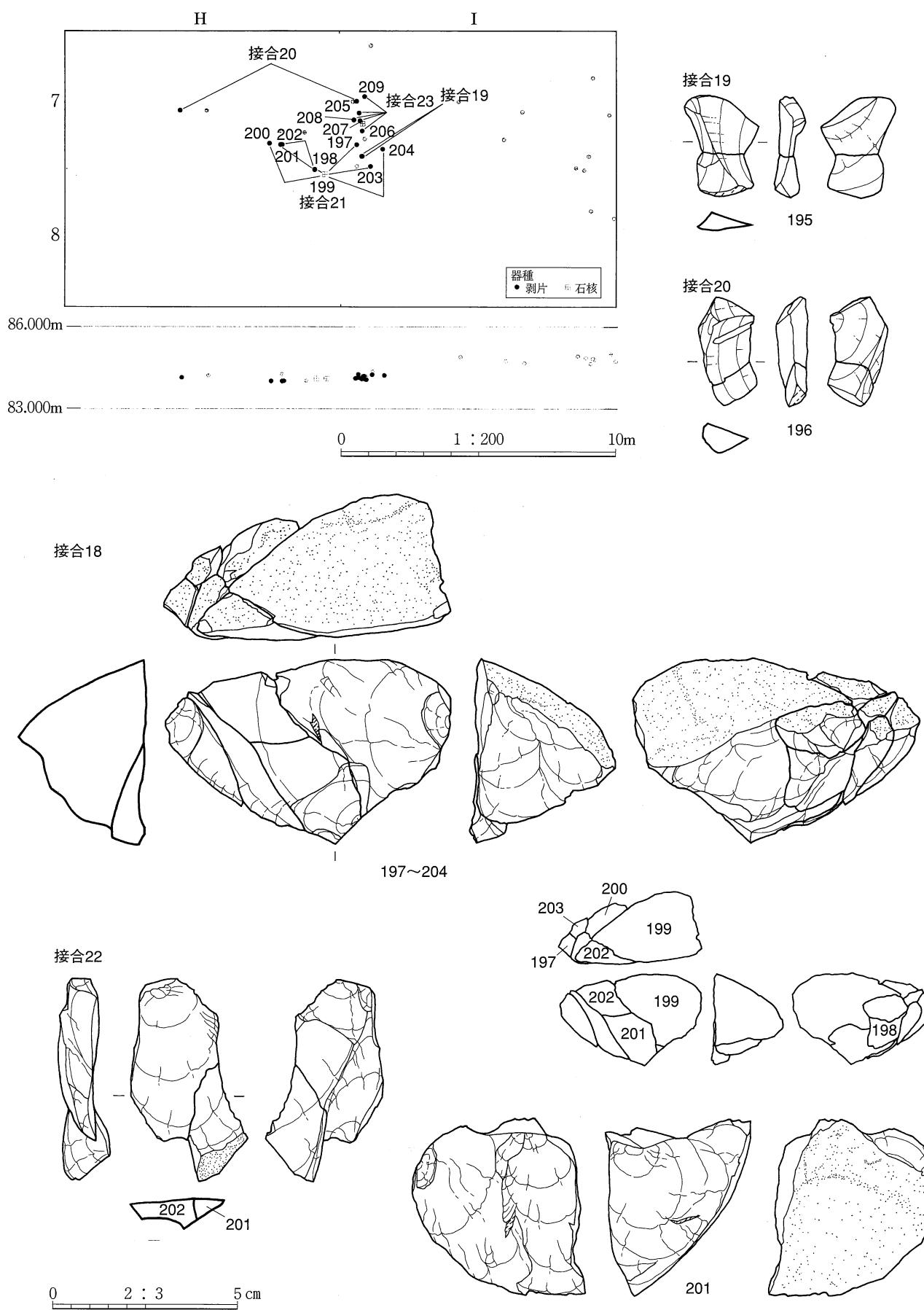
接合19、接合20は折面接合で、接合19の剥片 2 点は出土地点もほぼ同じ所から出土している。接合21は、はじめに礫を正面右側面より分割し、その後、表面図上縁部の自然面を打面に設定し、197→203→204を剥出している。その後打面を180度転移して接合22を剥出している。剥出した後、節理により221

第72図 接合資料実測図(5)

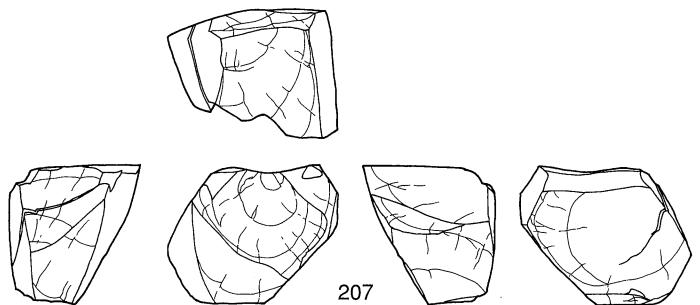




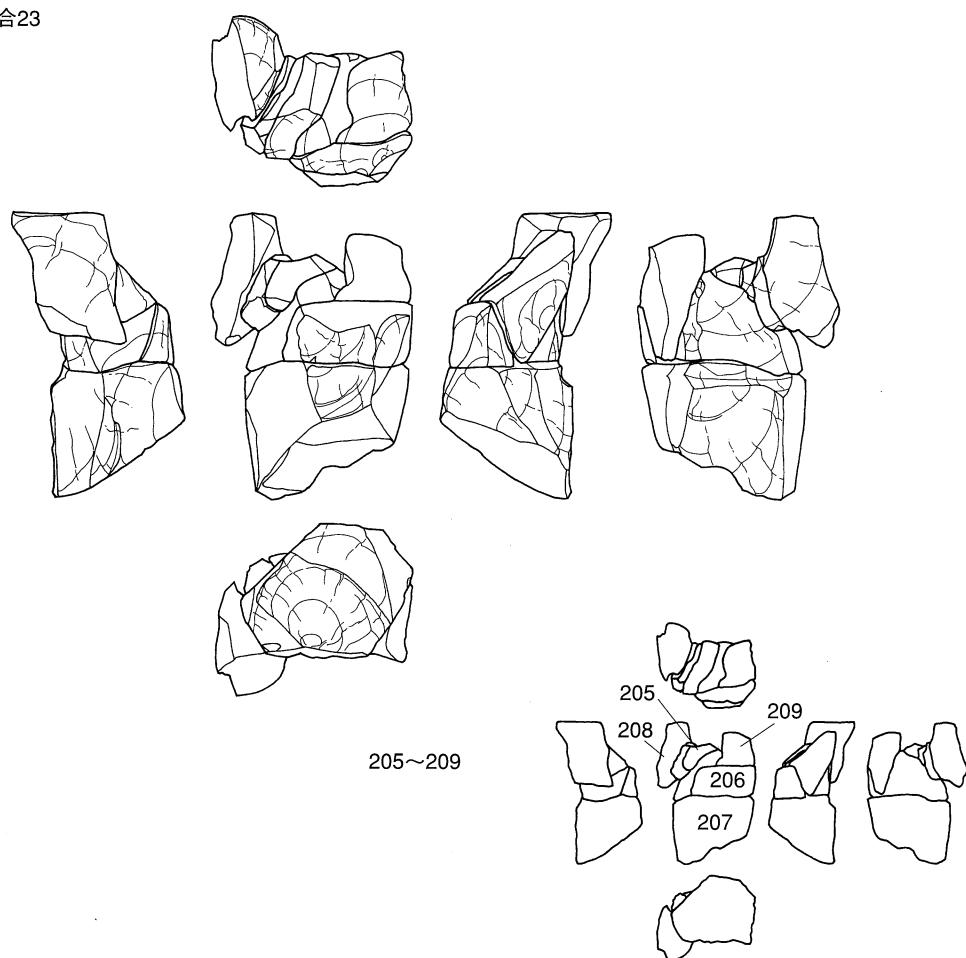
第73図 分布図及び接合資料実測図(3)



第74図 分布図及び接合資料実測図(4)

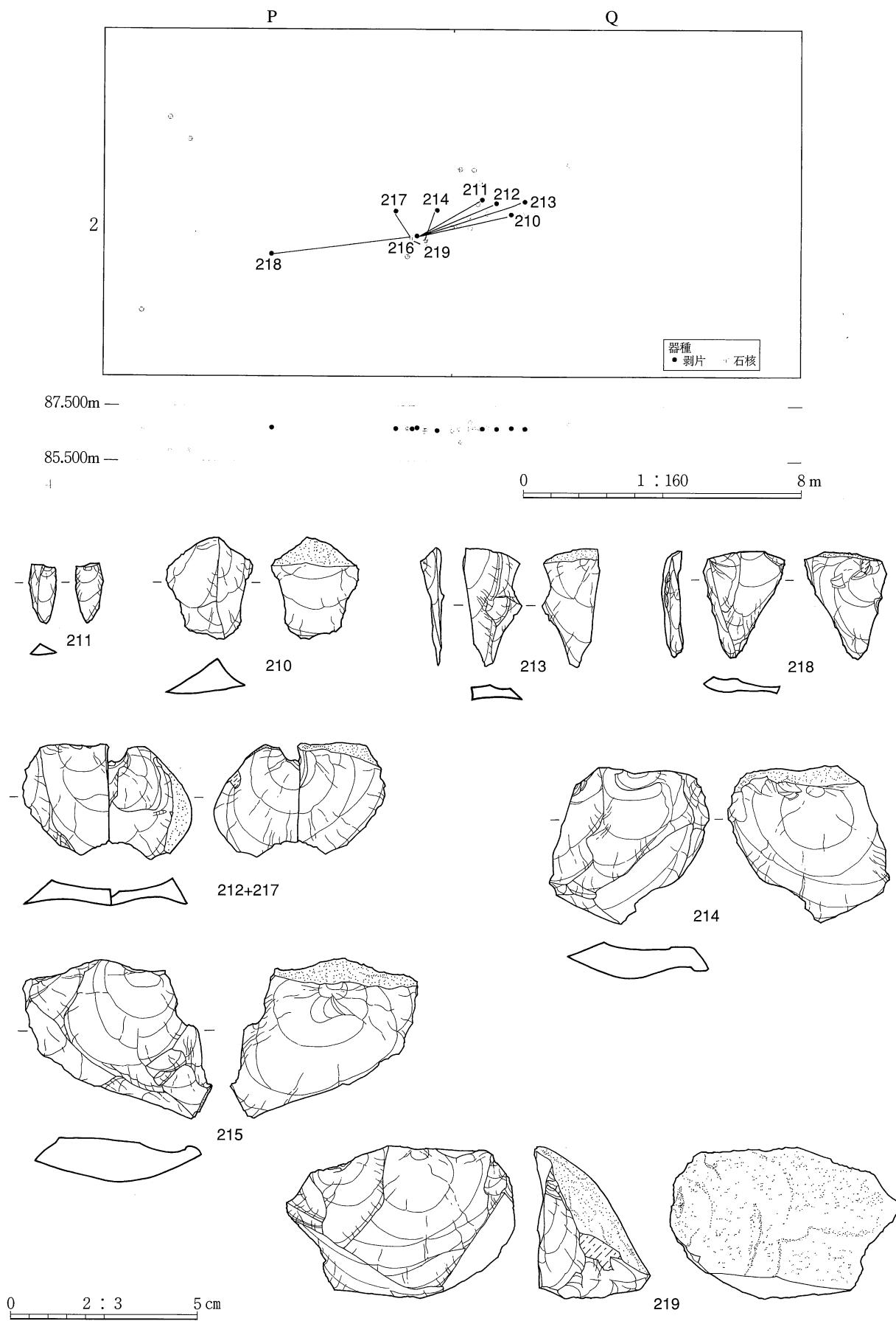


接合23

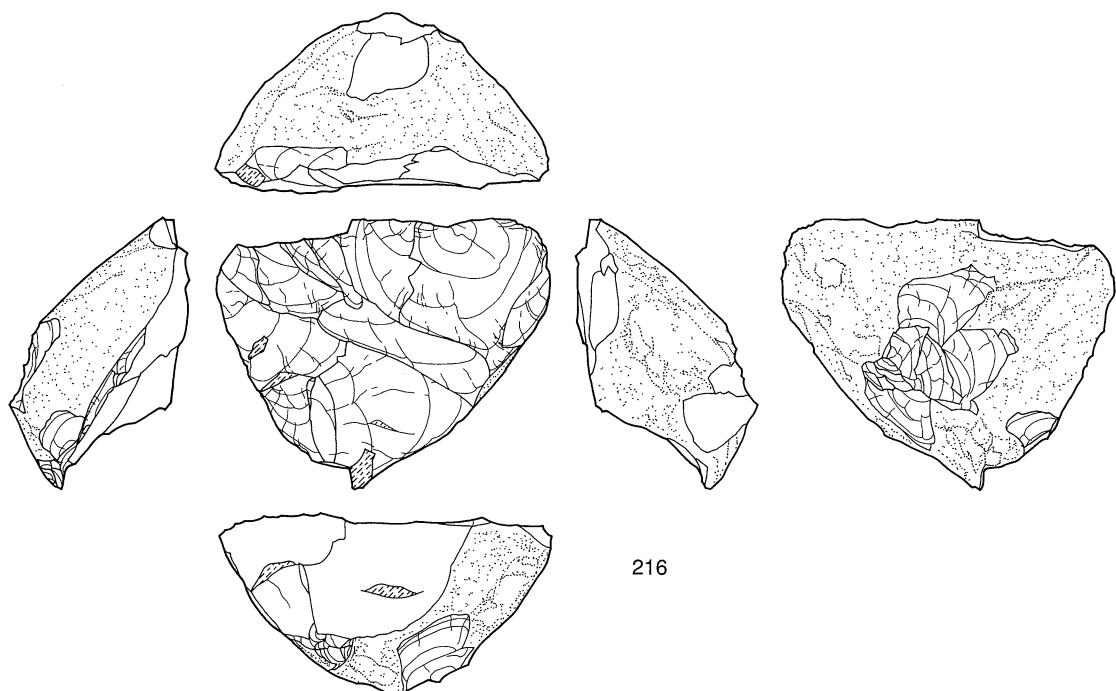


0 2 : 3 5 cm

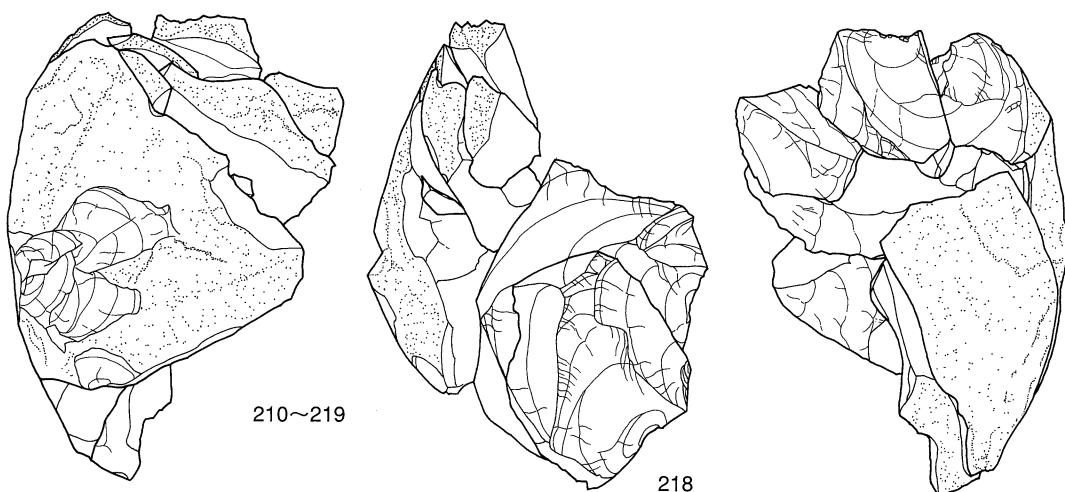
第75図 接合資料実測図(6)



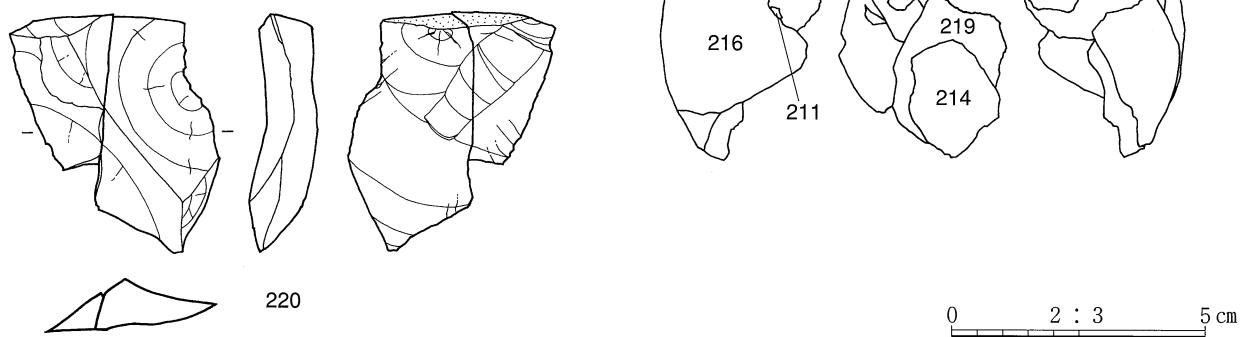
第76図 分布図及び接合資料実測図(5)



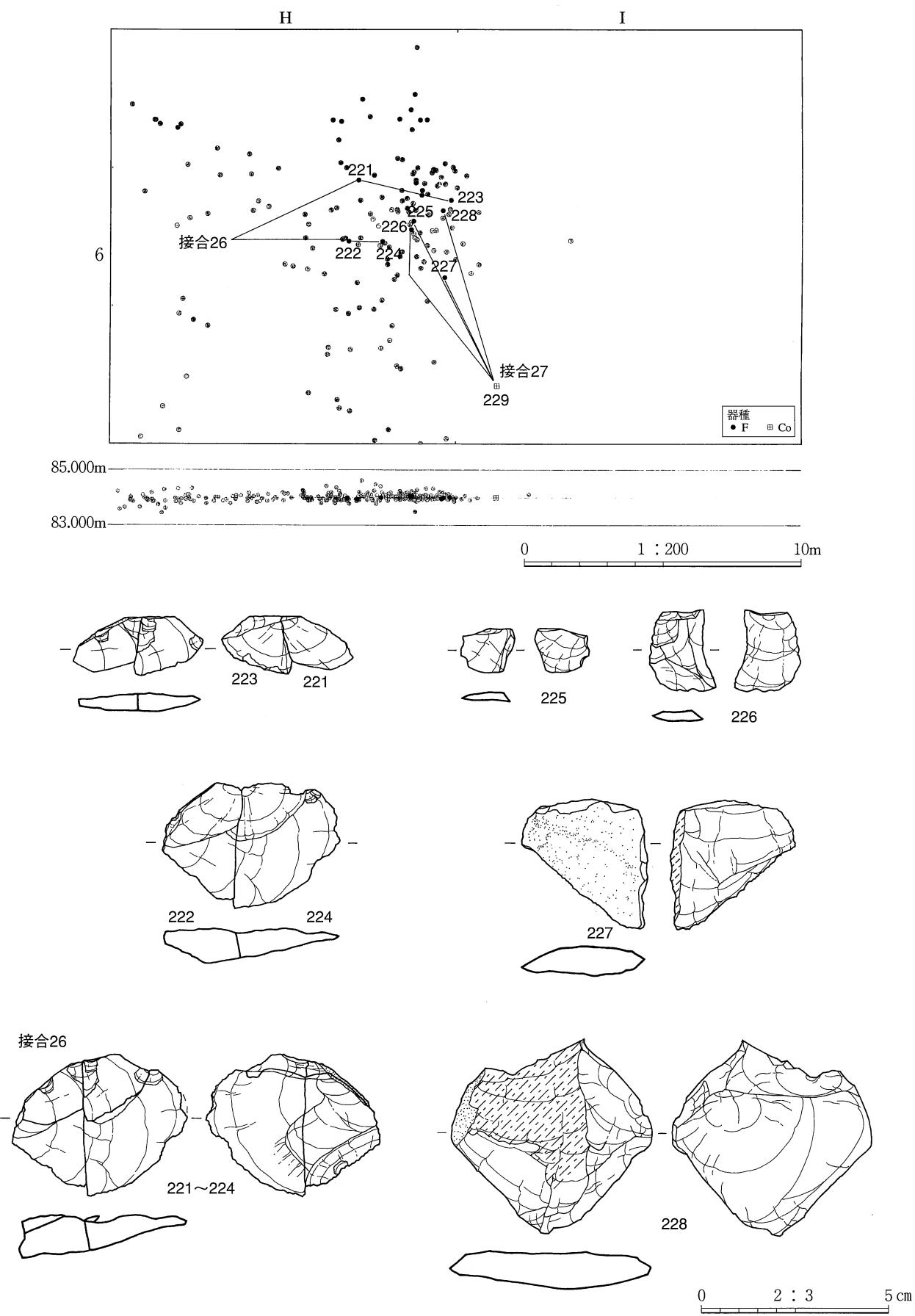
接合24



接合25

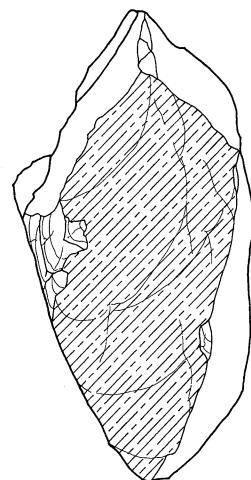
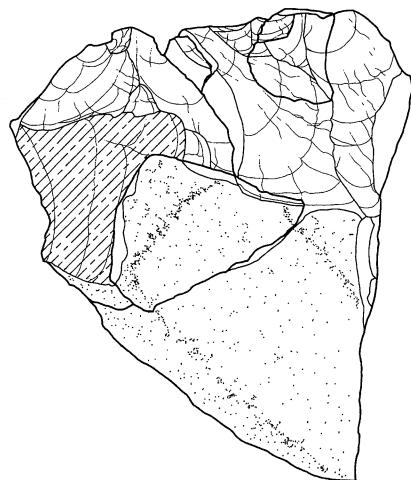
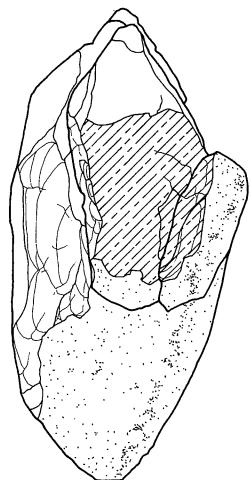
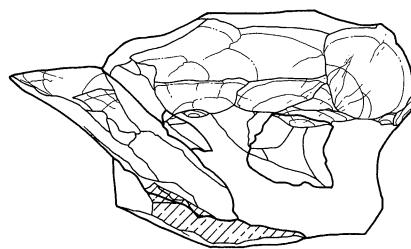


第77図 接合資料実測図(7)

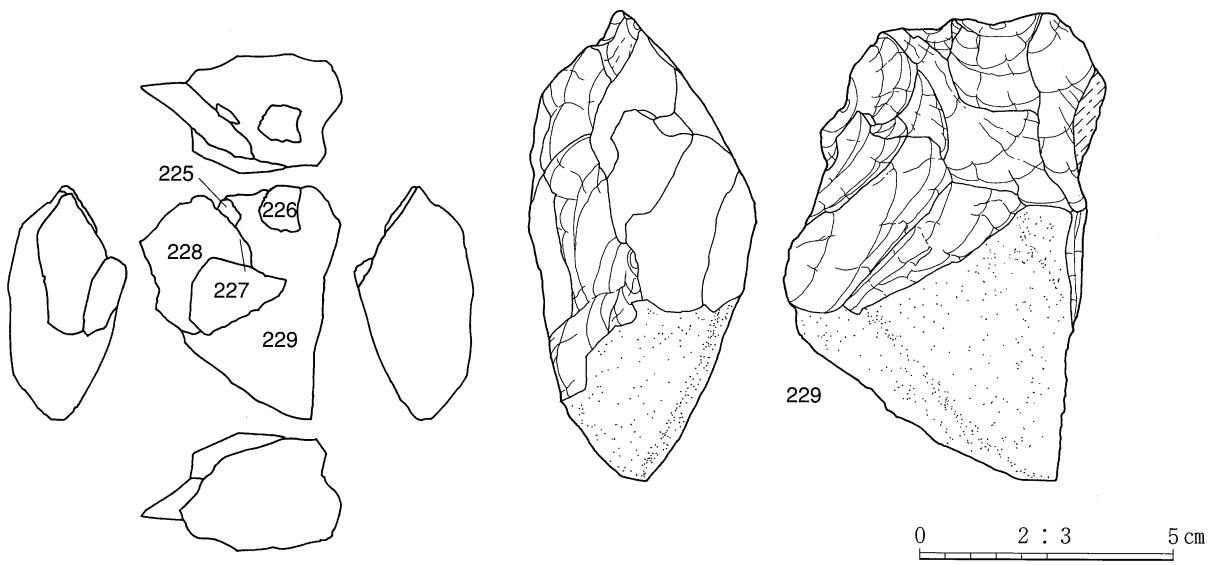
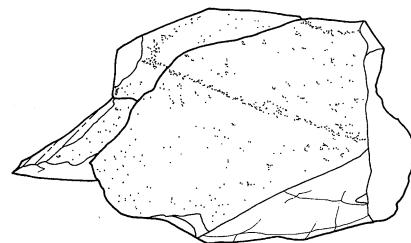


第78図 分布図及び接合資料実測図(6)

接合27



225～229



第79図 接合資料実測図(8)

と222が折れている。接合23では4点の剥片と1点の石核が接合している。はじめに、207を剥出し、205→206→209→208の順で剥離作業が行われている。この接合23は表皮が認められないので、接合21の母岩より石核を剥出した後、更に剥片剥離作業を行ったものと思われる。

Sh-2

貞岩2は主にP1グリッド～Q1グリッドにかけて分布しており、石器ブロック22に占める石材である。ここでは、剥片16点、チップ2点、石核3点、二次加工剥片1点と接合資料2点（接合24、接合25）を得られた。

母岩5

はじめに、原礫を（214+219）と（210+211+212+213+215+216+217+218）に分割させ、それぞれ、216と219を石核として剥片を作出している。219は比較的平坦な自然面を打面とし、剥片剥離作業を繰り返しており、やや幅広の剥片を作出している。216を石核とする接合資料では原石から分割した打面から90度転移して、自然面を打面に剥片剥離作業を行っている。はじめに210を剥出したのち（212+217）を剥出する際に、アクシデントにより打点近くより折れている。次に218を剥離し、215→211、213を剥出している。213はやや幅広の剥片であったが、剥出と同時に縦に亀裂が入り、折れている。211と213は切り合いがみられず、前後関係は不明である。接合25は自然面を打面に剥出されたものであり、何らかのアクシデントにより、折れている折面接合資料である。

Sh-3

貞岩3はH5グリッドを中心に分布しており、石器ブロック10の中心にあり、珪質貞岩1と同じ石器ブロックである。石核1点、剥片11点を確認しており、接合資料2点を得ている。この2点は同一母岩と考えられる。

母岩6(7)

母岩7は表面が暗茶褐色でザラつき、剥離面は青暗灰色の一見ホルンフェルスを思わせるような貞岩である。母岩7は母岩1と共に石器ブロック10の中心にある。接合26は（223+221）と（222+224）の剥離面接合である。始めに、（223+221）を剥出し、その際のアクシデントにより打面から折れたものである。同様に残された（222+224）もアクシデントにより折れたものである。接合27は石核229に剥片4点の接合資料である。正面上部より加撃され、226が剥離されている。その後、右に90度転移し、剥片剥離作業を繰り返している。227は228を剥出する前の剥片剥離作業工程で、節理に伴い剥離されたものである。

Sh-4

貞岩4の石材はナイフ形石器（第54図82）のみで、他には確認されていない。

Sh-5

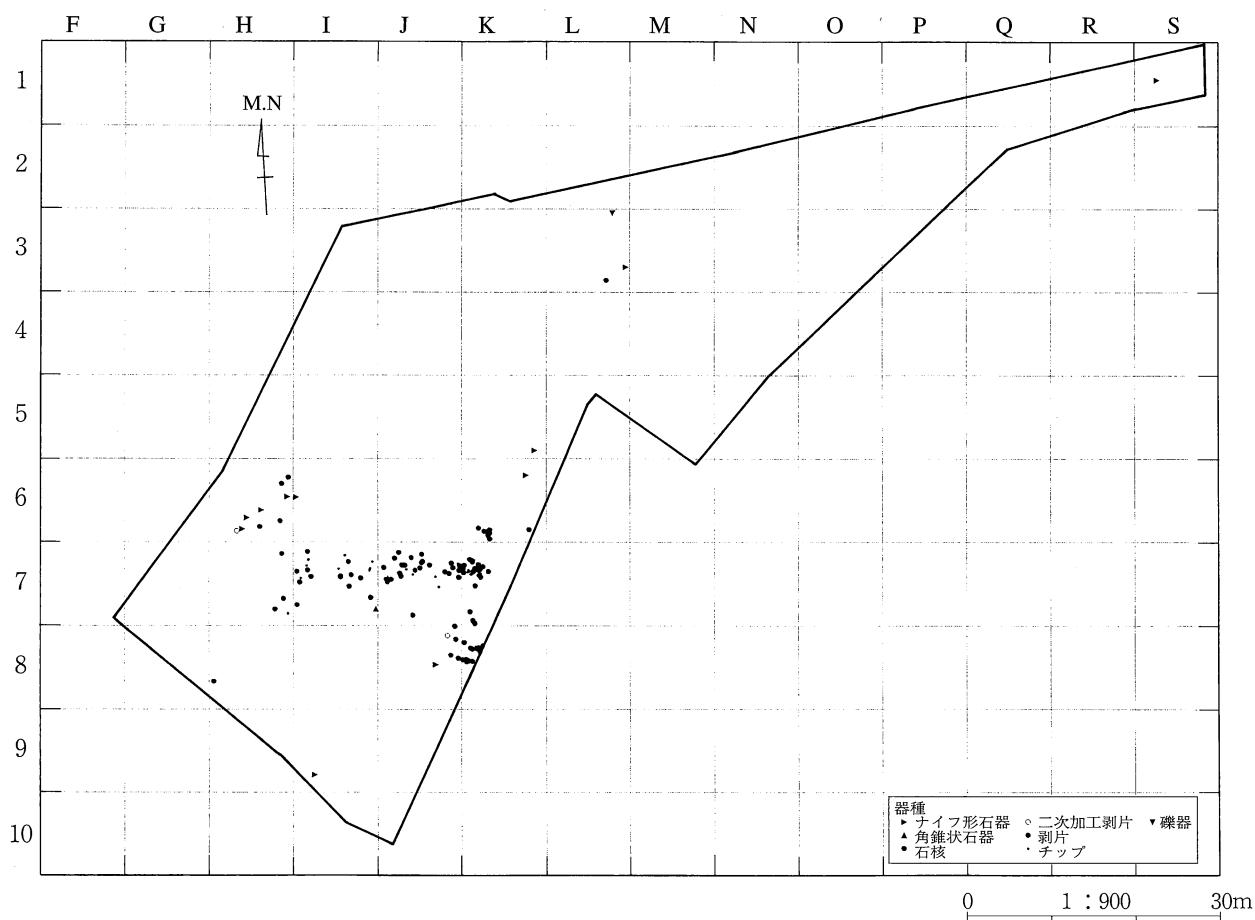
3点のみで、すべてスクレイパー（第58図104, 106, 107）である。

Sh-6

剥片10点、石核1点、碎片2点の総計13点の出土である。

Sh-7

99の角錐状石器と他に碎片1点である。



第80図 流紋岩器種別分布図

第12表 流紋岩石器組成表

	ナイフ形石器	角錐状石器	スクレイバー	二次加工剥片	石核	碎片	剥片	礫器	計	母岩
流紋岩 1	1								1	
流紋岩 2	1								1	
流紋岩 3	1								1	
流紋岩 4	1								1	
流紋岩 5	2	1							4	
流紋岩 6	3			2	1	24	95		125	7
流紋岩 7	2								2	
流紋岩 8								1	1	
流紋岩 9			1				1			
計	11	1		2	1	24	96	1	136	

流紋岩

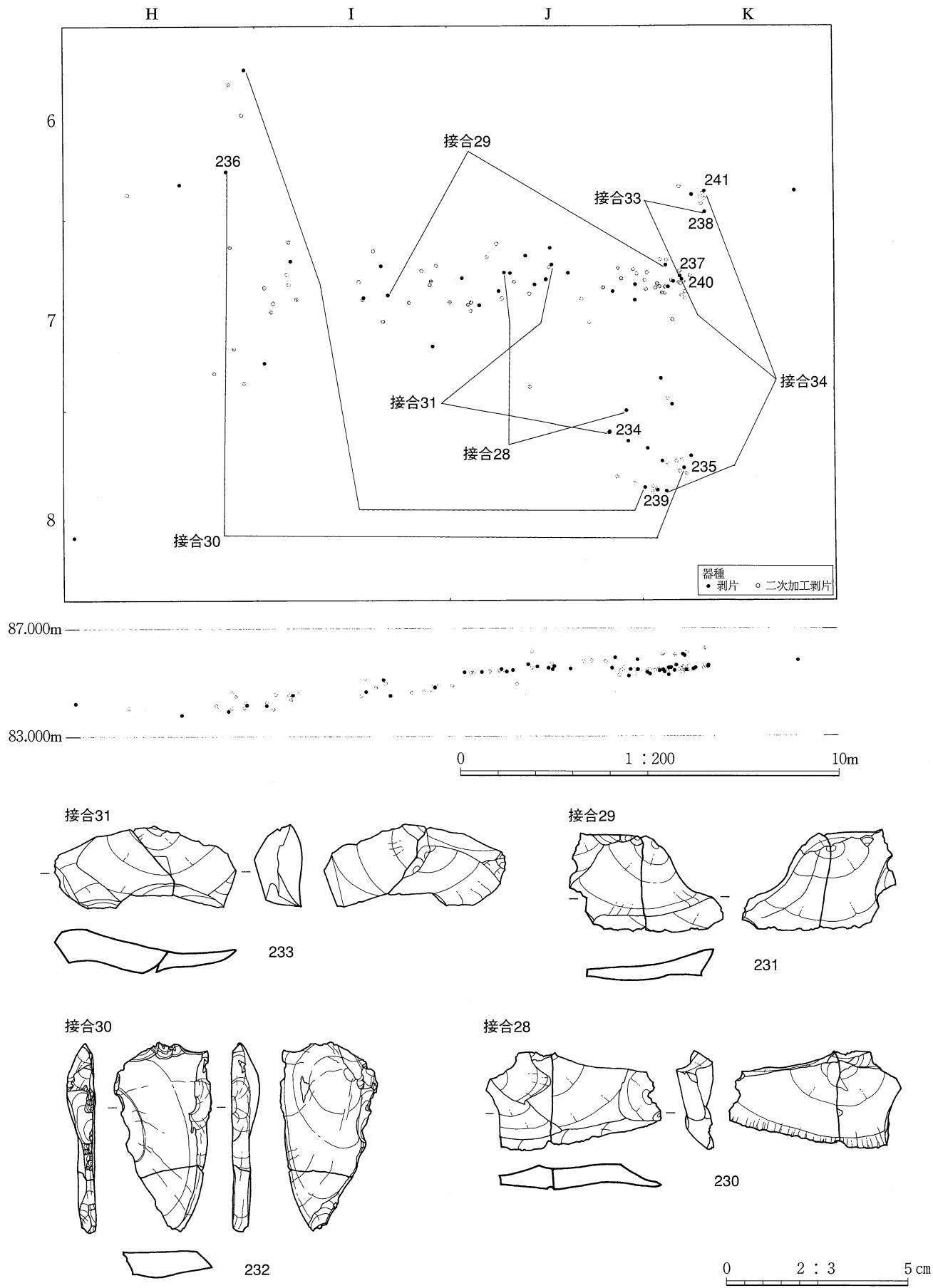
第III文化層における流紋岩の占める割合は、9 %で重量比は5 %と比較的少ない。石材・石質での分類は個体の特徴により、8個体に分類された。流紋岩での特徴は、ナイフ形石器に使用している例が多く、石器製品1個体に対して石材1個体のものが多い。唯一、流紋岩6のみが、剥片、碎片等がもっと多く出土した。

Rhy 1

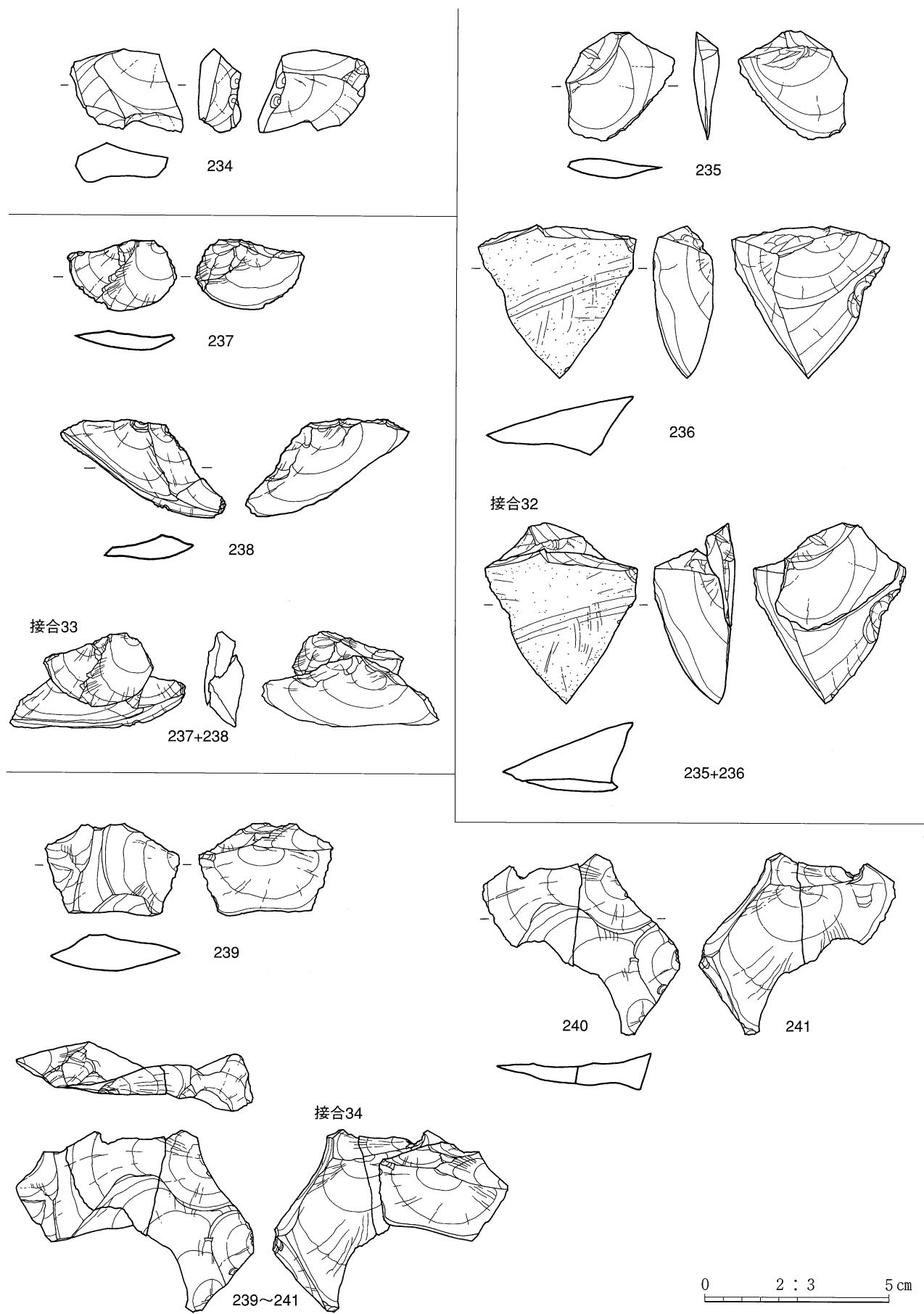
石器ブロック12に含まれる87のナイフ形石器で、他の遺物はみられない。

Rhy 2

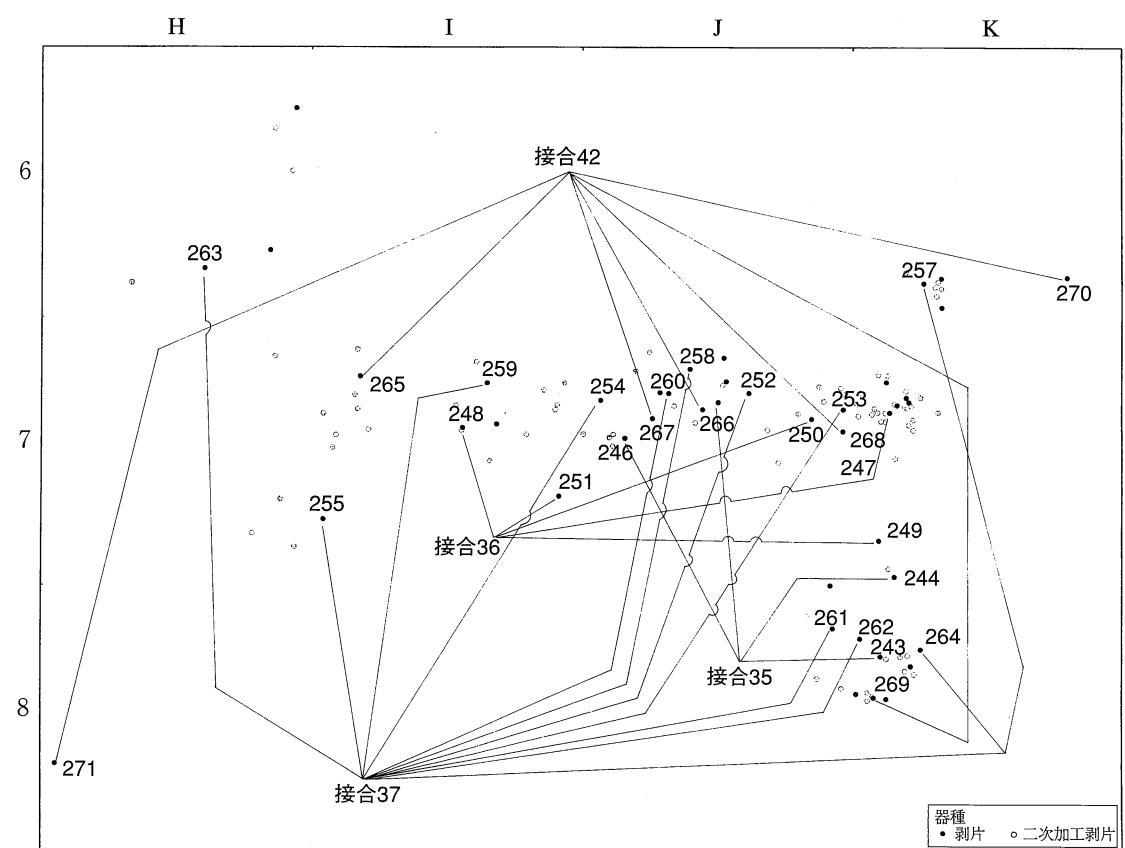
石器ブロック18に含まれ88のナイフ形石器である。他の遺物はみられない。



第81図 分布図及び接合資料実測図(7)



第82図 接合資料実測図(9)



87.000m

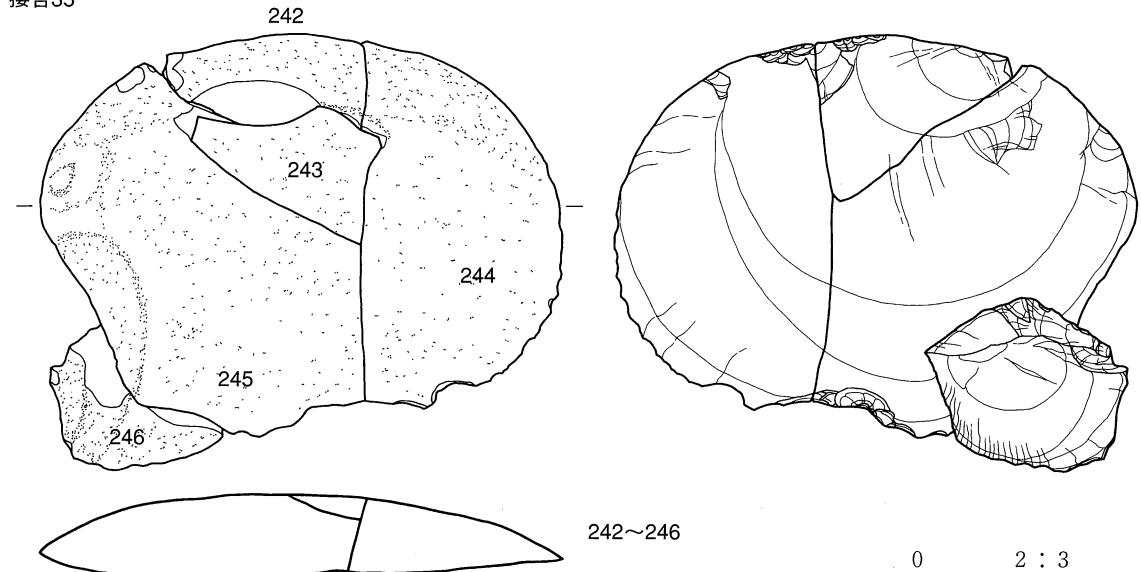
83.000m

0

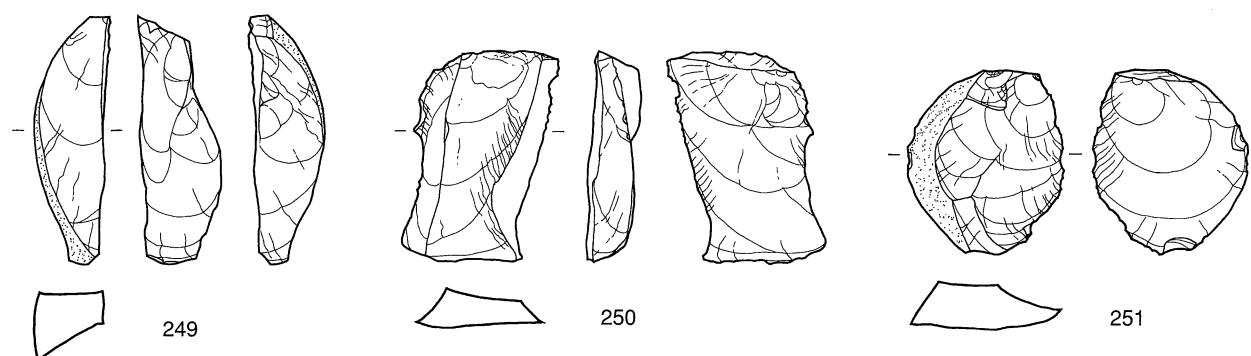
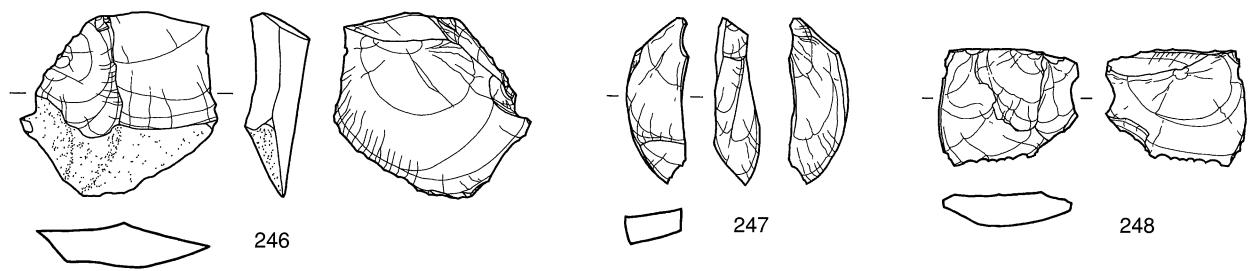
1 : 280

20m

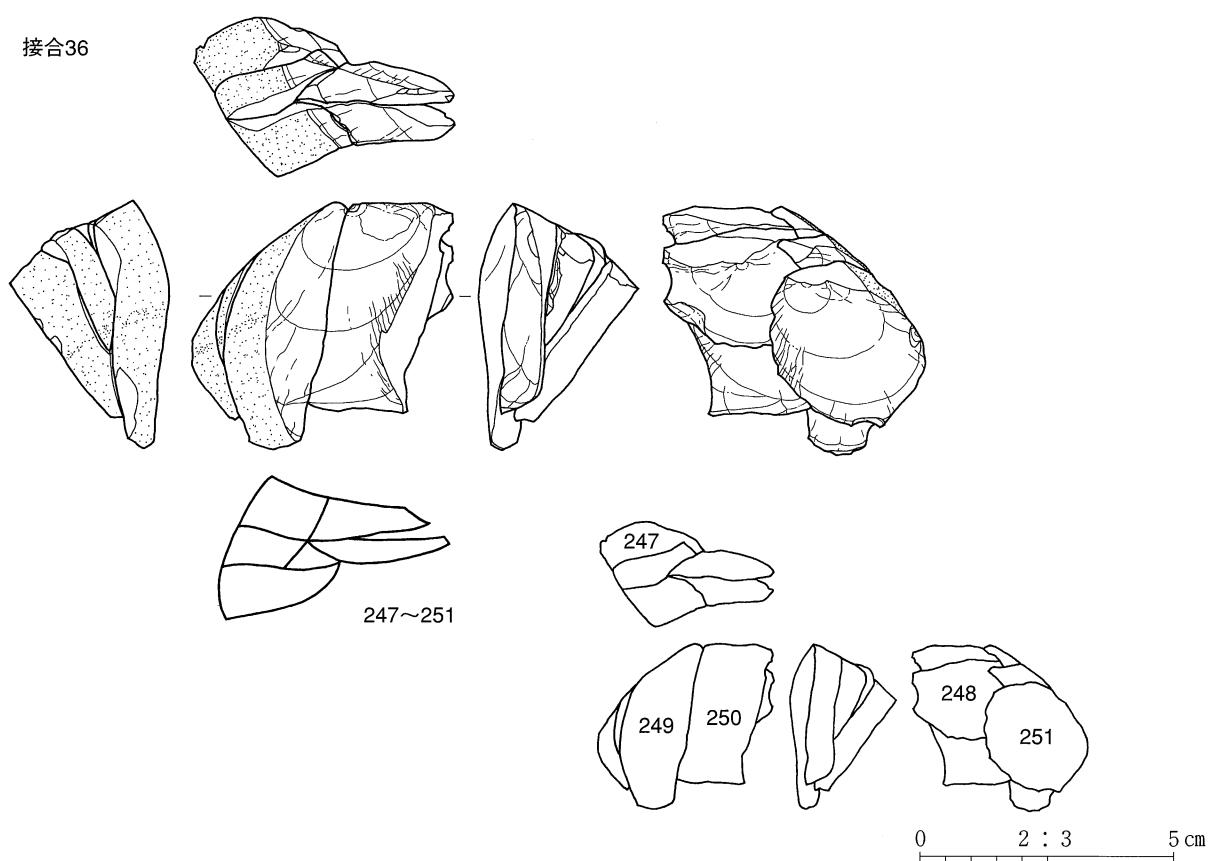
接合35



第83図 分布図及び接合資料実測図(8)

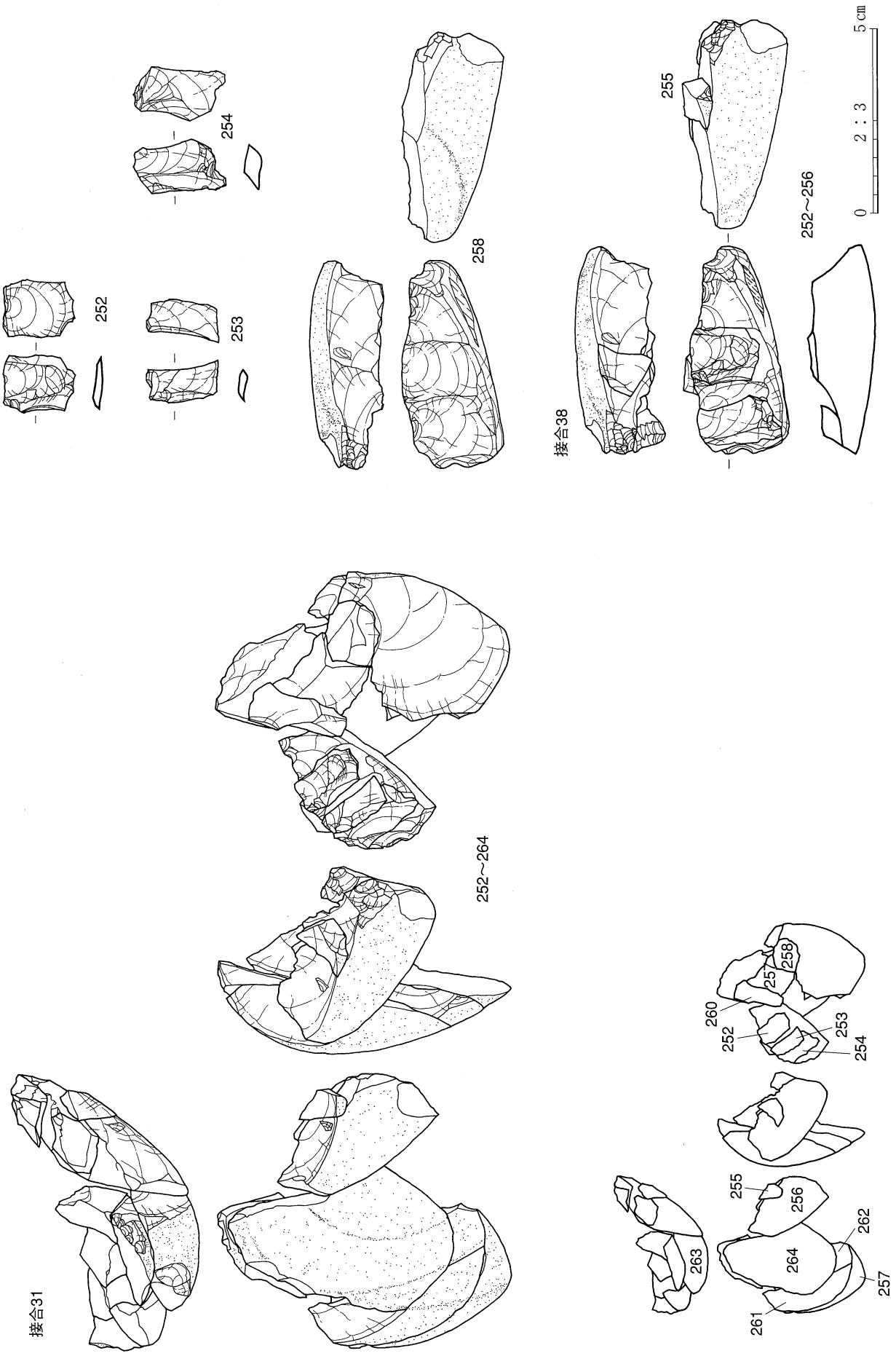


接合36

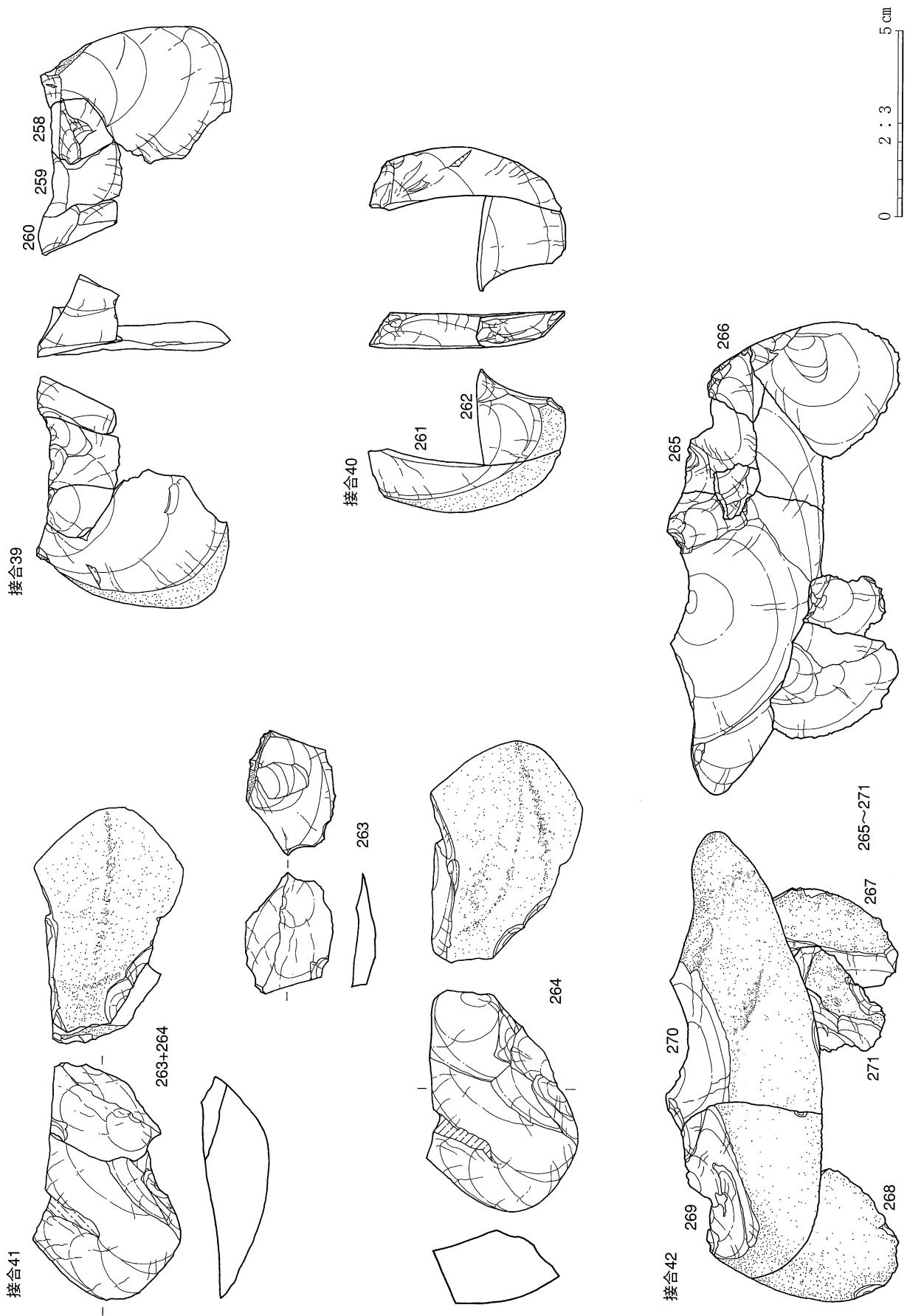


第84図 接合資料実測図(10)

第85図 接合資料実測図(1)



第86図 接合資料実測図(12)



Rhy 3

C区出土の92のナイフ形石器のみである。

Rhy 4

98のナイフ形石器で、他の遺物はみられない。

Rhy 5

90, 97のナイフ形石器と100の角錐状石器の1点のみである。

Rhy 1～5はそれぞれ石器製品のみの出土で、剥片等が確認されていない。他からの持ち込みによるもの可能性が高い。

Rhy 6

流紋岩6は広い範囲に分布しており、接合資料11点を得た。これらの接合資料はいずれも同一母岩の可能性が高く、原礫を当遺跡に運び込み、そこで、一連の剥片剥離作業を行っていると考えられる。

接合28, 29, 30は折面接合である。石核より剥出する際に、折れたものと思われる。接合30は、打面調整剥片である。接合31は表面側中央付近より加撃し、234を得、それに二次加工を施している。接合32, 33, 34は剥離面接合である。接合32では236の石核の一部として235を剥出し、その後、石核より剥出されている。接合33は237を剥出後、翼状剥片238を剥出している。接合34は239→(240+241)で剥離している。接合35は扁平礫の礫面を剥出した折面接合資料である。礫面を剥出し、その後母岩より246を剥離している。接合36は、すべて裏面の上縁部を打面とし、剥片剥離作業を行っている。はじめに250+248を剥出し、249→251→252の順で剥片剥離作業が行われている。248+250は剥出後に、同じ打面から加撃し、248と250を得ている。接合37は自然面を中心とした接合資料である。礫全体の約1/4程度の接合資料と思われる。はじめに、接合38を剥離し、次に接合41が剥出される。次に接合39を剥出し、最後に接合40が残る。はじめに剥出した接合38は255を剥離し、打面を作出し、その打面から急角度に253→254→252を剥出している。接合41は剥離した同じ方向から263を剥出している。接合39は260→259→258と剥離され、最後に257を剥出している。接合40は母岩より剥離された後に、打面付近の加撃により、261と262に剥離している。接合42は(269+270+265+266)が礫から剥離され、翼状剥片を剥出している。さらに、母岩から268, 271, 267を剥出している。剥離された(269+270+265+266)は打面を転移して、265や266を剥出している。265は剥出された不定形剥片の折損部である。

Rhy 7

87・89のナイフ形石器のみの石質である。

Rhy 8

141の礫器のみである。

Rhy 9

スクレイパーと剥片のみである。

ホルンフェルス

ホルンフェルスは、遺物数比では5%しかないが、重量比では約22%あり、全遺物の3番目の比重を占めている。ホルンフェルスの石質は、6種類に分類された。

Holf 1

石器ブロック10より3点出土し、他は石器ブロック13より1点出土している。いずれも剥片で、接合

43と接合45である。どちらも剥離面接合である。接合43の273は打面に小さな剥離痕がみられる。

Half 2

石器ブロック21の石材で接合44のみである。接合44は折面接合である。

Half 3

J7グリッド周辺に4点あり、石器ブロック15にある。

母岩 6

接合46は剥離面接合である。278を剥離した後、276+277を母岩より剥出している。その後、276と277が剥離されている。276と277は剥離面の石材の色が異なっている。これは、剥離後に置かれていた環境の違いによるものだろう。

Half 4

石器ブロック11を中心があり、ほとんど母岩7である。

母岩 7

接合48は折面接合である。表面左側縁を主要剥離面より剥離したときに折れたものと思われる。接合49は角礫を分割し、その主要剥離面を打面に設定し剥片剥離作業を行っている。はじめに287を剥出し、一旦、打面を約90度転移させ、(285+286)を剥離している。その後、この2点は節理によって分割されている。次に、またはじめの打面に戻り、剥片剥離作業を行い、288を剥離している。283は同一打面より順次剥離された剥片の折損した部分である。

Half 5

石器ブロック16や石器ブロック20に散在している。石核と剥片のみである。

母岩 8

はじめ294を表面側がら剥出し、打面を約180度転移させ、小剥片290と292を剥離している。また、切り合いがないため、前後関係ははっきりしないが、裏面側の上縁部より、295を剥出し、やや打点を転移させ、291, 293を剥出している。打点を頻繁に転移させ、あらゆる方向より剥片剥離作業を行い、表、裏両面からの剥離を行っている。

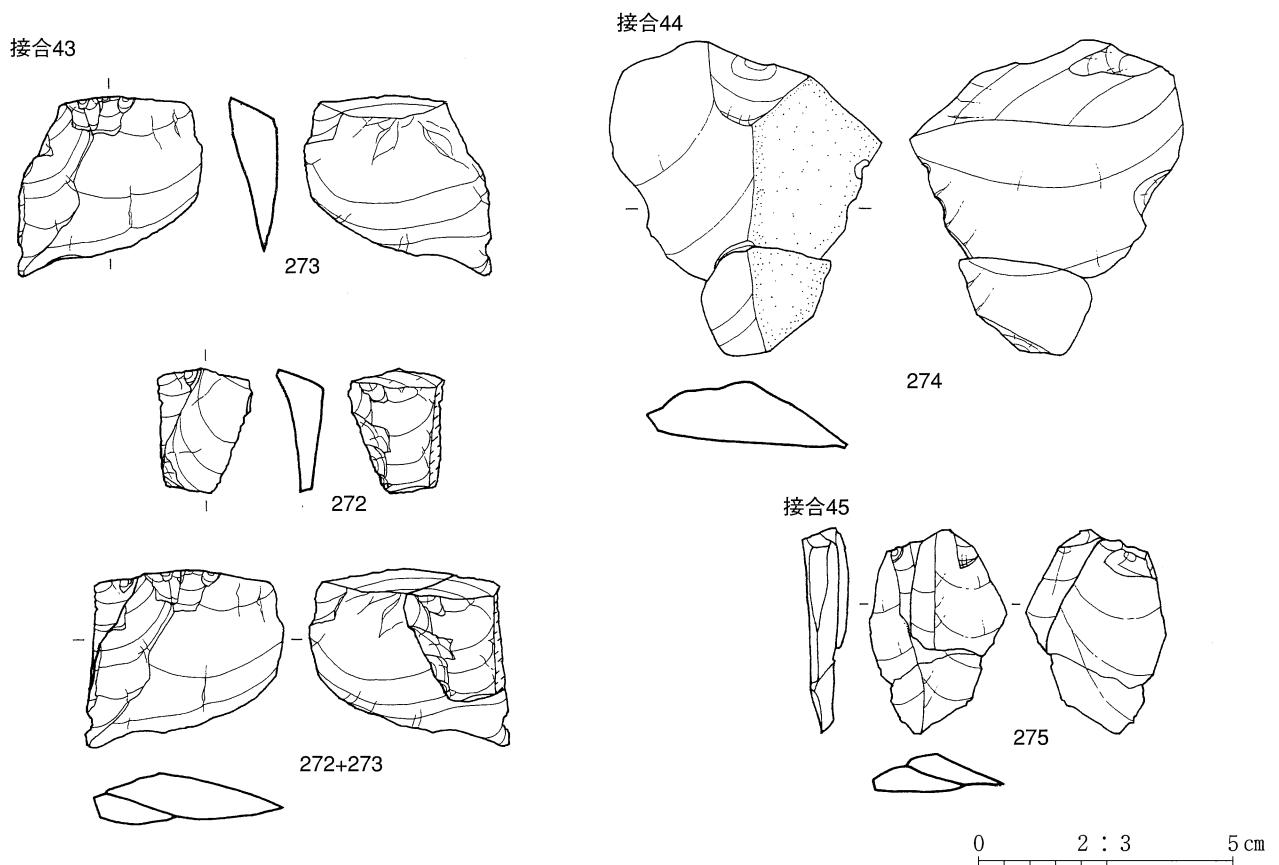
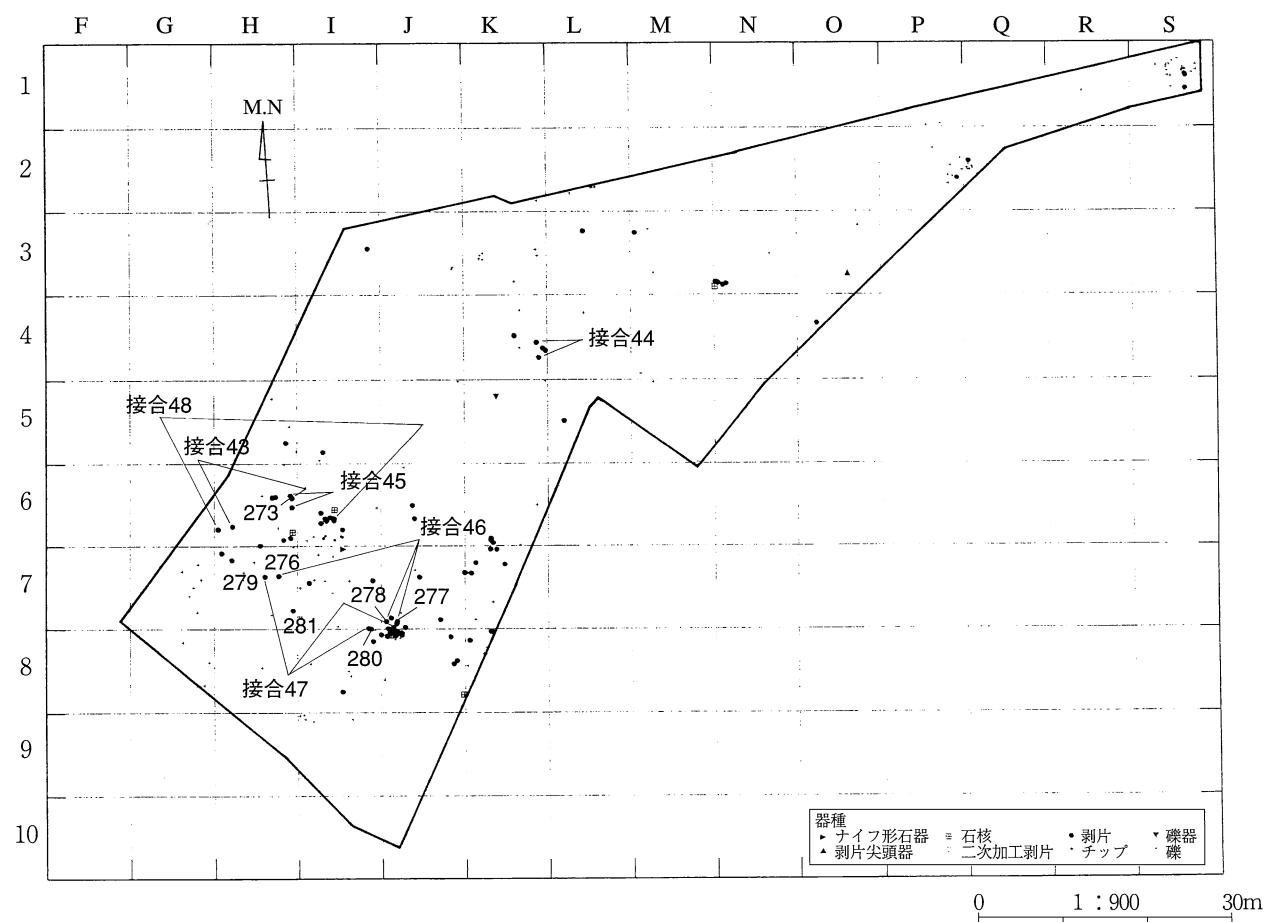
Half 6

母岩 9

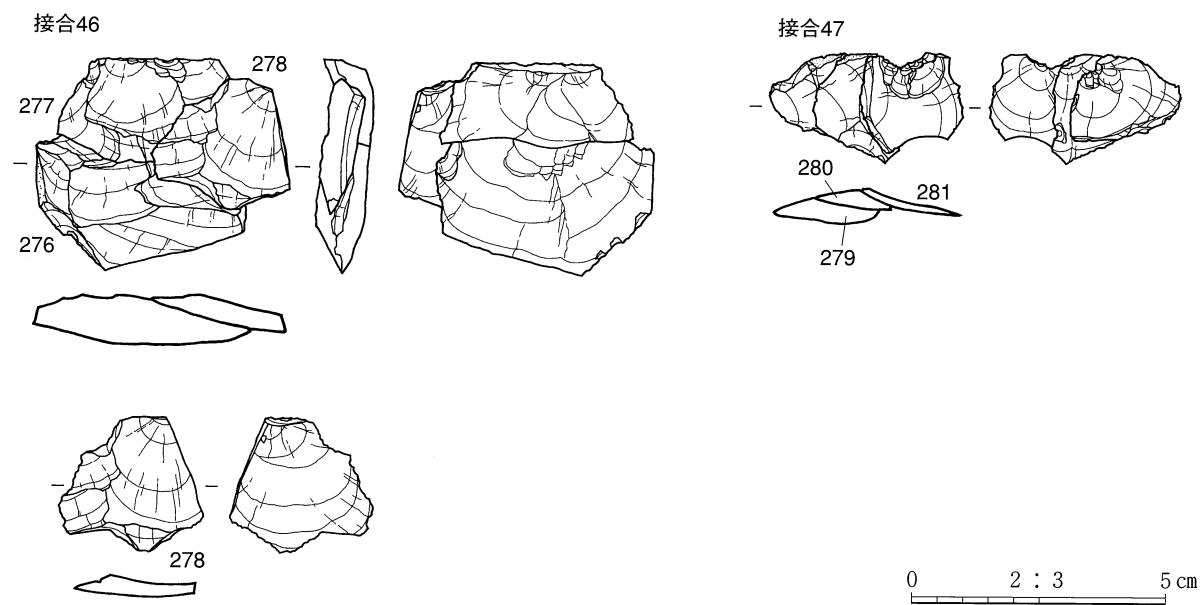
接合51は剥離面接合による接合資料である。接合52は、はじめに礫の自然面である裏面側の自然面を左側下縁部より裏面の8割を剥出し、その後、礫を正面側上縁部より3分割し、それぞれを石核とし、剥片を作出している。3分割された石核の1つの302+306+308+309は、分割した剥離面を打面に設定し、自然面の残る礫の周囲を中心に剥離を行い、306を剥離している。その後、打面を90度転移して、308→309を剥離している。礫の中心にある304+301+303+307+300は自然面を打面に308を剥離している。その後は剥離面を打面とし、90度転移を頻繁にしながら、剥出作業を展開し、300, 301, 303を剥出している。最後に接合52の右側面の305は自然面を打面とし、大振りの剥片を剥離している。

Half 7

138の石核と剥片5点からなる。4つの石器ブロックに散在している。いずれも138の石核から剥出された剥片と思われが、接合関係がみられない。



第87図 ホルンフェルス器種別分布図及び接合資料実測図



第88図 接合資料実測図(13)

Hole 8

140の礫器と剥片1点のみである。

Hole 9

126の剥片を含む2点の出土である。

Hole 10

石器ブロック外にある83のナイフ形石器と剥片1点のみである。

Hole 11

接合資料（未掲載）2点を含む。剥片4点と石核1点の出土である。

Hole 12

接合44のみの出土である。

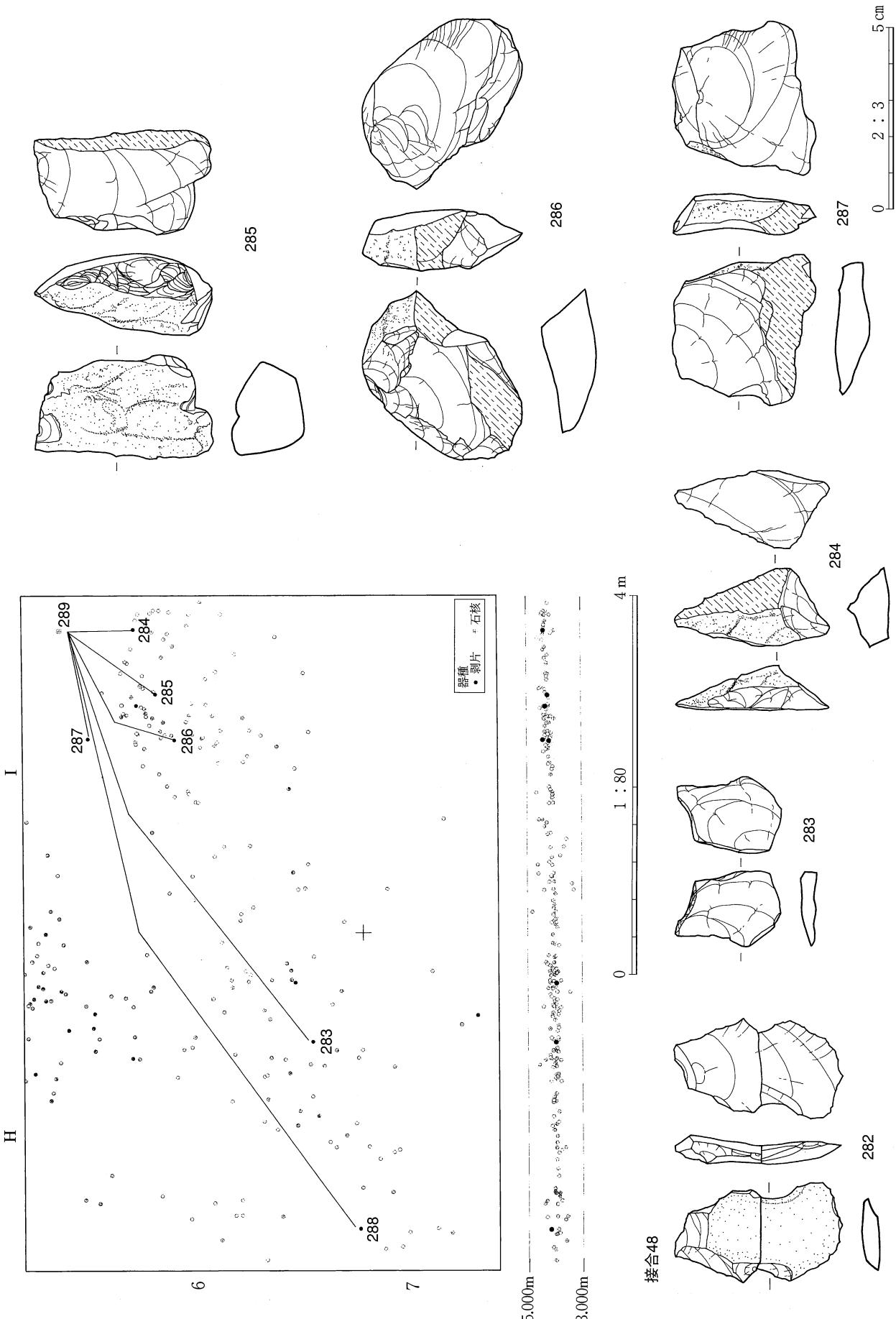
Hole 13

石器ブロック18を中心に剥片6点の出土である。

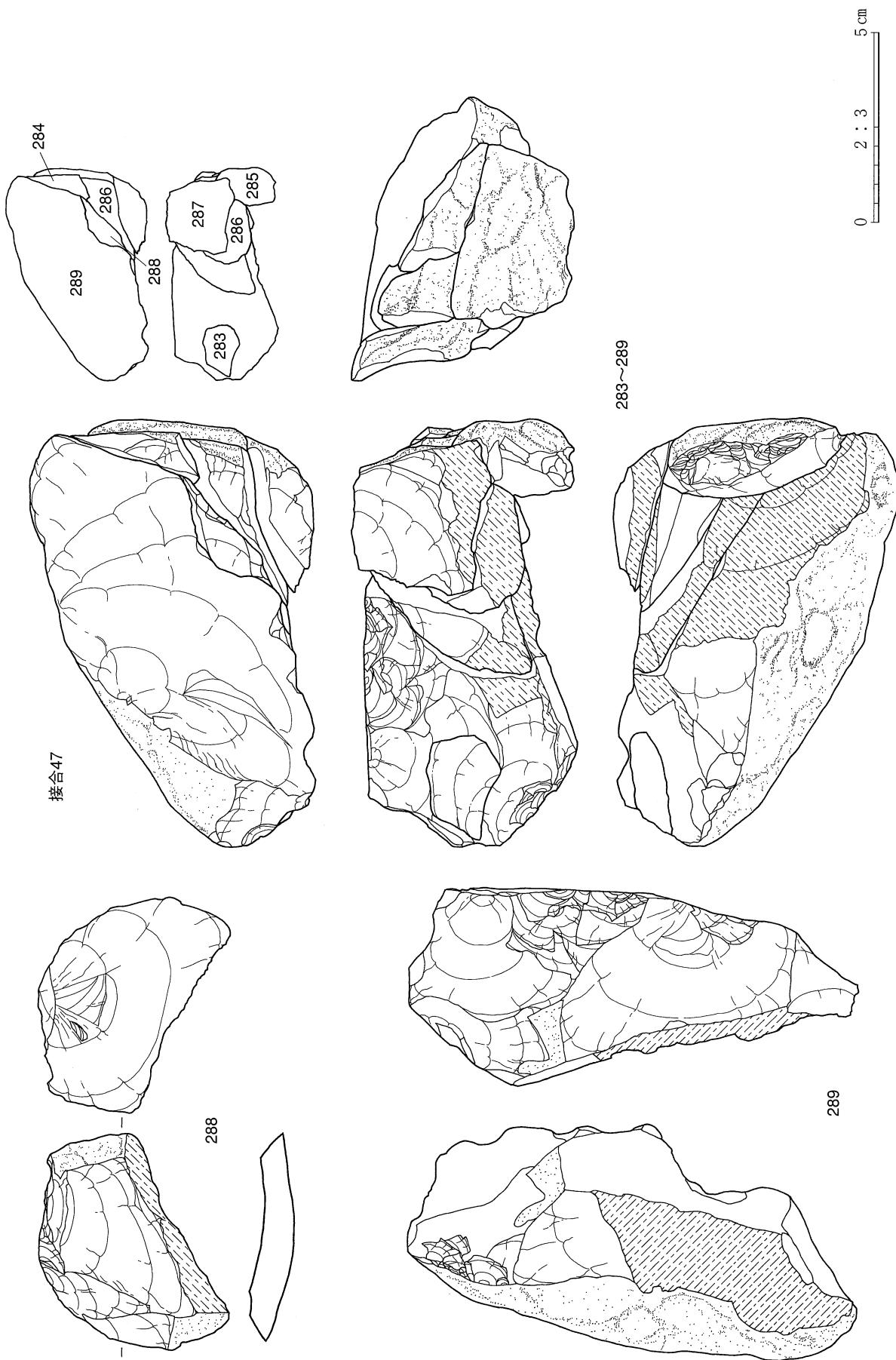
Hole 14

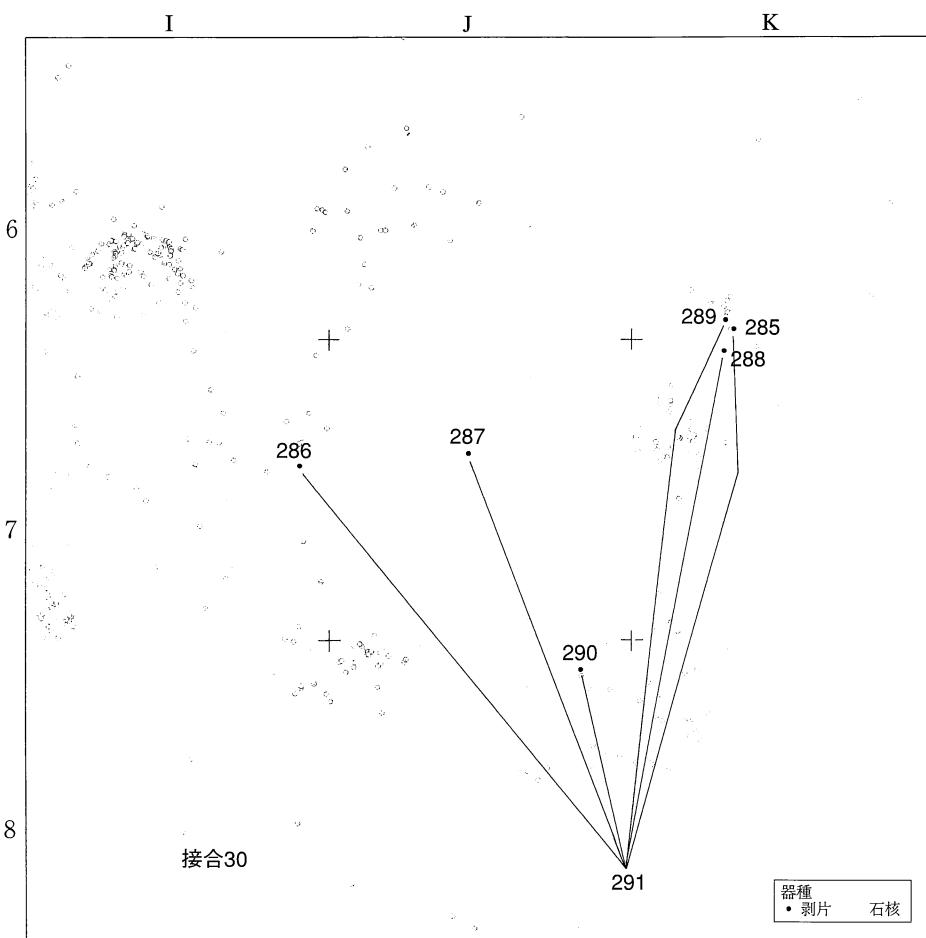
D区の石器ブロック23に多く出土し、すべて剥片である。

第89図 分布図及び接合資料実測図(9)



第90図 接合資料実測図(14)

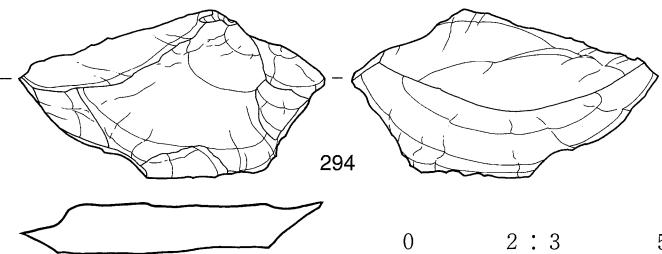
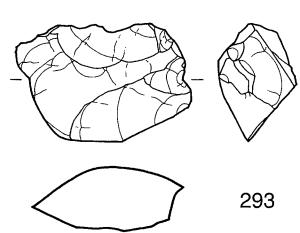
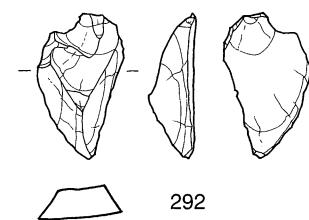
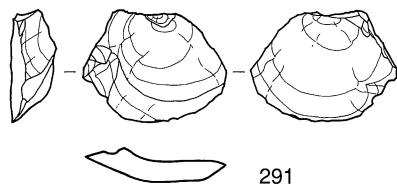
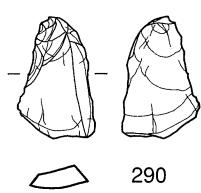




86.500m —

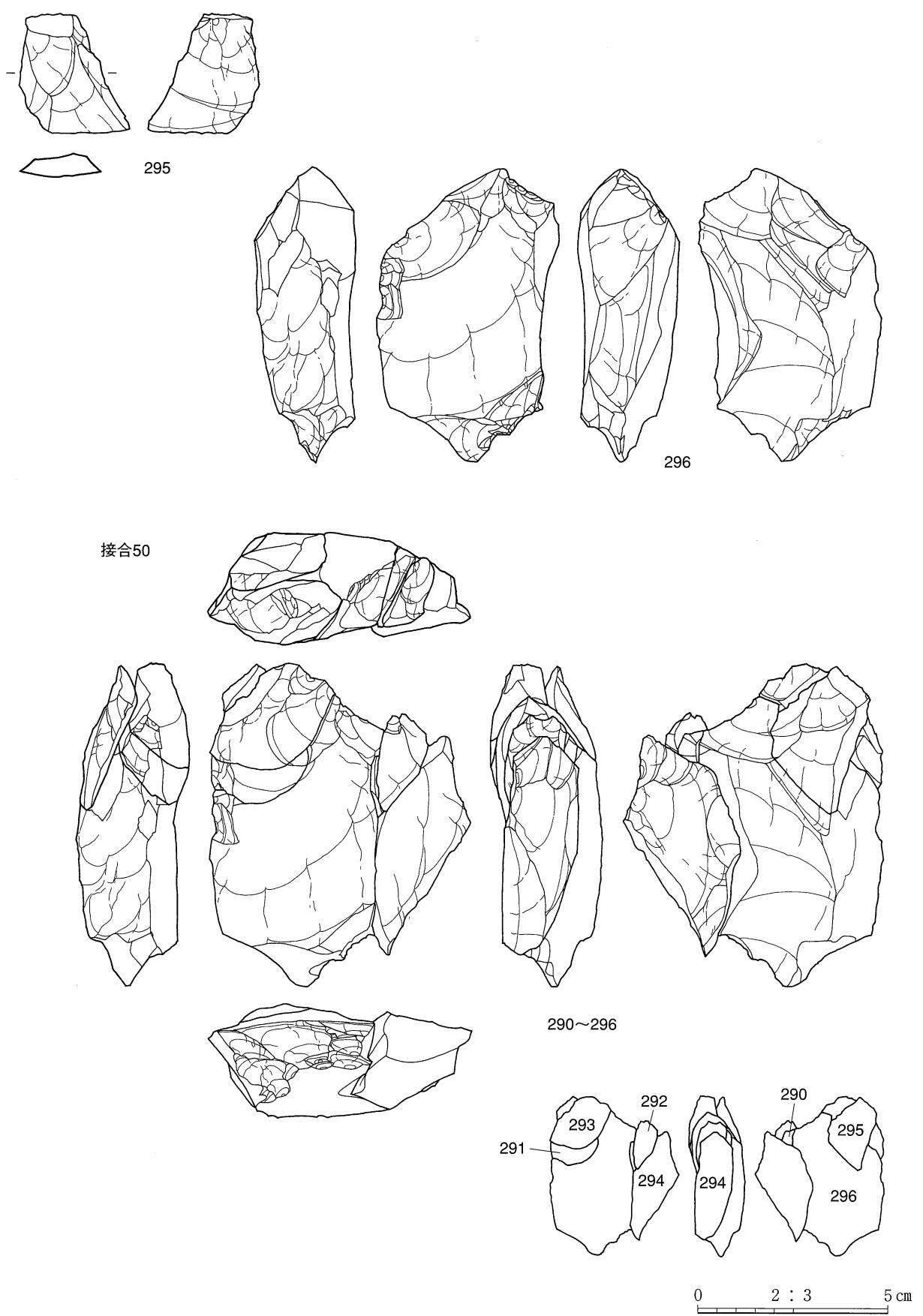
84.500m —

0 1 : 250 10m

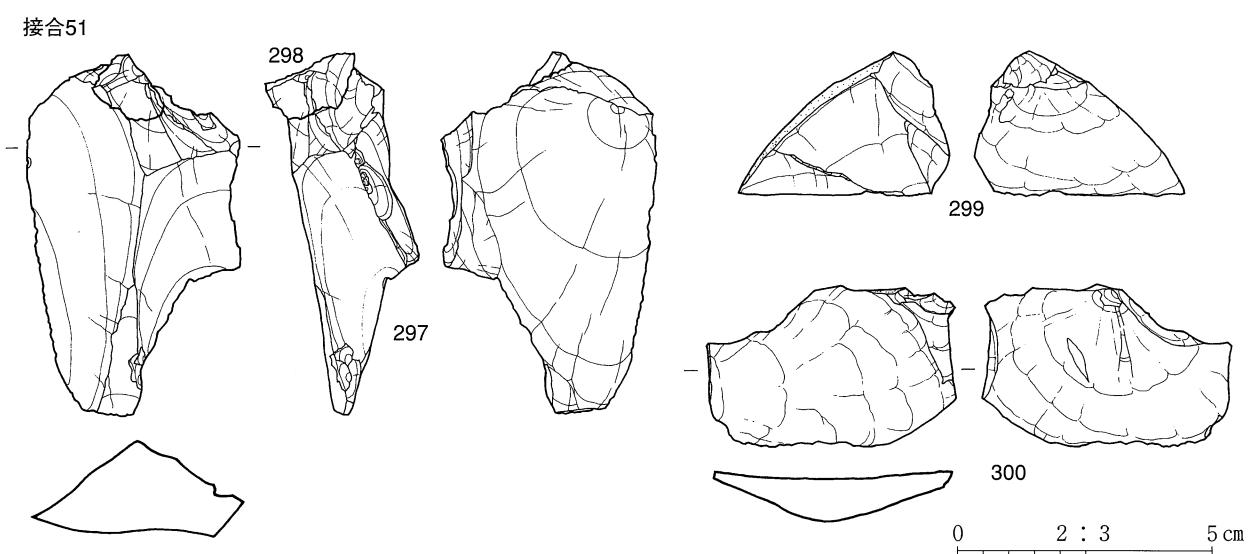
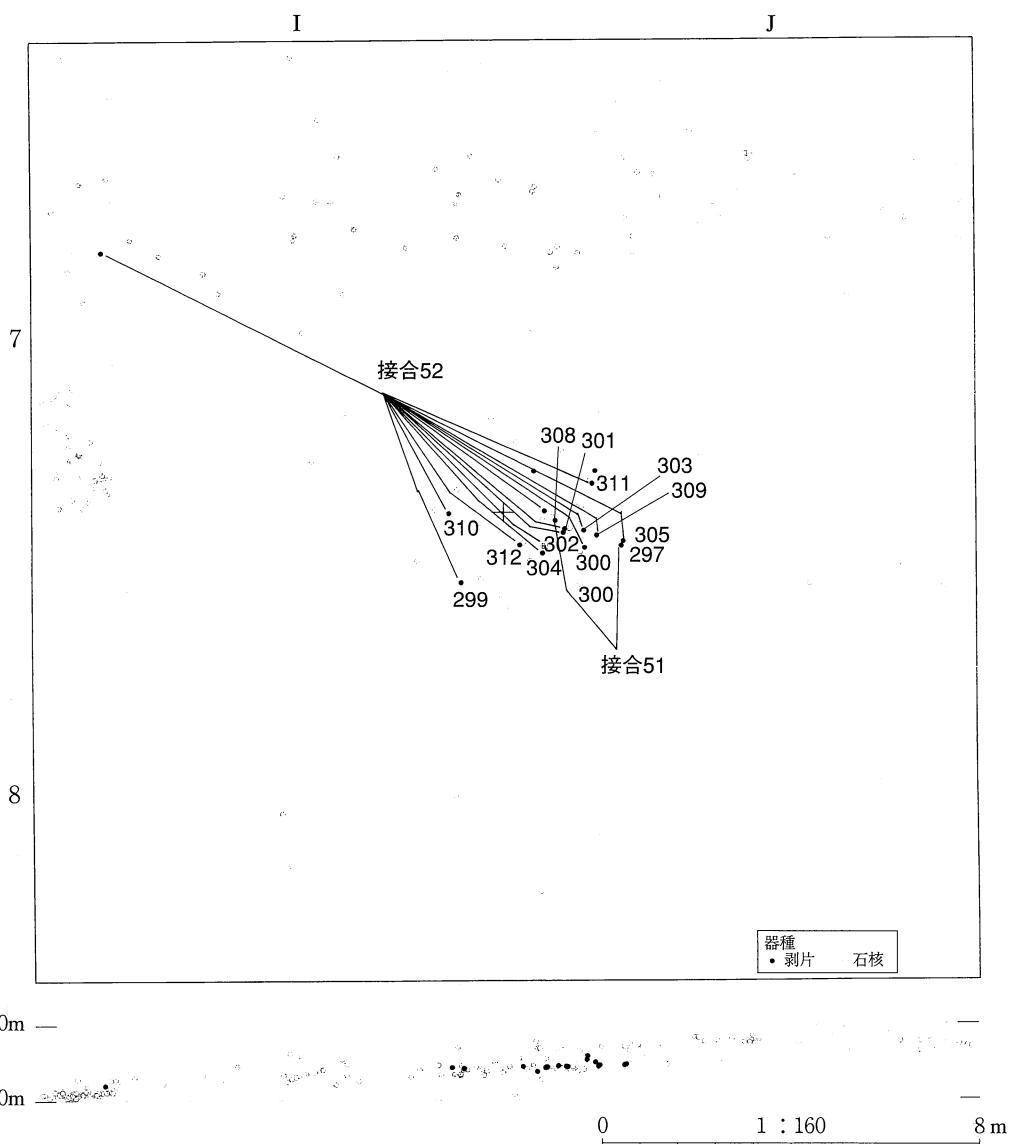


0 2 : 3 5 cm

第91図 分布図及び接合資料実測図(10)

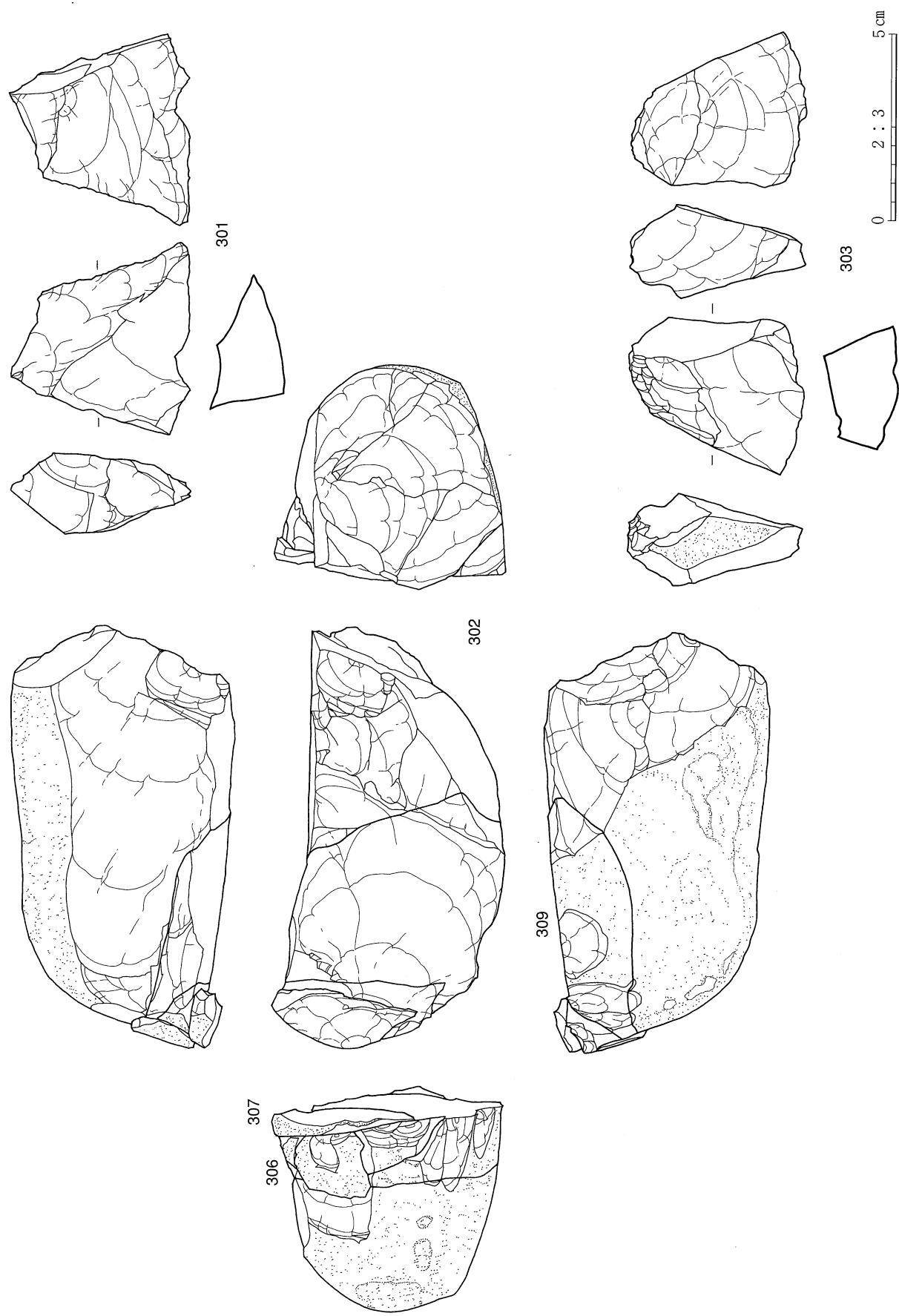


第92図 接合資料実測図(15)

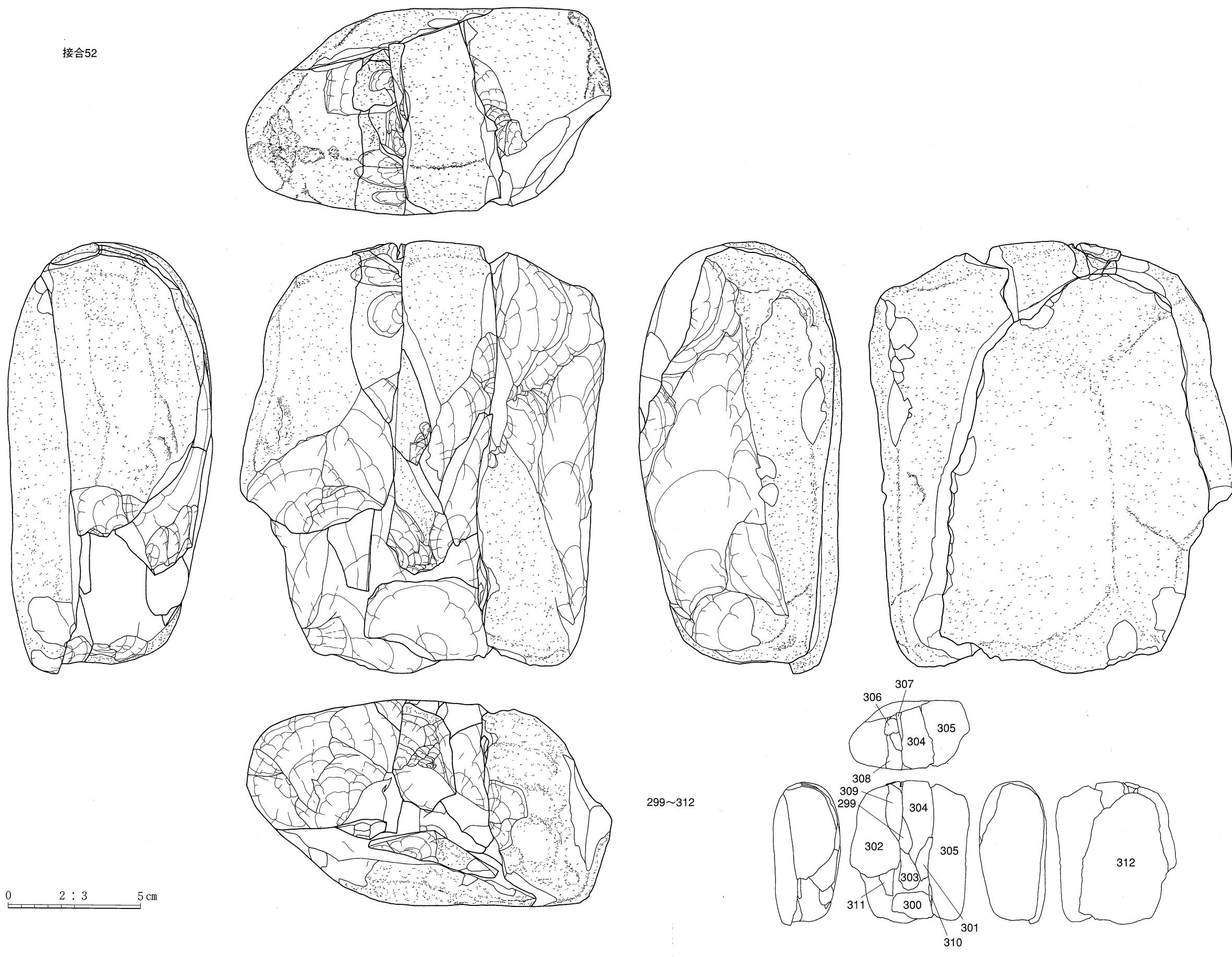


第93図 分布図及び接合資料実測図(11)

第94図 接合資料実測図(16)



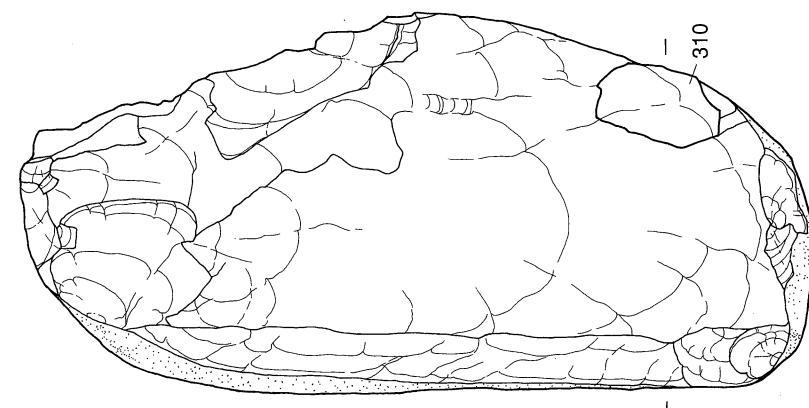
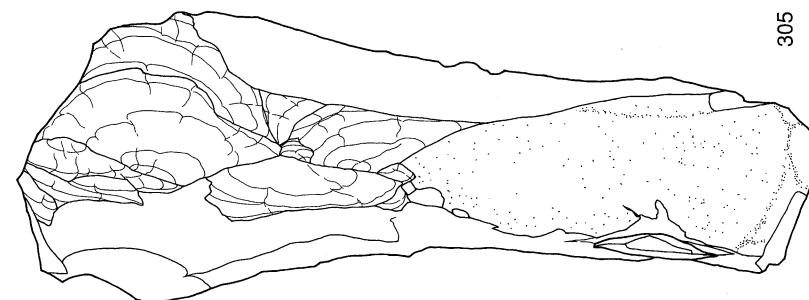
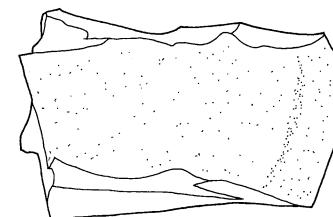
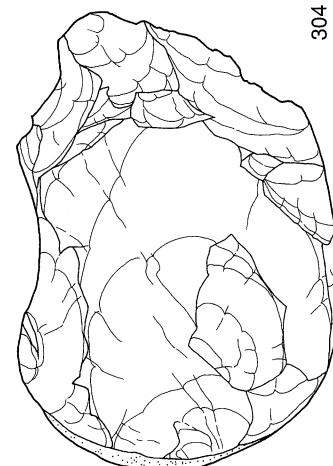
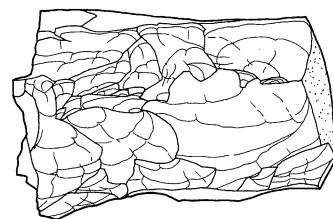
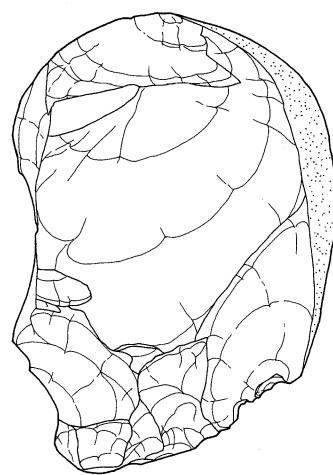
接合52

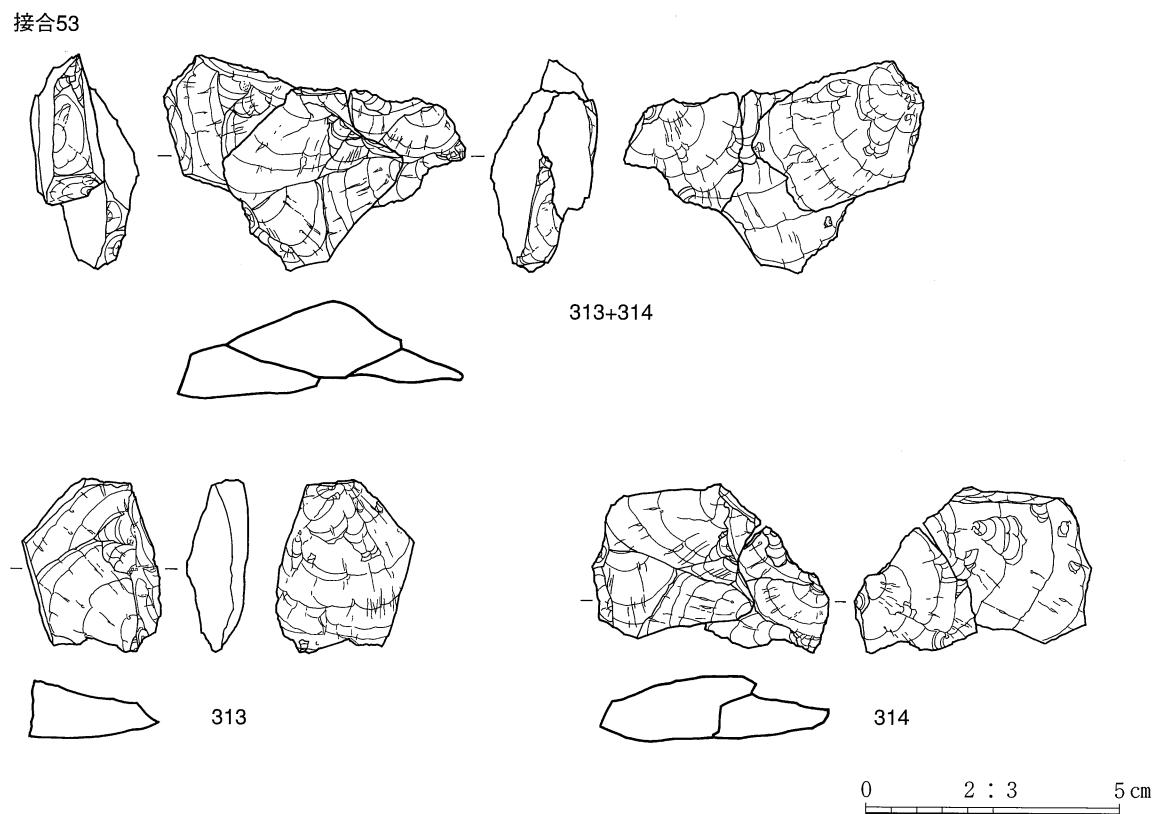
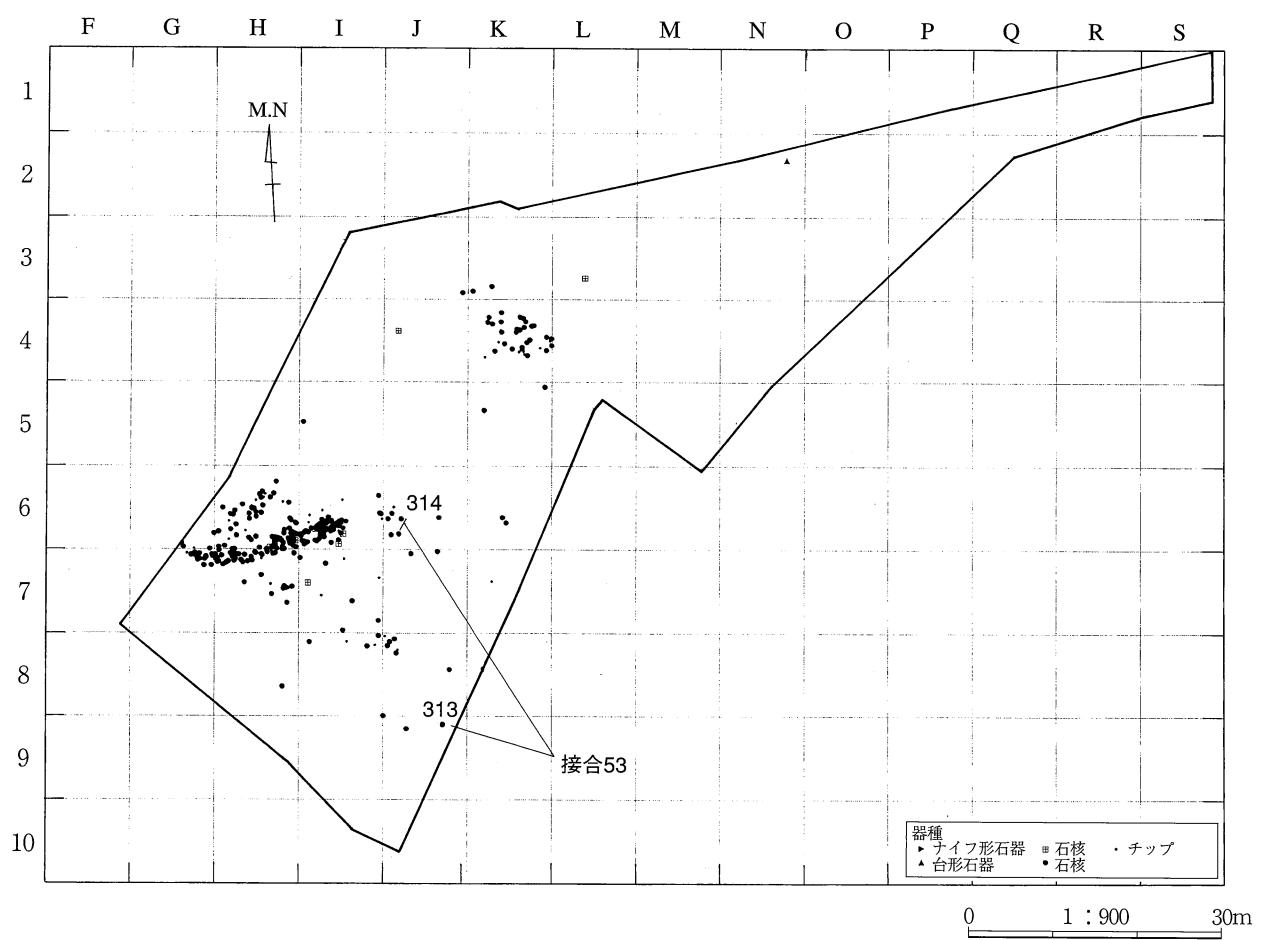


第95図 接合資料実測図(17)

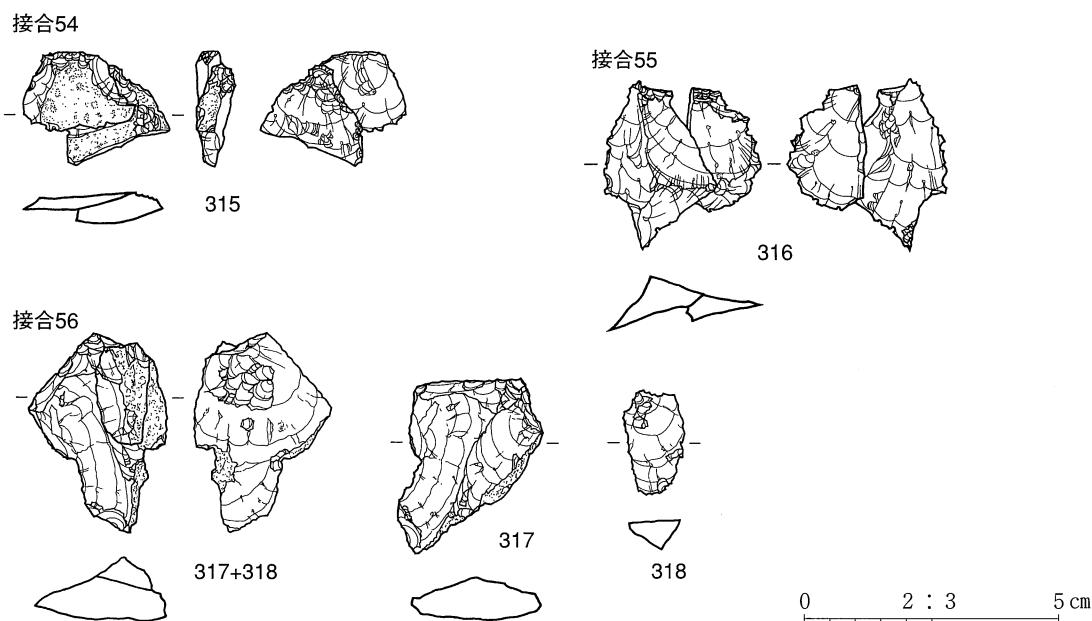
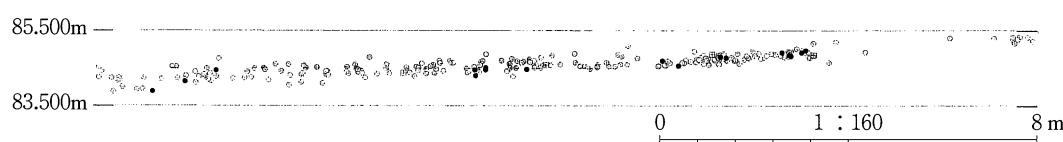
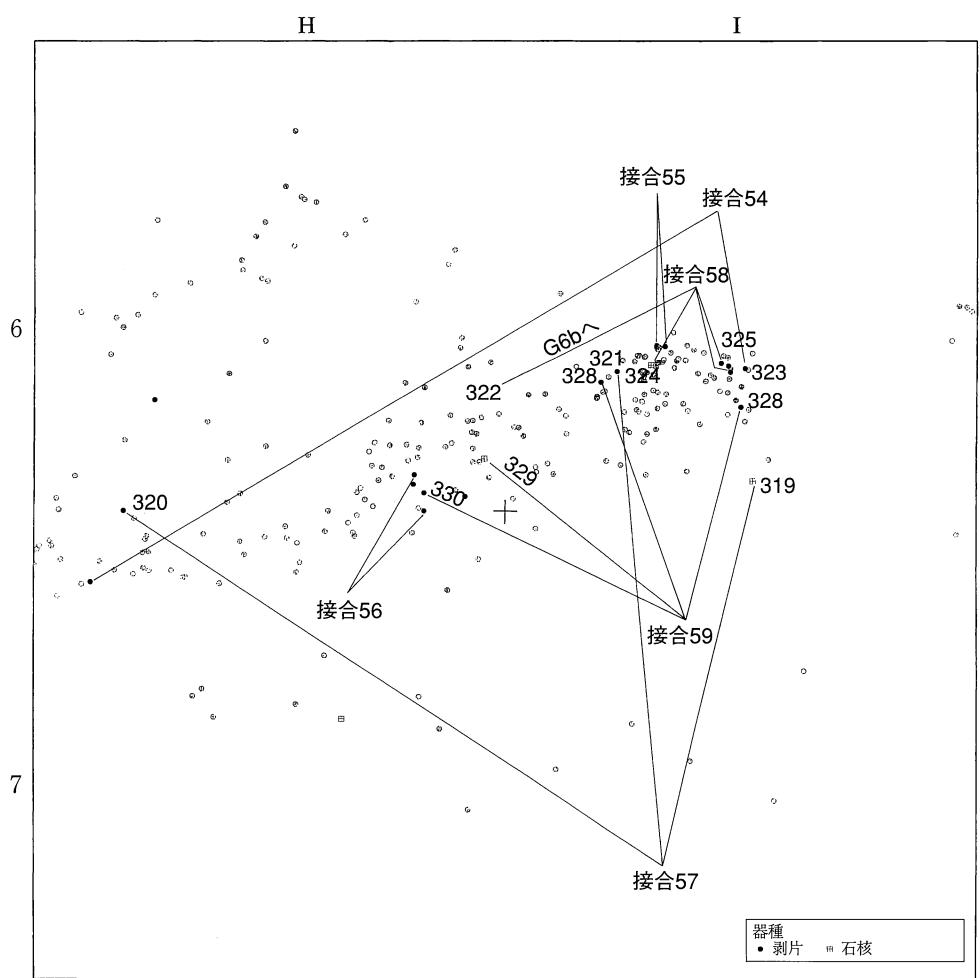
第96図 接合資料実測図(18)

0 2 : 3 5 cm

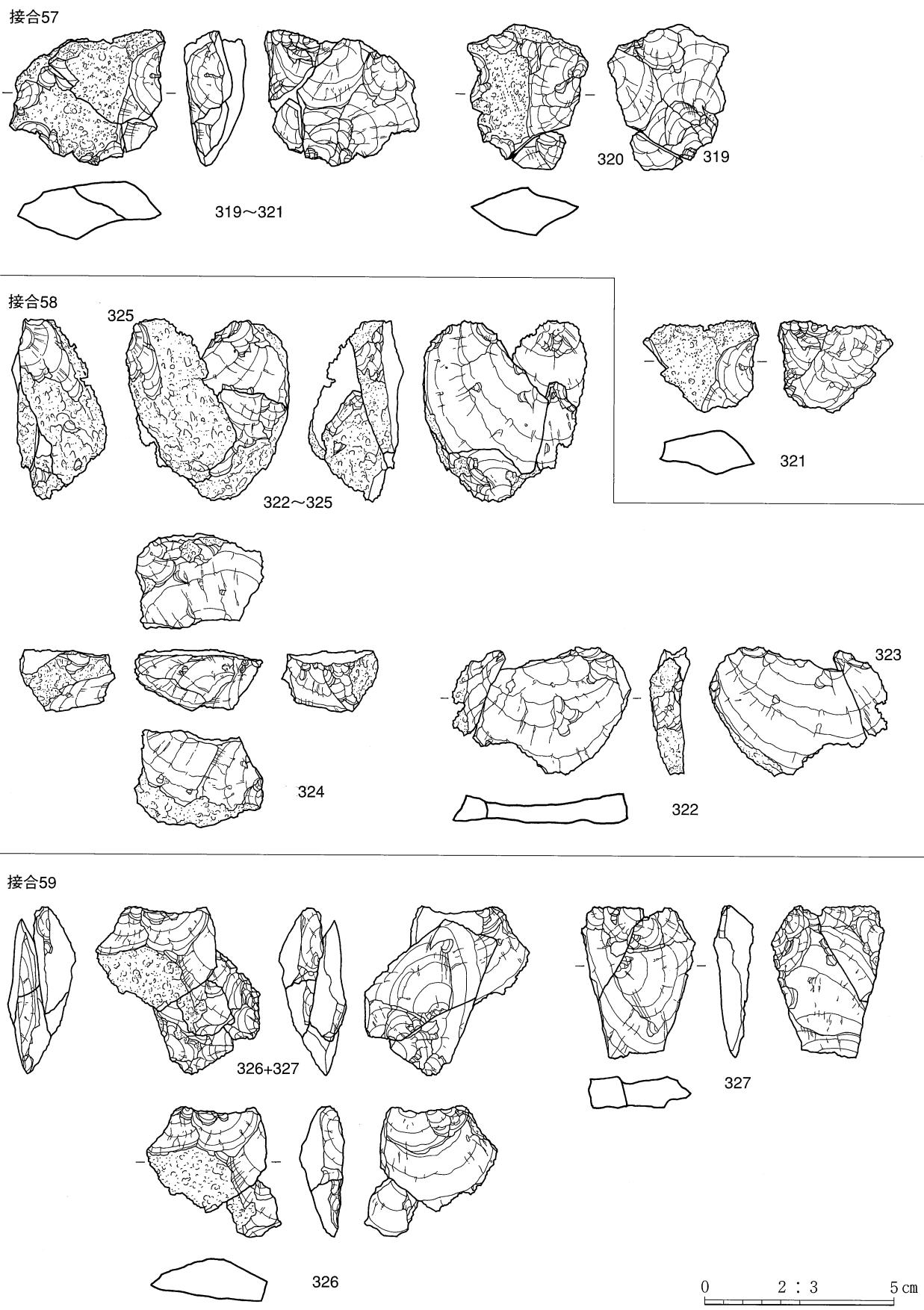




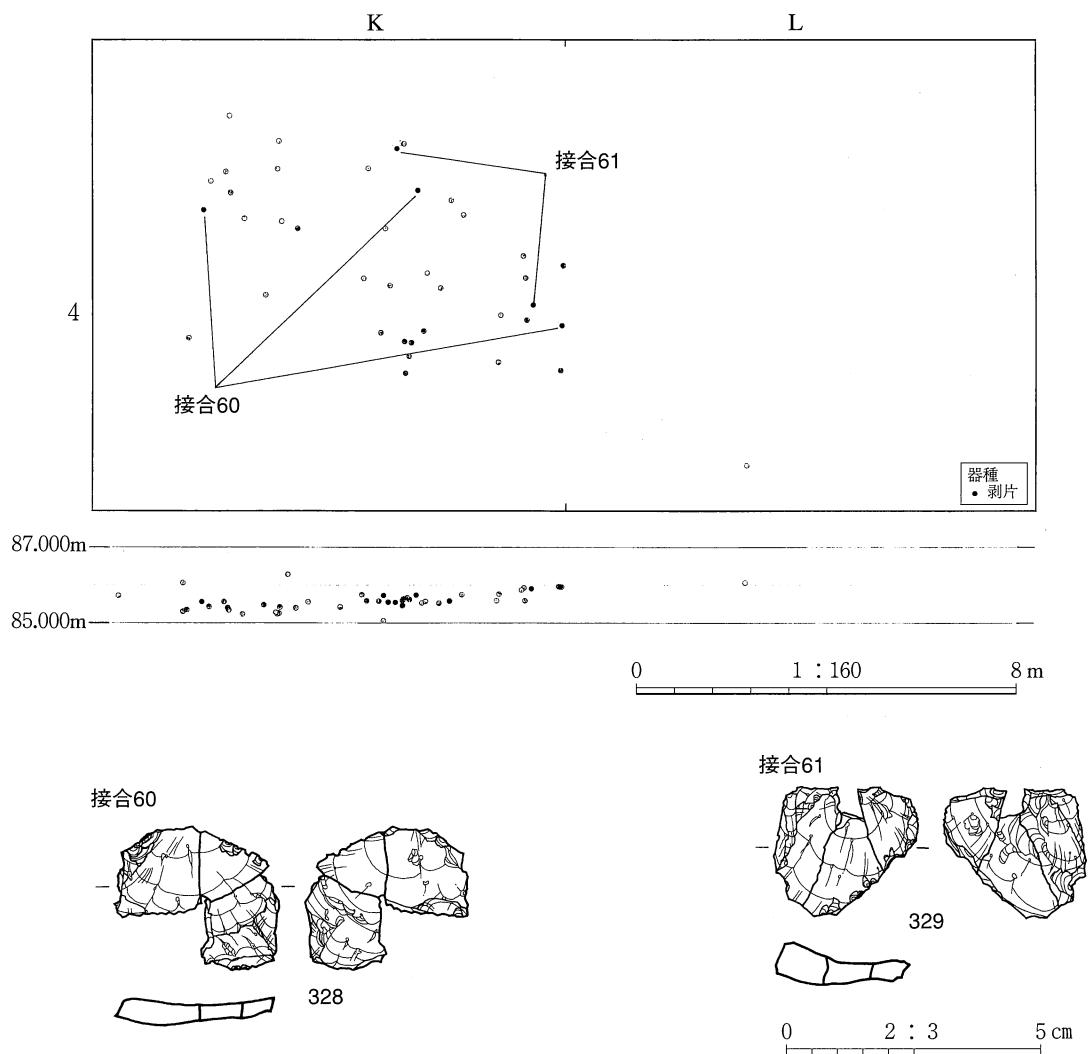
第97図 黒曜石器種別分布図及び接合資料実測図



第98図 分布図及び接合資料実測図(12)



第99図 接合資料実測図(19)



第100図 分布図及び接合資料実測図(13)

黒曜石

第Ⅲ文化層の黒曜石は、ほとんど日東産の黒曜石で占められている。石質的には2種類に分類できる。出土はI5グリッド周辺とk3グリッド周辺の2カ所にみられる。この2カ所では石質が大きく異なり、I5グリッド周辺はOb1の石質が多く、K3グリッド周辺では、Ob2の石質が主にみられる。I5グリッド周辺のOb1は自然面が残る剥片が多く、原礫を持ち込んだ可能性が高い。しかしながら、接合資料が断片的であるため全容ははっきりしない。

Ob 1

Ob 1の石質である遺物は、台形石器（掲載図面無し）1点と他は、ほとんど剥片、碎片、石核である。接合54～接合59はすべてOb1にあたり、灰色の筋が多くみられる。接合53は、はじめ314を剥離し、打面を90度転移して313を剥出している。接合54、55、56は剥離面接合である。接合57は礫面の残存する石核で求心的に剥離作業が行われている。表面図上縁部より加撃し、319+320が剥出される。接合58は左側面の上縁部の礫面を剥離させ、打面を作成し、325を剥離している。その後は順次324→323を剥出している。324は石核として利用している。接合59は327と328を剥離し、327は打面を表裏両面より、剥離し、打面を除去している。328は正面図左上部の表側より加撃し、左側面上部を剥出し、剥離した部分を打面に設定し、剥離作業を行っている。

0b 2

接合60・61は折面接合である。ナイフ形石器1点、細石核1点、その他剥片、碎片、石核である。

0b 3

接合資料はなく、剥片5点のみである。

0b 4

所謂、上牛鼻産の剥片が1点出土している。

0b 5

所謂、桑木津留産で、後述するが、2点の細石刃とⅧ層の剥片のみである。

0b 6

台形石器1点と細石刃2点、細石核1点のみである。

0b 7～0b 9

すべて細石刃の石質である。

砂岩、チャート、その他

砂岩は、台石、敲石、磨石の利用が高く、剥片を作出することがすくないようである。剥片は8点のみの出土で、そのうちの3点が接合資料である。接合資料62は上下両縁部から剥離作業がなされている。

チャートは主に石鏃に使用されており、第Ⅲ文化層では5点のみの出土で、2種類の石質に分類できる。

Che 1～5

石鏃及び細石刃に使用されている。石鏃、細石刃は次節で述べる。

Che 6

124の剥片1点のみである。

Che 7

接合63で節理面接合である。

Che 8, 9

第Ⅱ文化層出土のチャートで既述している。

石英

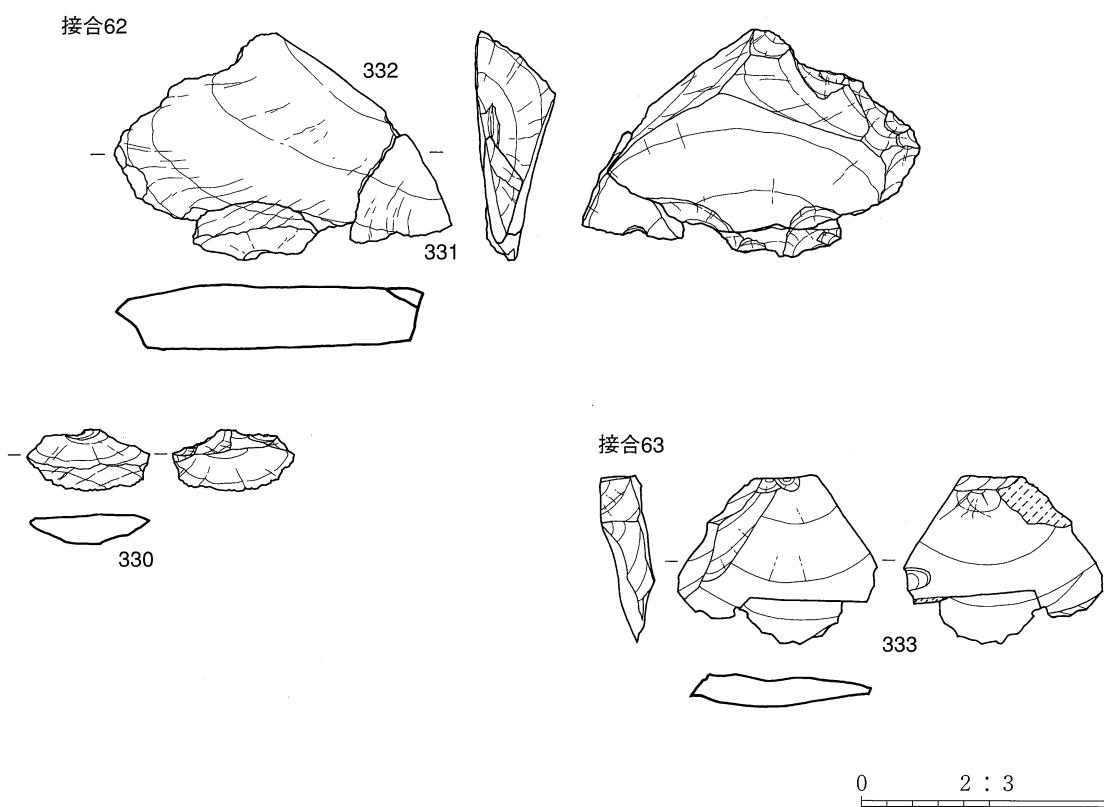
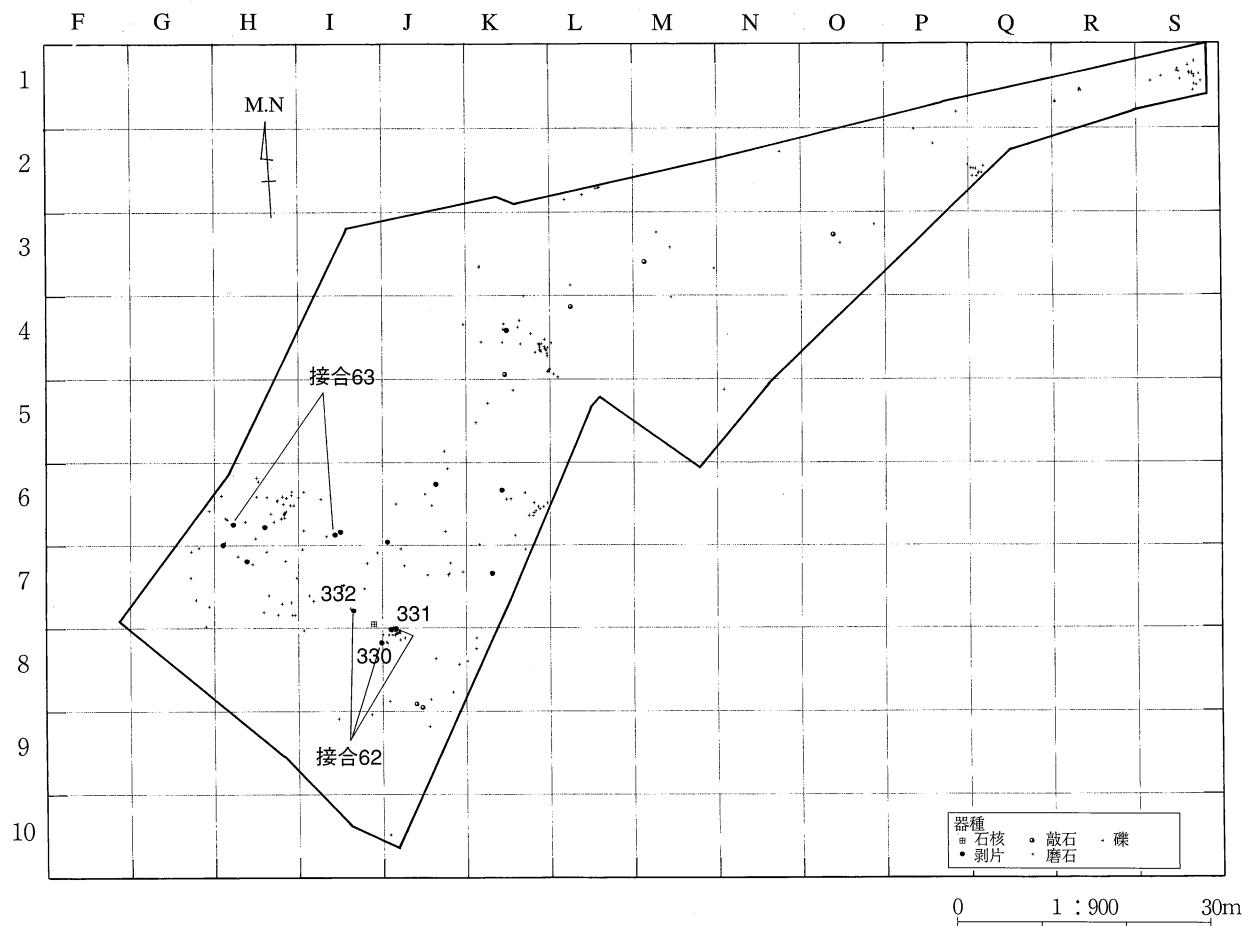
1点のみの出土で、128の石核である。

尾鈴山酸性岩

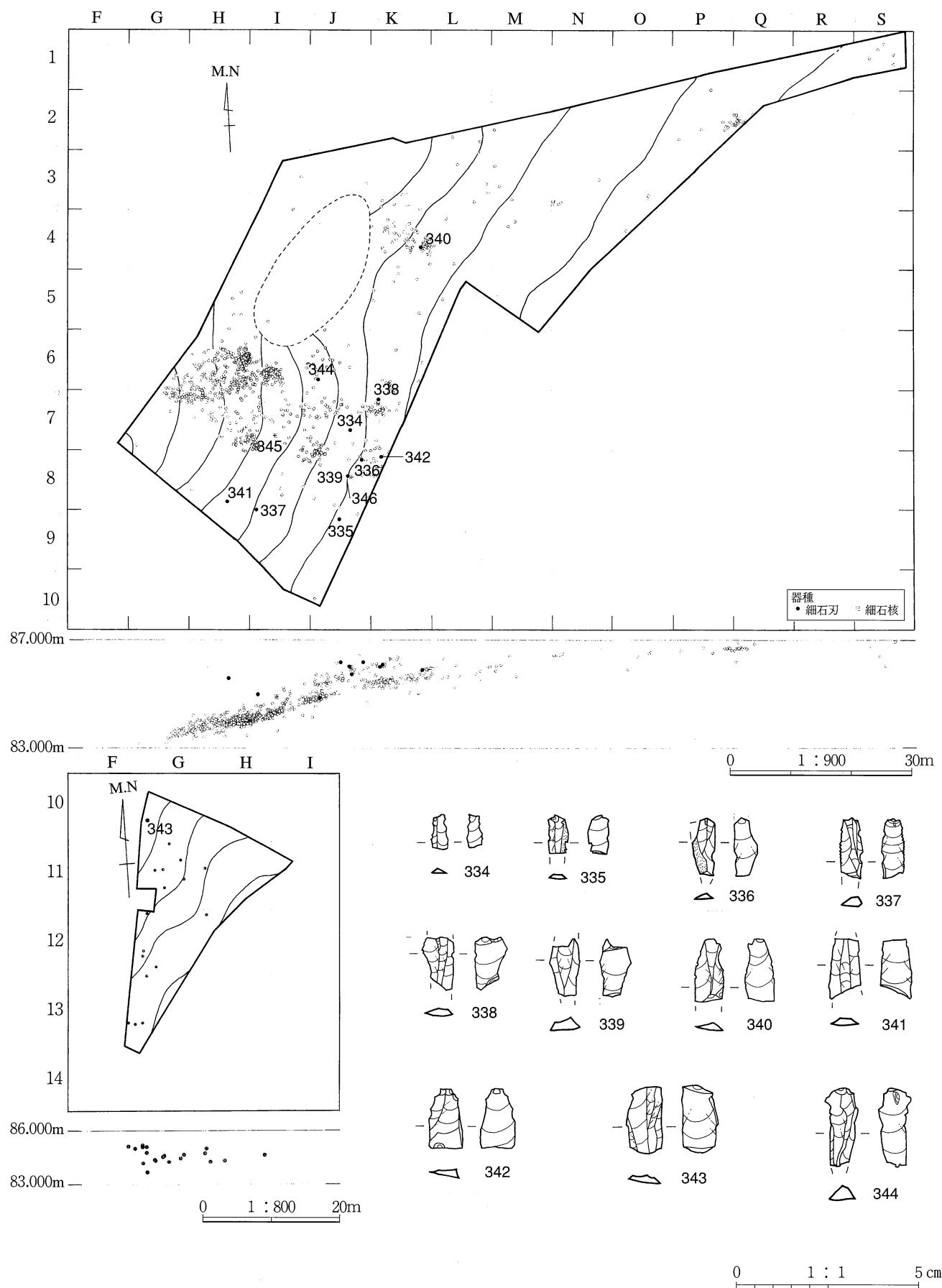
尾鈴山酸性岩は礫群に頻繁に利用されており、石器としての使用頻度は低い。230の敲石のみである。

(4) 小結

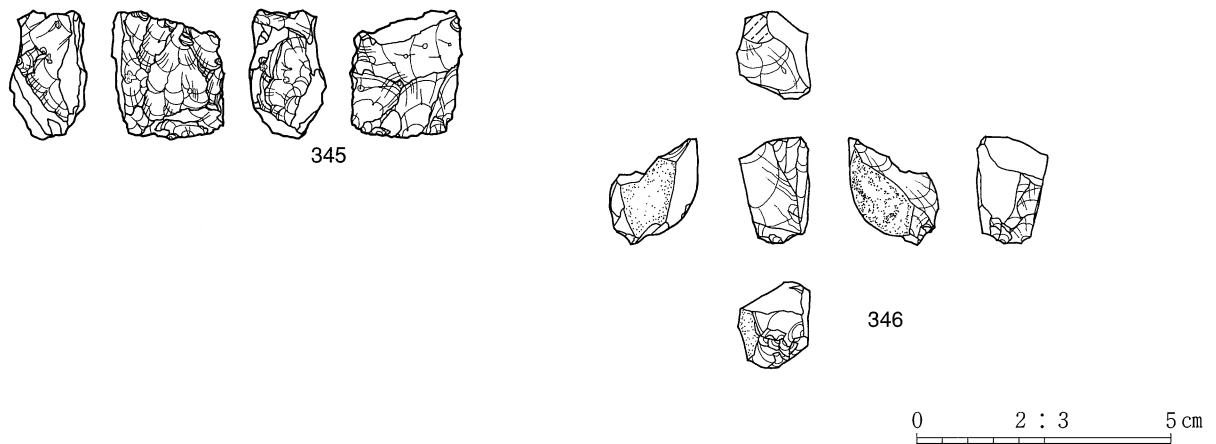
第Ⅲ文化層では、土坑1基と石器ブロック、礫群が確認できた。石材は流紋岩製の製品の持ち込みが見られ、頁岩製の製品は当該遺跡で剥片剥離作業を行っていることが確認できた。また、剥片剥離作業の石器製作工程に瀬戸内技法と見られる翼状剥片を剥出している。



第101図 砂岩・チャート分布図及び接合資料実測図



第102図 細石刃・細石核分布図及び石器実測図



第103図 石器実測図

4 第IV文化層 一細石器文化期一

本遺跡では、A区より10点、C区より1点の細石刃とA区より2点の細石核が出土した。遺構は確認されていない。遺物はkr-kbを挟んで上下から確認されており、小林軽石降灰後のIV b層上面でもっとも多くみられる。

遺物

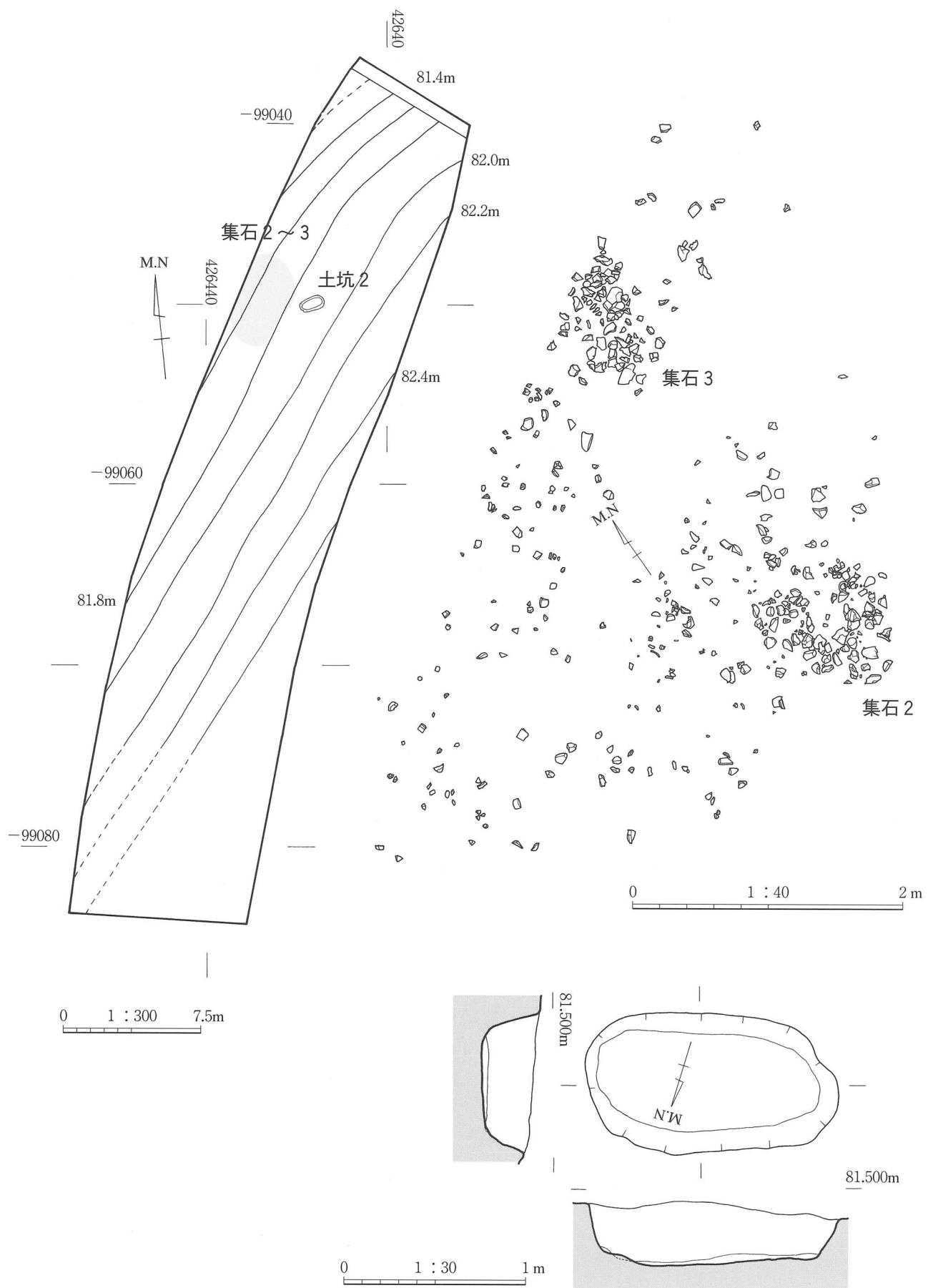
細石刃、細石核はほとんど、東側から南よりで確認され、D区の平坦面では確認されていない。石材は黒曜石がほとんどで、他ではチャート製1点、頁岩製1点が確認されている。黒曜石では、少なくとも5個体の石材がみられた。

細石刃（第102図 334～344）

334は5mm程のチャート製の細石刃である。335と337は黒曜石6で同一石質である。それぞれ先端が欠損している。また、337の左側縁は使用痕とみられる微細剥離がみられる。336・340は黒曜石8でそれぞれ先端部を欠損している。336は自然面を残す。339・342・343は黒曜石5の石質である。344は第Ⅲ文化層で最も多くみられた日東産の黒曜石製である。いずれの細石刃も完形はみられない。

細石核（第103図 345～346）

345は日東産の細石核である。上下側縁に作業面がみられ、サイコロ状をしている。346は自然面の残る小型の角礫を素材としており、3本の刃数を剥出している。自然面より剥片を作出し、その剥離面を打面として、細石刃を剥出している。



第104図 B区遺構分布図及び集石2・3・土坑2実測図

第5節 繩文時代早期

縄文時代早期では、A区はV b層面で集石を1基と6点の石鏃を確認した。B区ではV b層より集石2基土坑1基を確認し、摩耗した土器1点が出土した。C区では、無文の土器数点と、石鏃1点を確認した。D区では、遺構は確認されていないが、石鏃5点が出土した。縄文時代早期の遺物、遺構の密度は散漫であまり多くはみられない。

(1) 遺構

集石1（第105図）

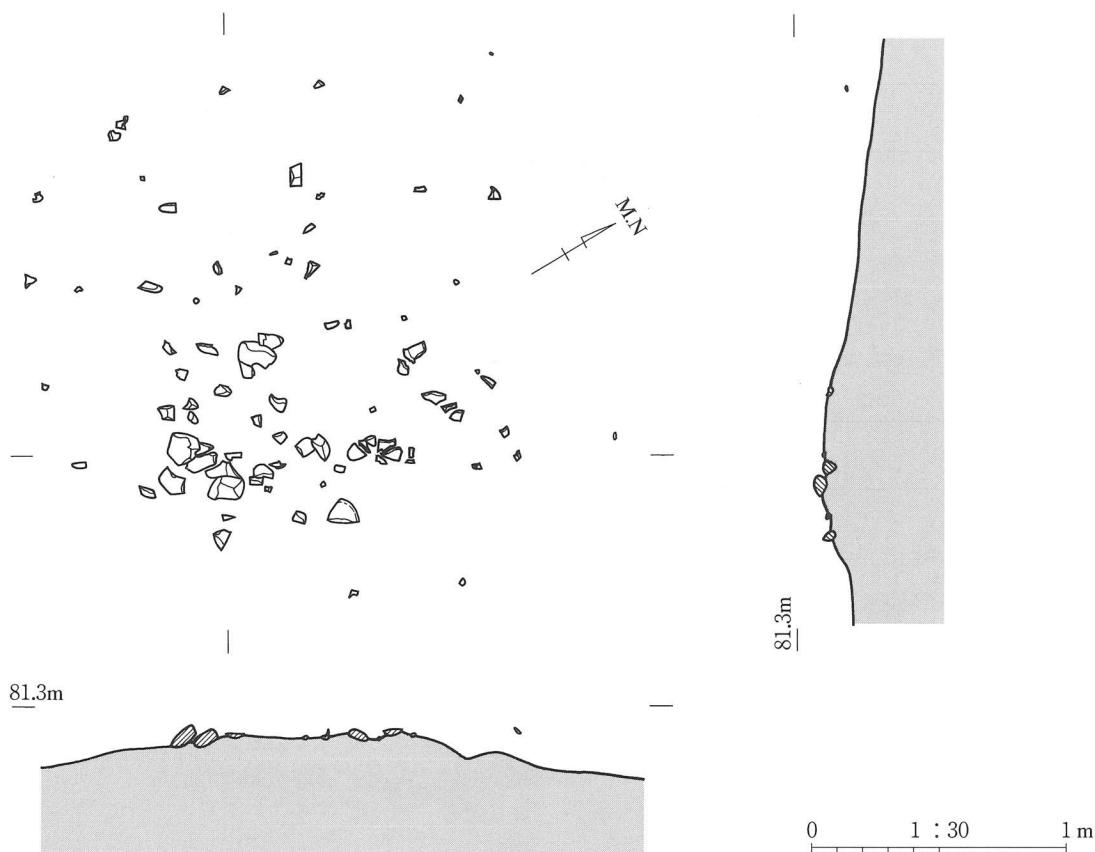
A区で1基検出され、層位はV b層上面で、約1.5m×1.4mの規模である。被熱による赤化現象が見られ、炭化物等も確認されたが、掘り込みは検出していない。礫は頁岩でほとんど占められており、破損礫が多く、完形のものが少ない。集石の上位礫は移動した可能性が高い。

集石2（第106図）

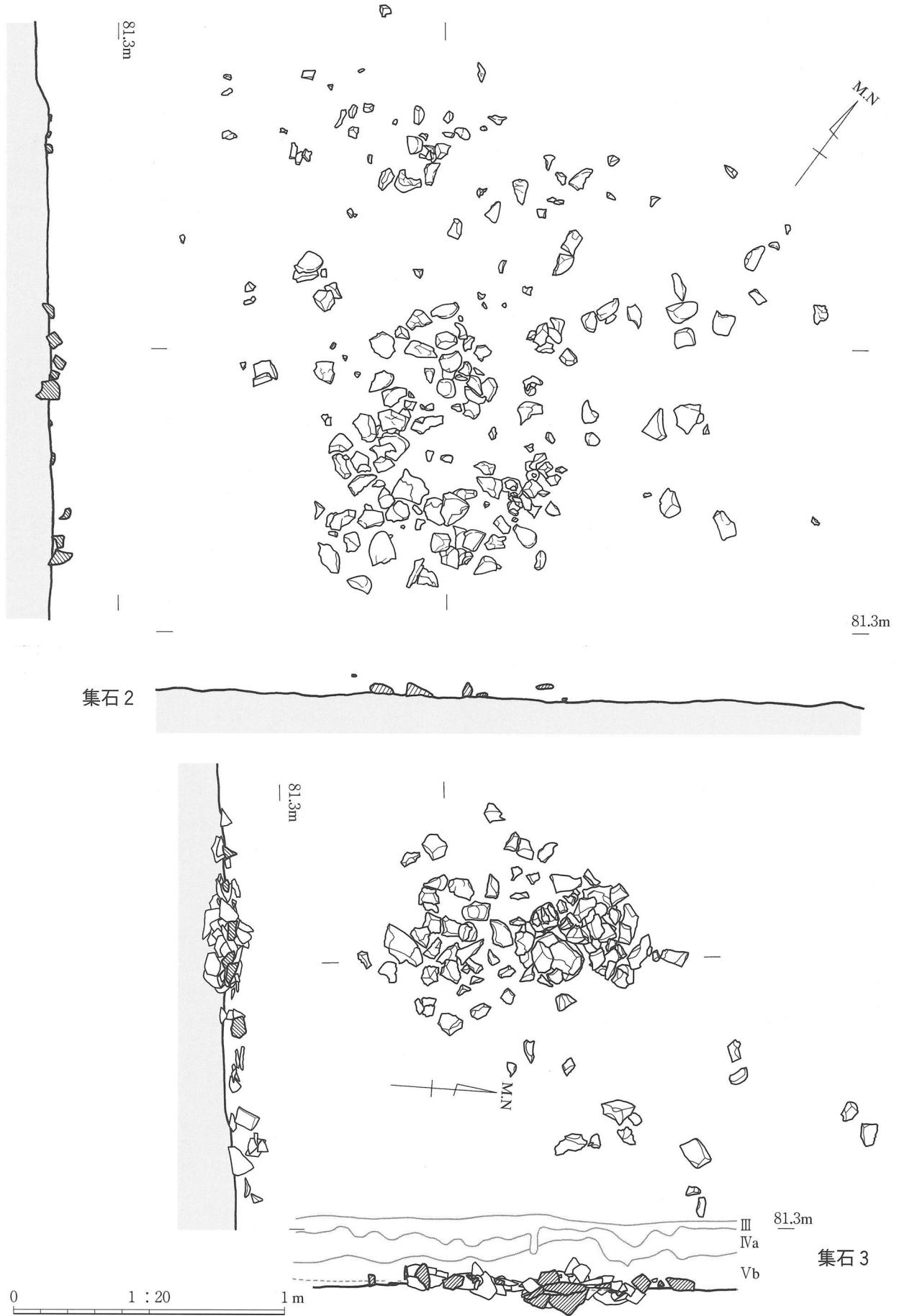
集石3の南西側に位置し、集石3同様V b層上面で検出し、約2.1m×1.9mの規模を持つ。形態的には集石1と同じで被熱による赤化礫が多く見られ、頁岩で占められている。掘り込みは検出されていない。上位礫は移動した可能性があり、集石3、集石2の周辺に散在している。

集石3（第106図）

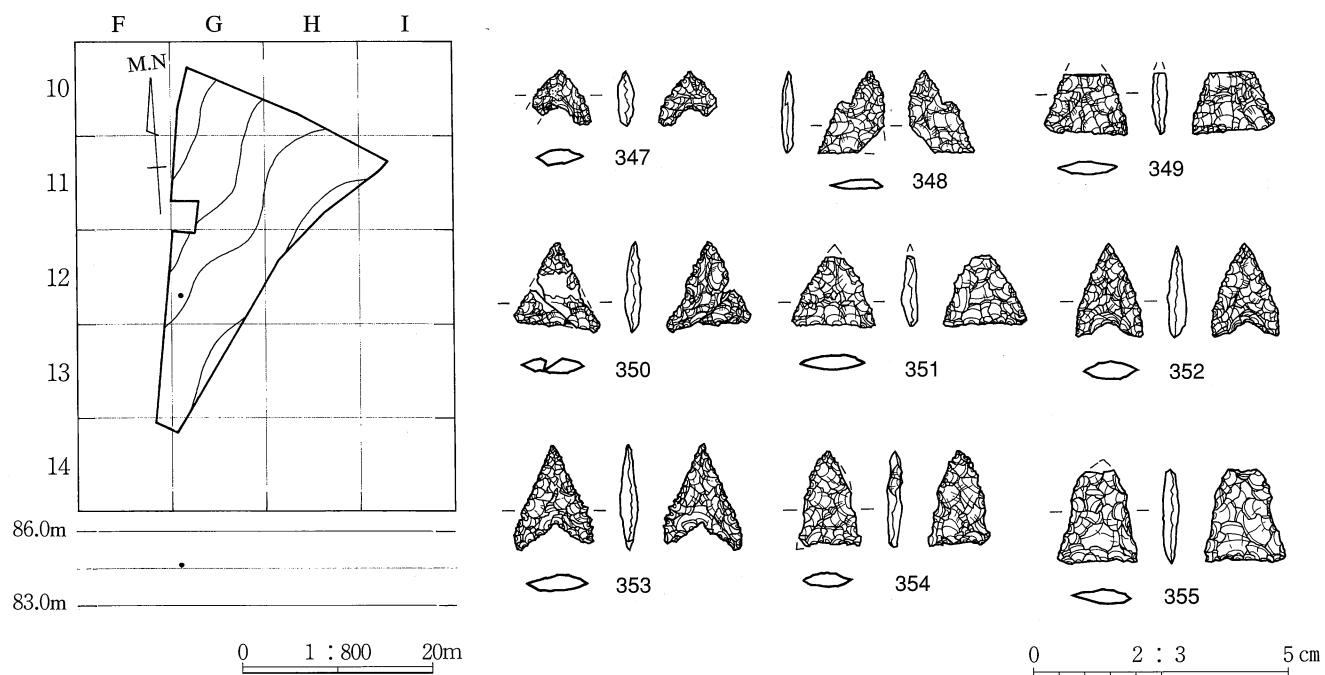
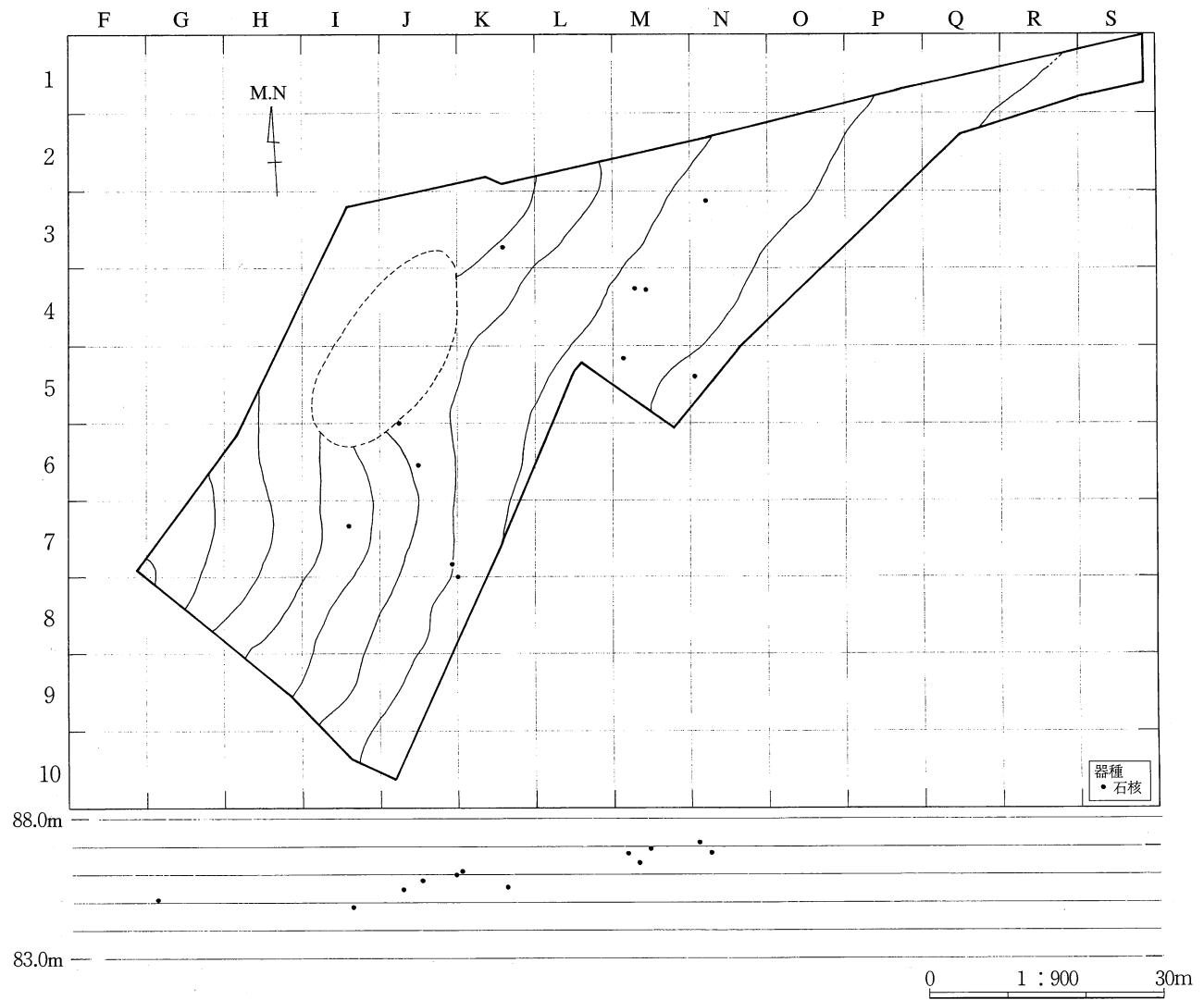
B区で検出した。表土除去時に検出された。約1.2m×0.9mの規模で礫の密集度は低く、掘り込み等は見られず、被熱による赤化礫や炭化物等も確認されていない。



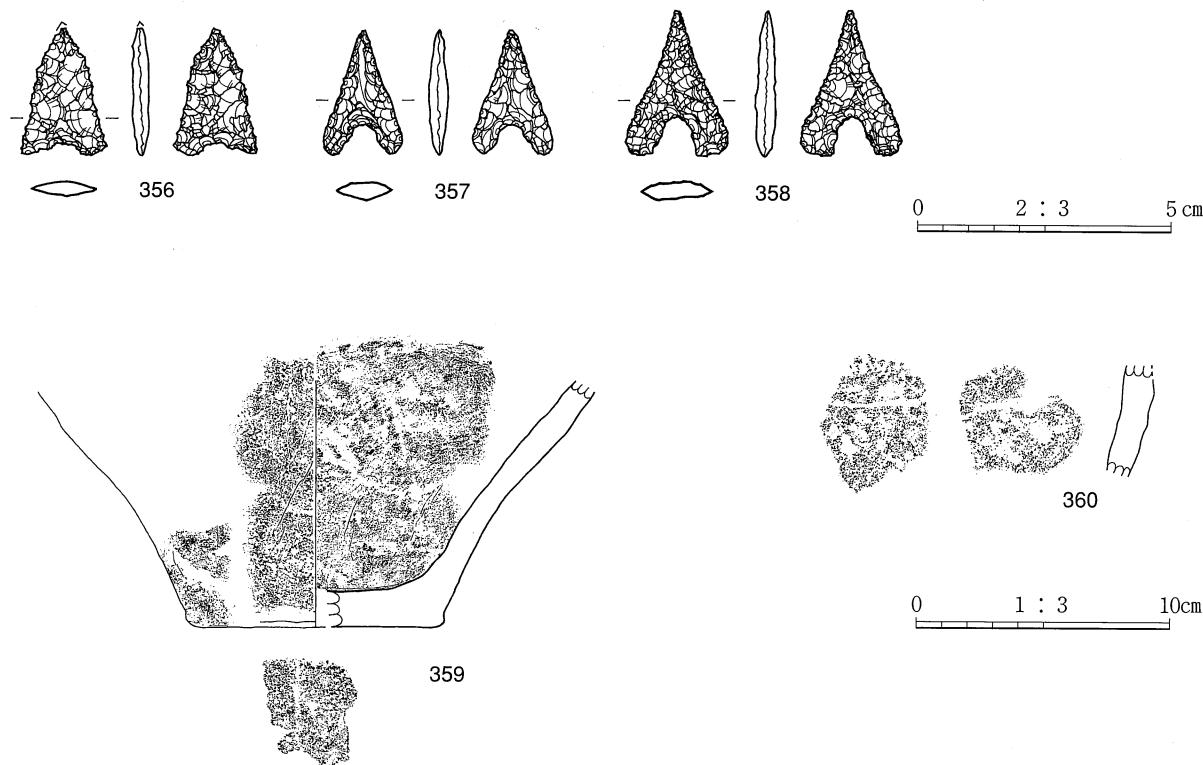
第105図 集石1実測図



第106図 集石 2・3 実測図



第107図 石鏃分布図及び実測図



第108図 出土遺物実測図

土坑2（第104図）

集石2の東側に位置し、 $1.35m \times 0.8m$ の長楕円プランである。埋土は5層に分層でき、主に灰オリーブを主体とした埋土である。埋土から礫1点を検出した。

(2) 遺物

石鎚12点と土器片が出土した。出土した層位はIV層からV b層にかけてである。

石鎚（第107・108図）

形状は正三角形（347, 348, 350, 351）のもの、二等辺三角形（349, 352～358）のものが見られる。基部の形態は平基（348～351, 354, 355）のもの、浅い凹基（352, 356）、V字形凹基（353）、U字形凹基（357, 358, ）に類別できる。石材はチャート製6点（石質5種類）、頁岩製4点、黒曜石製2点（石質2種類）である。

土器（第108図）

359はC区のV a層で、土器片4点が出土した。ほぼ同一地点からの出土である。推定底径は10.1cmで底部残存率は1/4である。胴部表面の紋様はなく、ナデが見られ、植物遺体様が見られる。内部には指頭痕が見られる。360はB区より出土しており、表面風化の著しい土器片である。胴部表面上位に押形文ではないかと思われる痕跡が見られるが、風化が著しく判然としない。

第14表 石器計測表(4)

図面番号	注記番号	区	グリッド	層位	器種	石材	石質	プロック	母岩番号	接合番号	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	国土座標X座標	国土座標Y座標	レベル
334	60	A	J 6 c	V b	Mb	Che	3				0.6	0.3	0.1	-	-99006.650	42706.700	85.734
335	1141	A	J 8 a	VI b	Mb	Ob	6				0.7	0.4	0.1	-	-99021.560	42704.900	86.178
336	1117	A	J 7 b	VI b	Mb	Ob	8				1	0.4	0.1	-	-99011.600	42708.600	86.185
337	1804	A	I 8 a	VI b	Mb	Ob	6				1.1	0.4	0.2	-	-99019.982	42691.215	84.988
338	1179	A	K 6 a	VI b	Mb	Ob	9				1	0.6	0.1	-	-99001.520	42711.360	86.013
339	64	A	J 7 b	V b	Mb	Ob	5				1	0.6	0.2	-	-99014.300	42706.300	86.025
340	1059	A	K 3 c	VI b	Mb	Ob	8				1.1	0.5	0.1	-	-98976.220	42718.370	85.891
341	154	A	H 7 d	V b	Mb	Sh					1.1	0.5	0.1	-	-99018.600	42686.400	85.586
342	145	A	K 7 a	V b	Mb	Ob	5				1.1	0.6	0.2	-	-99011.100	42711.800	86.090
343	5009	C	H 9 c	V b	Mb	Ob	5				1.2	0.6	0.1	-	-99036.900	42671.700	83.688
344	1698	A	J 5 d	VI b	Mb	Ob	7				1.4	0.6	0.3	-	-98998.248	42701.406	84.869
345	82	A	I 6 d	V b	MCo	Ob	2				2.4	2.1	1.85	8.7	-99007.560	42694.280	84.896
346	1144	A	J 7 b	VI b	MCo	Ob	6				1.42	1	1.2	1.4	-99014.390	42706.560	86.000
348	31	A	J 5 d	V b	石鍼	Che	3				1.4	1.05	0.2	0.3	-98995.450	42704.980	85.775
350	56	A	J 6 c	V b	石鍼	Ob	5				1.6	1.6	0.3	0.5	-99008.400	42709.350	85.984
356	57	A	K 7 a	V b	石鍼	Che	4				2.3	1.7	0.3	1	-99010.030	42710.100	86.112
347	77	A	I 6 b	V b	石鍼	Ob	6				0.75	1	0.3	0.2	-99003.400	42696.050	84.824
349	98	A	J 5 a	V b	石鍼	Che	4				1.2	1.7	0.3	0.6	-98990.000	42702.500	85.458
351	1037	A	K 2 c	VI b	石鍼	Sh					1.3	1.65	0.3	0.6	-98967.300	42715.900	85.540
357	3280	D	N 4 a	IV b	石鍼	Sh					1.9	1.55	0.4	0.9	-98983.976	42740.590	87.135
353	3281	D	M 3 a	IV b	石鍼	Sh					1.6	1.55	0.35	0.7	-98972.859	42734.308	86.915
352	3282	D	N 2 a	IV b	石鍼	Che	1				1.55	1.3	0.35	0.6	-98961.300	42742.100	86.772
354	3283	D	M 4 a	IV b	石鍼	Che	2				1.8	1.2	0.3	0.5	-98981.636	42731.405	86.745
355	3284	D	M 3 a	V b	石鍼	Sh					1.8	1.55	0.3	0.8	-98972.693	42732.856	86.408
358	5059	C	G 11d	V b	石鍼	Che	5				2.1	2	0.4	1.4	-99057.000	42671.000	85.091

第15表 土器観察表

図面番号	注記番号	種別	器種	部位	法量(cm)			胎土			色調		備考
					口径	底径	器高				外	内	
359	3,4 5,6	縄文土器	深鉢	底部 ～ 胴部	—	—	—	2 mm以下の灰・灰白・褐・ 黒色粒の5 mm以下の半透明、 黒色光沢粒を含む。(7 mm 大の褐色粒1コ含む)	明赤褐色 (7.5 Y R 5/6)	明褐色 (7.5 Y R 5/6)			
360	10	縄文土器	深鉢？	胴部	—	(10.1)	—	2 mm以下の灰白、褐色粒を 含む。	浅黄橙色	いぶい黄橙色			

第6節 アカホヤ火山灰降灰以降の調査

A区～C区はアカホヤ火山灰(K-Ah)の残存が僅かに残るか、まったく遺存していない状況であり遺構・遺物は確認されていない。D区では、K-Ahが全面にわたって良好に遺存しており、精査の結果、土壙墓2基、溝状遺構2条、ピット群を検出した。

ここでは、土壙墓1・2、溝1・2、柵列について概説する。

(1) 遺構

土壙墓

D区中央付近で、長軸方向をおおむね東西にとる2基の土壙を検出した。埋土や掘り方の形状より土壙墓と考えられる。この2基の土壙墓は、互いに離れた位置にあり、群集というよりは、点的に存在する在り方を示す。なお、土壙墓群として調査区外に広がりを見せるかどうかは不明である。

1号土壙墓（第110図）

D区中央にある2基の土壙墓のうち、南側に位置するものである。検出面の全長は1.9m、幅1.36mでやや胴の張る長方形に近いプランをなす。主軸はN-76°-Eで東西方向に長軸を向ける。掘り方は2段掘りをなし、木蓋土壙墓と推測される。2段目の掘り方部分が主体部と考えられ、全長は1.3m、床

面からの立ち上がり高は、0.16m、東小口幅0.68m、西小口幅0.56mで西小口幅が東小口幅に比べ、幅がせまく隅角が不明瞭な彫り込みをなす。床面の全長及び掘り方の形状から、被葬者は東側頭位であろう。

2号土壙墓（第110図）

1号土壙墓より、北へ、15.6m離れた位置にある。K-Ah面での検出であるが、比較的遺依状況は良い。検出面の全長は、2.1m、幅1.5mで、やや不整形な隅形長方形プランを呈す。主軸は、N-43°-Wで東西に長軸を向ける。2段の掘り込みをもち、2段目の掘り方全長は1.5mで床面からの立ち上がり高は0.28mで、1号土壙墓に比べやや深い。東小口幅0.62m、西小口幅0.36mで、西側小口幅が東小口幅より狭く、隅角が不明瞭な彫り込みである。従って、1号土壙墓同様、被葬者は東側頭位と考えられる。

溝1（第109図）

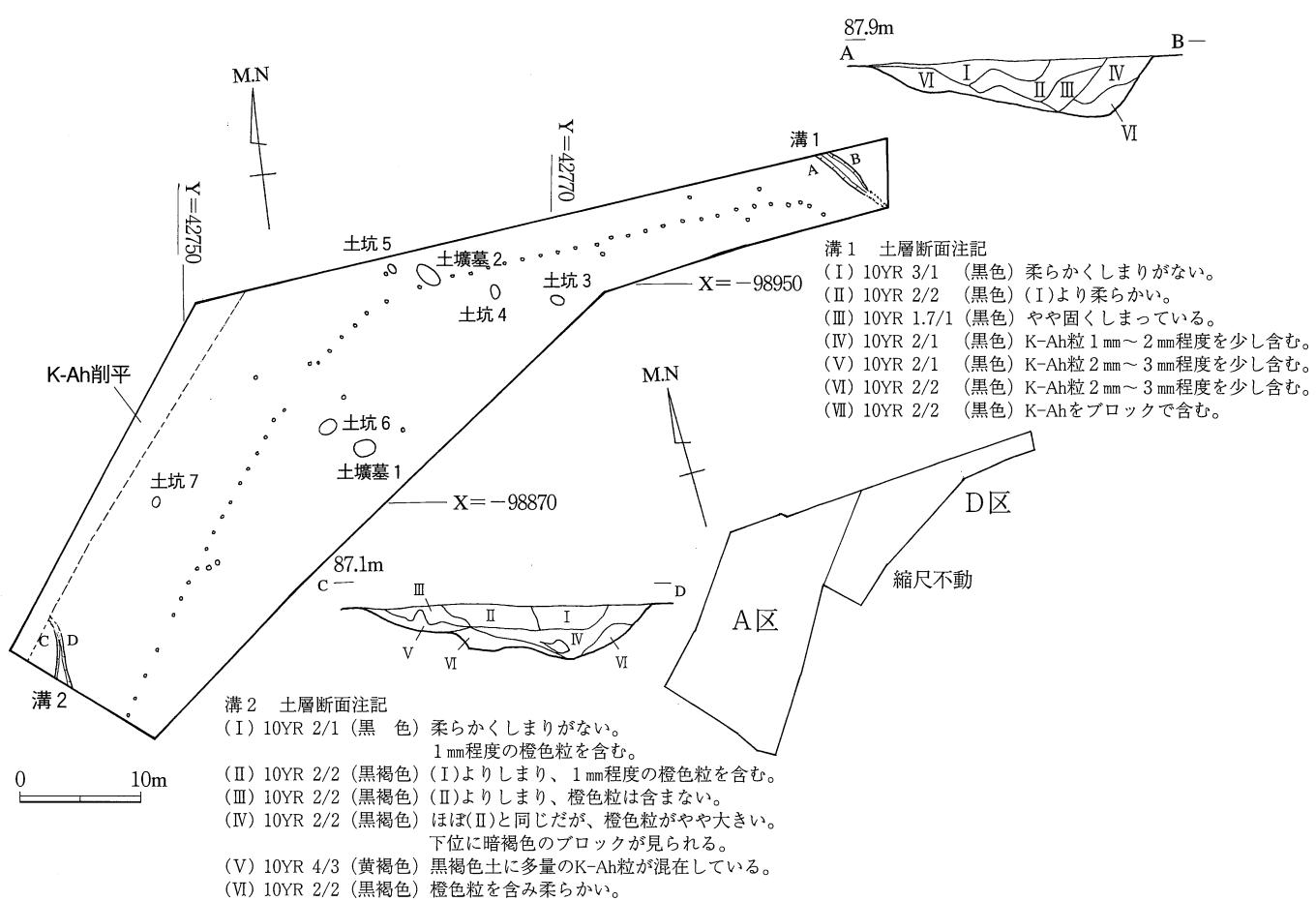
溝1は、S-0グリッドの北壁から、南東に下る形で検出されたが、南東端は消失している。長さは、7.2m、北壁で確認された断面幅は0.75m、深さは0.18m、溝の北西端と南東端のレベルの差は0.06mで、緩斜面を南東に下る小規模な溝であり、県道を挟んで北側に延びる可能性がある。埋土は、床面の上部がK-Ahを含む黒色土で、固くしまっている。埋土の断面中央より上部ではK-Ahを含まないしまりのない黒色土である。遺物の出土は確認されなかった。

溝2（第109図）

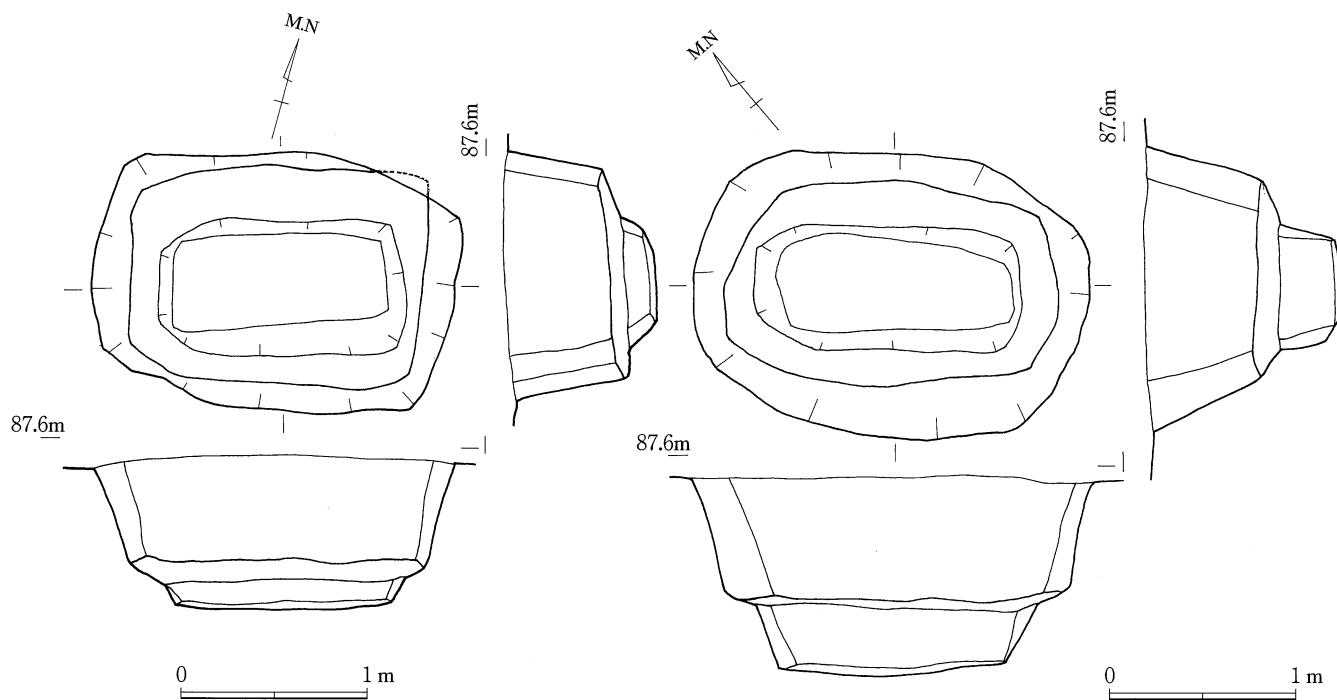
溝2は、G-4グリッドの南西壁からA区北西に下る形で検出されたが、北西端は消失している。また、配管に伴う掘削で途中一部は攪乱を受けている。長さは5.4m、溝途中の断面層は約0.9mで、深さは、0.15m、溝の南西端と北西端のレベル差も約0.15mで、溝1同様で、緩斜面を北西に下る小規模な溝である。埋土は、断面の床上一部にK-Ahを含む黄褐色土が堆積し、全般的に橙色粒を含む褐色土である。遺物の出土は確認されなかった。

柵列（第109図）

D区の東から南西（A. C区東側の畠地）に向かって、調査区の中央を径0.3m前後、深さ0.2m前後の柱穴が、1m～1.5m間隔で48基検出された。柱穴の配置は、南西端から調査区中央に向かっての直線約35m、ここで約5.5mの柱穴列の途切れが見られる。ここから北東に直線的に約8m、さらには、直線の向きを東に変え約24m、最後の東端では、弧を描くように方位を南東に変える配置となっている。途中の柱穴の途切れは出入り口が想定される。D区の南東～南西周辺は、下りの緩斜面となっており、柱穴の広がりが予想される。柱穴の埋土は、K-Ahブロックを含む軟質でしまりのない黒色土が主体である。遺物は、柱穴より、磁器片2点が出土した。1点は時期不詳、もう1点は近代である。



第109図 D区アカホヤ降灰以降の遺構分布図



第110図 土壌墓1・2実測図

第IV章 まとめ

東畦原第3遺跡では、確認調査当初は、遺構・遺物の密度としては高くないものと思われていた。しかし、調査を進めるに従い、遺物量が当初予想を上回り、結果的に後期旧石器時代に4文化層の存在が明らかになった。以下それぞれの文化層について簡潔に鳥瞰した。

第I文化層

調査範囲と出土遺物量も少ないため、全容はつかみにくいが、接合資料を伴う遺物の出土においては意義があろう。自然科学分析においても、第I文化層はKr-Awより上位にあり、A-0tより下位にある可能性が高いという結果が出ており、信憑性の高いものと思われる。出土遺物又は礫の石材では、砂岩とホルンフェルスの頻度が高く、石器石材としてはホルンフェルスの割合が高くなっている。

第II文化層

第II文化層では、181点の遺物が出土している。そのほとんどが、AT火山灰層下位のMB2より約10cm下位より出土している。石器ブロックと礫群が重複し、立地としては微高地に位置している。ナイフ形石器は小型のものが多く、縦長剥片素材のものが多く見られる。流紋岩製の2点のナイフ形石器は剥片・碎片等も確認していないため、他から持ち込まれたものと思われる。石核は、石器ブロック3,4では礫面が見られない。しかし、剥片では礫面がみられるため、原礫に近い状態で持ち込んだもの、あるいは分割された状態で持ち込まれ、石器ブロック内で剥片剥離作業が行われていると考えられる。また石器ブロック5～8では19点の敲石が出土している。なかには接合9の近くに敲石が出土している場合もみられる。さらにこれらは炭化物を伴った礫群2と重複しており、剥片剥離作業と火を使った遺構との関連性が指摘できる。利用石材では、頁岩が圧倒的に多く、次いでホルンフェルスで、流紋岩2種、黒曜石3種、チャート2種は僅かである。

第III文化層

第III文化層は層位としてはKr-kbの風成層であるVI b層を中心に文化層が成立している。ナイフ形石器は横長剥片素材のものが中心で、一側縁加工や二側縁加工で切出状を呈するものなど認められた。折損しているものは基部のみのものが多く認められた。スクレイパーはほとんど同じ所から確認されており、VI c層上面に見られた。原礫を分割し、その縁辺に調整を施しているものが多く、礫面を多く残しているものが見られた。

接合資料では、接合状況からほとんど原礫または、分割礫を持ち込み各石器ブロックを中心に剥片剥離作業を行っていることが分かる。母岩2では礫の上部が出土していないことから、石器ブロック10で剥片剥離作業を行い、一部を別の場所に持ち出したものと思われる。接合17では原礫からの剥片剥離作業を行っているが、目的剥片や製品が出土しておらず、目的的な剥離作業がはっきりしない。流紋岩の接合資料である母岩7は多くのグリッドに分散しており、当初より遺物が流水等により移動した可能性もある。この資料では翼状剥片を作出していることから、瀬戸内技法による剥片剥離作業を行っていたと窺い知れる。ホルンフェルスの母岩11は一部を除いてほぼ原礫に近い接合である。しかし、ここでも目的剥片が見あたらず、接合されていない一部に目的的な剥片剥離作業があったものか判然としない。黒曜石の接合資料では多くが礫面を残す接合資料であり、原礫を持ち込んでの剥片剥離作業が行われたものと思われる。また、黒曜石の分布が大きく2ブロックに分布し、主な石質も異なることから、別々の黒曜石が持ち込まれたものである。

石材とその分布をみると、母岩2は石器ブロック10を中心に、12、13に広がっている。母岩3は石器ブロック21のみの分布を示している。母岩4は石器ブロック14、母岩5は石器ブロック22、母岩6は石器ブロック10に分布を示している。母岩7は石器ブロック10～石器ブロック20の広範囲に分布している。母岩8は石器ブロック15、母岩9は石器ブロック11を中心に分布している。母岩10は石器ブロック16、18、20の広い分布を示している。母岩11は石器ブロック15内に収まる。このように母岩と石器ブロックの関係では、同一母岩が石器ブロックを共有している関係がみられる。しかし、先述したように、一部の石器ブロックについては遺物が移動した可能性も否定できないことから、積極的な考察はできない。

VIc層上面で検出した土坑は、上位で検出した礫群8との関係をはっきりと見出すことはできないが、他の礫群を構成している礫との関係から、礫群8が巨礫の構成であることに加え、土坑埋土中に礫が出土していることから、土坑に対する配石とも考えられる。この土坑周辺では、遺物を確認しておらず、遺物が集中したグリッドから約10mほど南に位置している。このような土坑周辺の状況や自然科学分析の結果から、土壙墓としての可能性も考えられたため、埋土をすべて採集し、篩いにかけたが、遺物は確認できていない。また、B区より検出されたピットは埋土が明らかにKr-kbを多く含む土層が埋土となっており、樹痕等の攪乱とは違うものと判断した。

第IV文化層

細石刃と細石核のみの出土である。利用石材は黒曜石が主であるが、第Ⅲ文化層の黒曜石の石質とは異なり、6個体の石材を使用している。分布は第Ⅲ文化層の石器分布に近い分布を示している。遺構が確認されていないため、細石器文化期の全容ははっきりしない。また、遺跡名でもある「畦原型細石核」がまったく出土していない。

縄文早期～アカホヤ上面

区画整備、土地の造成等によりK-Ah層の前後が攪乱を受け、遺存状況が悪く、遺構密度としては低い。その中で、縄文早期では集石3基、石鏸12点、土器2点を検出した。A区の集石とB区の集石は構成礫が異なり、検出面も異なることから、時期差があるものと思われる。石鏸ではチャートを中心に利用されており、第Ⅱ・Ⅲ文化層の利用頻度からすると、当該時期でのチャートの利用率が高いと思われる。土器は、底部から胴部の残る無文土器と、表面が風化し不明確な文様の押型文と思われる土器片が出土している。

土壙墓1・2は、遺物の出土が認められないものの、本遺跡の北西方向約2.8kmの位置する川床遺跡の土壙墓の形状や埋土状況等が似通っていることから、弥生時代の土壙墓の可能性がある。

柵列に伴う柱穴や溝1・溝2の時期については、遺構の所属時期が比定できる遺物が出土していないため判別難い。

柵列については斜面に立地し、柵列内には掘立柱建物跡等、住居跡がなかったこと等から居宅に伴う遺構ではないと考えられる。ちなみに本遺跡が立地する新田地区は、佐土原藩政下（江戸時代）に軍用馬の飼育を目的とした牧場（新田牧）が存在していたという⁽¹⁾。また、明治時代に至り、国防上の軍馬、農作業の労働力として農耕馬の需要が急増するにともなって、旧新田村においてもかなりの馬飼育が盛んだったという⁽²⁾。したがって、こうした歴史的背景から、D区南東～南西周辺の緩斜面に向けて囲繞する在り方を示す柵列跡は、馬牧に伴う施設の可能性も指摘できる。

[注]

(1) 岩切悦子 1993年 「第4編近世 第2章第2節」『新富町史 通史編』 新富町

(2) 黒岩正憲 1993年 「第5編現代 第2章第1節農林業」『新富町史 通史編』 新富町

第IV章 自然科学分析の結果

植物珪酸体分析から推定される植生と環境

(1) 調査区東壁南北セクション（基本土層）

霧島アワオコシテフラ（Kr-Aw, 約4.1万年前）混層の堆積当時は、ウシクサ族（チガヤ属など）、シバ属、ミヤコザサ節などが生育するイネ科植生であったと推定される。また、石器包含層のKr-Aw直上層でもおおむね同様の状況であったと考えられ、この時期にはキビ族が見られるようになったと推定される。キビ族にはヒエ属（イヌビエが含まれる）などの可食植物が含まれており、当時の生業を考える上で注目される。

始良大塚テフラ（A-Ot, 約3万年前）と見られるテフラ混層から始良Tn火山灰（AT, 約2.4～2.5万年前）直下層にかけては、クマザサ属ミヤコザサ節を主体としてススキ属やチガヤ属、キビ族、ヌマガヤ属なども生育するイネ科植生であったと推定される。タケ亜科のうち、メダケ属ネザサ節は温暖、クマザサ属は寒冷の指標とされており、メダケ率（両者の推定生産量の比率）の変遷は、地球規模の氷期一間氷期サイクルの変動と一致することが知られている（杉山・早田, 1996, 杉山, 2001）。また、クマザサ属のうちミヤコザサ節は太平洋側の積雪の少ない比較的乾燥したところに分布している（室井, 1960）。これらのことから、当時は積雪の少ない比較的寒冷で乾燥した環境であったと推定される。

その後、ATの堆積によって当時の植生は一時的に破壊されたと考えられるが、AT直上層の時期にはミヤコザサ節などのササ類を主体としたイネ科植生が再生していたと推定される。霧島小林軽石（Kr-Kb, 約1.4～1.6万年前）直下層からKr-Kb混層にかけては、ミヤコザサ節などのササ類が大幅に増加したと考えられ、Kr-Kb混層の時期には周辺で何らかの樹木（落葉樹）が生育していたと推定される。ミヤコザサ節などのササ類は常緑であることから、大半の植物が落葉または枯死する秋から冬にかけては、シカなどの草食動物の重要な食物となっている（高槻, 1992）。遺跡周辺にこれらのササ類が豊富に存在したことは、当時の動物相を考える上でも重要である。

(2) 調査区東壁南北セクション（北側）

本地点のAT層準（AT混在層）およびその直下層の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、周囲にはキビ族、ウシクサ族（チガヤ属など）、ミヤコザサ節などが生育していたと推定される。本地点は、基本土層と比較してミヤコザサ節などのイネ科植物が少ないとから、火山灰堆積物が植生によって保持されにくい状況であったと考えられる。また、本地点のAT層準（AT混在層）はやや窪地状を呈していることから、水流などによってAT（純層）が流出および攪乱したと推定される。（分析結果報告より抜粋）

文献

- 杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体。富士竹類植物園報告, 第31号, p.70-83.
杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）。考古学と植物学。同成社, p.189-213.
杉山真二・早田勉（1996）植物珪酸体分析による宮城県高森遺跡とその周辺の古環境推定—中期更新世以降の氷期一間氷期サイクルの検討—。日本第四紀学会講演要旨集, 26, p.68-69.
杉山真二（2001）テフラと植物珪酸体分析。月刊地球, 23: 645-650.
高槻成紀（1992）北に生きるシカたち—シカ、ササそして雪をめぐる生態学—。どうぶつ社。
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—。考古学と自然科学, 9, p.15-29.
藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—。考古学と自然科学, 17, p.73-85.
室井綽（1960）竹籠の生態を中心とした分布。富士竹類植物園報告, 5, p.103-121.

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	東壁南北セクション									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
イネ科	Gramineae (Grasses)										
キビ族型	Panicace type	7			14	7		7		7	22
スマガヤ属型	Molinia type			14	43	7			22	21	
ヨシ属	Phragmites (reed)					7				7	7
ススキ属型	Miscanthus type				14						
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	7	7	7	43	33	59	7	15	14	14
シバ属	Zoysia					7	22				
Aタイプ(くさび型)	A type				7				7		
Cタイプ	C type				14	7					
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)										
メダケ節型	Pleioblastus sect. Medake		7								
ネササ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	7	7		14						
クマザサ属型	Sasa (except Miyakozasa)	7	7								
ミヤコササ節型	Sasa sect. Miyakozasa	247	120	56	71	85	73	35	29	7	62
未分類等	Others	21	42	35	35	13	15	28	29	29	14
その他のイネ科	Others										
表皮毛起源	Husk hair origin	21	7	7	21	7	7		7	22	14
棒状珪酸体	Rod-shaped	56	63	98	241	151	169	119	44	51	75
未分類等	Others	373	317	307	397	374	352	350	234	282	288
シダ類	Fern				7						
樹木起源	ArboREAL										
その他	Others	7									
植物珪酸体総数	Total	754	578	550	900	683	697	546	373	434	500
		387									

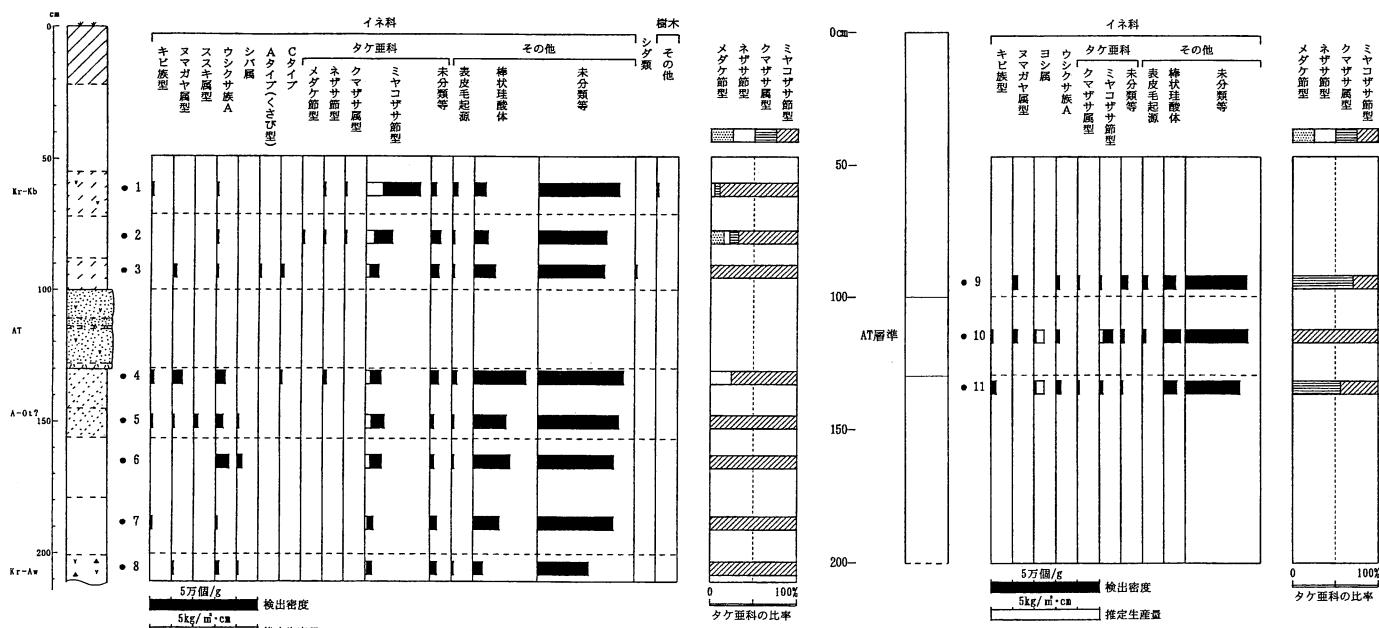
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m²·cm)

ヨシ属	Phragmites (reed)									0.43	0.45
ススキ属型	Miscanthus type										
メダケ節型	Pleioblastus sect. Medake		0.08								
ネササ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	0.03	0.03	0.07							
クマザサ属型	Sasa (except Miyakozasa)	0.05	0.05							0.05	0.05
ミヤコササ節型	Sasa sect. Miyakozasa	0.74	0.36	0.17	0.21	0.26	0.22	0.10	0.09	0.02	0.18
		0.04									

タケ亜科の比率 (%)

メダケ節型	Pleioblastus sect. Medake	15									
ネササ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	4	6	24							
クマザサ属型	Sasa (except Miyakozasa)	6	10								
ミヤコササ節型	Sasa sect. Miyakozasa	90	68	100	76	100	100	100	100	71	56

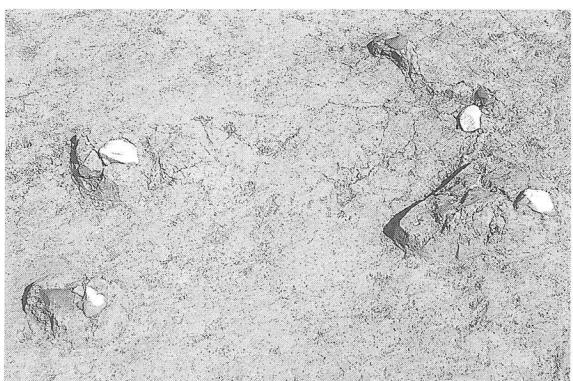
東畦原第3遺跡における植物珪酸体分析結果



東畦原第3遺跡、東壁南北セクションにおける植物珪酸体分析結果

東畦原第3遺跡、東壁南北セクション（北側）における植物珪酸体分析結果

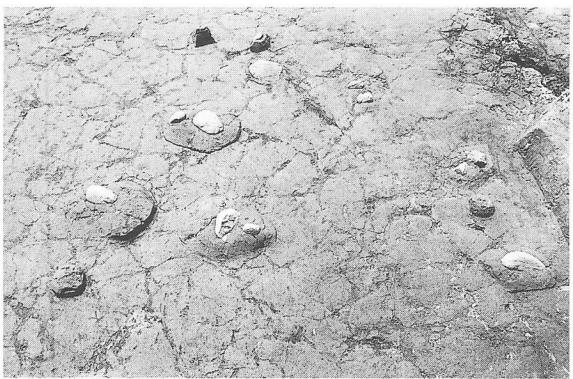
第111図 植物珪酸体分析結果



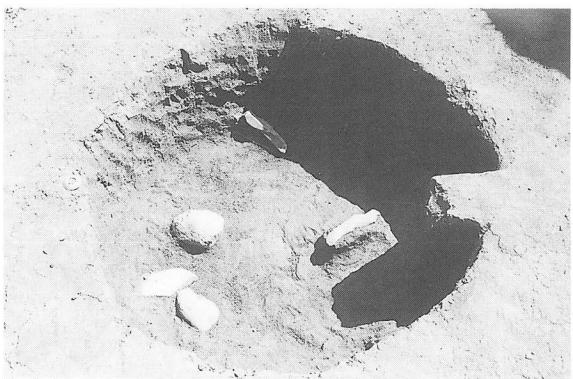
A区 IXa層 最古礫群



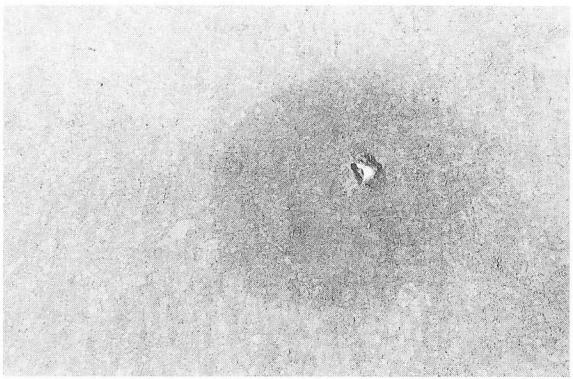
A区 Mb ブラックバンド石器出土状況



A区 VIII層 磕群3



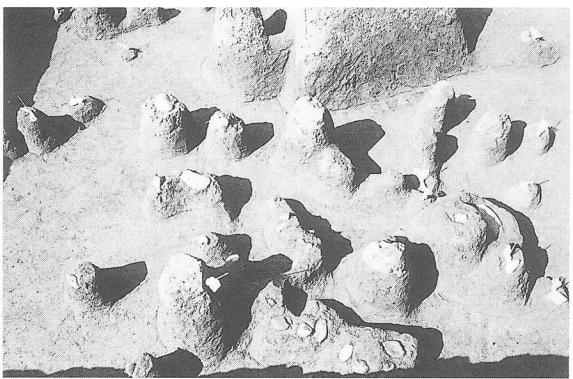
A区 旧石器土坑出土遺物



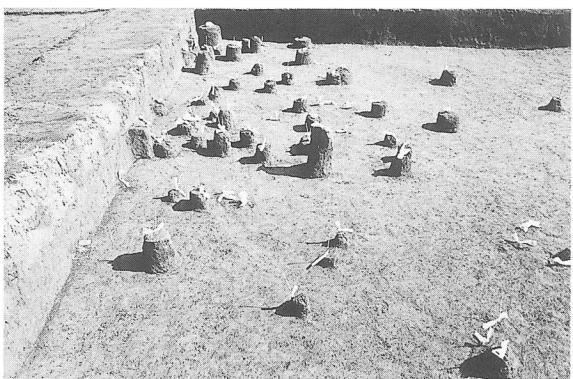
A区 旧石器土坑検出 VI C



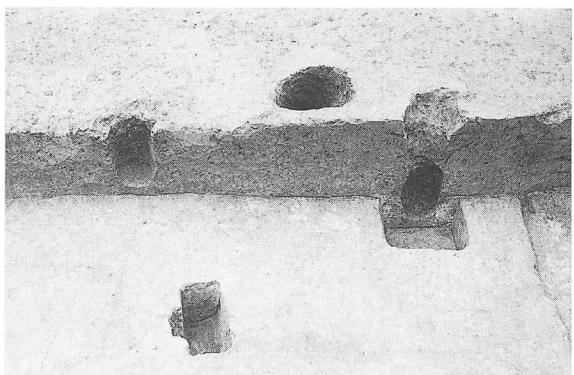
A区 磕群3 VIII層



A区 小林 磕群7



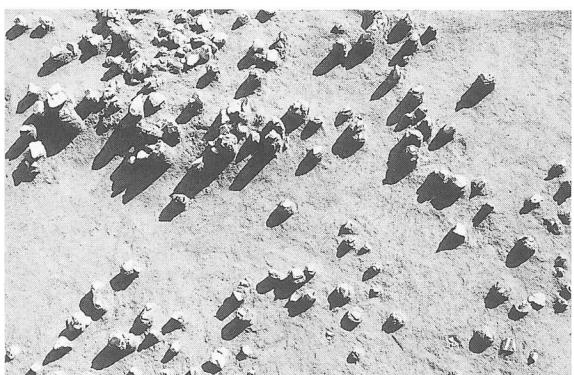
A区 小林軽石・石器集中域



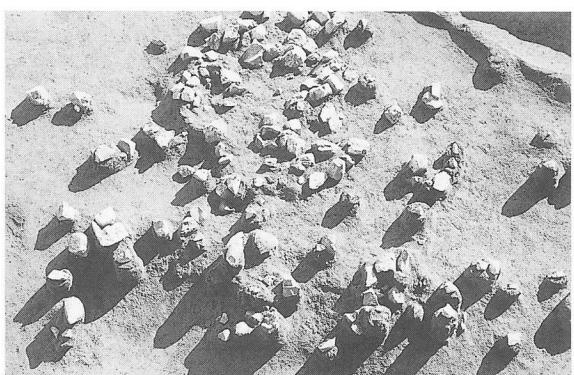
B区 小林及び小林下層検出遺構



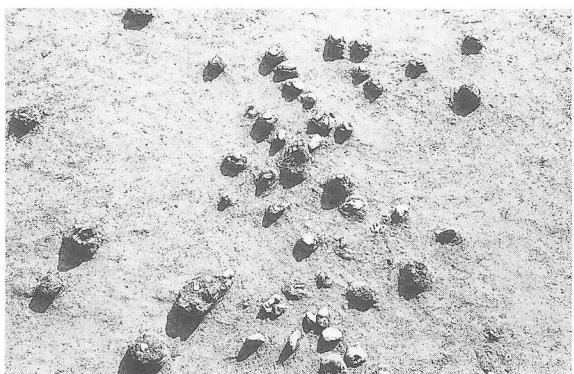
B区 縄文早期 集石全体 Vb 層



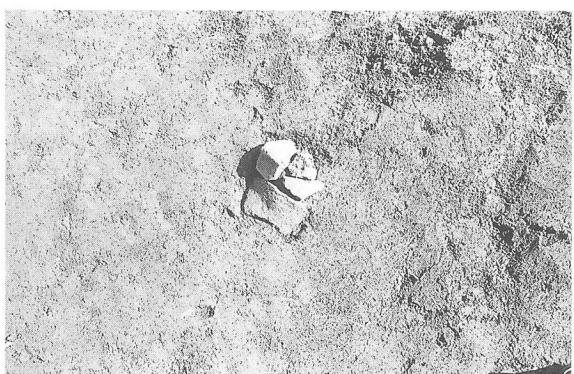
B区 縄文早期 集石 1



B区 縄文早期 集石 2



縄文集石 3



B区 縄文早期土器



縄文早期土坑



C区 Kb 磯群12